トラクタ

取扱説明書

GR850・950・1050・1150・1250



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

注意マーク	ヘッドライト（上向き）	傾斜制御
火気厳禁	作業灯	自動耕深制御
ディーゼル軽油	駐車ブレーキ 油圧ブレーキオイル	3 点リンク（上げ）
燃料残量警告灯	高速又は高	3 点リンク（下げ）
燃料計（残量）	低速又は低	ドラフトコントロール
アワーメータ （積算時間計）	エアクリーナエレメント	油圧補助コン シリンダ（縮み）
エンジン予熱	エンジン回転	油圧補助コン シリンダ（伸び）
エンジンオイル圧力	シフトアップ	PTO（切）
エンジン停止	シフトダウン	PTO（入）
エンジン停止	前輪駆動（入）	フロントワイパ
水温計	4WD（4 輪駆動）	リヤワイパ
ホーン	QT ターン	シガライタ
方向指示器表示	ブレーキ連結解除	デフォッガ
ハザードランプ	フロントデフロック	固定
パーキングスイッチ	リヤデフロック	
ライトスイッチ	G-マチック（自動変速）	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

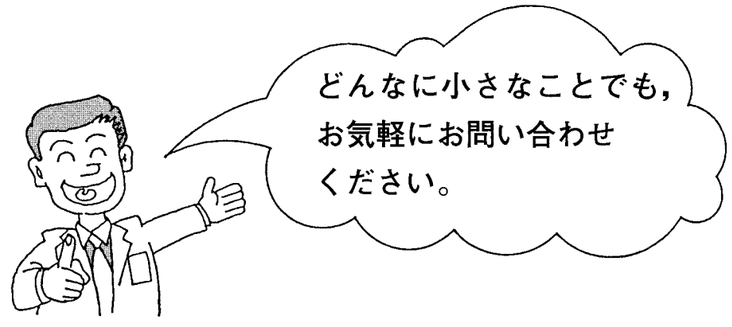
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

目　次

⚠ 安全に作業するために

安全キャブについて 1
運転前に 2
始動時に 3
運転時に 3
作業機使用時に 6
道路走行時に 8
駐車、格納時に 10
点検・給油・整備時に 10
表示ラベルと貼付け位置 14
表示ラベルの手入れ 18

サービスと保証について

小型特殊自動車としての取扱い

運転に必要な各部の名称

運転前の点検

エンジンの始動と停止

始動のしかた 10
　キースイッチ 11
　オートグロー 11
　寒冷時の始動のしかた 14
停止のしかた 14
寒冷時の暖機運転 15
バッテリあがりの処置 15

トラクタの運転

ならし運転（最初の約 50 時間） 16
運転席回りの調節 17
　シート 17
　安全キャブとシートベルトについて 19
　チルトステアリングハンドル 19
　バックミラー 19
灯火類の操作 20
　ヘッドライトスイッチ 20
　ウインカスイッチ 20
　ハザードスイッチ 20
　ホーンボタン 21
　作業灯スイッチ（前） 21
　作業灯スイッチ（後） 21
　バックランプ 21
　ブレーキランプ 21
　車幅灯・尾灯 21
発進・走行 22
　ブレーキペダル 22
　クラッチペダル 23
　G- シフトレバー 24
　DHC スイッチ 25
　シャトルレバー 25
　超低速レバー 26
　4WD スイッチ 27
　4WD/QT スイッチ 27
　アクセルレバーとアクセルペダル 29
　駐車ブレーキ 29
停車・駐車 30
運転中の作動確認 31
　次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。 31
　イージーチェッカ 31
　燃料計 32
　トラクタメータ 32
　水温計 33
PTO 回転計・スピードメータの取扱い 33
　PTO 回転計 33
　スピードメータ 34
　車速係数の入力について 34
G- マチック（自動変速）について 36
　概要 36
　操作手順 38
　作業速度の変更 38
　感度調節 40
　G- マチック（自動変速）の設定変更 40
デフロックの使い方 42
　後輪デフロックペダル 42
　前輪デフロックスイッチ 43
旋回のしかた 44
坂道での運転 44
ほ場への出入り時の注意 44
道路走行中の注意 45
トラックへの積み・降ろし 46
パワーステアリングの取扱い 46
外部電源取出端子 47
　電源取出し 47
トレーラ用カプラ（オプション） 48

油圧・三点リンク・PTO

作業機昇降装置 49
　各部の名称 49
　モード切換スイッチ 50
　ポジションレバー 50
　下限規制ダイヤル 52
　リフトアーム上限調整ダイヤル 52
　作業機落下速度調整ダイヤル 52
　ドラフト比調整ダイヤル 53
　クイックアップスイッチ 53
　三点リンクの安全ロック機能 54
　油圧ロックレバー 55

目　次

傾斜制御［J 仕様］ 56
各部の名称 56
傾斜自動切換スイッチ 57
傾斜自動角度調節ダイヤル 58
傾斜自動手動スイッチ 58
傾斜自動の安全ロック機能 59
平行復帰スイッチ 59
左リフトロッド長さを変更した場合 60
ストロークセンサの単独 60
ランプ表示一覧 61
外部油圧取出し 62
油圧補助コントロールレバー 62
補助コントロールバルブ単複切換えつまみ 63
三点リンク 64
各部の名称 64
ロアーリンク取付け穴の選択 65
リフトロッド（左）の長さ調整 65
フローティング機構 65
三点リンク外部操作スイッチ 66
傾斜外部操作スイッチ 66
トップリンク 66
クイックジョイント（テレスコ式）..... 67
クイックヒッチ（フック式）..... 67
リフトロッド（右）の調整 70
チェックチェーン 70
作業機を取付けないときの注意 71
けん引ヒッチ（ドローバ） 71
PTO 72
PTO クラッチコントロールスイッチ..... 72
PTO 変速レバー..... 72
グランド・ライブ PTO 切換レバー 73
PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ 73

タイヤ・ウエイト

タイヤ 74
タイヤの空気圧 74
輪距の調整 75
前輪 75
後輪 75
前輪輪距 76
後輪輪距 78
前輪切れ角の調整 81
ストッパ交換要領 81
ウエイト（別売） 83
前部ウエイト（オプション）..... 83
後輪ウエイト（オプション）..... 83
タイヤ液体注入法（後輪のみ）..... 83

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック 84
ドア 84
リヤウインド 84
クォータウインド 85
ルームランプ 85
ルームランプ..... 85
スポットライト..... 85
ワイパ 86
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ.... 86
リヤワイパ..... 86
寒冷時のワイパの使用..... 86
リヤ・デフォッガスイッチ（熱線リヤスイッチ）..... 86
サンバイザ 87
ルームミラー 87
オートエアコン 87
空気の流れ..... 87
コントロールパネルの名称と働き..... 88
操作方法..... 89
エアコン 91
空気の流れ..... 91
コントロールパネルの名称と働き..... 92
操作方法..... 93
AM / FM ラジオ付きカセットプレーヤの取扱い..... 94
取扱い上の注意 102
アンテナ..... 102
お問合わせ..... 102
灰皿..... 103
シガライタ..... 103
インプルメントの装着 103
インプルメント用操作ボックスの取付... 103

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 104
洗車時の注意 104
定期点検箇所一覧表 105
給油（水）一覧表 107
トラクタの給油（水）..... 107
推奨オイル・グリース一覧表 108
エンジンオイル・ミッションオイル..... 108
グリース..... 108
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方..... 109
ボンネットの開閉..... 109
サイドカバーの取り外し..... 109
日常点検 110
前日の異常箇所..... 110
トラクタの回りを歩いて..... 110
エンジンオイルの量及び汚れ..... 110
ミッションオイルの量及び汚れ..... 111
冷却水の量..... 111
ブレーキオイルの量..... 112
セパレータの水の排出..... 112
セディメンタの水の排出..... 113
バキュエータバルブの清掃..... 113
ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換..... 114

タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 114
防虫網の清掃 115
ブレーキペダルの遊び・点検 116
駐車ブレーキの作動点検 116
メータ・ランプ類の作動 117
燃料の補給 118
50 時間ごとの点検・整備 118
エンジン始動システムの点検 118
タイヤ取付けボルトの点検 119
クラッチハウジングの水抜き 119
パワーステアリングホースの点検 119
燃料ホースの点検 120
100 時間ごとの点検・整備 121
バッテリ電解液の点検 121
エアクリーナエレメントの清掃 123
ダブルエアクリーナエレメントの清掃 ... 123
ファンベルトの点検・調整 124
油圧ブレーキの点検 124
駐車ブレーキの点検・調整 125
グリースの注入 125
200 時間ごとの点検・整備 127
ラジエータホースの点検 127
油圧オイルフィルタカートリッジの交換［吸入側］..... 127
油圧オイルフィルタカートリッジの交換［戻り側］..... 128
トーイン調整・タイロッドの点検 129
燃料タンクの水抜き 129
室内エアフィルタの清掃 129
外気フィルタの清掃 130
エアコンコンデンサの詰まり 130
エアコンベルトの張り 131
300 時間ごとの点検・整備 131
エンジンオイルの交換 131
400 時間ごとの点検・整備 132
燃料フィルタカートリッジの交換 132
600 時間ごとの点検・整備 133
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 133
ミッションオイルの交換 134
前部デフケースのオイル交換 134
前輪ケース左・右のオイル交換 135
前部デフケース前後遊びの調整 135
ブレーキオイルの交換 135
前輪ケース回動トルクの調整 135
800 時間ごとの点検・整備 136
エンジンバルブクリアランスの点検 136
1 年ごとの点検・整備 136
エアクリーナエレメントの交換 136
エアコン配管，ホースの点検 136
2 年ごとの点検・整備 136
冷却水の交換 136
ラジエータの洗浄 138
ラジエータホースの交換 138
パワーステアリングホースの交換 138
燃料ホースの交換 138
傾斜シリンダホースの交換［J 仕様］.... 138
アシストシリンダホースの交換 138
ブレーキホース / ブレーキタンクホースの交換 138
マスタシリンダ / イコライザキットの交換 138
ブレーキシール 1、2 の交換 138
クラッチホースの交換 138
デフロックホースの交換 138
必要に応じた点検・整備 139
燃料の空気抜きのしかた 139
ブレーキの空気抜き 140
ヒューズの交換 140
スローブローヒューズの交換 141
ランプ類の交換 142
注油 142
ウォッシャ液の補充 142
冷媒（ガス）量の点検 142

格　納

長期格納時の手入れ 143
長期格納後の運転 143
エアコン 143

不調と処置

エンジンの不調と処置 144
G- シフトの不調と処置 145

付表

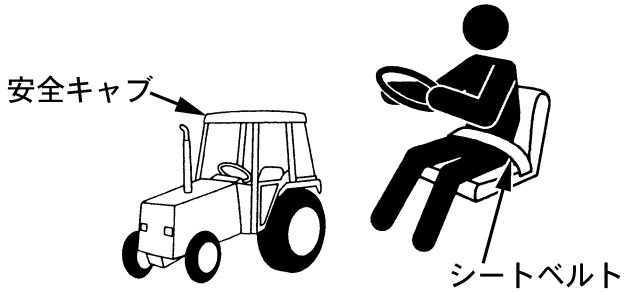
主要諸元 146
トラクタの主要諸元 146
走行速度表 148
標準付属品 149
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）..... 150
アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）..... 152
補助コントロールバルブ 153
補助コントロール用流量調整バルブ 153
検査成績表 154

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危 険・⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足 としてそのつど取上げています。

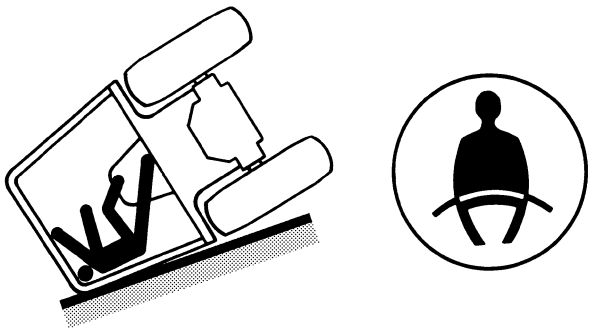
安全キャブについて

安全キャブは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

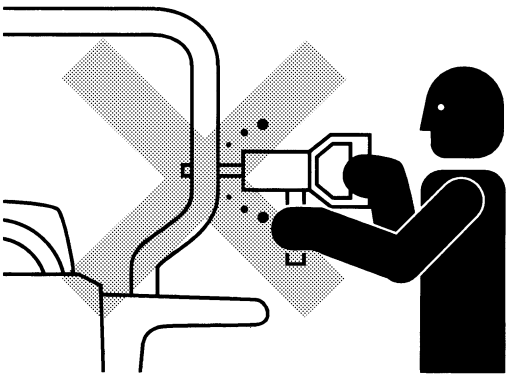


1AGADALAP0010

1. 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1AGALAFAP0500

2. 安全キャブを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP0340

運転前に

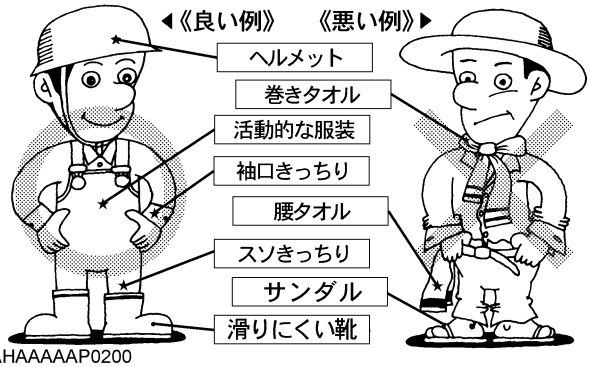
1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



1AGALAFAP0350

5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

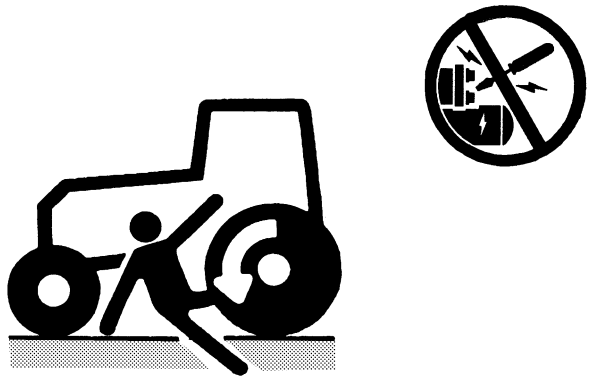
作業時の服装



1AHAAAAAP0200

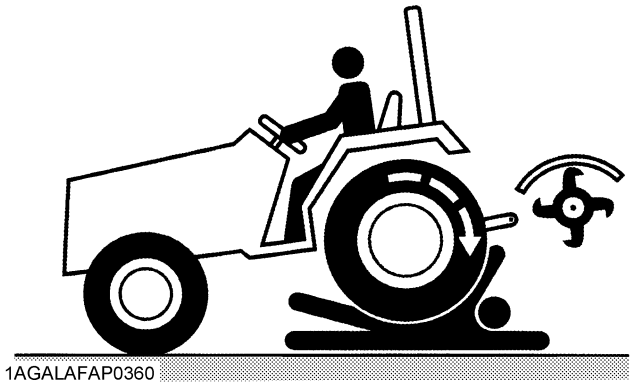
始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが**［中立］**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
   ＰＴＯ クラッチコントロールスイッチも**［切］**にしてください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出す恐れがあります。



1AGALAFAP0580

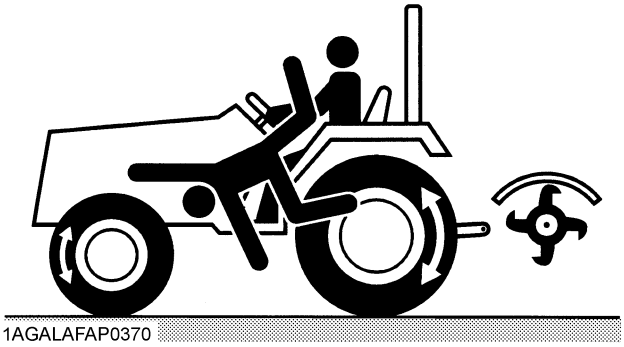
3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。



1AGALAFAP0360

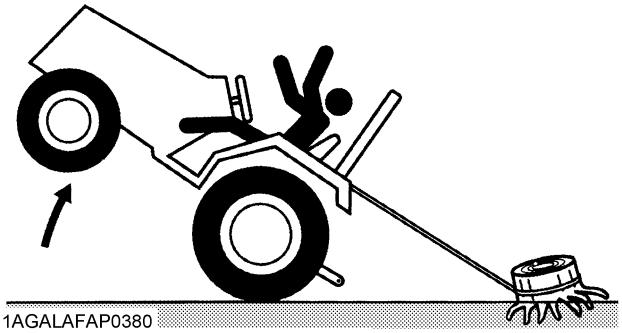
運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。



1AGALAFAP0370

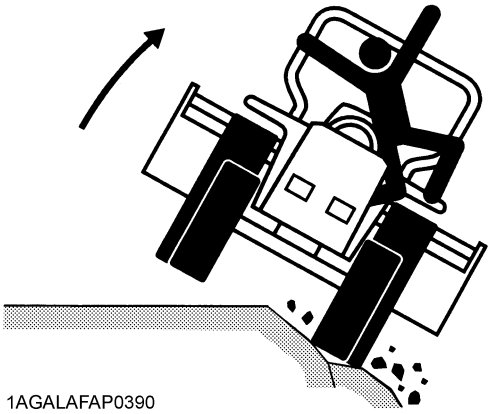
2. けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。


1AGALAFAP0380

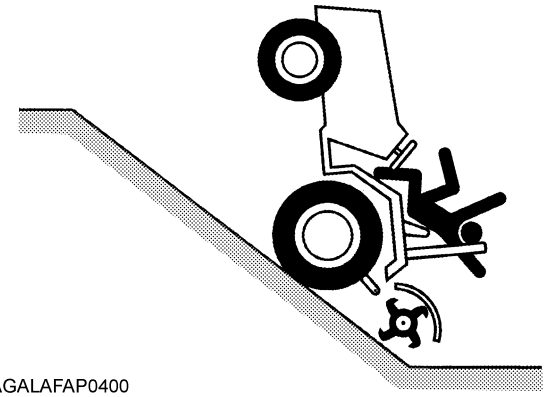
3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。


1AGALAFAP0520

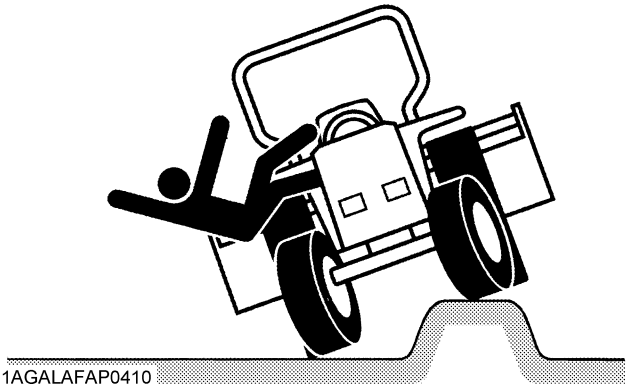
4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1AGALAFAP0390

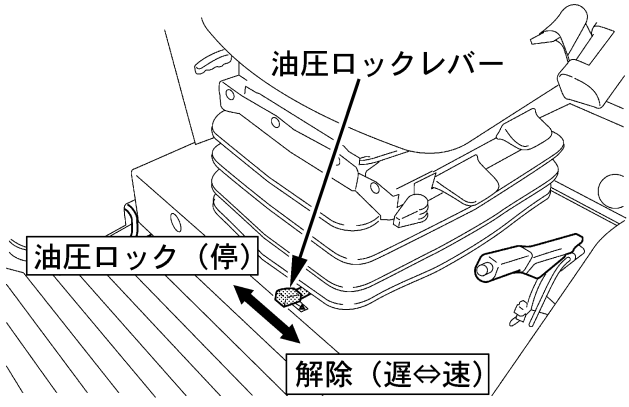
5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。


1AGALAFAP0400

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

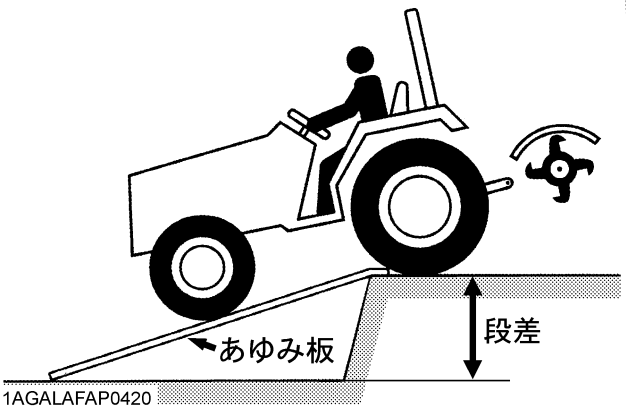

1AGALAFAP0410

8. ほ場外では，油圧ロックレバーで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。



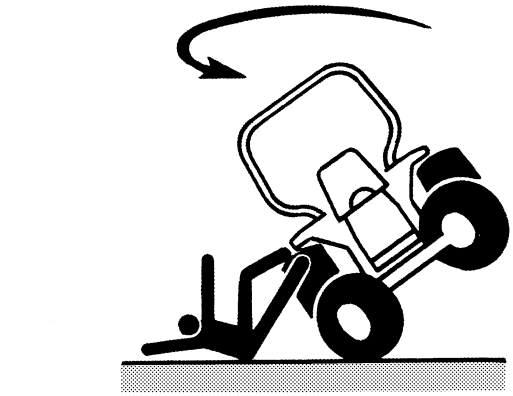
1AGADALAP044B

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
   あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



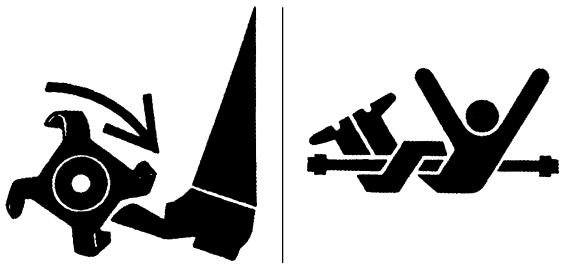
1AGALAFAP0420

11. QT ターンはほ場以外では**【切り】**にし，使用しないでください。又，高速では QT ターンを使用しないでください。

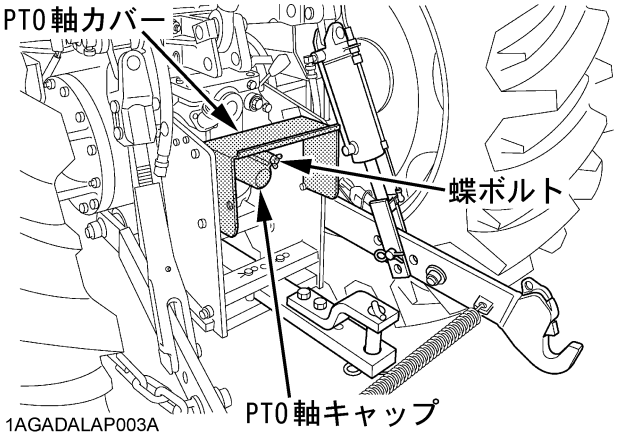

1AGALAFAP0590

作業機使用時に

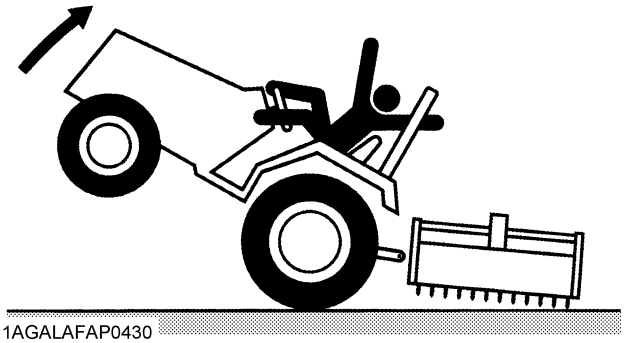
1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなど PTO 作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。


1AGALAFAP0540

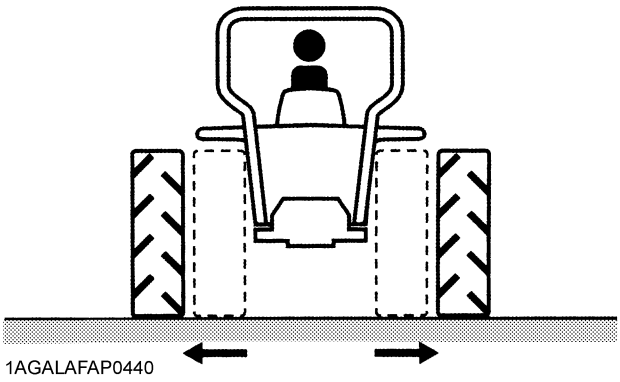
3. ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。
4. ＰＴＯ軸カバーは常に取付けておいてください。
5. ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。



6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

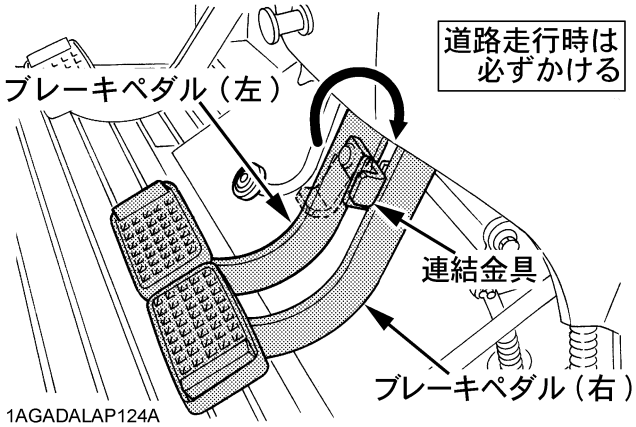


8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。



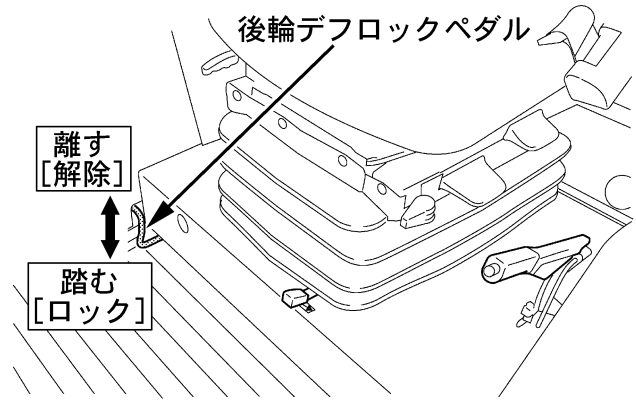
道路走行時に

1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

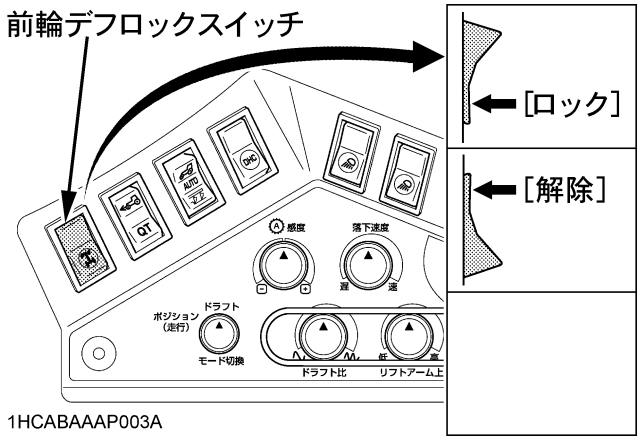




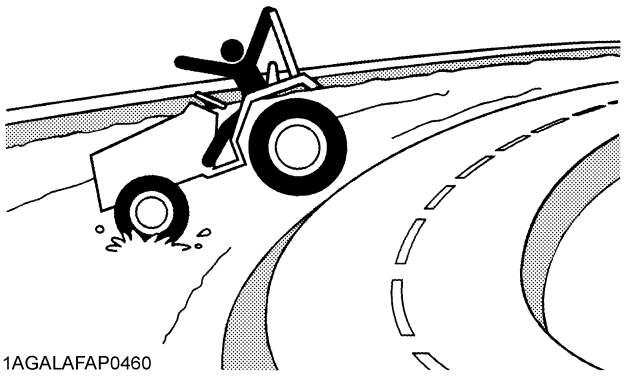
2. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
3. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。



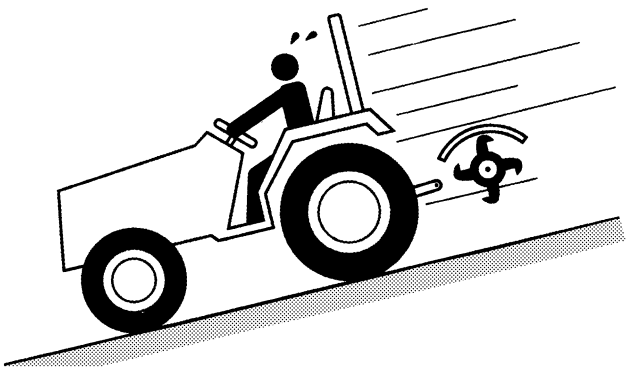
1AGADALAP044C



1HCABAAAP003A


1AGALAFAP0460

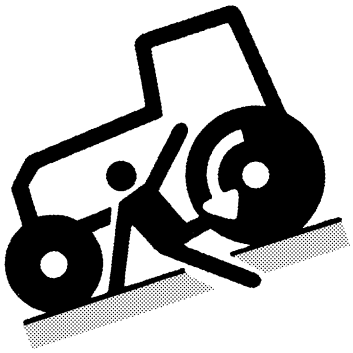
4. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。
5. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
6. 交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。



1AGALAFAP0470

駐車、格納時に

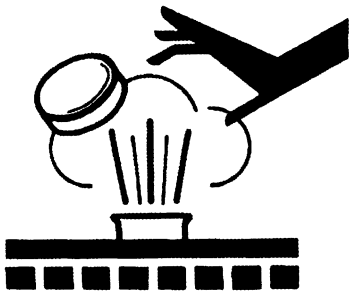
1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を **[切]**，作業機を **[下げ]**，各変速レバーを **[中立]**，駐車ブレーキを **[掛け]**，エンジンを **[停止]** してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。



1AGALAFAP0530

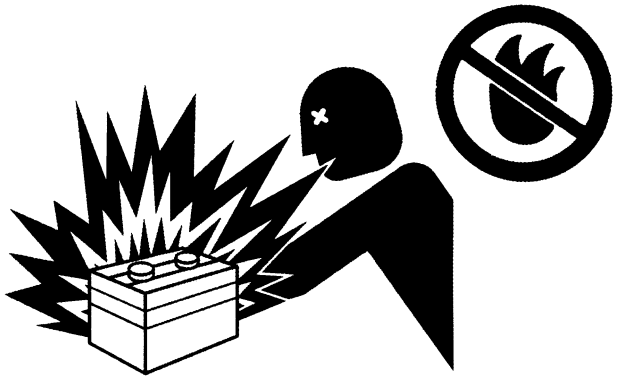
点検・給油・整備時に

1. 平たんな場所に駐車し，作業機を **[下げ]**，駐車ブレーキを **[掛け]**，各変速レバーを **[中立]** にし，そしてエンジンを停止してください。
2. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。

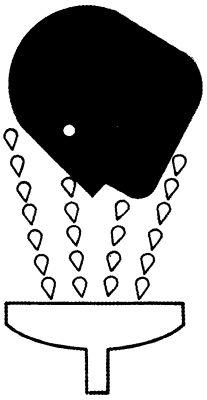


1AGALAFAP0550

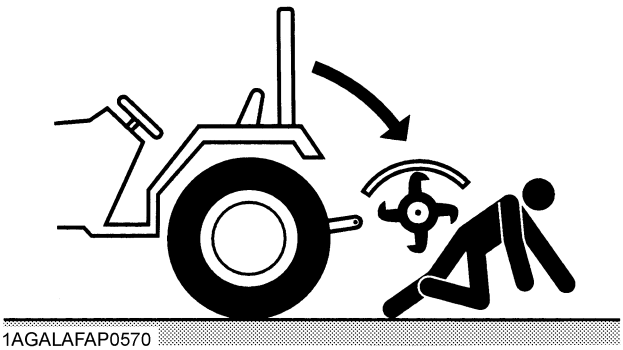
3. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。
4. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
   (エンジンの始動と停止の章**［バッテリあがりの処置］**を参照)


1AGALAFAP0480

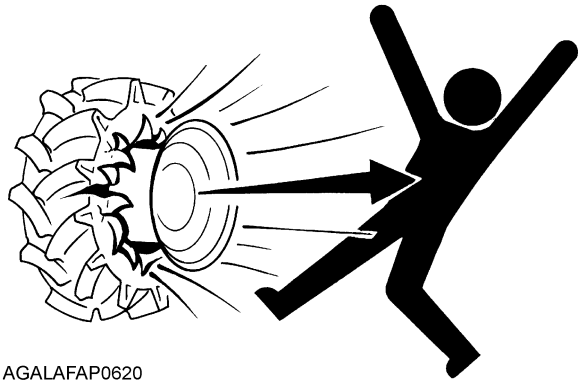
5. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)
6. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
7. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


1ARAEABAP0140

8. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず油圧ロックレバーで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGALAFAP0570

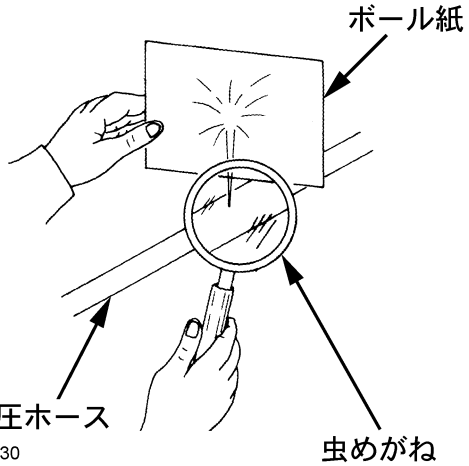
9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂の恐れがあり死傷事故を引起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂の恐れがあります。
11. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


1AGALAFAP0620

12. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。


1BAACAAAP0100

13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP0330

14. 点検・整備時に，後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し，トラクタが動き出す恐れがあります。

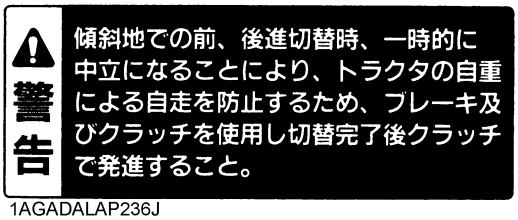
15. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。



1BJABAAAP018B

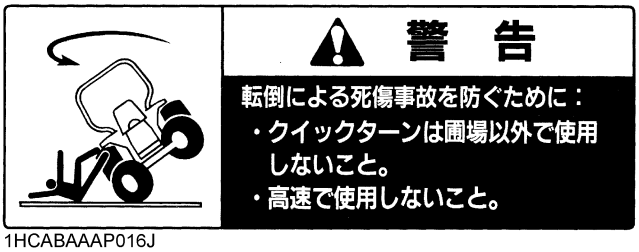
表示ラベルと貼付け位置

(1)品番　K3F74098571



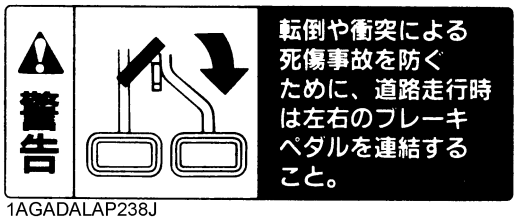
1AGADALAP236J

(2)品番　K3G70249051



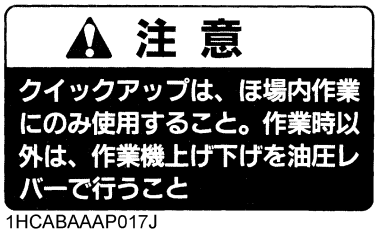
1HCABAAAP016J

(3)品番　KT106049031

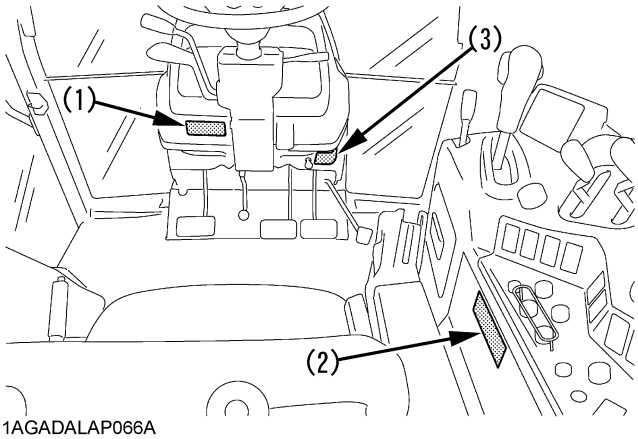


1AGADALAP238J

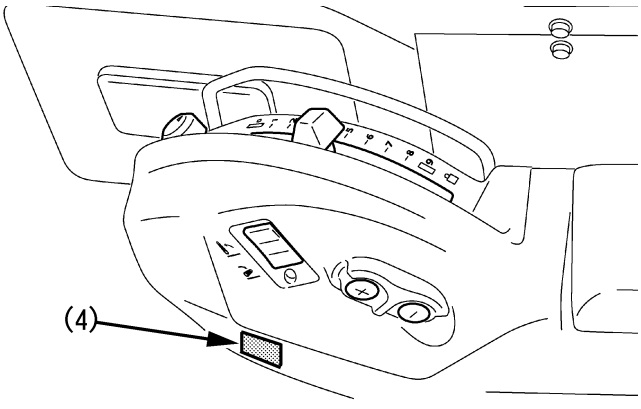
(4)品番　K3G70249661



1HCABAAAP017J



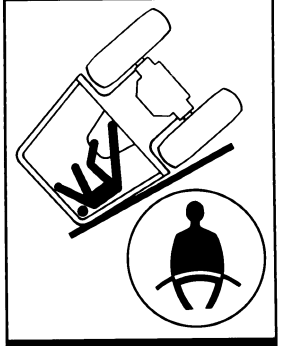
1AGADALAP066A



1AGADALAP095B

(1)品番　KT018049022

⚠ 警　告



転倒、転落による死傷事故 軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること

1AGADALAP240J

(2)品番　K3M74098211

⚠ 注　意

点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないで下さい。
　ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっている為、前輪が回転しトラクタが動き出す恐れがあります。

1AGADALAP241J

(3)品番　K3F76034891

⚠ 注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯを切り、変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 高速で後進する場合は、周囲の状況によく注意して運転すること
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

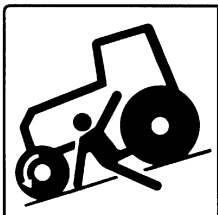
駐車時
- ＰＴＯを切り、変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ３点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

1AGADALAP242J

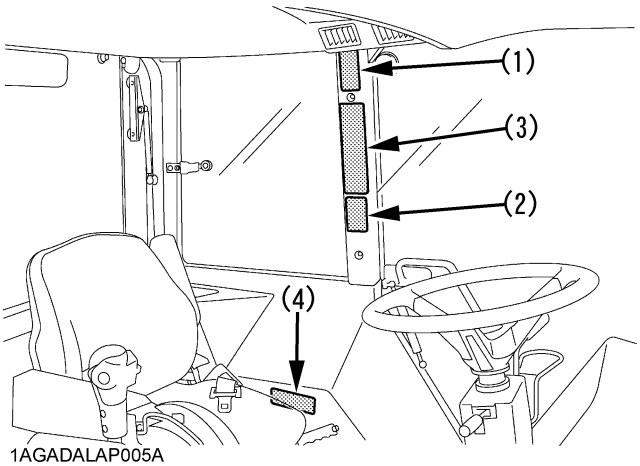
(4)品番　K3F74098901

⚠ 警　告



４輪駆動「入」で駐車ブレーキをかけてもエンジンを停止すると、ブレーキは後輪しか効きません
タイヤがスリップする恐れがあるので、傾斜地での駐車はしないこと

1AGADALAP243J



1AGADALAP005A

(1)品番　KT018049571



1AGADALAP244J

(2)品番　KT018049541



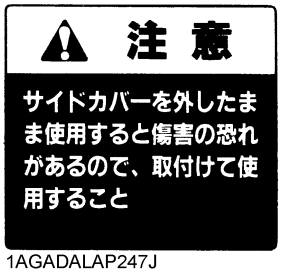
1AGADALAP245J

(3)品番　K3F74098282



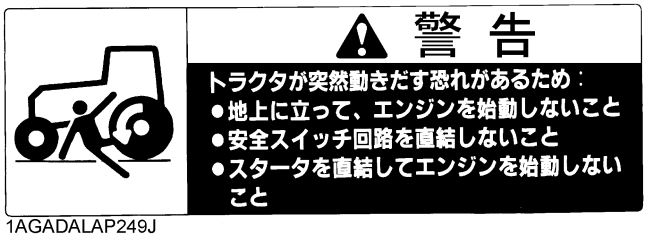
1AGADALAP246J

(4)品番　KT018049551



1AGADALAP247J

(6)品番　KT018049652 [GR850・950・1050]
(7)品番　KT018049652 [GR1150・1250]

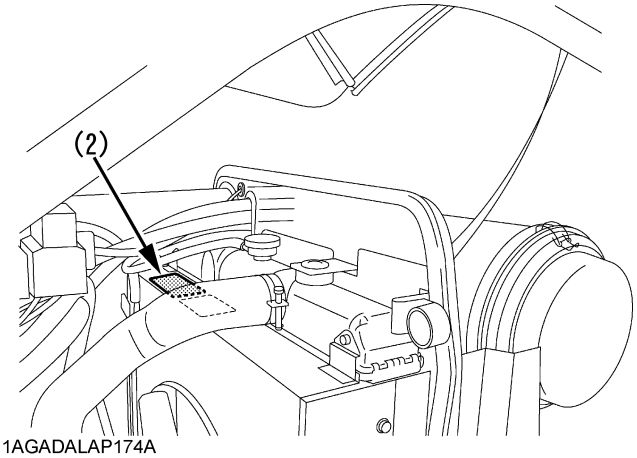


1AGADALAP249J

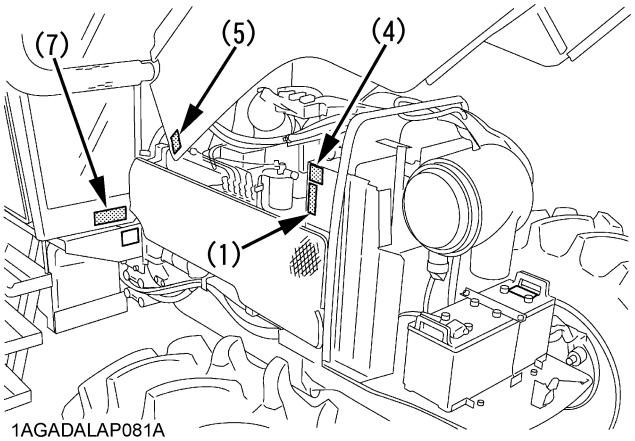
(5)品番　K3P30049581



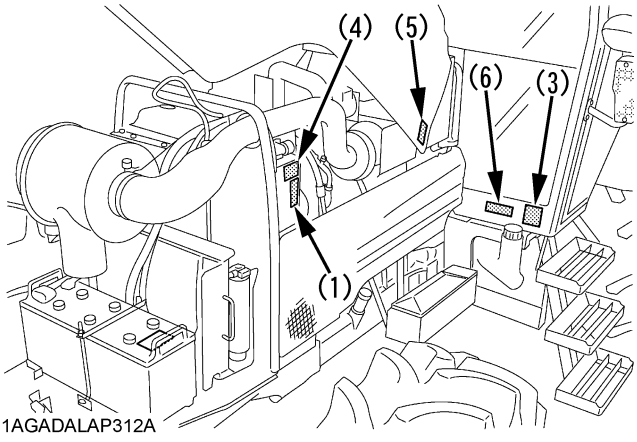
1AGADALAP248J



1AGADALAP174A

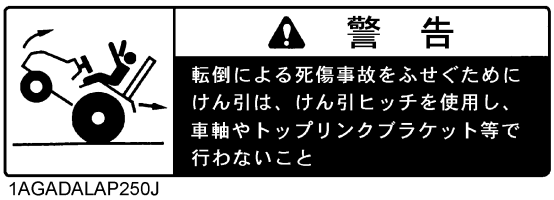


1AGADALAP081A



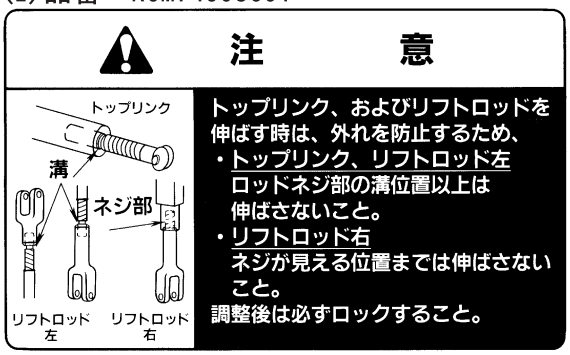
1AGADALAP312A

(1)品番　KT018049041



1AGADALAP250J

(2)品番　K3M74098561



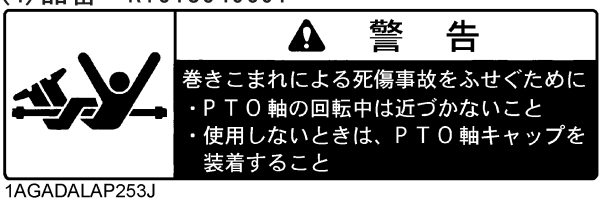
1AGADALAP251J

(3)品番　K3P20098922 [GR850・950・1050]



1AGADALAP255J

(4)品番　KT018049591

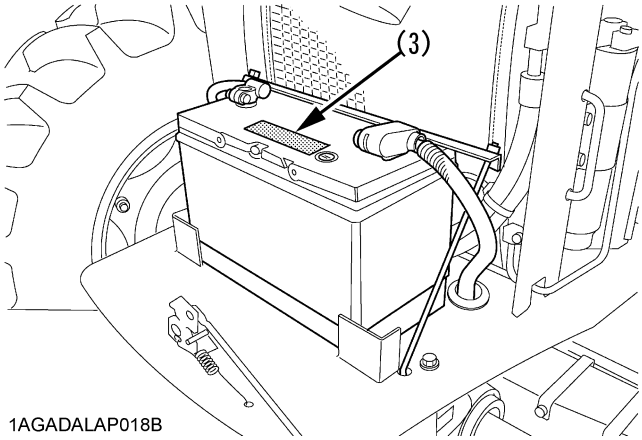


1AGADALAP253J

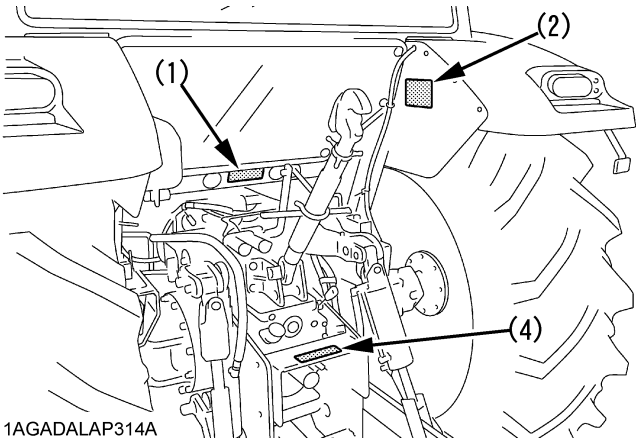
(5)品番　KT106030091 [GR1150・1250]



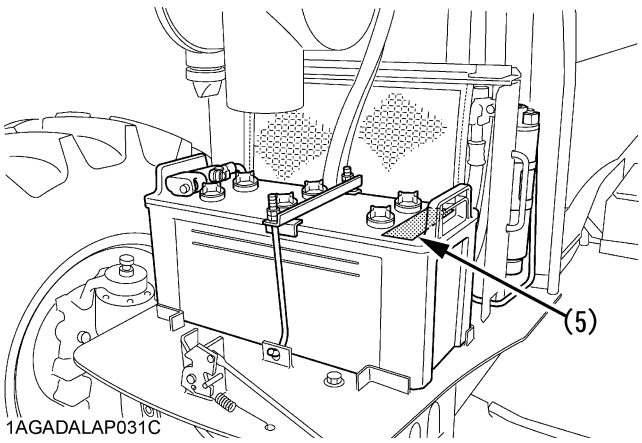
1AGADALAP254J



1AGADALAP018B



1AGADALAP314A



1AGADALAP031C

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

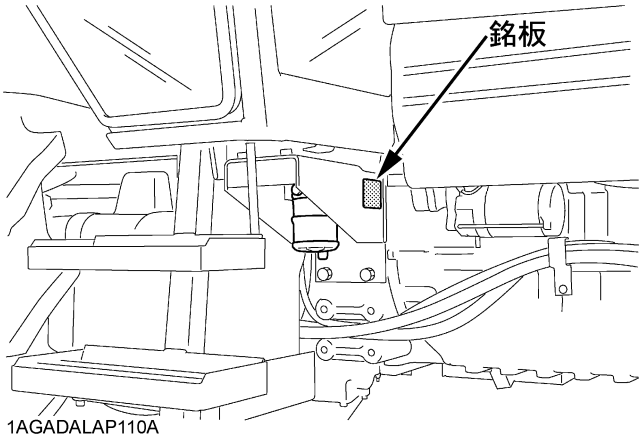
■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名
2. 車台（製造）番号

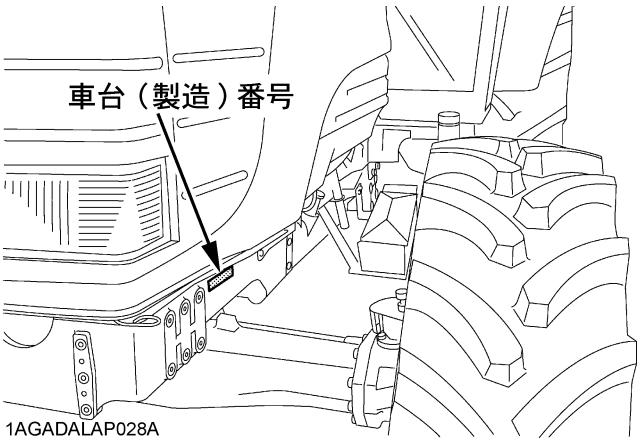
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

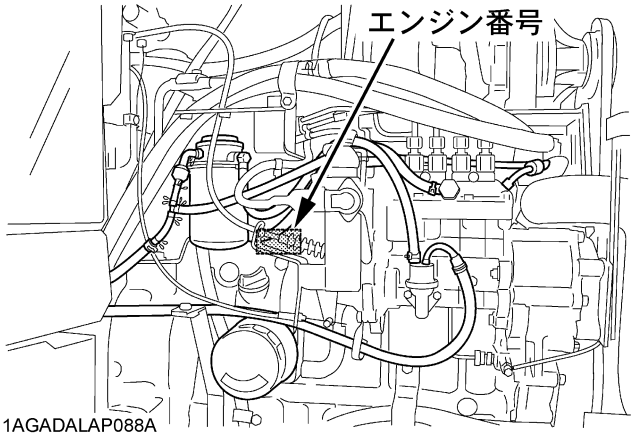


1AGADALAP110A



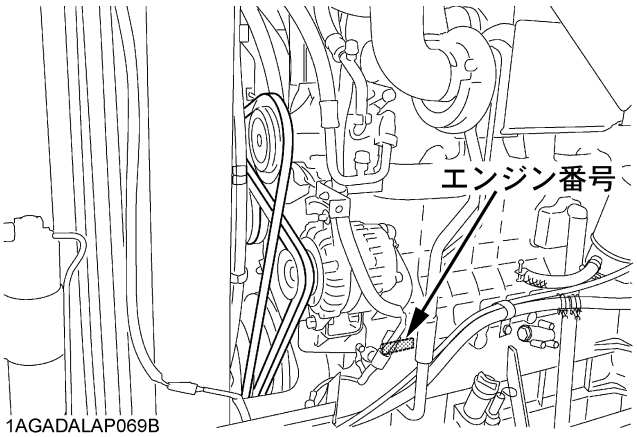
1AGADALAP028A

【GR850・950・1050】

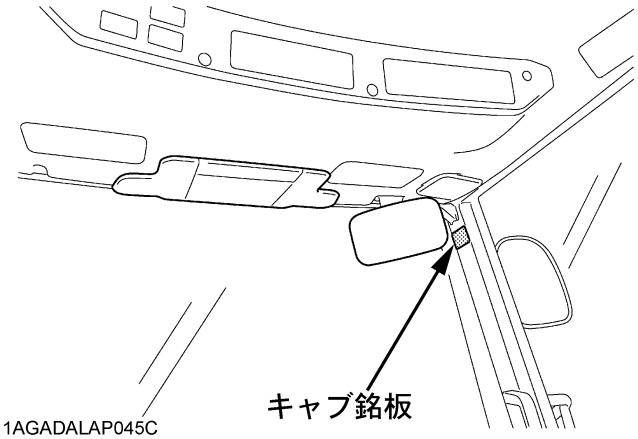


1AGADALAP088A

【GR1150・1250】



1AGADALAP069B



1AGADALAP045C

サービスと保証について

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

農機具（安全キャブ）型式名	型式検査合格番号
クボタ IC125	205003
クボタ IC125HPC	205004

型式名	農機型式名	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号	安全鑑定適合番号
GR850	クボタ M85D	クボタ SB-M95X	農 3044 改造型	30027
GR950	クボタ M95D	クボタ SB-M95X	農 3044 改造型	30026
GR1050	クボタ M105D	クボタ SC-M105X	農 3045 改造型	30025
GR1150	クボタ M115D	クボタ SC-M125X	農 3046 改造型	30024
GR1250	クボタ M125D	クボタ SC-M125X	農 3046 改造型	30023

検査成績表は，巻末をご覧ください。

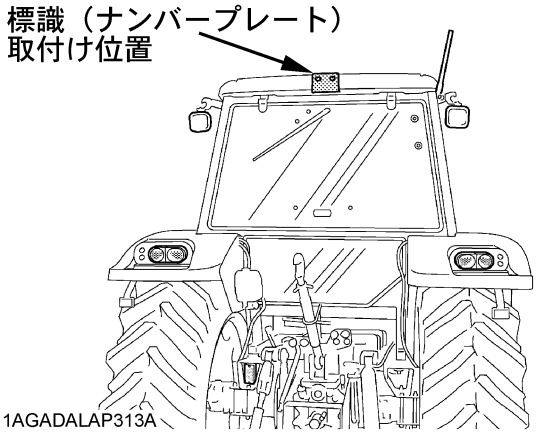
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。



■運転免許

公道を走行する場合は，大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

重　要

＊ このトラクタは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，**道路交通法**では，大型特殊自動車に該当します。従って公道を走行する場合は，**大型特殊自動車の運転免許証**が必要です。

■ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

補　足

＊ インプルメントを装着した状態では**【道路運送車両法の保安基準】**を満足しませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は**【道路運送車両の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

小型特殊自動車としての取扱い

■ 輪距

公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は**【道路運送車両法の保安基準】**違反になり，道路を走行することができません。

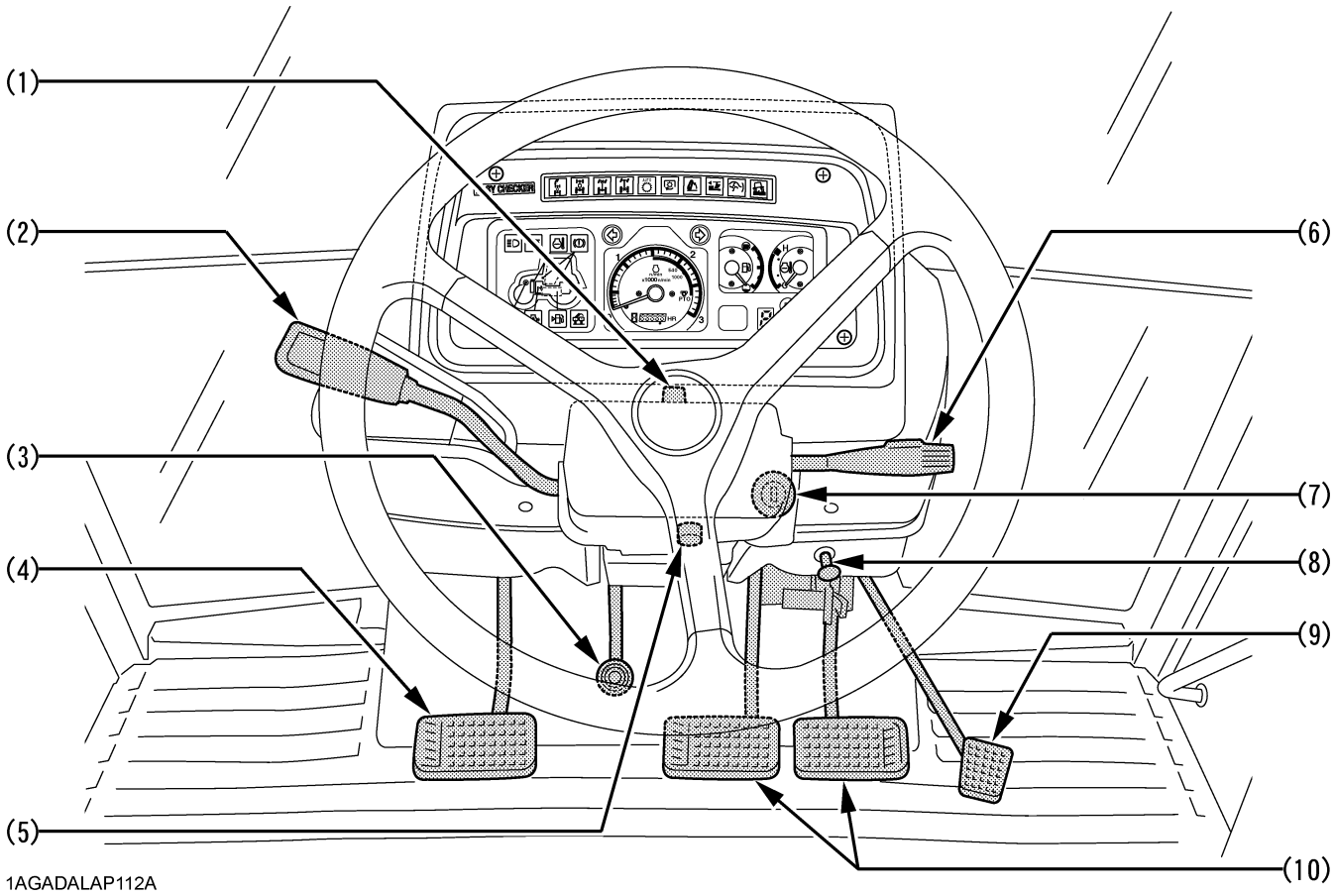
◆前後輪タイヤ組合わせ表

型　式		前輪		後輪	
		タイヤサイズ	輪距（mm）	タイヤサイズ	輪距（mm）
GR850 GR950	S3	9.5-24-6PR	1520	13.9-36-6PR	1520
	M1K	11.2-24-6PR		13.6-38-6PR	
	M2	11.2-24-6PR		16.9-34-6PR	1530
	M3	11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1570
	L2	12.4-24-6PR	1530	16.9-34-6PR	1530
	S1K	9.5-24-6PR	1520	12.4-38-6PR	1520
	M1R	★ 11.2R24		★ 13.6R38	
	M2R	★ 11.2R24		★ 16.9R34	1530
	L2R	★ 12.4R24	1530	★ 16.9R34	
	M1H	11.2-24-6PR	1520	13.6-38-6PR	1520
GR1050	M2	11.2-24-6PR	1520	16.9-34-6PR	1530
	L3	12.4-24-6PR	1530	18.4-34-6PR	
	LA	13.6-24-6PR		16.9-38-8PR	
	L1	12.4-24-6PR		14.9-38-6PR	
	M1K	11.2-24-6PR	1520	13.6-38-6PR	1520
	LAR	★ 13.6R24	1530	★ 16.9R38	1530
GR1150 GR1250	M2	11.2-24-6PR	1640	16.9-34-6PR	1530
	LA	13.6-24-6PR		16.9-38-8PR	
	LB	14.9-24-6PR		18.4-38-8PR	
	LAR	★ 13.6R24		★ 16.9R38	
	LBR	★ 14.9R24		★ 18.4R38	

表中のタイヤは標準出荷と部品採用のものを併記しています。
★印はラジアルタイヤを示します。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

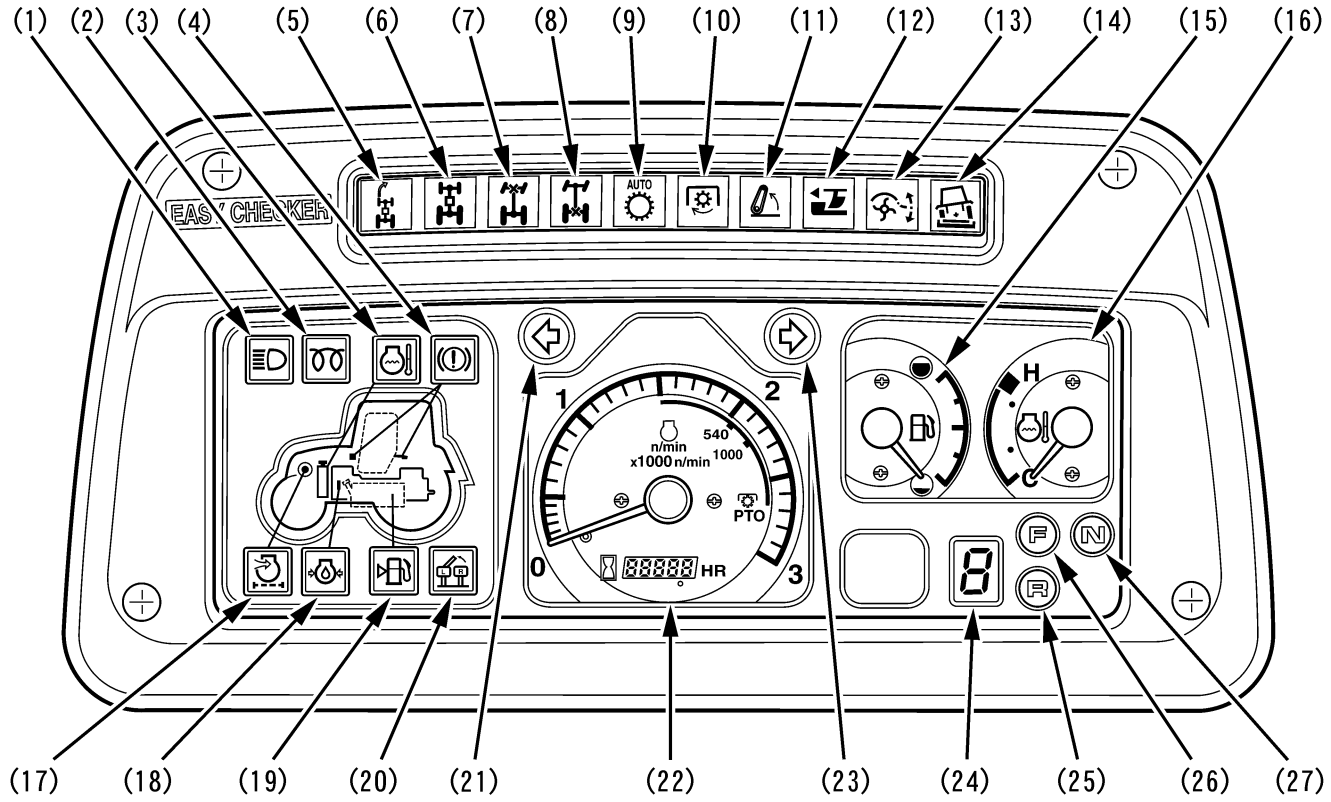


1AGADALAP112A

参照ページ

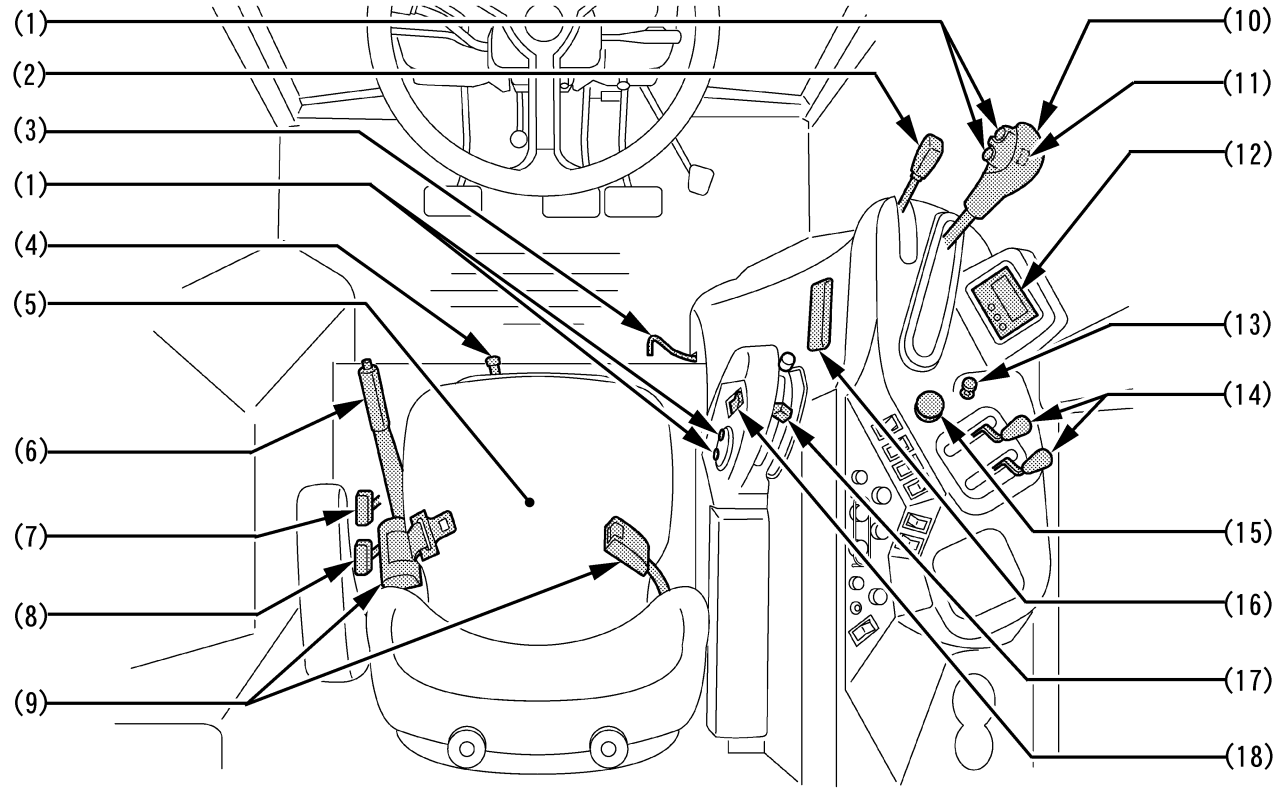
(1) ハザードスイッチ …… 20
(2) シャトルレバー …… 25
(3) チルトペダル …… 19
(4) クラッチペダル …… 23
(5) ホーンボタン …… 21
(6) ウインカ / ヘッドライトスイッチ …… 20
(7) キースイッチ …… 11,14
(8) エンジンストップノブ …… 10,14
(9) アクセルペダル …… 29
(10) ブレーキペダル …… 22

運転に必要な各部の名称

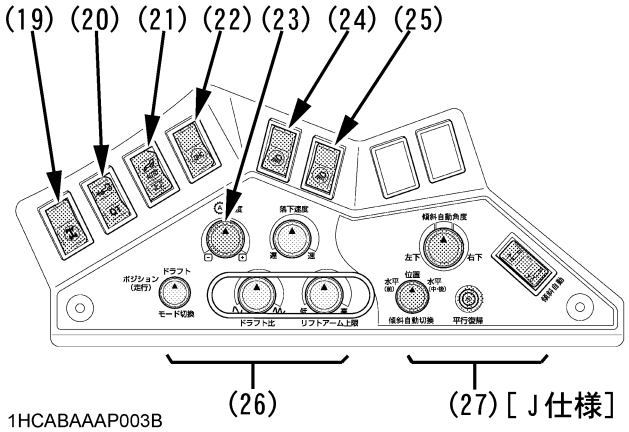


1AGADALAP042A

		参照ページ
(1)	ハイビームランプ	20
(2)	エンジン予熱ランプ（ヒータインジケータ）	11
(3)	エンジン水温警告灯	31
(4)	駐車ブレーキ警告灯 / ブレーキオイル残量警告灯	31
(5)	QT ターンランプ	27
(6)	4WD(4 輪駆動)ランプ	27
(7)	前輪デフロックランプ	43
(8)	後輪デフロックランプ	42
(9)	G-マチックモードランプ	38
(10)	PTO ランプ	72
(11)	クイックアップランプ	53
(12)	ドラフトランプ	50
(13)	－	
(14)	傾斜ランプ **[J 仕様]**	57
(15)	燃料計	32
(16)	水温計	33
(17)	エアクリーナ目詰まり警告灯	31
(18)	エンジンオイル油圧警告灯	31
(19)	燃料残量警告灯	31
(20)	ブレーキ連結解除警告ランプ	22, 31
(21)	ウインカパイロットランプ(左)	20
(22)	エンジン回転計 / 積算時間計	32
(23)	ウインカパイロットランプ(右)	20
(24)	主変速段数表示ディスプレイ	24, 38
(25)	シャトルレバー **[後進]** ランプ	11
(26)	シャトルレバー **[前進]** ランプ	11
(27)	**[ニュートラル]** ランプ	11



1AGADALAP169D

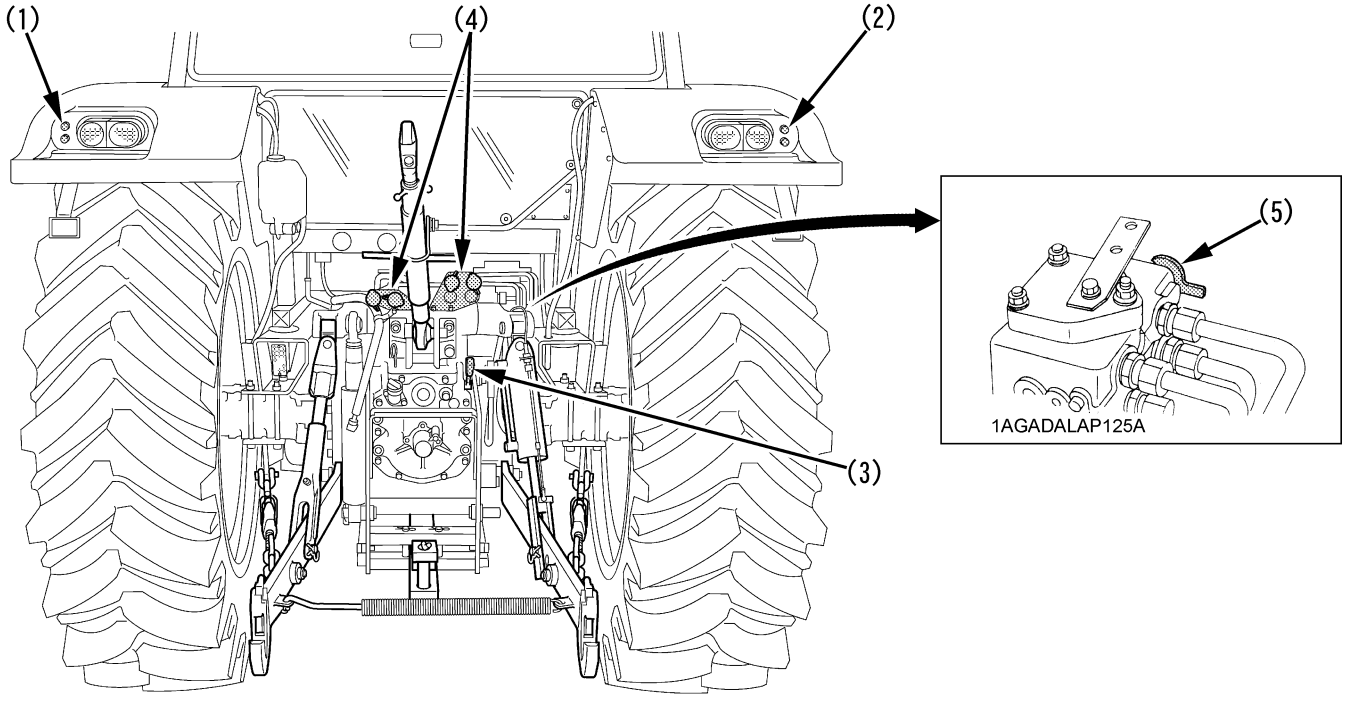


1HCABAAAP003B

参照ページ

(1) G-シフト変速ボタン…… 24
(2) アクセルレバー…… 29
(3) 後輪デフロックペダル…… 42
(4) 油圧ロックレバー…… 55
(5) シート…… 17
(6) 駐車ブレーキレバー…… 10,30
(7) グランド・ライブPTO切換えレバー…… 73
(8) 超低速レバー…… 26
(9) シートベルト…… 19
(10) G-シフトレバー…… 24
(11) クラッチボタン…… 24
(12) PTO回転計/スピードメータ…… 33,34
(13) シガライタ…… 103
(14) 油圧補助コントロールレバー…… 62
(15) PTO クラッチコントロールスイッチ… 72
(16) 灰皿…… 103
(17) ポジションレバー…… 50
(18) クイックアップスイッチ…… 53
(19) 前輪デフロックスイッチ…… 43
(20) 4WDスイッチ**[D仕様]**…… 27
4WD/QT スイッチ…… 27
(21) G-マチック切換スイッチ…… 38
(22) DHC スイッチ …… 25
(23) G-マチック感度調整ダイヤル…… 40
(24) 作業灯スイッチ(前)…… 21
(25) 作業灯スイッチ(後)…… 21
(26) 油圧・三点リンク制御関係…… 49,64
(27) 傾斜制御関係 **[J 仕様]** …… 56

運転に必要な各部の名称



1AGADALAP307A

参照ページ

(1)　三点リンク外部操作スイッチ…… 66
(2)　傾斜外部操作スイッチ **[J 仕様]** …… 66
(3)　PTO 変速レバー …… 72
(4)　油圧取出しカプラ…… 62
(5)　補助コントロールバルブ単複切換えつまみ…… 63

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検方法の詳細は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の項を参照。）

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換

＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ブレーキオイルは，必ず指定**［純正オイル］**を使用してください。

エンジンの始動と停止

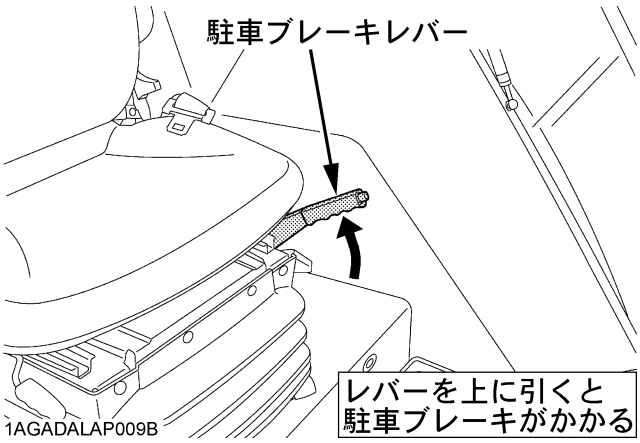
警　告

- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速レバーや PTO 変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **PTO クラッチコントロールスイッチも［OFF］（切）にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。**

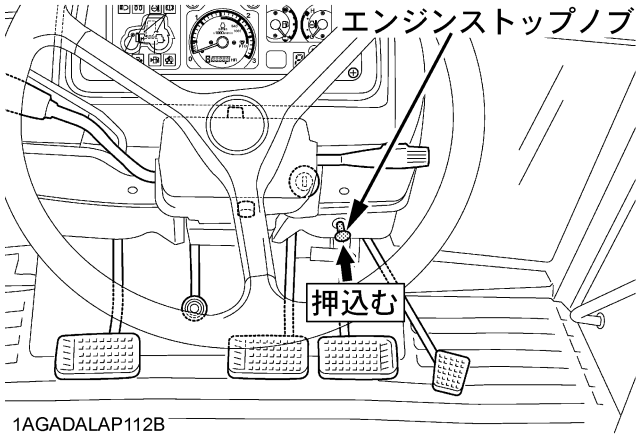
始動のしかた

1. 駐車ブレーキをかけます。

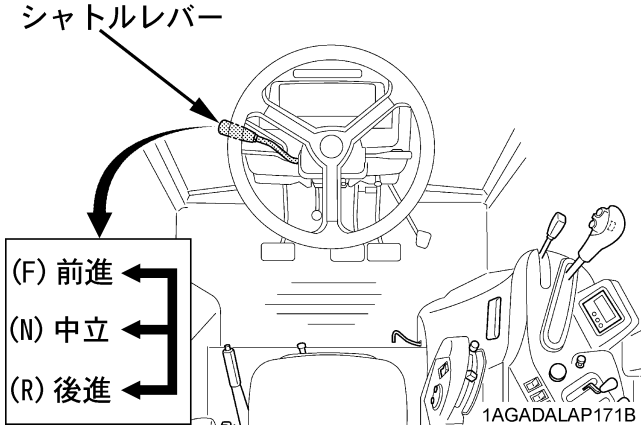
レバーを引くと駐車ブレーキがかかり，キースイッチ［入］の位置では，メータパネル内の駐車ブレーキ警告灯が点灯します。



2. エンジンストップノブが戻っているか確認します。



3. シャトルレバーを［中立］にします。

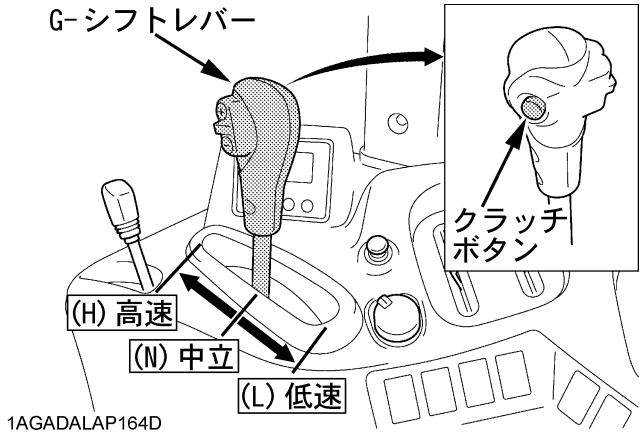


補　足

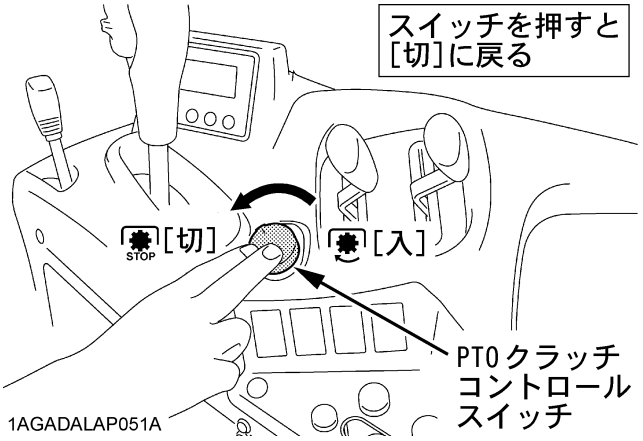
＊ エンジンはシャトルレバーを**［中立］**(N) にしなくても始動できますが，安全確保のため中立にしてください。

4. G- シフトレバーを［中立］にします。

クラッチボタンを押し込み，G- シフトレバーを中立にします。



5. PTO クラッチコントロールスイッチを［切］にします。



6. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

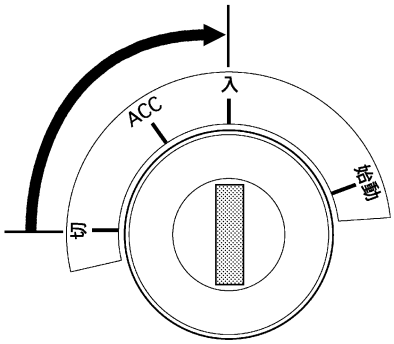
■キースイッチ

切 . . . . . エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ACC. . . . エンジン停止中，ラジオ，時計，送風ファン，ワイパ，ウォッシャ，シガライタ，作業灯などのアクセサリーがすべて**［入］**になります。

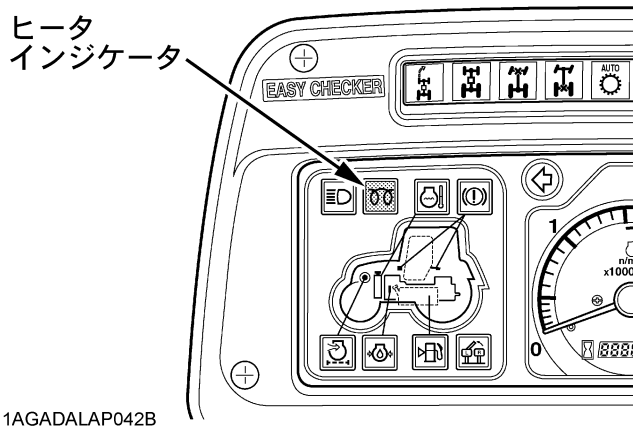
入 . . . . . エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

始動 . . . エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に**［入］**に戻ります。



■オートグロー

冷却水温が低いとき，キースイッチを**［入］**にすると，ヒータインジケータランプが点灯し，予熱が完了すると，自動的に消灯します。
寒冷時はヒータインジケータランプが**［消灯］**したことを確認し，セルモータを回してください。



◆ イージーチェッカランプ

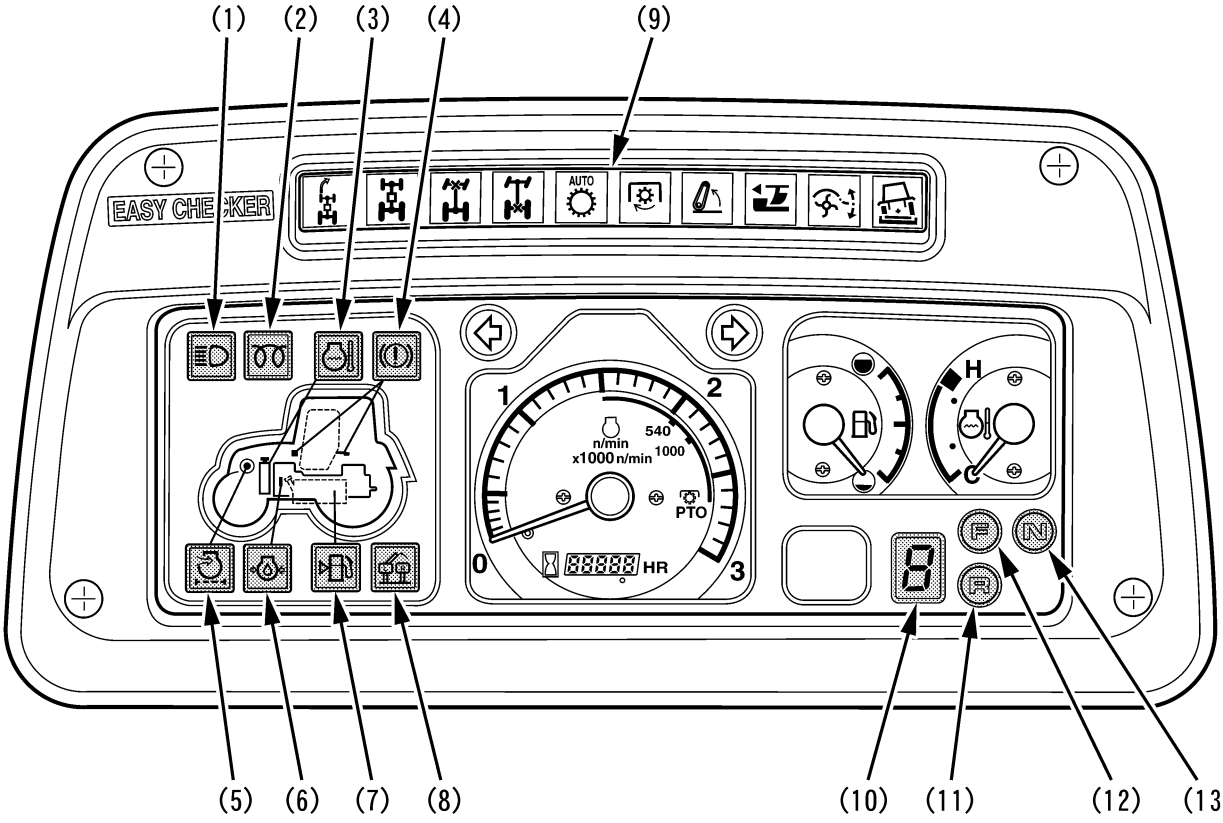
キースイッチ**［入］**時，下記ランプが点灯（点滅）又は消灯しているか確認します。

点灯ランプ…… (3) (4) (5) (6) (8)
(エンジン始動時，(4) ランプ以外消灯する)
(2)　：冷却水が 0 ℃以下のとき点灯し，予熱が完了すると自動的に消灯します。
(8)　：ブレーキペダルの連結が解除されているとき点灯します。
連結されているとき消灯します。
(10)　：キースイッチ**［入］**直後，約 1 秒間のみ 8 を表示。(エンジン始動時は 1 を表示する)
(11) (12)：シャトルレバーが**［F］**か**［R］**で点灯。
(13)　：G- シフトレバーが**［中立］**，又はシャトルレバーが**［中立］**で点灯。

重　要

＊ ランプが点灯しないときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
(３個のランプ (4) (5) (8) が点灯しない場合，充電系統の故障が考えられます)

消灯ランプ…… (1) (7)



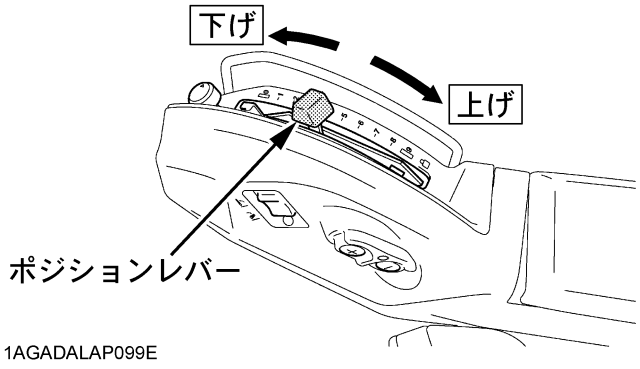
1AGADALAP042C

補　足

＊ 油圧操作パネルのレバーやスイッチの位置により，イージーチェッカ (9) 内ランプが点灯又は点滅する場合もあります。
＊ 駐車ブレーキ警告灯 (4) が消灯していれば，駐車ブレーキを引いてください。

7. 作業機を下げます。

ポジションレバーをいったん最上昇位置まで上げた後，前方に倒すと作業機が下がります。

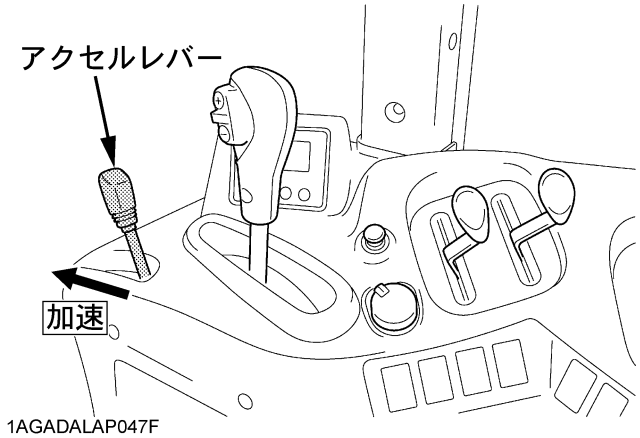


1AGADALAP099E

補　足

＊ 油圧ロックされている場合は下がりません。（**［作業機昇降装置］**の項を参照）

8. アクセルレバーを［中程］まで押します。

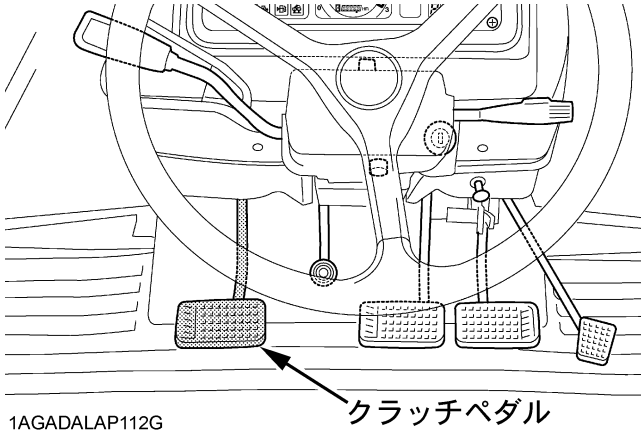


1AGADALAP047F

9. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。



1AGADALAP112G

10. キーを［始動］位置に回します。

補　足

＊ 主変速（G- シフト）レバーを**［中立］**，PTO クラッチコントロールスイッチを**［OFF］**（切）にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10 秒以上の連続使用は避けてください。
10 秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

11. エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

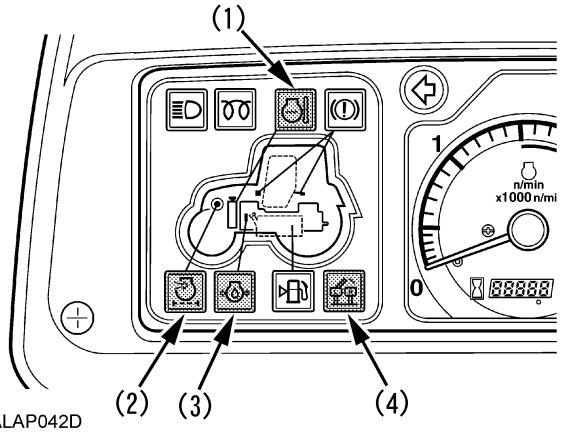
自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを**［始動］**位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

12. イージーチェッカランプが［消灯］したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。



1AGADALAP042D

エンジン始動後消灯するランプ：(1) (2) (3) (4)

補　足

＊ ブレーキペダル連結金具が外れているときは，ランプ (4) は消灯しません。

13. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま５分程度暖機運転しましょう。

■寒冷時の始動のしかた

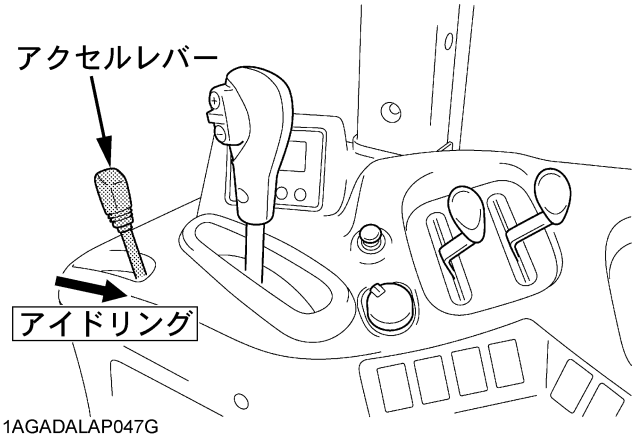
前に述べた **1.** ～ **10.** までの操作を行ないます。セルモータを約 10 秒まで回して始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから，再度 **6.** からの操作を繰返してください。バッテリ及びセルモータを保護するために，10 秒を越えない範囲で，セルモータを回してください。

補　足

＊ 寒冷時の始動直後約１分程度，青白煙を排出することがありますが，異常ではありません。また，それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも，いったん負荷をかけて暖機し，マフラを十分に加熱すれば，ノズルのつまりなどの故障でない限り青白煙は消えます。
冷機時，アイドリング運転の繰返し，及び長時間にわたるアイドリング運転は青白煙排出の原因となりますので極力避けてください。

停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい手前に［引き］，アイドリング状態にします。

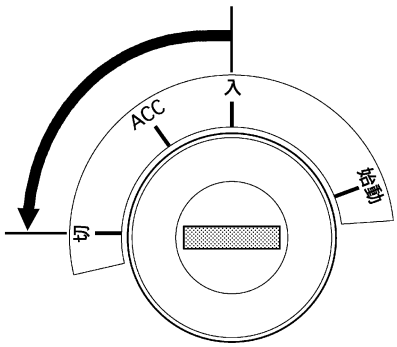


1AGADALAP047G

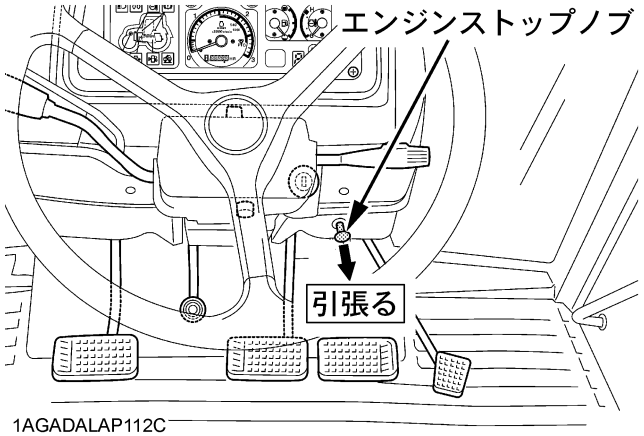
2. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。

重　要

＊ 万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。



1AGADALAP097B



1AGADALAP112C

重　要

＊ エンジンの停止は，５分間アイドリング運転してからにしてください。
高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

補　足

＊ エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

3. キーは必ず［抜き］ましょう。

寒冷時の暖機運転

注　意

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

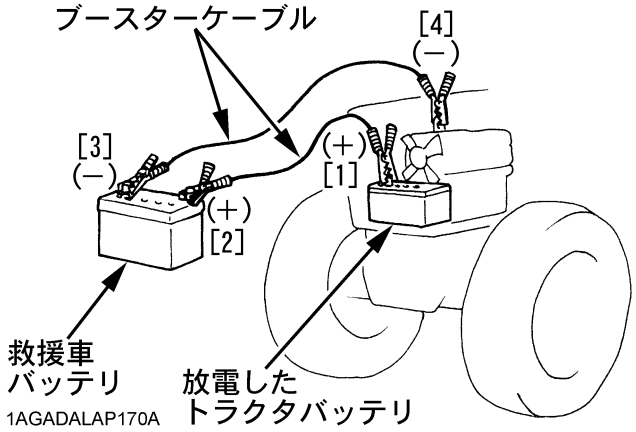
始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。
このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　　温	暖機運転時間
0 ℃以上	少なくとも 10 分間
0 ～ -10 ℃	10 ～ 20 分間
-10 ～ -20 ℃	20 ～ 30 分間
-20 ℃以下	30 分間以上

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊ トラクタのキースイッチを**［切］**にします。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します
＊ マイナスケーブルの他端**【4】**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**【4】**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります）



2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。
＊ 救援車にこのトラクタを使用する場合は，必ず作業機を降してください。

トラクタの運転

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**［定期点検箇所一覧表］**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

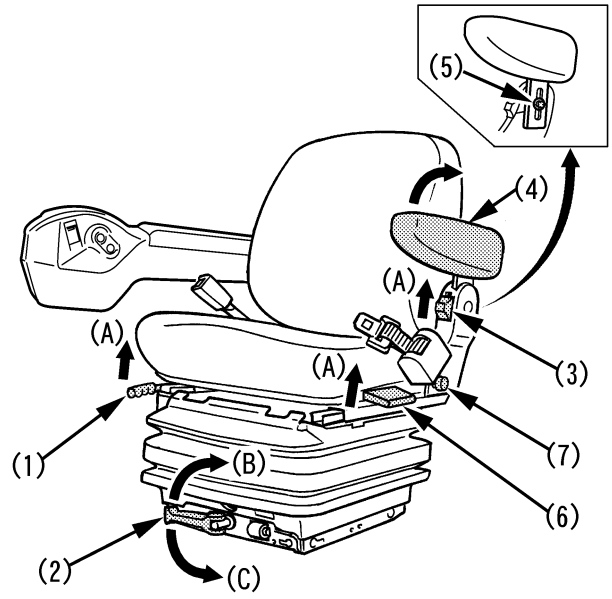
運転席回りの調節

■シート

[GR850・950・1050]

◆ 調整方法

1. 前後調節レバーを **[引く]** と，シートが前後7段階に調節できます。
2. 体重調節ハンドルを **[回す]** と，クッションの強さが調節できます。
3. リクライニング調節レバーを **[上げる]** と，背もたれの角度が調節できます。
4. 左アームレストは，後方へ向けられます。また調整ボルトにより，アームレストの高さも変えられます。
5. 右アームレストは，ロックレバーを解除すれば，4段階の位置調節ができます。
6. スイベル調節レバーを **[上げる]** と，シートが左右に回転します。
7. シートベルト巻取りボタンを **[押し]**，シートベルトを引出して装着します。
   シートベルトを外した後，シートベルト巻取りボタン押して巻取ります。

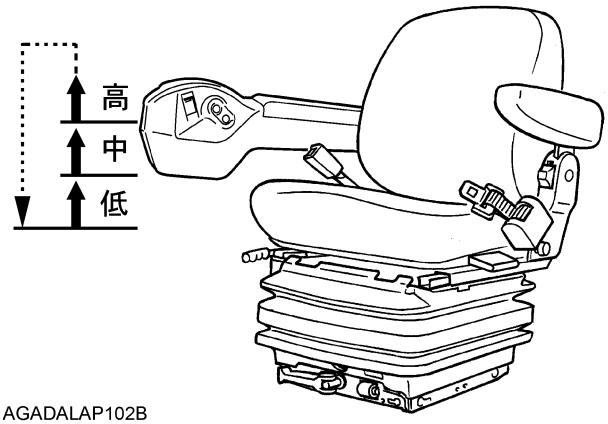


1AGADALAP102A

(1) 前後調節レバー
(2) 体重調節ハンドル
(3) リクライニング調節レバー
(4) 左アームレスト
(5) 左アームレスト高さ調整ボルト
(6) スイベル調節レバー
(7) シートベルト巻取りボタン

(A) [解除]
(B) [強くなる]
(C) [弱くなる]

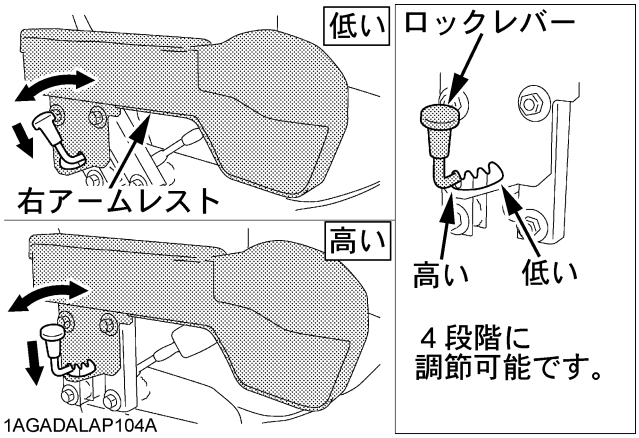
8. シートの高さは，シート全体を持上げるだけで，3段階に変えられます。
   低い位置に戻すには，いったん最上昇位置まで持上げると最下位置まで下がります。



1AGADALAP102B

◆ 右アームレスト

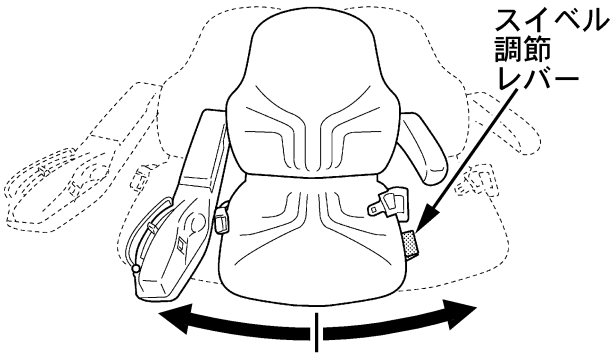
レバーやスイッチ類が操作しやすい位置に調節してください。



1AGADALAP104A

◆ スイベル状態

1. 常に後方を見ながらの作業時に使用します。
2. シートを左に回転させると，トラクタへの乗降が容易に行なえます。

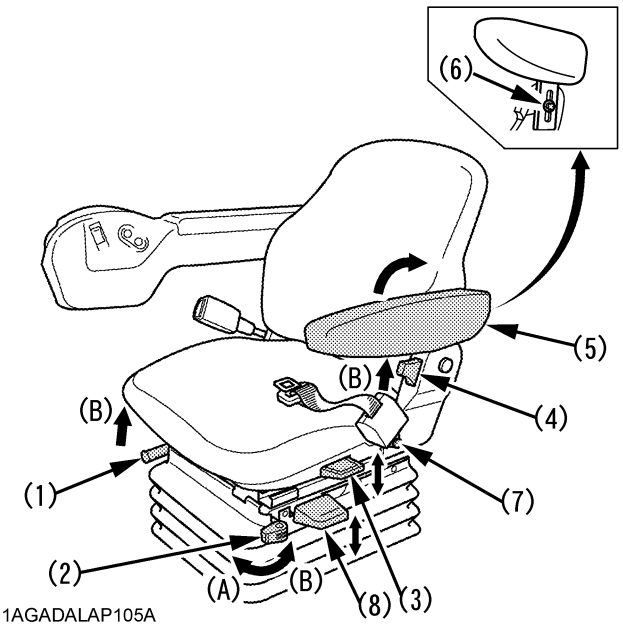


1AGADALAP103A

[GR1150・1250]

◆ 調整方法

1. 前後調節レバーを **[引く]** と，シートが前後9段階に調節できます。
2. 前後サスペンションレバーを **[解除 (B)]** 位置にすると，シートが少し前後にスライドできます。**[固定 (A)]** 位置にすると，シートが固定されます。
3. スイベル調節レバーを **[上げる]** と，シートが左右に回転します。
4. リクライニング調節レバーを **[上げる]** と，背もたれの角度が調節できます。
5. 左アームレストは，後方へ向けられます。
   また調整ボルトにより，アームレストの高さも変えられます。
6. 右アームレストは，ロックレバーを解除すれば，4段階の位置調節ができます。
7. シートベルと巻き取りボタンを **[押し]**，シートベルトを引出して装着します。
   シートベルトを外した後，シートベルと巻取りボタン押して巻取ります。



1AGADALAP105A

(1) 前後調節レバー
(2) 前後サスペンション
(3) スイベル調節レバー
(4) リクライニング調節レバー
(5) 左アームレスト
(6) 左アームレスト高さ調整ボルト
(7) シートベルト巻取りボタン
(8) シート高さ / 体重調整レバー
(A) [固定]
(B) [解除]

8. シートに座った状態で，キースイッチ **[入]** 後，シート高さ／体重調整レバーを **[上げ]** 側に操作すると，エアコンプレッサが作動し，シート高さとクッションがオペーレータの体重に応じ調整範囲の最下位置に自動調整されます。
   微調整が必要な場合は，レバーを **[上]** 又は **[下]** に操作し調整してください。



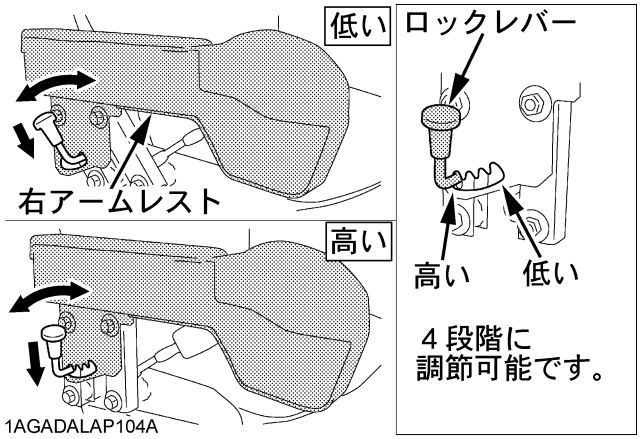
1AGADALAP106A

重 要

＊ エアコンプレッサは1分以上連続作動させないでください。

◆ 右アームレスト

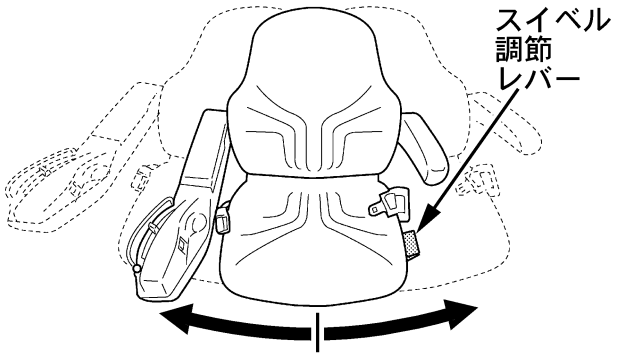
レバーやスイッチ類が操作しやすい位置に調節してください。(ロックレバーを矢印方向に傾け調整します。)



1AGADALAP104A

◆ スイベル状態

1. 常に後方を見ながらの作業時に使用します。
2. シートを左に回転させると，トラクタへの乗降が容易に行なえます。



1AGADALAP103A

■安全キャブとシートベルトについて

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

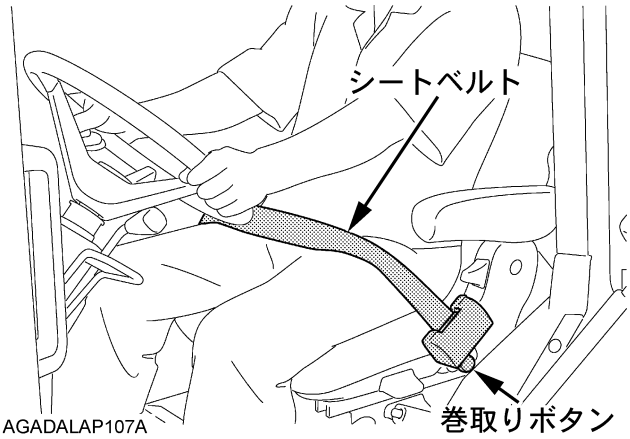
＊ トラクタを使用するときは，必ずシートベルトを着用してください。

＊ 安全キャブの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

補　足

＊ 安全キャブは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



1AGADALAP107A

■チルトステアリングハンドル

注　意

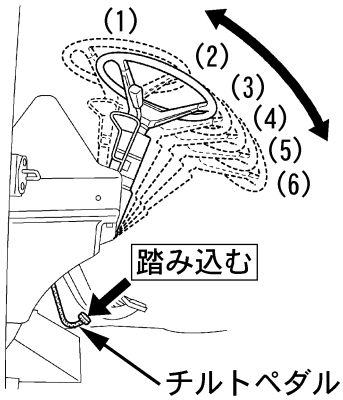
＊ 走行中の調節はしないでください。

＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで（1）～（6）の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。

（1）…… 乗り降り時の位置

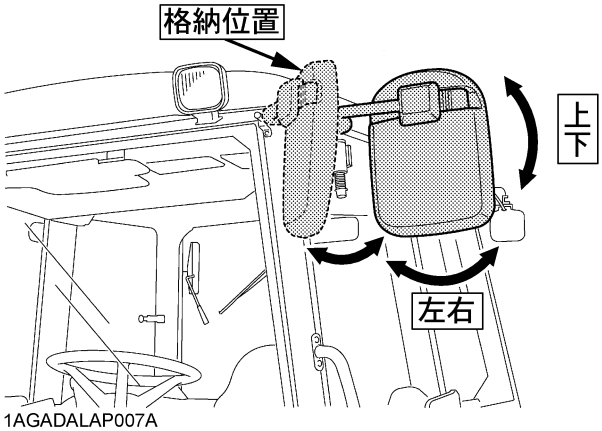
（2）～（6）……運転操作位置



1ARADALAP014A

■バックミラー

1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. 狭い場所へ格納時折りたたんでください。

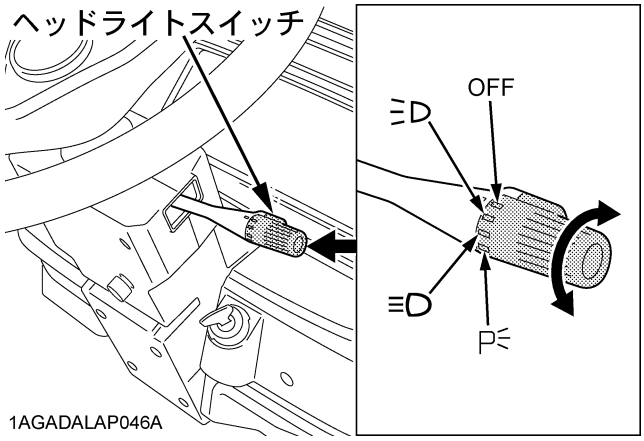


1AGADALAP007A

灯火類の操作

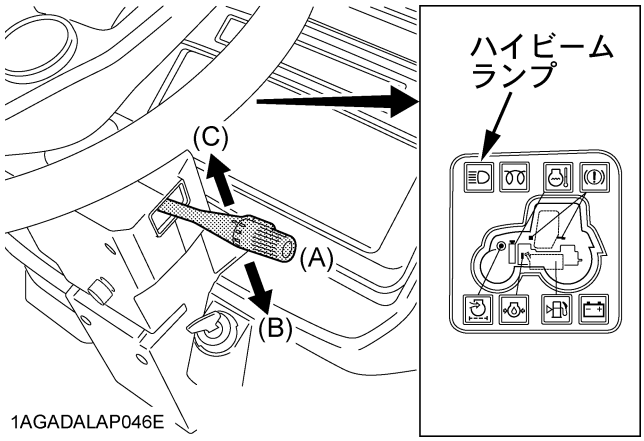
■ヘッドライトスイッチ

ノブを回すとスイッチが入り，位置によって次のランプが点灯します。



操作位置 / 点灯ランプ	OFF			
ヘッドランプ	—	—	○	—
テールランプ	—	○	○	○
車幅灯	—	○	○	○

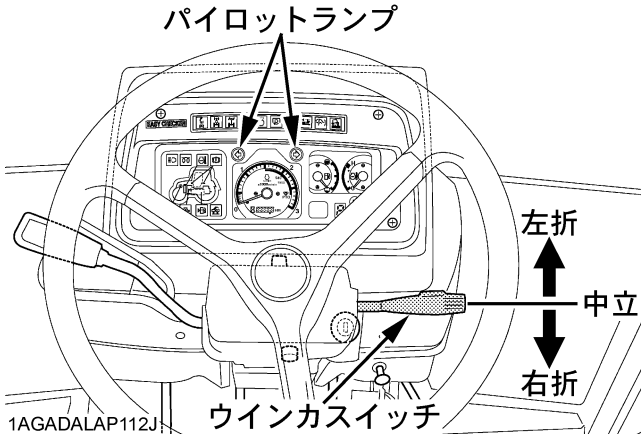
◆ ヘッドランプの切換え



(A)　下向き
(B)　ハイビーム［押す］
（メータパネル内のハイビームランプが点灯します）
(C)　パッシング［ハンドル側に引く］
（先行車に合図するときに使います）

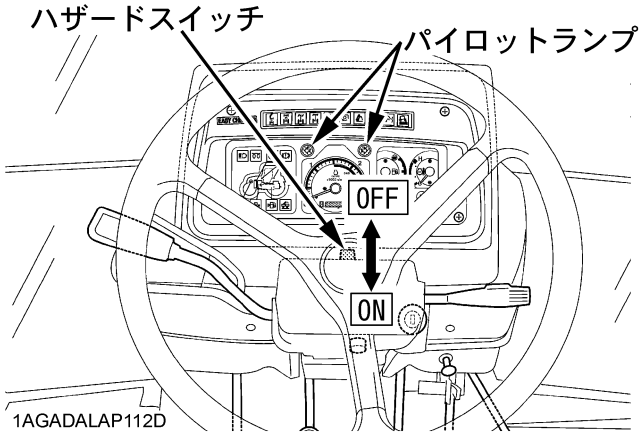
■ウインカスイッチ

1. スイッチを前後操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
   前……左折
   後……右折
2. スイッチはハンドルを戻すと，自動的に中立に戻る，オートリターン機構になっています。

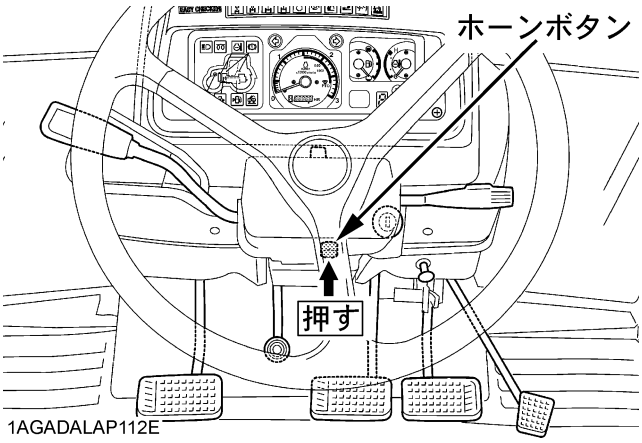


■ハザードスイッチ

非常停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すと，ウインカ前後及びメータパネル内のウインカ作動パイロットランプが点滅し，非常停止中を知らせます。



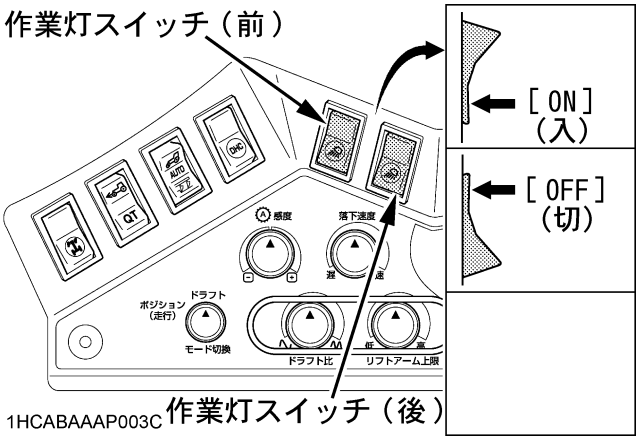
■ホーンボタン
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



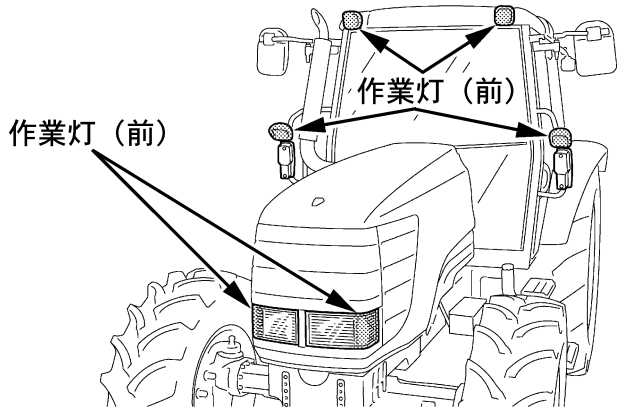
1AGADALAP112E

■作業灯スイッチ（前）
キースイッチ**[ACC]**→**[入]**位置にして作業灯スイッチの下側を押すと作業灯**［前］**が点灯します。スイッチの上側を押すと消灯します。

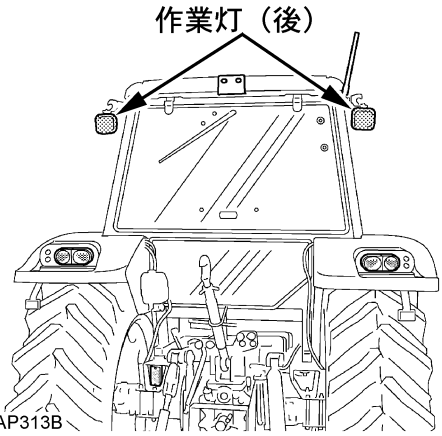
■作業灯スイッチ（後）
キースイッチ**[ACC]**→**[入]**位置にして作業灯スイッチの下側を押すと作業灯**［後］**が点灯します。スイッチの上側を押すと消灯します。



1HCABAAAP003C



1AGADALAP321A



1AGADALAP313B

重　要

＊ バッテリがあがりますので，エアコン・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を 1800rpm 以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■バックランプ
シャトルレバーを **［ 後進 ］** の位置に入れると，バックランプが点灯します。

■ブレーキランプ
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

■車幅灯・尾灯
ヘッドライトに連動して点灯します。

発進・走行

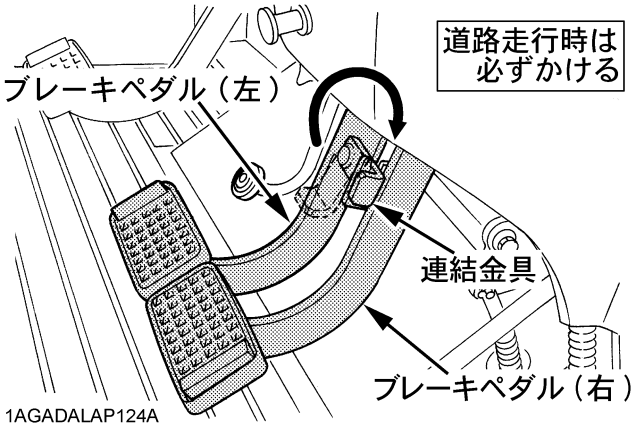
1. ブレーキペダルを確認します。

■ブレーキペダル

警　告

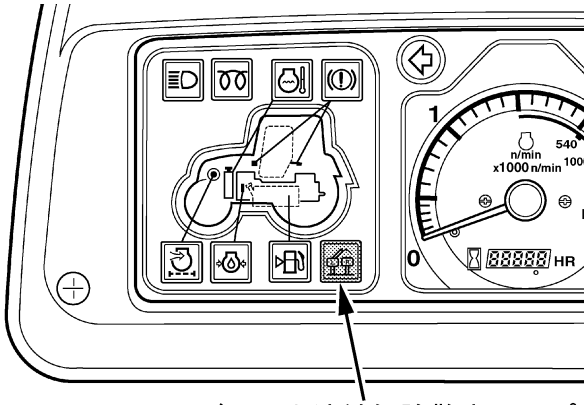
＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



1AGADALAP124A

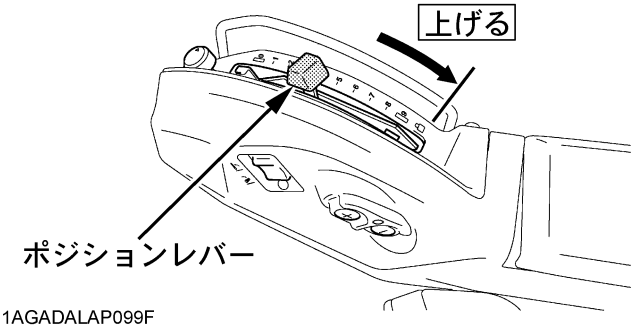
◆ ブレーキ連結解除警告ランプ
ブレーキペダル連結金具を外すと**ブレーキ連結解除警告**ランプが点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，ランプの消灯を確認してから，走行してください。



1AGADALAP042E

2. ポジションレバーを［後方に引き］作業機を上げます。

（詳細は**［作業機昇降装置］**の項を参照）



1AGADALAP099F

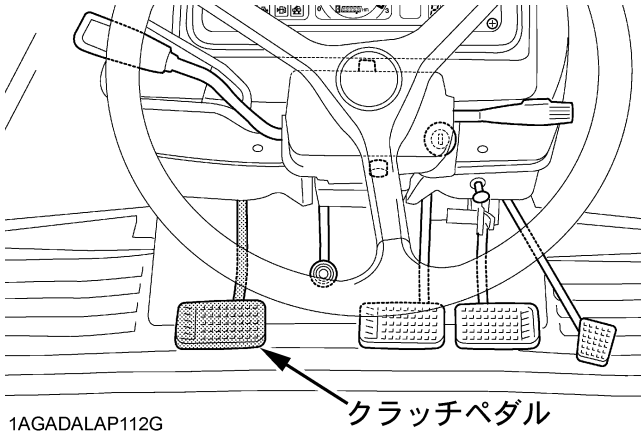
3. クラッチペダルを踏込みます。

注 意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

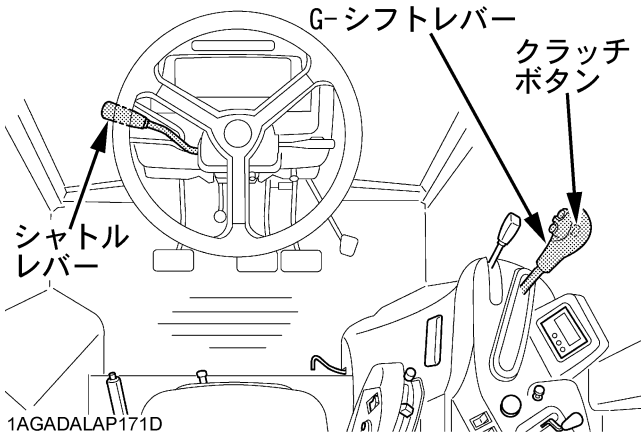
クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏み込む･･･････クラッチが切れる。
ペダルから足を離す･････クラッチがつながる。



補 足

＊ クラッチペダル操作によって **[半クラッチ]** を極度に多用すると，クラッチ保護のため自動的にクラッチが **[切れ]**，警告ブザーが鳴ります。もし，ブザーが鳴れば下記いずれかの操作で解除してください。
警報ブザーが鳴ったままの状態で放置しないでください。
(1) クラッチペダルを一杯踏み込む。
(2) 主変速（G- シフト）レバーの **[クラッチボタン]** を押す。
(3) シャトルレバーを **[中立]**（N）にする。

4. 走行速度を選択します。



シャトルレバーと G- シフトレバーのレバー操作を組合せることにより前進 16 段，後進 16 段の車速が得られます。またオプションの超低速を装備しますと前進 24 段，後進 24 段になります。
（GR1250 には超低速キットは装着できません。）

注 意

＊ 急発進はしないでください。
＊ 安全のため，急激な変速は避けてください。変速は 1 段ずつ行なってください。
＊ 緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチペダルの操作で行なってください。
＊ 走行中は，G- シフトレバーに手を置いたままにしないでください。
＊ 急な坂道，車両への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊ 低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，G- シフトレバーで発進するとき，G- シフトレバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，クラッチペダルをゆっくり操作して発進してください。

■ G- シフトレバー

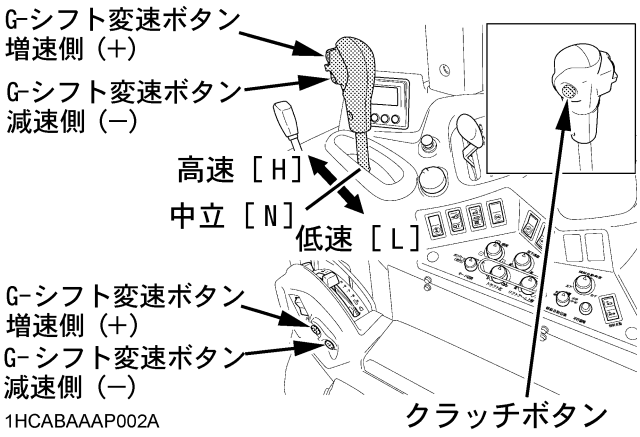
1. G- シフト変速ボタンによる主変速段数の切換えは，停止中，走行中，作業中いずれの場合もクラッチ操作なしで，増速側又は減速側 G- シフト変速ボタンを押すことにより，１速から８速まで変速できます。(変速時［ピッ］と音が鳴ります。)
   また，選択した変速段数はメータパネルに表示されます。
2. 副変速レンジの切換えは停止時（クラッチ操作不要)，G- シフトレバーのクラッチボタンを押し込み前に押すと**【高速】**，手前に引くと**【低速】**が得られ，G- シフト変速ボタン操作との組み合わせで 16 段変速になります。

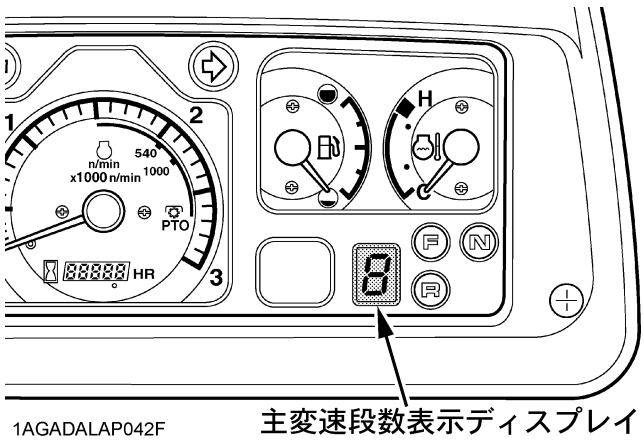
注　意

＊ 副変速レンジが [H] 又は [L] に入っている場合でも，クラッチボタンを押している間は，クラッチが切れた状態になっています。クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。

補　足

＊ 主クラッチが**【入】**，シャトルレバーも**【前・後進】**に入った状態で，クラッチボタンを押さずに G- シフトレバーを**【低速】**又は**【高速】**に変速すると，警告ブザーが鳴り発進しません。
(主変速段数表示ディスプレイに**【5】**が表示されます。)
ブザーを止め再発進するには：
(1) G- シフトレバーを**【中立】**に戻します。
(2) G- シフトレバーのクラッチボタンを押しながら**【H】**又は**【L】**に変速します。
(3) クラッチボタンを離すと発進します。





◆ 基本操作

1. エンジン始動後，最初に G- シフトレバーで副変速レンジ（低速又は高速）を選択すると，**【低速の１速】**又は**【高速の１速（９速)】**となります。
   (表示ディスプレイは［1］を表示)
2. 中立位置で，G- シフト変速ボタン操作により主変速を選択（１～８速）し，その後副変速レンジを選択すると，選択した主変速段数がそのまま選択されます。
3. 中立位置で，G- シフト変速ボタンを押し続けると，主変速段数は連続的に早く切換わります。
4. 副変速レンジ（低速又は高速）を選択した状態では，G- シフト変速ボタンを押す毎に主変速段数が切換わります。
   ただし，シャトルレバーを**【中立】**にするか，クラッチを**【切】**の状態にすると，連続的に主変速段数が切換わります。
5. 副変速レンジを低速から高速へ切換えたのち再び低速に戻すと，前回選択していた低速時の主変速段数（１速～８速）が自動的に選択されます。
6. 副変速レンジを高速から低速へ切換えたのち再び高速に戻した場合，次項のように車速段数が自動的に選択されます。

- 前回選択していた高速時の主変速段数が１速（９速）～３速（11 速）の場合，前回の車速段数が自動的に選択されます。
- しかし,高速時の主変速段数が４速(12速）～８速(16 速）の場合，すべて３速(11 速）がそのまま選択されます。

◆ 自動選択車速表

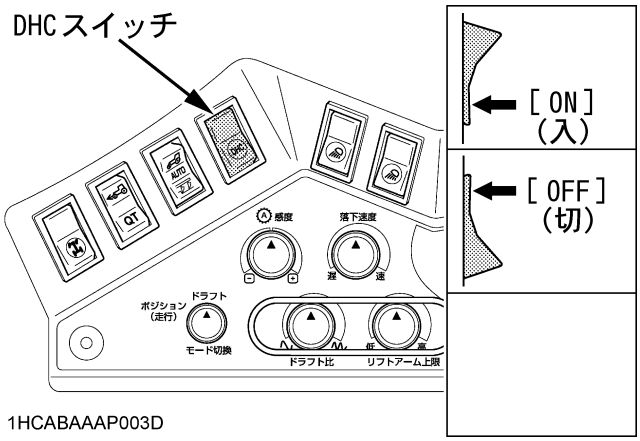
G-シフトレバー	変　速　段　数
低／高 G-シフト変速ボタン	低 1～8 → 変速 → 高 1～8 → 変速 → 低 1～8
低／高 G-シフト変速ボタン	高 1～3 → 変速 → 低 1～8 → 変速 → 高 1～3
	高 4～8 → 変速 → 低 1～8 → 変速 → 高 3

重　要

＊ 副変速レンジの切換えは必ずトラクタを停止させ，ブレーキペダルを踏み，G- シフトレバーをゆっくり操作してください。

■ DHC スイッチ

このトラクタはエンジン負荷等を感知し,負荷に応じた最適な変速制御を行なっています。傾斜地でけん引式 PTO 作業機（ベーラ等）を使用するとき，DHC スイッチを**【ON】**（入）にしてください。応答性のよい変速操作が行なえます。上記以外の一般作業では，スイッチを**【OFF】**（切）にしてください。スムーズな変速が行なわれ乗心地を高めます。



1HCABAAAP003D

補　足

＊ DHC スイッチを**【ON】**（入）にすると、変速時の油圧クラッチ操作が素早く行なわれるため、傾斜地で変速操作を行なっても、作業機による押し出され現象を少なくできます。
（急傾斜地での重けん引作業時は変速操作を行なわないでください）

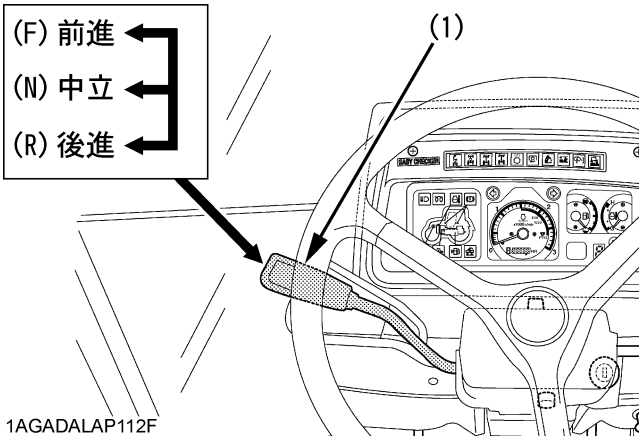
■シャトルレバー

注　意

＊ 高速（11km/h 以上）で前進・後進の切換えを行なうとクラッチが切れ,警告ブザーが鳴る装置を設けていますが 10km/h 前後のスピードでもたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切換えるようにしてください。

＊ 急傾斜地で前進･後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行なうと，前進･後進が切換わるときトラクタの自重で自走し,危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル･ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行ない，クラッチペダルで発進してください。

1. シャトルレバーを持上げて，前進（後進）から後進（前進）に操作しますと，マイコンコントロールでスムーズな切換えを行ない前進(後進）と同じスピードで後進（前進）します。(切換え時のショックが少なく，タイヤがスリップしないので草地作業にも適しています。)
2. クラッチペダルを踏まなくてもシャトルレバーの操作で前進･後進の切換えができます。
3. 坂道で前進・後進の切換えを行なうときは，必ずブレーキペダルを踏み込んでトラクタが停止してから行なってください。ブレーキを使用しないで前進・後進の切換えを行なうとシャトルクラッチの寿命の低下や損傷の原因になります。
4. シャトルレバー中立位置で，G- シフトレバーの増減速 G- シフト変速ボタン操作を行ない，主変速段数を選択（１～８速）し，その後副変速レンジを切換えると，低速・高速とも選択した主変速段数がそのまま選択されます。



(1) シャトルレバー　　(F) [前進]
(N) [中立]
(R) [後進]

補　足

＊ トラクタの速度が 11km/h 以上の状態で，シャトルレバー前進・後進の切換えを行なうと，自動的にクラッチが **[切れ]**，警告ブザーが鳴ります。
もしブザーが鳴れば，シャトルレバーを元の位置に戻してください。ブザーが止まりクラッチも継がります。警報ブザーが鳴ったままの状態で放置しないでください。

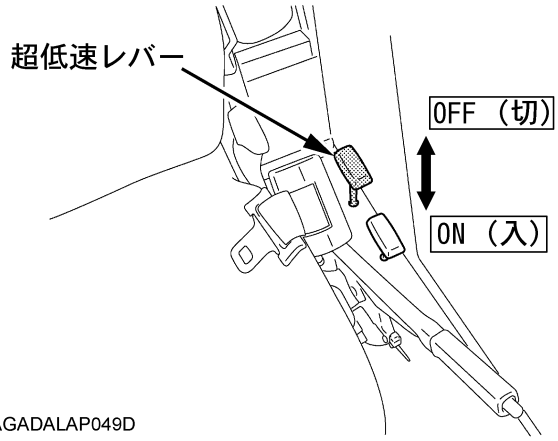
超低速速度の選択（オプション）（GR1250 には超低速を装着できません）

■超低速レバー

注　意

＊ 超低速速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。

G- シフトレバーが **[L]**（低速）の場合，超低速レバーを**[押し下げる]**と超低速速度が得られます。超低速速度が **[ON]**（入）の時には副変速は **[H]** に変速できません。
（**[H]**（高速）の場合は超低速変速に入りません。）



超低速速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   - ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   - ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   - プランタによる移植作業。
   - 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
   - 車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）。
   - 湿田での沈没状態から脱出する作業。
   - けん引・トレーラ作業。
   - フロントローダ作業。
   - フロントブレード作業（除雪作業）。
   - 土木作業。
   - ほ場への出入り。
3. 超低速速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   - 変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   - 発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   - 超低速速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
     停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊ 超低速速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ 超低速速度では，けん引作業をしないでください。
超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。
＊ GR1250 には超低速を装着できません。ギヤの破損の原因になります。

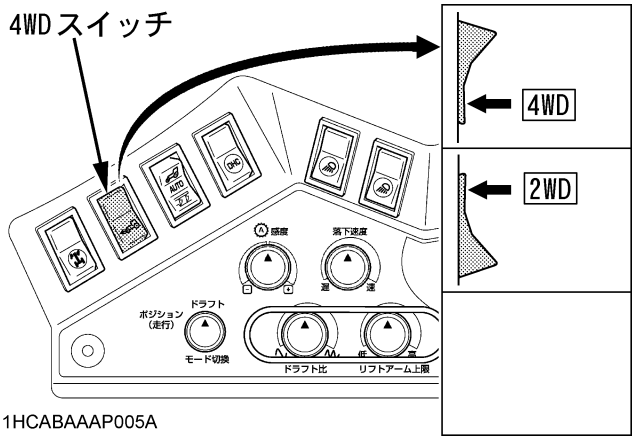
補　足

＊ 副変速レバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。
そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度副変速レバーを操作してください。
＊ また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん G- シフトレバーを**【中立】**(N) にしてから操作してください。

5. 前輪駆動／ QT ターンを選択します。

■ 4WD スイッチ
[D 仕様]

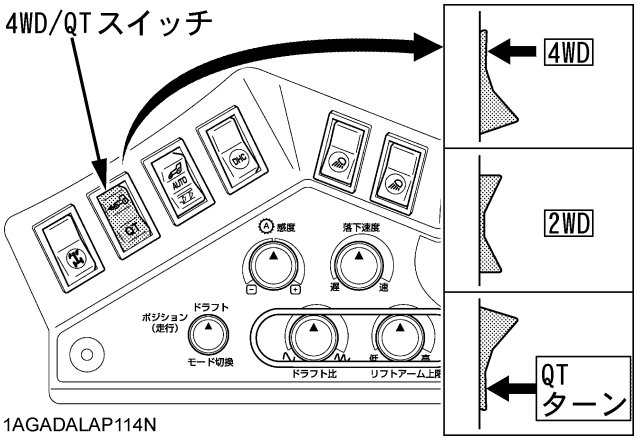
スイッチの上側を押す……	4WD ランプが消灯し２輪駆動に戻ります。
スイッチの下側を押す……	4WD ランプが点灯し４輪駆動になります。



1HCABAAAP005A

■ 4WD/QT スイッチ

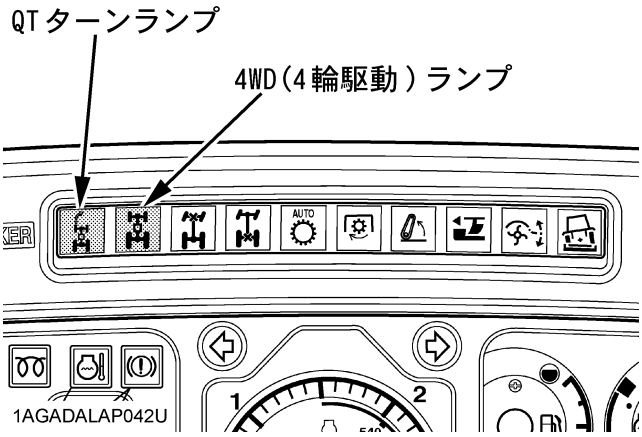
スイッチの上側を押す……	4WD ランプが点灯し４輪駆動になります。
中央位置に戻す……	全ランプが消灯し２輪駆動に戻ります。
スイッチの下側を押す……	QT ターン及び 4WD ランプが点灯しQTターンになります。



1AGADALAP114N

◆ 4WD／QT ターンパイロットランプ

4輪駆動及び QT ターンの **[入・切]** をパイロットランプで表示します。



◆ 前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。

1. 傾斜地，湿田，トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. かたいほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

補　足

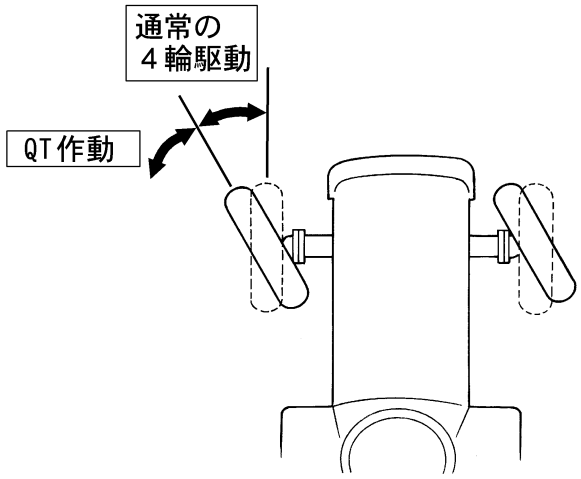
＊ 舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。前輪駆動は必ず切って 4WD ランプが消えていることを確認してから走行してください。又，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。
ただし，走行時ブレーキ性能向上のため，左右ブレーキペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に前輪駆動が入ります。

◆ QT ターンの使い方

警　告

＊ QT ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に 4WD／QT スイッチを前輪駆動［入］又は前輪駆動［切］に切換えてください。
＊ QT ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

QT ターンの作動は下図のようになっています。
[QT] モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切ると，QT ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約1.6倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



重　要

＊ トレーラけん引作業などの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

補　足

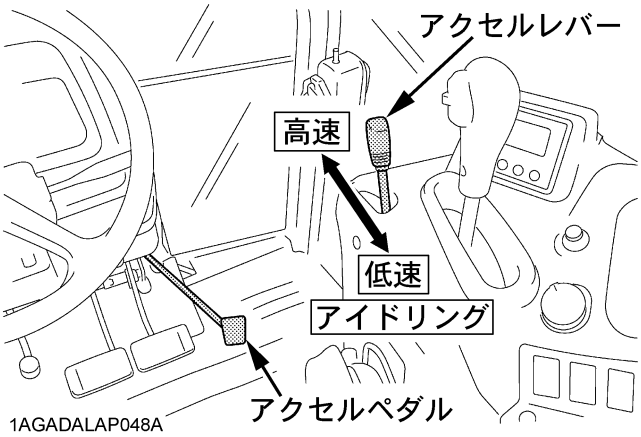
＊ QT は，危険防止のため，旋回開始時の車速段数が **[H]** － 4 以下で車速が約 10km/h 以下のときのみ作動します。

6. エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー
主に農作業時に使用する。
レバーを前側に押す……エンジン回転が上がる。
レバーを手前に引く……エンジン回転が下がる。

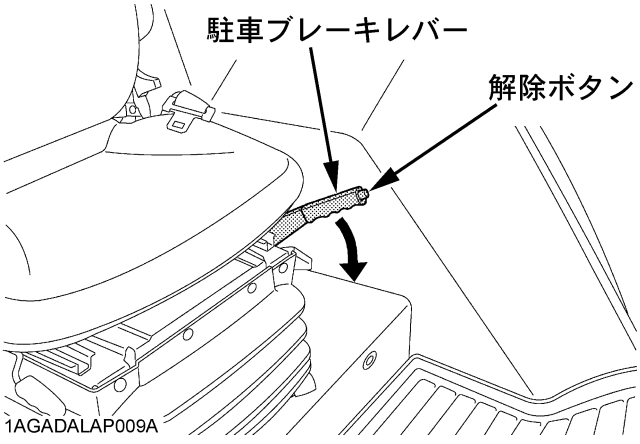
◆ アクセルペダル
主に走行時に使用する。
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アイドリング状態。



7. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ
駐車ブレーキレバー先端のボタンを押し込みレバーを下げると，ブレーキが解除されます。

補　足
＊ メータパネルの(!)ランプの消灯を確認のこと。



8. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重　要
＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
(1) 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
(2) 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
(3) クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。
知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
＊ トレーラけん引作業時などの発進は，低速度段で行ない，次に必要な車速段に入れて走行してください。
（クラッチの寿命が長くなります）
＊ 通常作業で頻繁に警告ブザーが鳴る場合は，トラクタの再設定が必要です。
購入先で点検をしてもらってください。

停車・駐車

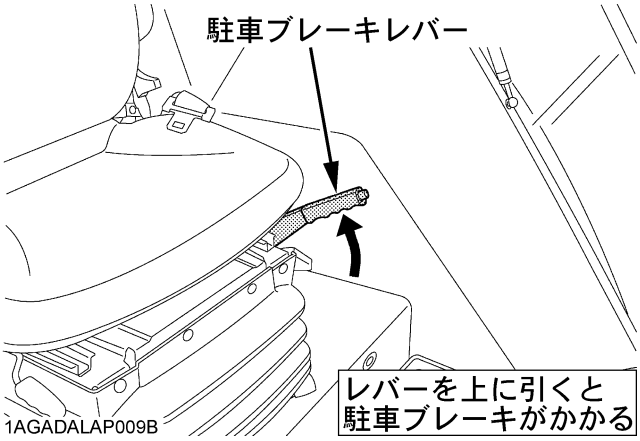
警　告

＊ 本機は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注　意

＊ 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，変速レバーを［中立］(N)，PTO クラッチコントロールスイッチを[OFF](切)，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを[引き]，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを手前に引き，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。
3. 完全に停止してから，G- シフトレバーを［中立］(N) にします。
4. PTO を使用している場合は，PTO クラッチコントロールスイッチを [OFF]（切）にして，PTO を停止させます。
5. 作業機を取付けている場合は，ポジションレバーをゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。
6. 駐車ブレーキを確実にかけてください。



7. キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

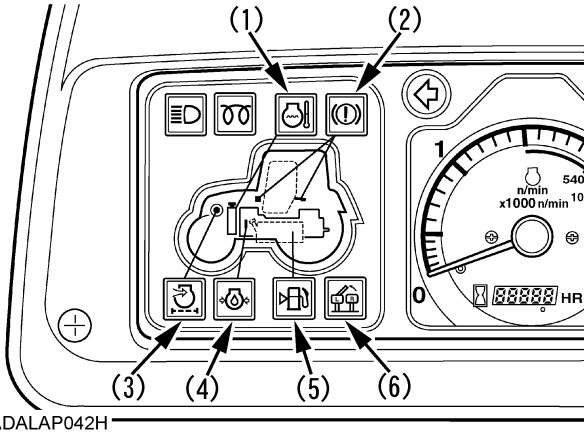
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



1AGADALAP042H

(1) **エンジン水温警告灯**

水温計の指針が **[H]**（レッドゾーン）を示しオーバーヒート状態になったとき，点灯して警告します。

(2) **駐車ブレーキ警告灯**
ブレーキオイル残量警告灯

駐車ブレーキを引いているときやブレーキオイルの量が規定量以下になったとき，点灯して警告します。
点灯したままのときは，駐車ブレーキが引いた状態になっていないか確認してください。
それでも消灯しないときは，ブレーキオイルの補給とブレーキ系統の油漏れの有無を確認してください。

(3) **エアクリーナ目詰まり警告灯**

フィルタの目詰まりが多くなったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，フィルタの点検・清掃をしてください。

(4) **エンジンオイル油圧警告灯**

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

(5) **燃料残量警告灯**

燃料の残量が約 14L 以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料を補給してください。

(6) **ブレーキペダル連結解除警告灯**

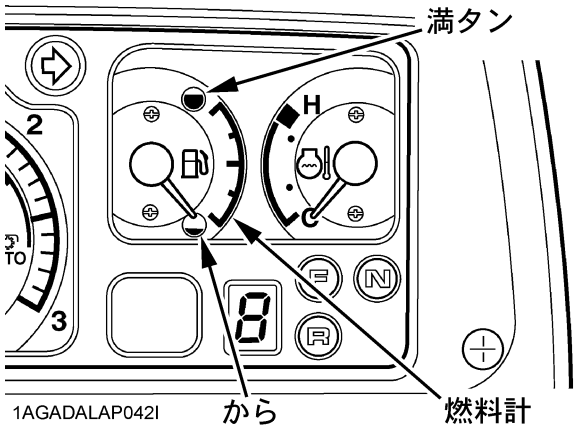
ブレーキペダル連結金具を外すと警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結金具をかけ警告灯の消灯を確認してから走行してください。

[チャージランプ]

(2) (3) (6) ランプがチャージランプと兼用になっており，充電系統に異常があればエンジン回転中同時に 3 個のランプが点灯して警告します。

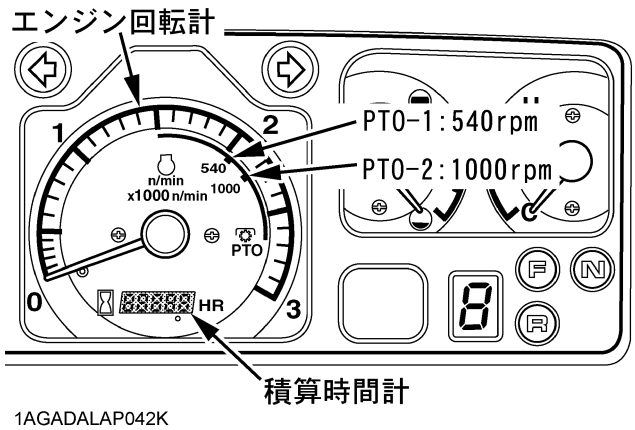
■燃料計

指針が**下方向**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



1AGADALAP042I

■トラクタメータ



1AGADALAP042K

◆ 積算時間計（アワメータ）

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は１ /10 時間（６倍すると**［分］**単位）を示します。

◆ エンジン回転計

１分間のエンジン回転速度を示します。

◆ PTO 回転計（ライブ PTO 使用時）

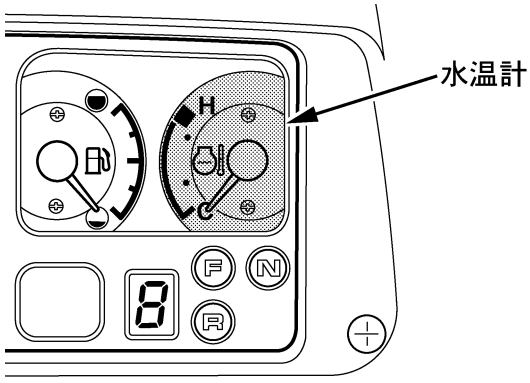
1. PTO**[540]（低速）**時，エンジン回転計の指針を**[540]**位置に合わせると，PTO が 540 回転となります。
2. PTO**[1000]（高速）**時，エンジン回転計の指針を**[1000]**位置に合わせると，PTO が 1000 回転となります。
3. **[540]**，**[1000]**の位置はあくまでも目安であり，正確に PTO 回転数を合わせたいときは PTO 回転計で合わせてください。

■水温計

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が **[H]**（レッドゾーン）を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



1AGADALAP042J

◆ オーバヒートしたときの処置

オーバヒート（水温計の針が **[H]** にあるとき）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約５分間アイドリング回転にしてから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) フロントグリル，防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊ ラジエータのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，前記 **［オーバヒートしたときの処置］** を行なってください。

PTO回転計･スピードメータの取扱い

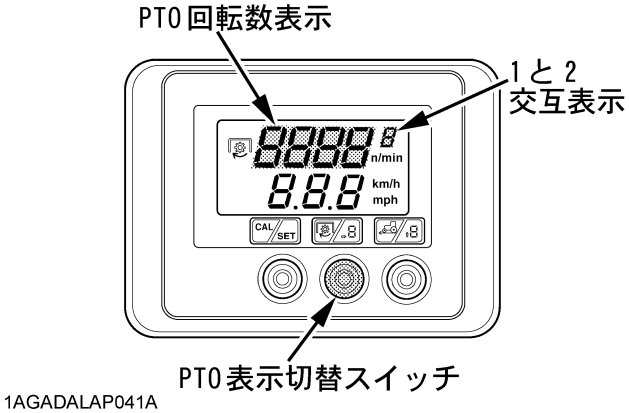
■ PTO 回転計

ライブ PTO 回転時、液晶表示部に PTO の回転数が表示されます。グランド PTO 使用時は PTO の回転数は正しく表示されません。

使用前、液晶表示部に表示される数字（1・2）と使用 PTO 段数（540/1000rpm）が合っているか確認してください。合っていないと正しい回転数が表示されません。

PTO540rpm 使用時　……　液晶表示 1
PTO1000rpm 使用時　……　液晶表示 2

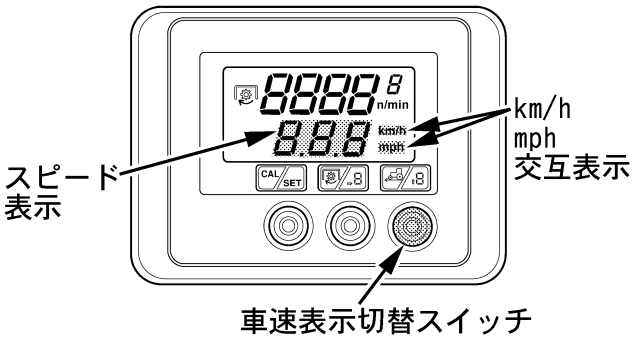
キースイッチ **[ON]**（入）時，PTO 表示切替スイッチを押す毎に液晶表示部に1と2が交互に表示されます。使用する PTO 回転数に応じて切換えてください。一度セットすると記憶されています。(PTO 変速レバーを切換えたとき再設定が必要です)



1AGADALAP041A

■スピードメータ

走行時、液晶表示部に車速が表示されます。
車速は km/h と mph（マイル）が表示できます。
キースイッチ **[ON]**（入）時，車速表示切替スイッチを押す毎に液晶表示部に km/h と mph（マイル）が交互に表示されます。任意の単位を選択してください。（一度セットすると記憶されます）



1AGADALAP041B

補　足

＊ けん引作業などでタイヤがスリップしている場合の表示車速は実車速と異なります。

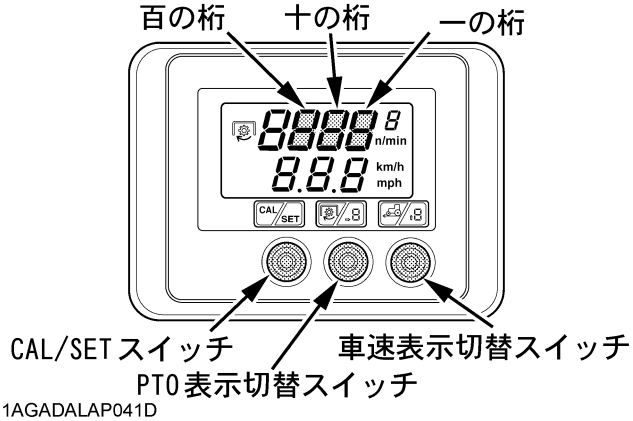
■車速係数の入力について

サイズの異なるオプション採用のタイヤに交換した場合，スピードが正しく表示されません。次表を参考に**[タイヤ外周長]**を入力してください。

◆ タイヤ外周長の入力手順

例：503 mm と入力

1. キースイッチを **[ON]**（入）にする。
2. CAL/SET スイッチを 3 秒以上押す。
   （百の桁が点滅）
3. 車速表示切替スイッチを押し5を選択表示させる。
4. PTO 表示切替スイッチで十の桁を選択する。
   （十の桁が点滅）
5. 車速表示切替スイッチで0を選択表示させる。
6. PTO 表示切替スイッチで一の桁を選択する。
   （一の桁が点滅）
7. 車速表示切替スイッチを押し3を選択表示させる。
8. CAL/SET スイッチを 3 秒間押すと、点滅が点灯に変わり設定が完了する。



1AGADALAP041D

補　足

＊ 途中でキースイッチを **[切]** にするとキャンセルされます。

◆ タイヤ外周長一覧表

型式	タイヤ仕様	後輪タイヤサイズ	入力値
GR850 GR950	S3	13.9-36	441
	S1K	12.4-38	450
	M1R	13.6R38	459
	M3	18.4-30	462
	M2R/L2R	16.9R34	470
	M1K	13.6-38	471
	M2/L2	16.9-34	469
	M1H	13.6-38	471
GR1050	M1k	13.6-38	471
	M2	16.9-34	469
	L1	14.9-38	483
	L3	18.4-34	488
	LA	16.9-38	499
	LAR	16.9R38	510
GR1150 GR1250	M2	16.9-34	469
	LA	18.4-38	515
	LB	16.9-38	499
	LAR	16.9R38	510
	LBR	18.4R38	517

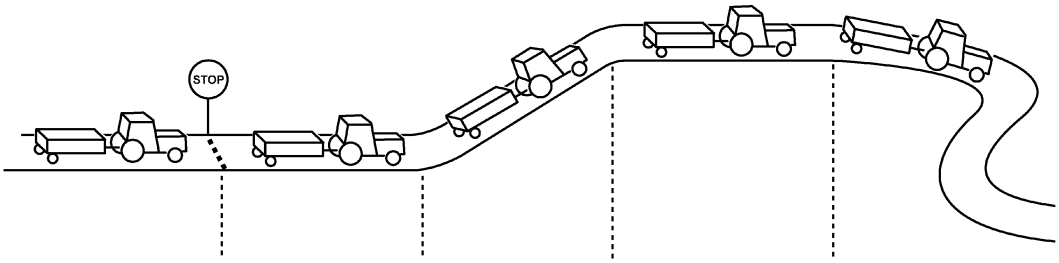
G- マチック（自動変速）について

■概要

G- マチックは，負荷によるエンジン回転数変動，作業機昇降やアクセルペダルの踏込み量などに応じ，自動で車速をシフトアップ・シフトダウンする自動変速機能です。
G- マチックは作業用途に合わせて**［走行モード］**と**［作業モード］**の２種類が選択できます。

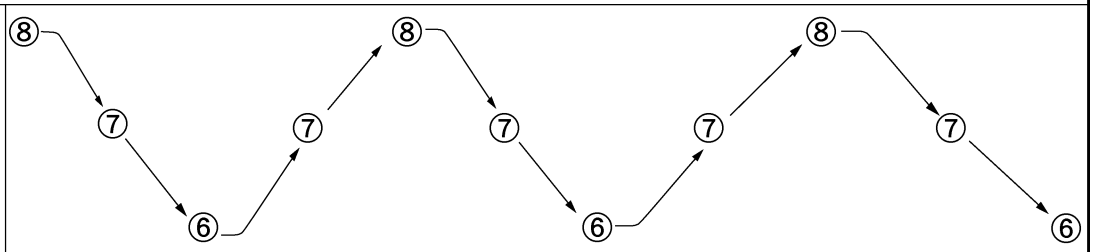
◆ 走行モード

トレーラ作業時，アクセルペダルの踏込み量や登坂時の負荷に応じ，設定した自動変速幅内（出荷時３段に設定）で自動シフトアップ / ダウンが行なわれ，わずらわしい変速操作から解放されます。



1AGADALAP231A

［解説］
自動変速⑥⑦⑧の車速段で走行する場合



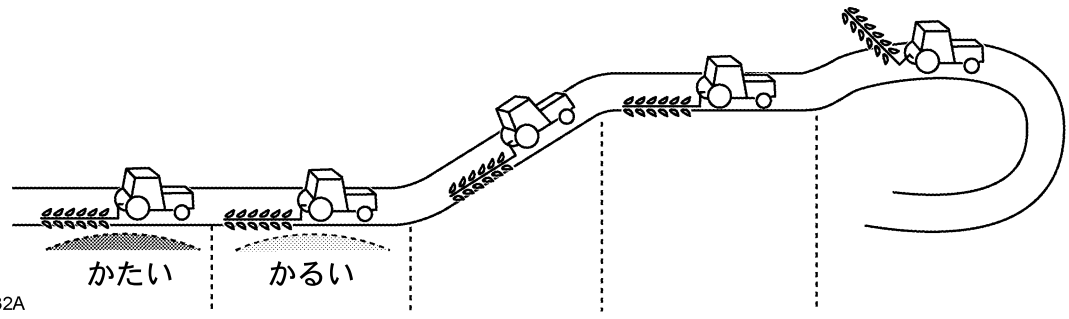
アクセルをもどした時	トラクタ停止時	登 坂 時	走 行 時	アクセル調整時
アクセルペダルを解放すると，７速→６速と自動シフトダウンする。	一旦停止時は６速からのスムーズな発進ができ，自動シフトアップする。	登坂時，負荷増加を感知して７速又は６速に自動シフトダウンし，けん引力を増す。	登坂後，負荷減少を感知して自動シフトアップする。	下り坂やカーブではアクセルペダルの開度に応じ，７速又は６速に自動シフトダウンする。

補　足

＊ 上記で解説した自動変速幅（3 段）の設定は工場出荷状態です。作業に応じ増減速段数の設定変更は可能です。〔詳細は**［G- マチック（自動変速）の設定変更］**の項を参照〕
＊ クラッチを切ったり半クラッチや後進時は，G- マチックは作動しません。
＊ エンジン回転数は中速回転以上でなければ作動しません。

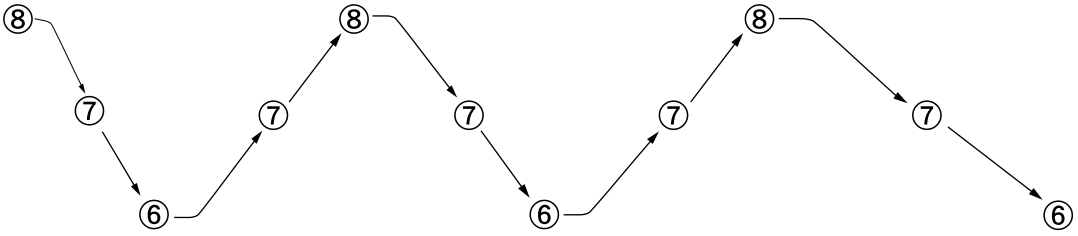
◆ 作業モード

耕起作業時，ほ場の起伏や土質の変化などの負荷に応じ，設定した自動変速幅内（出荷時３段に設定）で自動シフトアップ / ダウンを行ないます。また旋回時や作業機上昇時も自動的にシフトダウンが行なわれ，わずらわしい変速操作から解放されます。



1AGADALAP232A

［解説］
自動変速⑥⑦⑧の車速段で走行する場合



かたいほ場	かるいほ場	登坂ほ場	平坦ほ場	作業機上昇時
土質変化による負荷増加を感知して，７速→６速と自動シフトダウンする。	土質による負荷減少を感知して自動シフトアップする。	登坂時，負荷増加を感知して７速又は６速に自動シフトダウンし，けん引力をアップする。	登坂後，負荷減少を感知して自動シフトアップする。	クイックアップスイッチやポジションレバーで，作業機上昇時自動シフトダウンで旋回が容易に行なえる。

補　足

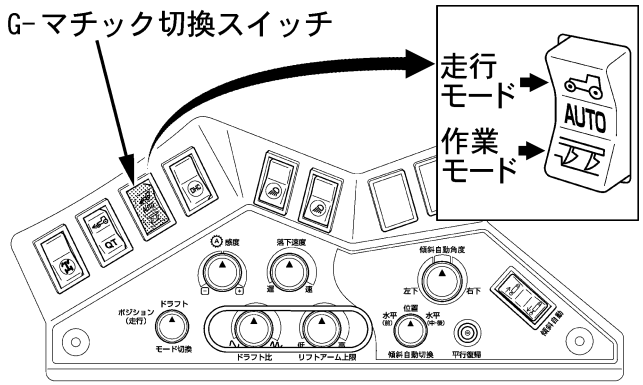
＊ 上記で解説した自動変速幅（3 段）の設定は工場出荷状態です。作業に応じ増減速段数の設定変更は可能です。〔詳細は **[G- マチック（自動変速）の設定変更]** の項を参照〕
＊ クラッチを切ったり半クラッチ，旋回時（QT ターン作動角以上）や後進時は G- マチックは作動しません。
＊ エンジン回転数は中速回転以上でなければ作動しません。

■操作手順

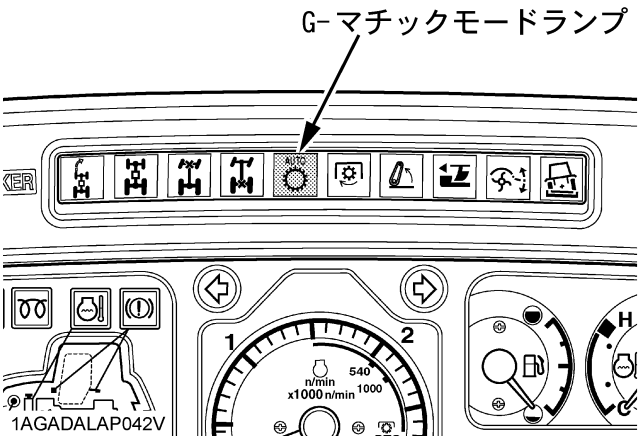
1. 作業に応じ G- マチック切換スイッチを押し**［走行モード］**又は**［作業モード］**を選択します。選択時はメータパネル内の G- マチックモードランプが点灯します。
   スイッチの中間位置は**［切］**でモードランプも消灯します。

   ［走行モード］…… トレーラなどのけん引作業に用いる

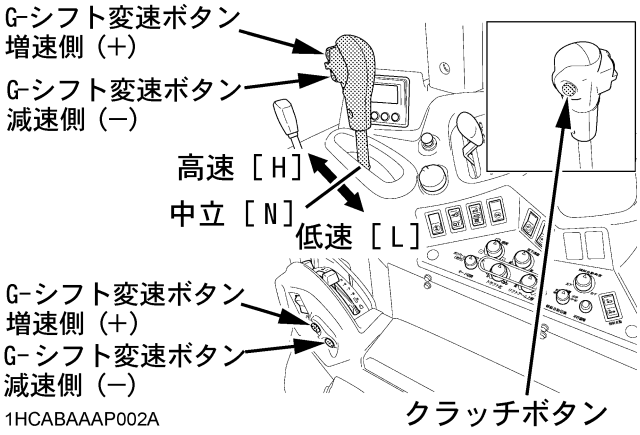
   ［作業モード］…… プラウやサブソイラなどの耕起作業に用いる



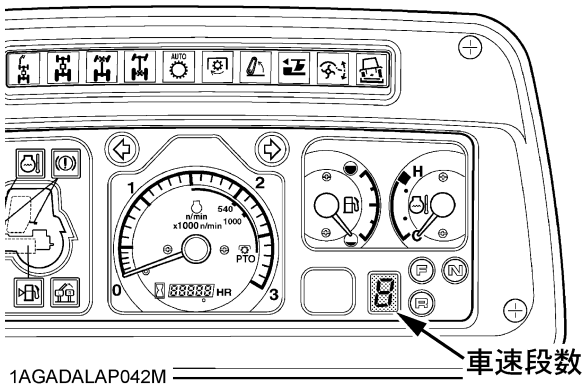
1HCABAAAP006A



2. i- シフトレバー，又はアームレストの変速ボタンを押して作業速度を選択します。
   選択した車速段数はメータパネル内の主変速段数表示ディスプレイで確認できます。



1HCABAAAP002A



1AGADALAP042M

3. 以上で設定完了です。
4. 自動変速幅は標準設定で３段に設定されていますので，発進時主変速段数表示ディスプレイに８速が表示されているときは８速でスタートし，**［８速］［７速］［６速］**の間で自動シフトアップ／ダウンが行なわれます。主変速段数表示は**［８速］**で走行時は点灯，**［７速］［６速］**と減速されているときは点滅表示になり，オペレータが容易に作動状態を確認できます。

■作業速度の変更

作業速度は G- シフトレバー，又はアームレストの変速ボタンでいつでも変速できますが，車速を記憶させるには次の手順で行なってください。

◆ トラクタを停止させ車速を変更する場合

G- シフトレバーを**［中立］**にし，変速ボタンを押して作業速度を変更します。このとき主変速段数表示ディスプレイに表示される車速段数が，新たな上限速度に変更されます。

◆ 走行中に車速を増速させたい場合

主変速段数表示ディスプレイの車速表示状態を確認します。

（点灯表示の場合）

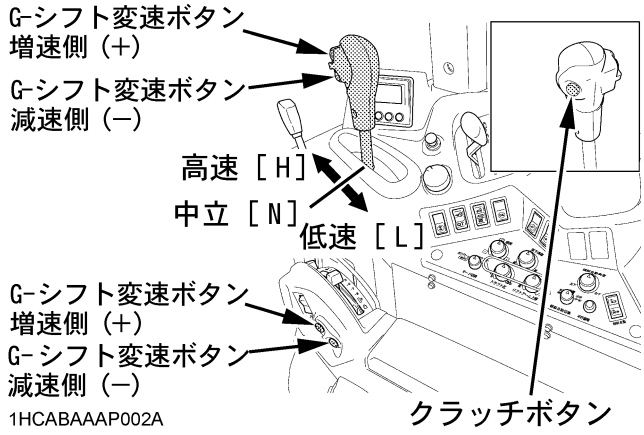
1. 増速側ボタン（＋）を押し車速を上げます。
2. 主変速段数表示ディスプレイに表示される車速段数が，新たな上限速度に変更されます。

（点滅表示の場合）

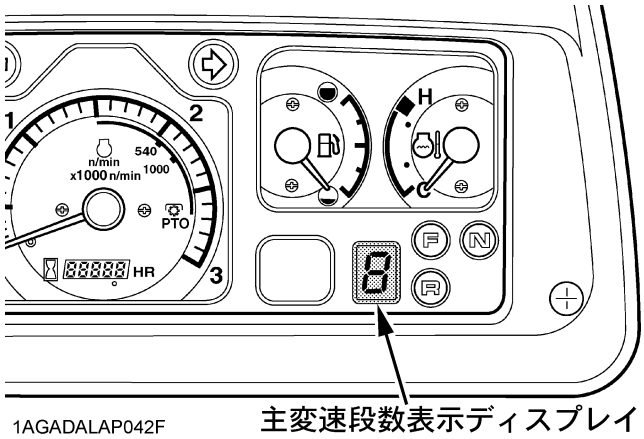
1. 増速側ボタン（＋）を押し車速を上げます。
2. 走行モード（トレーラなどのけん引作業）の場合 … G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を２段位置まで押し込む。
3. 作業モード（プラウやサブソイラなどの耕起作業）の場合 … G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を２段位置まで押し込む。
4. 主変速段数表示ディスプレイに表示されている車速段数が，上限速度に変更されます。

◆ 走行中に車速を減速させたい場合

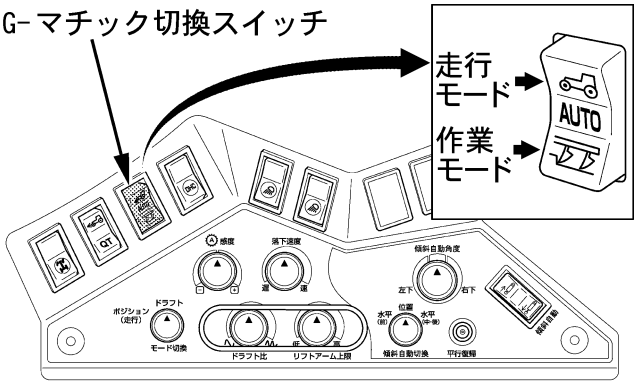
1. 減速側ボタン（－）を押し車速を下げます。
2. 走行モード（トレーラなどのけん引作業）の場合 … G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を２段位置まで押し込む。
3. 作業モード（プラウやサブソイラなどの耕起作業）の場合 … G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を２段位置まで押し込む。
4. 主変速段数表示ディスプレイが点滅から点灯に変わり，この車速段数が上限速度に変更されます。



1HCABAAAP002A



1AGADALAP042F

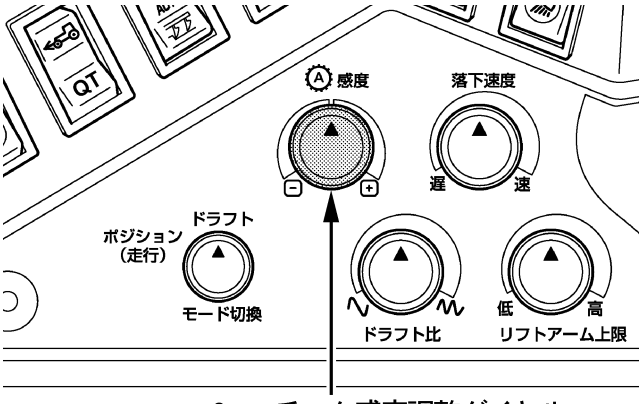


1HCABAAAP006A

■感度調節

作業に応じエンジン負荷に対する自動シフトダウン / アップする感度を調節できます。

ダイヤルをマイナス側に回す	シフトダウンしやすく，シフトアップしにくくなります
ダイヤルをプラス側に回す	シフトダウンはかわらず，シフトアップしやすくなります



1HCABAAAP004A　G- マチック感度調整ダイヤル

■ G- マチック（自動変速）の設定変更

G- マチックは工場出荷時次表のように設定していますが，作業により設定変更ができます。

◆ 走行モードの設定変更手順

[自動変速段数及びアクセル解放時のシフトダウン段数が変更できます]

1. G- シフトレバーを **[中立]** にし，エンジンを始動させます。
2. G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を 2 段位置まで 1.5 秒以上押すと，ピピーッとブザー音が鳴り，設定モードに切換わります。
3. G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を押すごとに **[A]**（自動変速段数）と **[A]**（アクセル解放シフトダウン段数）が交互に点滅表示されます。

エンジン負荷感知時の自動変速段数の変更

4. G- マチック切換スイッチで **[A]** を表示させ，再度 G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を押し続けると，現在設定している段数が点滅表示します。
5. G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を押すごとに，**[2] [3] [4]** が交互に点滅表示されるので，設定したい段数表示になれば，再度スイッチを 3 秒以上押すと点滅が点灯に切換わり設定が完了します。

アクセルペダル解放時の自動シフトダウン段数の変更

6. G- マチック切換スイッチで **[A]** を表示させ，再度 G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を押し続けると，現在設定している段数が点滅表示します。
7. G- マチック切換スイッチの上側（トラクタマーク）を押すごとに，**[0] [1] [2] [3]** が交互に点滅表示されるので，設定したい段数表示になれば，再度スイッチを 3 秒以上押すと点滅が点灯に切換わり設定が完了します。

◆ 作業モードの設定変更手順

[自動変速段数及び作業機上昇時のシフトダウン段数が変更できます]

1. G- シフトレバーを中立にし，エンジンを始動させます。
2. G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を 2 段位置まで 1.5 秒以上押すと，ピピーッとブザー音が鳴り，設定モードに切換わります。
3. G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を押すごとに **[A]**（自動変速段数）と **[A]**（作業機上昇シフトダウン段数）が交互に点滅表示されます。

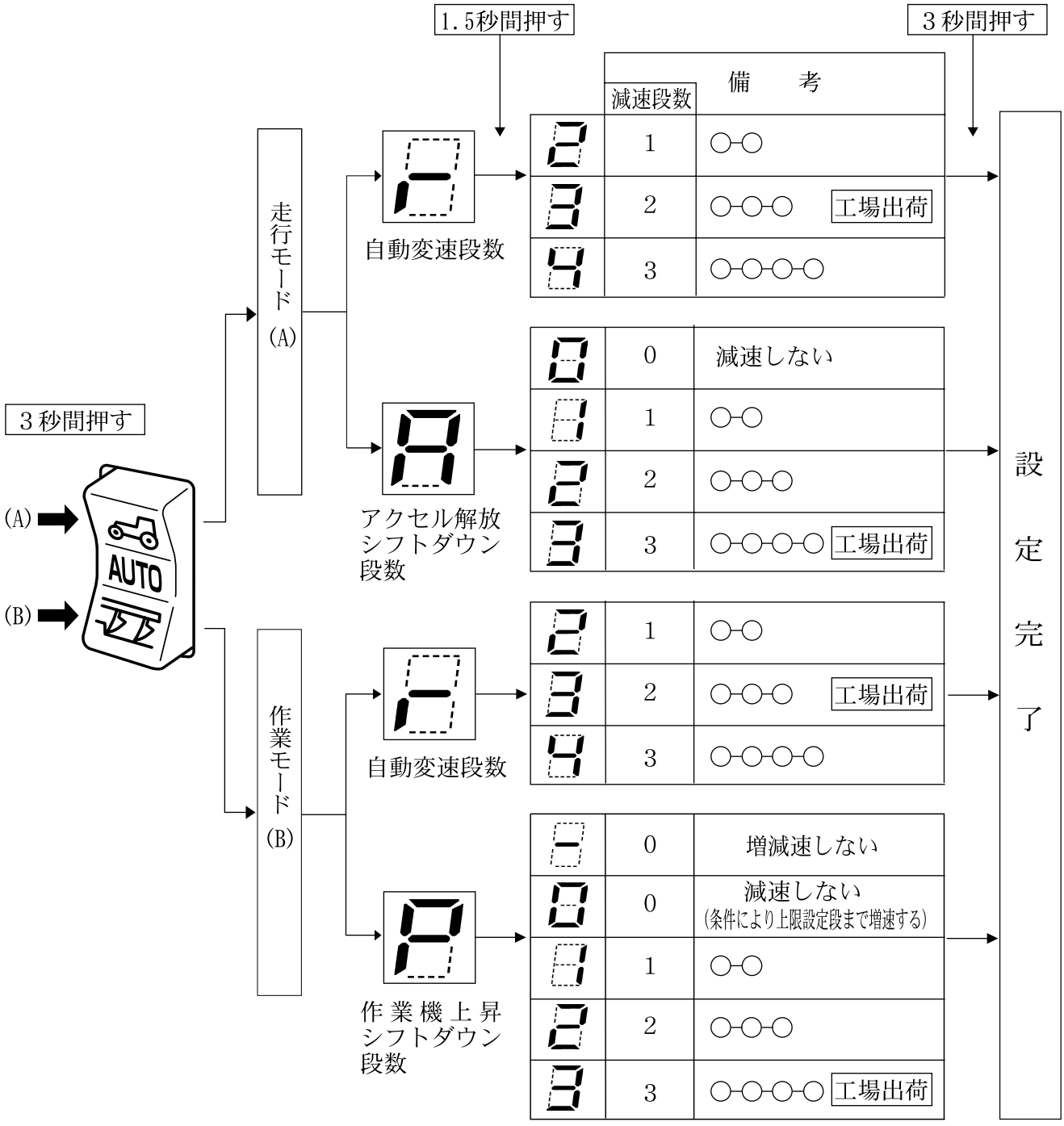
エンジン負荷感知時の自動変速段数の変更

4. G- マチック切換スイッチで **[A]** を表示させ，再度 G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を押し続けると，現在設定している段数が点滅表示します。
5. G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を押すごとに，**[2] [3] [4]** が交互に点滅表示されるので，設定したい段数表示になれば，再度スイッチを 3 秒以上押すと点滅が点灯に切換わり設定が完了します。

三点リンクを上げたときの自動シフトダウン段数の変更

6. G- マチック切換スイッチで **[A]** を表示させ，再度 G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を押し続けると，現在設定している段数が点滅表示します。
7. G- マチック切換スイッチの下側（プラウマーク）を押すごとに，**[0] [1] [2] [3] [-]** が交互に点滅表示されるので，設定したい段数表示になれば，再度スイッチを 3 秒以上押すと点滅が点灯に切換わり設定が完了します。

◆ G- マチックの設定変更一覧



補　足

＊ 自動変速段数よりシフトダウン段数を多く設定することはできません。

＊ 設定の途中でキースイッチを**【切】**又はG- マチック切換スイッチを**【切】**にするとキャンセルされます。

デフロックの使い方

注　意

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。
旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

■後輪デフロックペダル

◆ デフロックの使い方

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

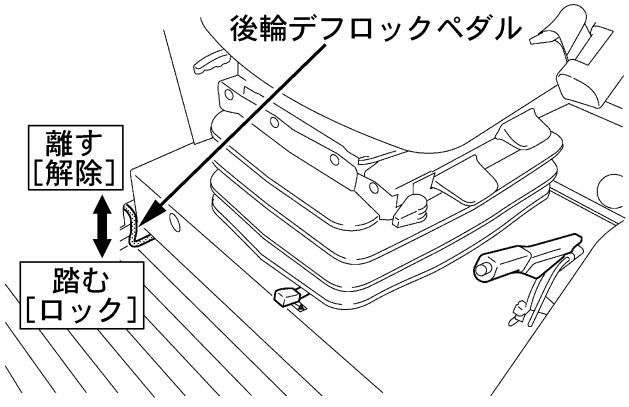
左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む

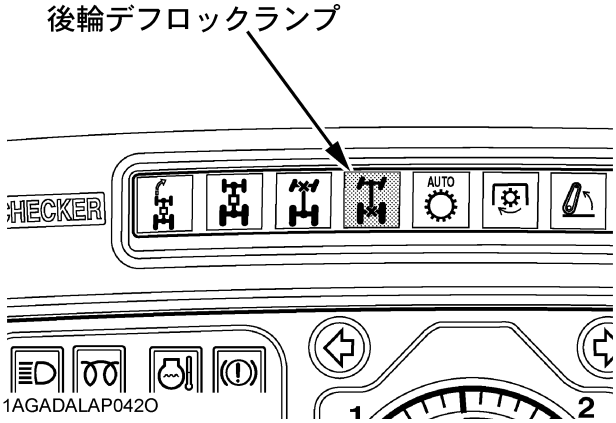
… 後輪デフロックランプが点灯し，デフロック**［入］**の状態でロックされる。

ペダルから足を離す

… ランプが消灯し，自動的にデフロックが解除される。



1AGADALAP044C



1AGADALAP042O

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ デフロックが抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。
＊ 片ブレーキを効かすときは，後輪デフロックを必ず解除してください。

■前輪デフロックスイッチ

◆ デフロックの使い方

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。
4. 軟弱な農場内で旋回するときに，前輪がスリップして旋回が困難になったとき。

左右の前輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

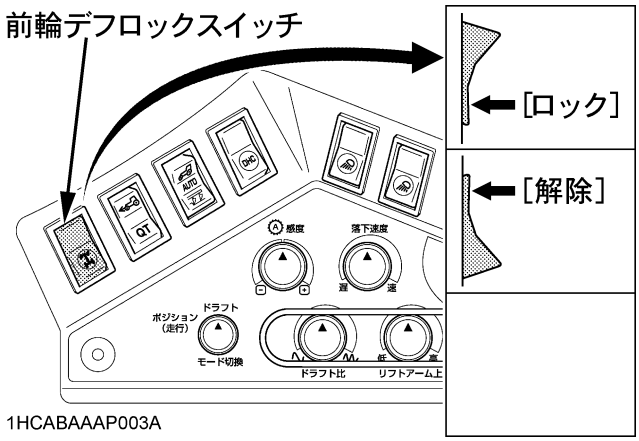
前輪駆動又は QT ターン**［入］**の状態で，

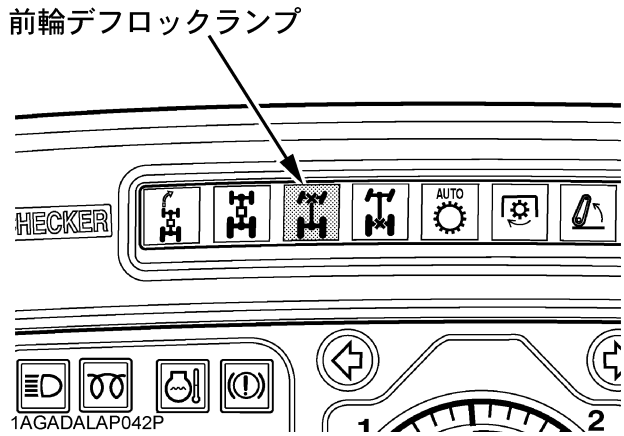
スイッチの下側を押す

… 前輪デフロックランプが点灯し，ロックされる。

スイッチの上側を押す

… ランプが消灯し，自動的に解除される。





重　要

* デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
* フロントローダ作業など前輪に大きな荷重がかかる作業では，必要時以外はデフロックを使用しないでください。

旋回のしかた

注　意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では主変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警　告

＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注　意

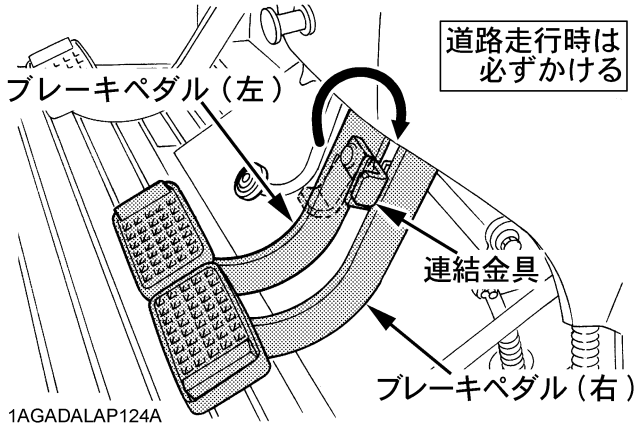
＊ 4WD/QT スイッチは［2 輪又は 4 輪駆動］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックであがると格段にあがる能力が増します。

道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



注　意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
[道路運送車両法の保安基準]
(作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。)
＊ 道路走行時には傾斜自動切換スイッチを必ず［位置］にして走行してください。
[J 仕様]
＊ ポジションレバーを［走行ロック位置］にして，油圧ロックレバーを［油圧ロック］位置にしてください。
＊ クイックアップランプの消灯を確認してください。
＊ モード切換スイッチを［ポジション位置］にしてください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドライトを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**［連結］**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注　意

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

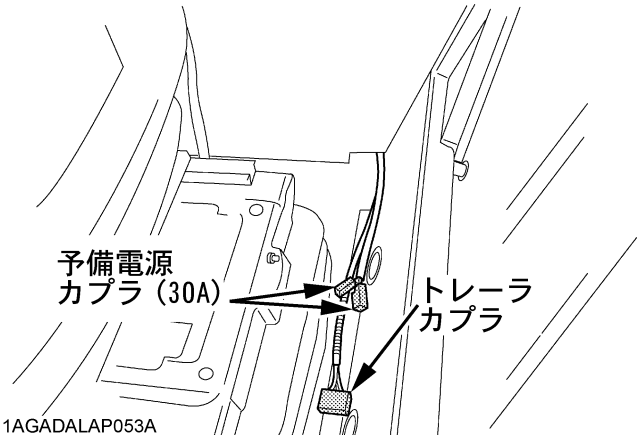
＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（ 短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（ 走行しないでハンドルを切る ）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

■電源取出し

[GR850・950・1050]

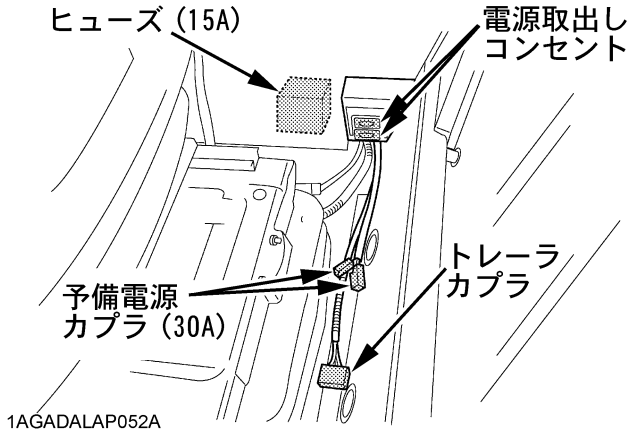
シート後部に各々のカプラがあります。



1AGADALAP053A

[GR1150・1250]

シート後部に電源取出しコンセントとカプラがあります。

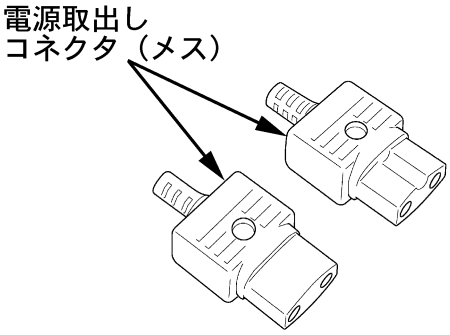


1AGADALAP052A

電源取出しコネクタ（メス）が標準で 2 個付いています。
必要な場合は下記品番で発注願います。

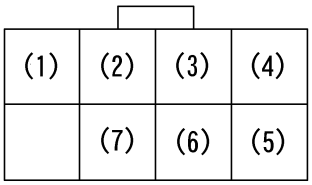
コネクタ

メス：矢崎 7122-3010 相当品
オス：矢崎 7123-3010 相当品



1AGADALAP054A

◆ トレーラカプラ電源

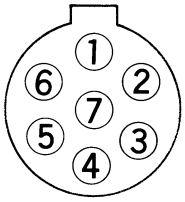


1AGACBAAP204E

カプラ内 ピン配置	電源
(1)(3)	尾灯・車幅灯・駐車灯
(2)	アース
(4)	方向指示器（左）
(5)	制動灯
(6)	後退灯
(7)	方向指示器（右）

トレーラ用カプラ（オプション）

1. トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。（オプション）
2. 電源は右図のとおりです。



トレーラハーネス	トレーラハーネス (ヨーロッパタイプ)
①アース ②尾灯 (8W) 車幅灯 (8W) 駐車灯 (8W) ③方向指示器左 (23W) ④制動灯 (23W×2) ⑤方向指示器右 (23W) ⑥予備 ⑦後退灯 (10W)	①方向指示器左 (23W) ②後退灯 (10W) ③アース ④方向指示器右 (23W) ⑤尾灯 (8W) 車幅灯 (8W) 駐車灯 (8W) ⑥制動灯 (23W×2) ⑦予備

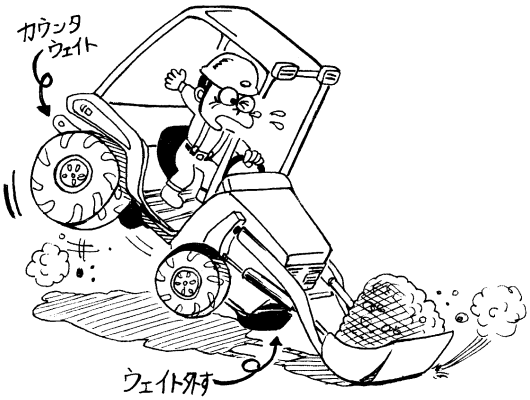
ローダ作業を安全に行なうために！

ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

1. トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！

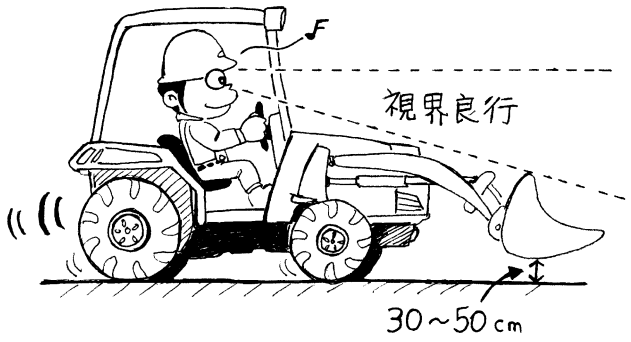
トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前・後進のバランスを保つようにしてください。

適正カウンタウエイト量（ロアーリンク先端）	
HLBR1050	800 kg
HLBR1250	1000 kg



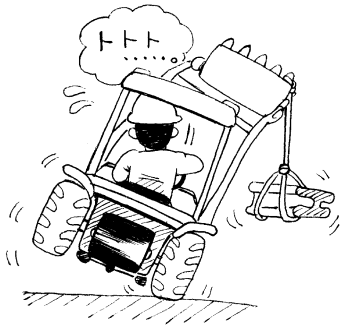
2. 運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！

運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も５km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



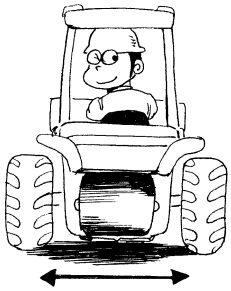
3. 片持ち作業をしない！

片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



4. 後輪トレッドはできるだけ広げる！

作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



5. フロントローダ作業中は倍速ＤＴを絶対に使用しないでください。

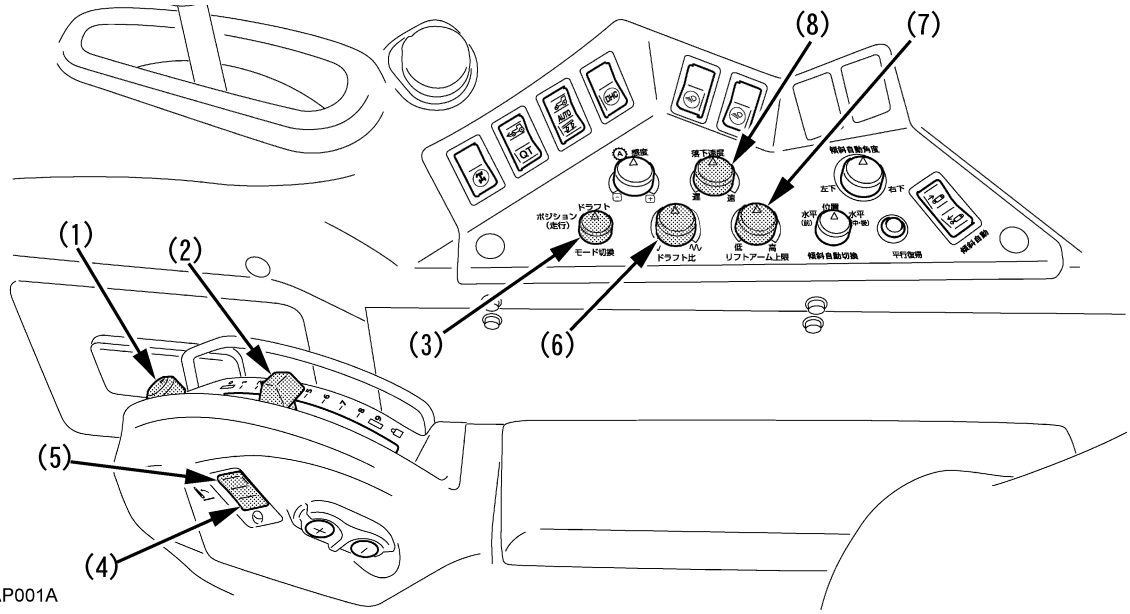
★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［**取扱説明書**］をよく読んで安全に作業をしてください。

油圧・三点リンク・PTO

作業機昇降装置

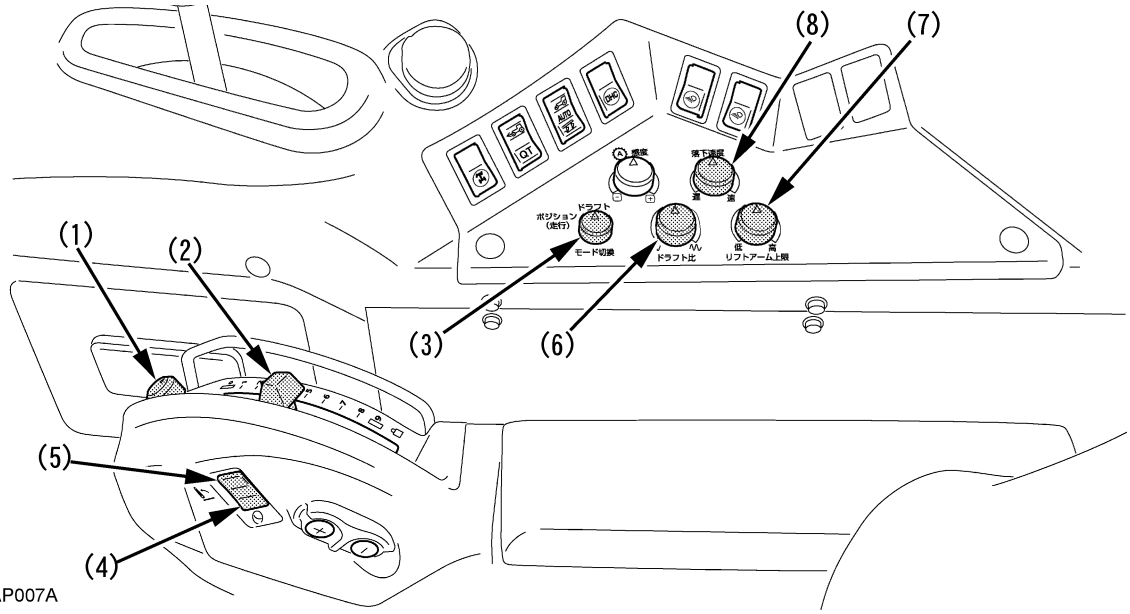
■各部の名称

[J 仕様]

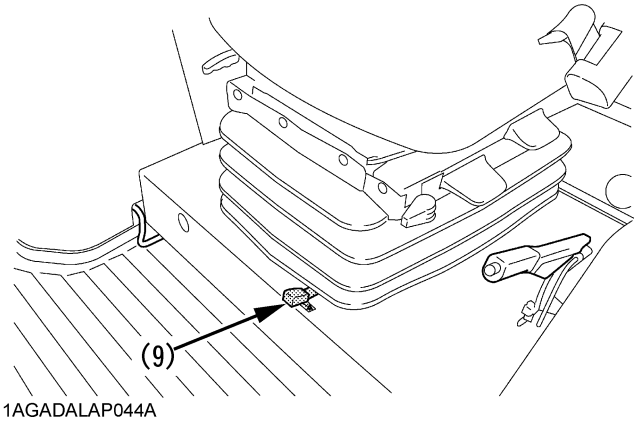


1HCABAAAP001A

[J 仕様以外]



1HCABAAAP007A



1AGADALAP044A

(1) 下限規制ダイヤル
(2) ポジションレバー
(3) モード切換スイッチ
(4) クイックアップスイッチ **[下げ]**
(5) クイックアップスイッチ **[上げ]**
(6) ドラフト比調整ダイヤル
(7) リフトアーム上限調整ダイヤル
(8) 作業機落下速度調整ダイヤル
(9) 油圧ロックレバー

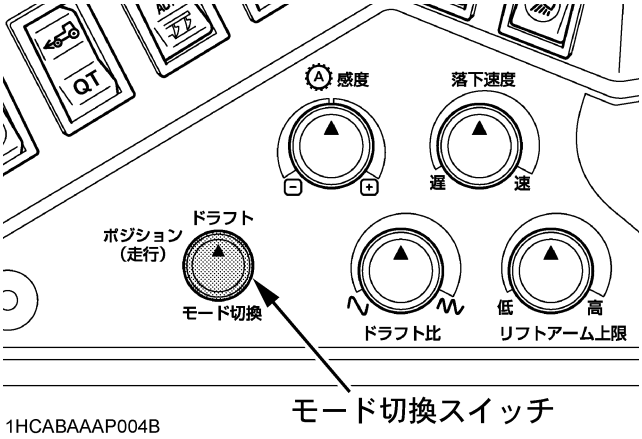
■モード切換スイッチ

作業によって，ポジションコントロールとドラフトコントロールの切換えを行なってください。
プラウやサブソイラなどのけん引作業時にはドラフトコントロールを選択します。

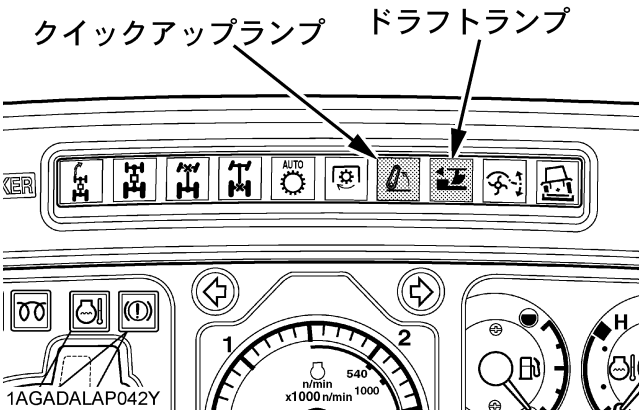
ドラフトコントロールを選択 …	ドラフトランプ **[点灯]**
ポジションコントロールを選択 …	ドラフトランプ **[消灯]**

補　足

＊ ランプが **[点滅]** をしたときは，ランプ表示一覧を参照してください。



1HCABAAAP004B

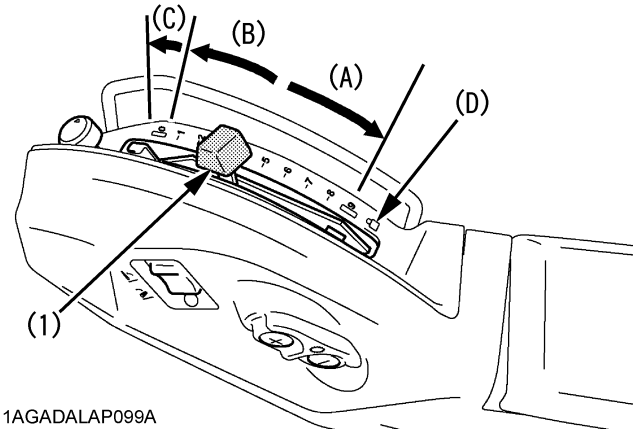


1AGADALAP042Y

■ポジションレバー

◆ ポジションコントロールとして使用の場合

1. ポジション範囲 (A)，(B) では，作業機が任意の位置に保たれます。
2. フローティング範囲 (C) では，作業機はいっぱいに下がります。



1AGADALAP099A

(1) ポジションレバー

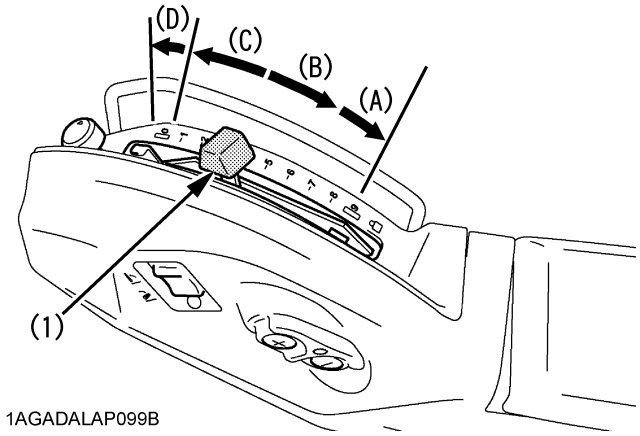
(A) 上がる
(B) 下がる
(C) フローティング
(D) 走行ロック位置

補　足

＊ 走行時はポジションレバーを **[走行ロック位置 (D)]** に入れ，不意の操作による急落下を防いでください。

◆ ドラフトコントロール（ニューミックスコントロール）として使用の場合

1. ドラフト範囲（B），（C）では，けん引負荷に応じて自動的に作業機を上下させ，一定のけん引力を維持します。
   また，**［ドラフト比調整ダイヤル］**により，けん引負荷の変化量に対する作業機の動き量を調整することができます。
2. フローティング範囲（D）では，作業機はいっぱいに下がります。
3. レバーを**［上げ］**位置（A）にすると，作業機はいっぱいに上がります。



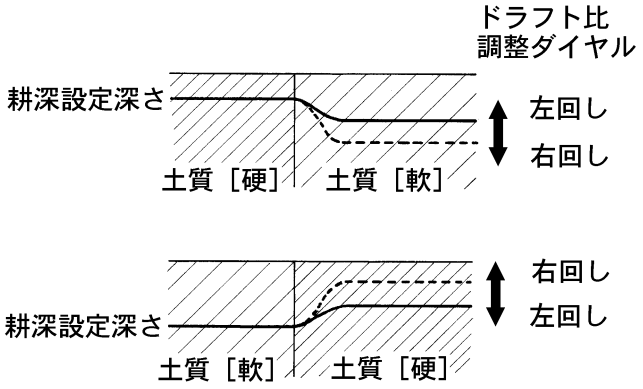
1AGADALAP099B

(1) ポジションレバー

(A) 上がる
(B) 浅くなる
(C) 深くなる
(D) フローティング

◆ ニューミックスコントロールとは

［ポジションレバー］で耕深を設定し**［ドラフト比調整ダイヤル］**により負荷の変化量に対する作業機の動き量を調整することができます。
〔ドラフト比調整ダイヤルの使い方は，**［ドラフト比調整ダイヤル］**の項を参照〕



1AGADALAP128A

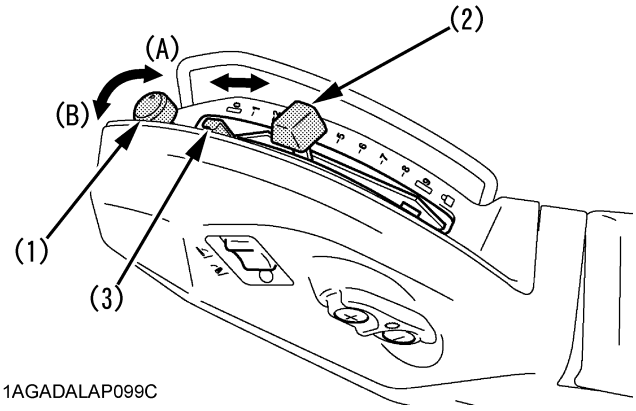
◆ ポジションレバーの取扱い特性

1. エンジン停止後，キースイッチを**［入］**にてポジションレバーを**［前方に倒す］**と，作業機は下降します。
2. リフトアーム上限調整ダイヤルで上昇高さを制限しているときは，制限位置までしか上昇しません。
   〔詳細は**［リフトアーム上限調整ダイヤル］**の項を参照〕

■下限規制ダイヤル

三点リンクの下降下限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【UP】**側に回すと，ポジションレバーのストッパ位置の下限高さが高くなります。
2. ダイヤルを**【DOWN】**側に回すと，ポジションレバーのストッパ位置の下限高さが低くなります。



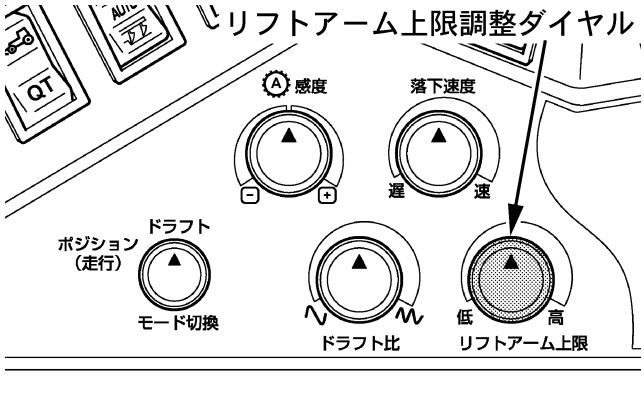
1AGADALAP099C

(1) 下限規制ダイヤル
(2) ポジションレバー
(3) 下限ストッパ
(A) 高くなる (UP)
(B) 低くなる (DOWN)

■リフトアーム上限調整ダイヤル

三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【高】**にすると，三点リンクの上昇規制高さが高くなります。
2. ダイヤルを**【低】**方向に回すとは，三点リンクの上昇規制高さが低くなります。



1HCABAAAP004C

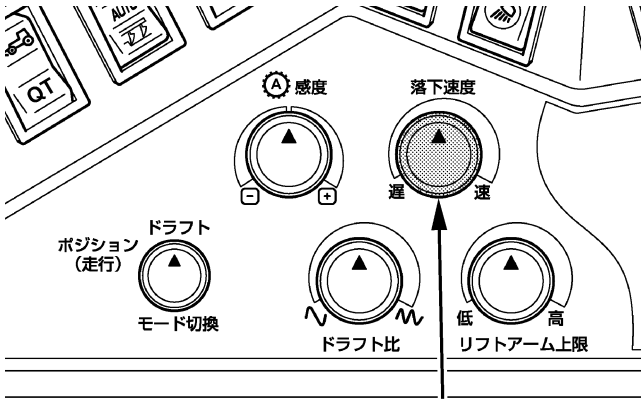
補　足

＊ リフトアーム上限調整ダイヤルにより，クイックアップスイッチ及びポジションレバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

■作業機落下速度調整ダイヤル

三点リンクの落下速度を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【速】**にすると，三点リンクの落下速度が速くなります。
2. ダイヤルを**【遅】**にすると，三点リンクの落下速度が遅くなります。



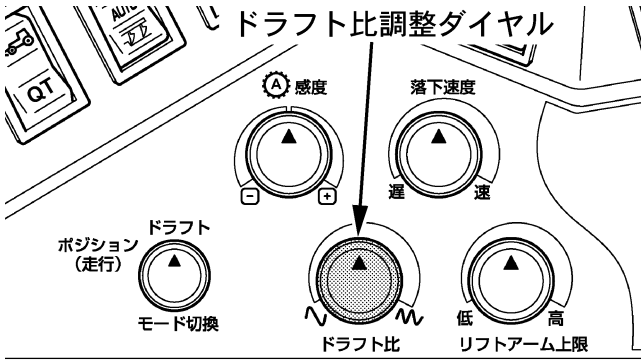
1HCABAAAP004D　　作業機落下速度調整ダイヤル

補　足

＊ このダイヤルでは，**【油圧ロック】**を完全にはできません。
走行時やロータリなどの作業機を点検する場合は，必ずシート下の油圧ロックレバーでロックしてください。

■ドラフト比調整ダイヤル

モード切換スイッチで**［ドラフト］**選択時，ドラフト比調整ダイヤルにより，けん引負荷の変化量に対する作業機の動き量を調整することができます。
一般けん引耕起作業では下記を目安に調整してください。



1HCABAAAP004E

ドラフト比 調整ダイヤル	∿　（左回し）　∿∿　（右回し）
耕　　深	浅く ←――→ 深く 起こす　　起こす
土　　質	軽い←――→重い
ほ場の起伏	小 ←――→ 大
（感度の目安）	（鈍）←――→（敏）

補　足

＊ ドラフト比調整ダイヤルを調整すると，耕深が多少変化します。
調整後は，ポジションレバーで耕深を再設定してください。

■クイックアップスイッチ

注　意

＊ 走行中は必ずポジションレバーを［走行ロック位置］にして，油圧ロックレバーを［油圧ロック］位置にしてください。
＊ ほ場内作業以外では，クイックアップを使用しないでください。
＊ クイックアップアップ状態で道路走行しないでください。
ほ場外（移動など）ではポジションレバーを使用してください。

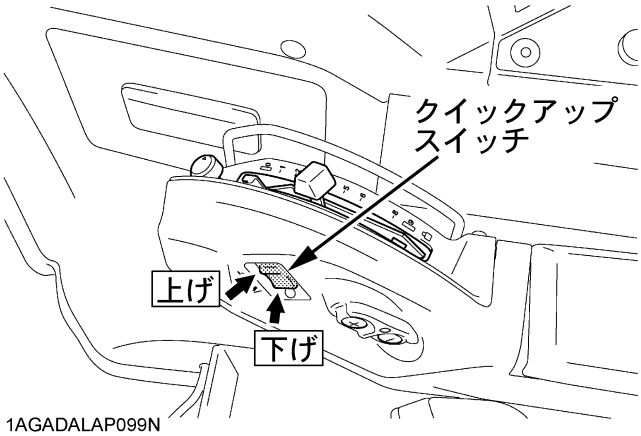
スイッチ操作で作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。

- クイックアップスイッチ**［上げ］**を押す（クイックアップランプ点灯）……**作業機上昇**
- クイックアップスイッチ**［下げ］**を押す（クイックアップランプ消灯）……**作業機下降**

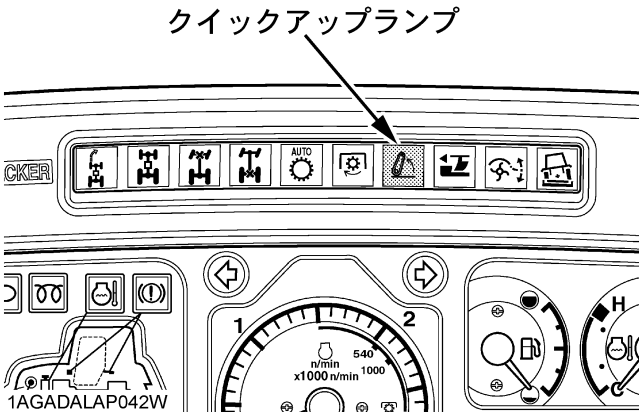
クイックアップスイッチで作業機上昇後，ポジションレバーを最上位置にすると，クイックアップアップ状態が解除され（クイックアップランプ消灯），ポジションレバーによる操作が可能になります。

補　足

＊ 新しい作業機を装着したときは，クイックアップスイッチではなく，ポジションレバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに接触しないことを確認してください。



1AGADALAP099N



◆ クイックアップの上手な使い方

1. 三点リンク作動範囲の規制

ポジションレバーで下限位置，リフトアーム上限調整ダイヤルで上限位置を設定しておくと，クイックアップ制御はその設定した範囲内で上昇・下降します。

2. ワンタッチフローティング機能

モード切換スイッチが**［ドラフト］**選択時，クイックアップスイッチの下げ側を押している間はフローティング状態となり，プラウ作業のスキ込み時などに使用すると有効です。
またスイッチから手を離すと，ドラフト制御位置まで戻ります。

3. クイックアップスイッチによる上昇及び下降途中でのクイックアップスイッチの操作

1. クイックアップによる上昇途中，クイックアップの**［下げ］**スイッチを押すと，その位置で停止します。（クイックアップランプ点灯）その後再度**［上げ］**または**［下げ］**スイッチを押すと昇降します。
2. クイックアップによる上昇途中に三点リンクを下げたいときは，クイックアップスイッチの下降側を**［２秒間］**押し続けるか，続けて**［２度］**押します。
3. クイックアップによる下降途中にクイックアップの**［上げ］**スイッチを押すと**［上昇］**します。

■三点リンクの安全ロック機能

◆ 安全ロック

ポジションレバー位置とロアーリンク位置が異なる状態で以下の操作を行なったときには，安全ロックが働き，自動制御が停止し，クイックアップランプが点滅（１秒間に約２回点灯）します。

1. エンジン始動時
2. 三点リンク外部操作スイッチ操作時
3. モード切換スイッチ切換え時

◆ 安全ロックの解除

安全ロック状態のときには，以下のいづれかの操作で解除してください。
解除後は，クイックアップランプの消灯または，点灯を確認してください。

1. ポジションレバーをロアーリンク高さに一致するまで作動させる。（クイックアップランプ消灯）
2. クイックアップスイッチ**［上げ］**を押す。（クイックアップランプ点灯）

補　足

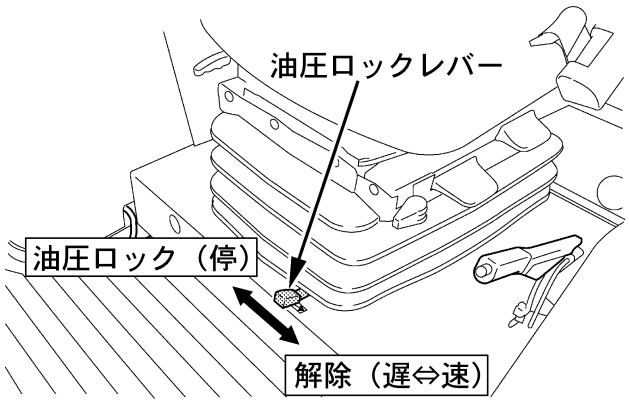
＊ ポジションレバーで解除する場合は，解除と同時に三点リンクが上昇又は下降するため，充分に注意してください。
＊ クイックアップスイッチ**［上げ］**で解除する場合は，リフトアーム上限調整ダイヤルで設定した位置まで上昇するため，充分注意してください。

■油圧ロックレバー

注　意

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず油圧ロックレバーで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 油圧ロックレバーでロックした後，ポジションレバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

三点リンクの下降**［ロック］**（停）と**［解除］**（遅←→速）を切換えるときに使用します。
作業時…… **［解除］**（遅←→速）位置にします。
走行時や作業機を上げて点検するとき
…… **［ロック］**（停）位置にします。



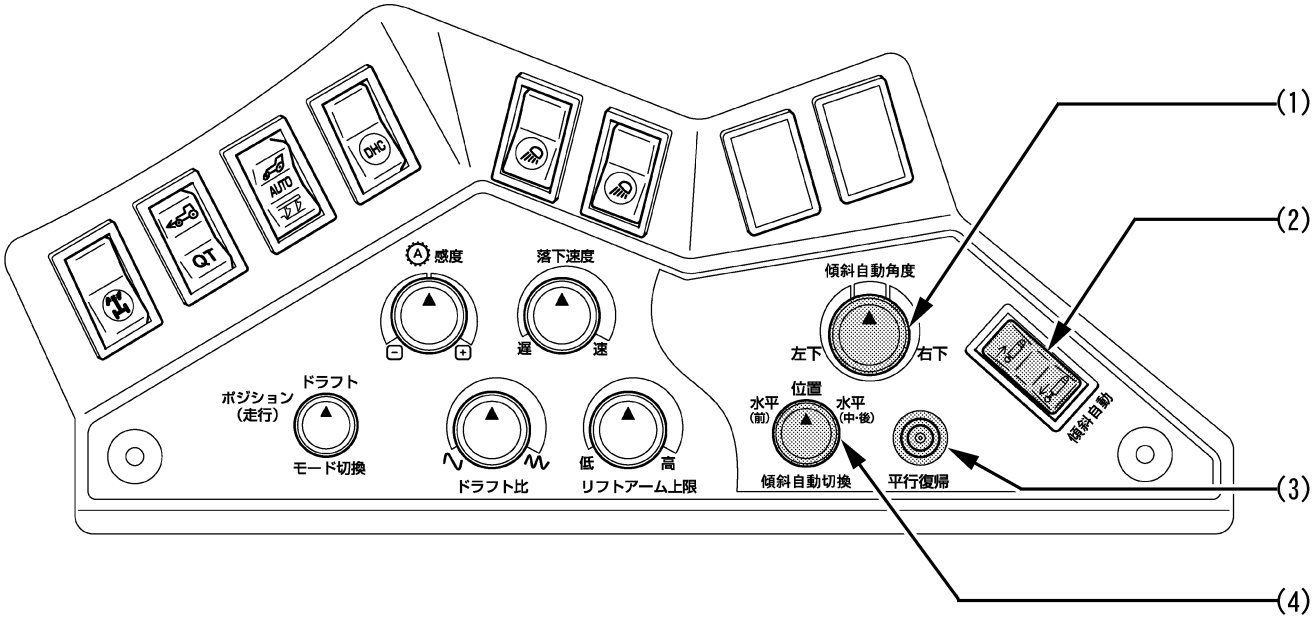
1AGADALAP044B

補　足

＊ 作業機落下速度の調節は，油圧パネルの**［作業機落下速度調整ダイヤル］**で行ないます。

傾斜制御［J 仕様］

■各部の名称

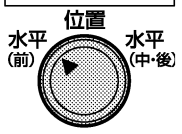


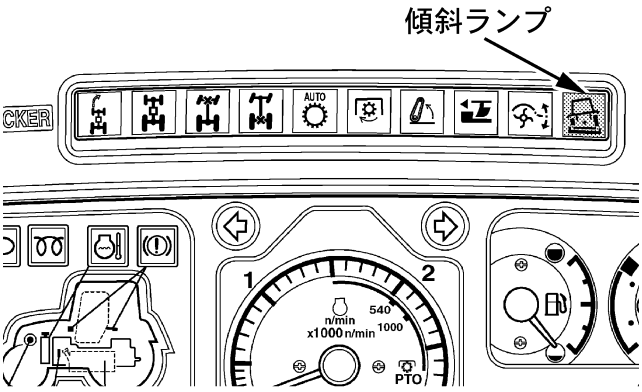
1HCABAAAP004F

(1) 傾斜自動角度調節ダイヤル
(2) 傾斜自動手動スイッチ
(3) 平行復帰スイッチ
(4) 傾斜自動切換スイッチ

■傾斜自動切換スイッチ

使用する作業機によって定まる三点リンクの取付け状態（ロアーリンク穴位置）に応じて選択してください。

傾斜制御	傾斜自動切換スイッチ	ロアリンク穴位置
自動水平制御（傾斜ランプ点灯）	水平（前）  傾斜自動切換	前
	水平（中・後）  傾斜自動切換	中・後
位置制御（傾斜ランプ消灯）自動水平制御（切）	位置  傾斜自動切換	—

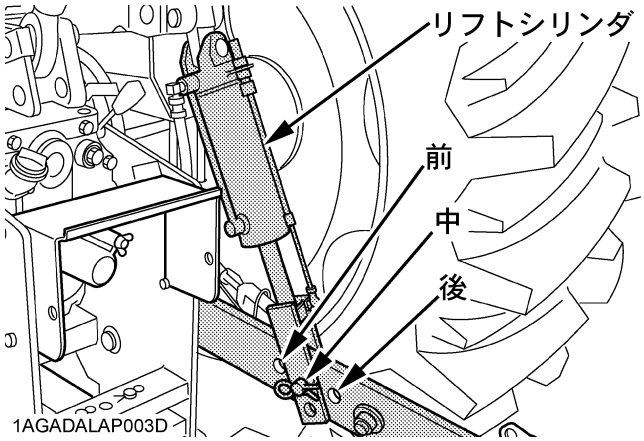


1AGADALAP042X

補　足

＊ 傾斜ランプが**［点滅］**しているときは，ランプ表示一覧を参照してください。

＊ **［位置制御］**の取扱いは**[平行復帰スイッチ]**の取扱いの項を参照してください。



1AGADALAP003D

重　要

＊ 傾斜制御が不要の場合（フロントローダ作業などの場合）や走行時には，**[位置]**で作業してください。

＊ **[手動]**で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

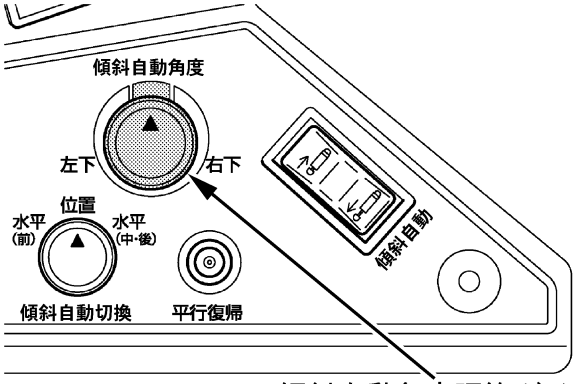
＊ チェックチェーンを張りすぎますと，傾斜制御作業時に３点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

■傾斜自動角度調節ダイヤル

傾斜自動切換スイッチが**［水平（前）］**又は**［水平（中・後）］**の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。

1. ダイヤルの▲を中央の位置にすると，作業機は**水平**に保持されます。
2. ダイヤルを**［左下］**方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。
3. ダイヤルを**［右下］**方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

なお，傾斜自動切換スイッチが**［水平（前）］**又は**［水平（中・後）］**の場合，作業機をリフトアーム上限調整ダイヤルでの設定高さ付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

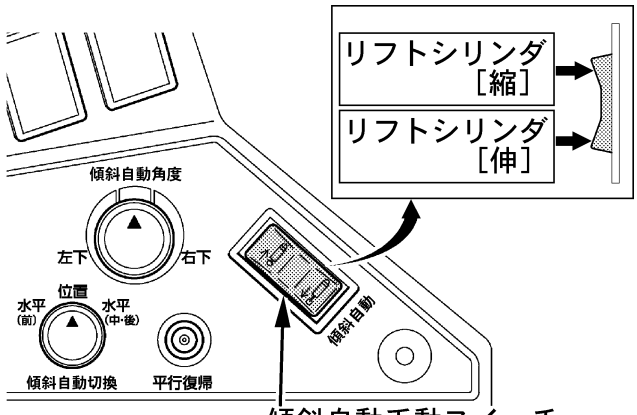


1HCABAAAP004G

傾斜自動角度調節ダイヤル

■傾斜自動手動スイッチ

作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



1HCABAAAP004H

傾斜自動手動スイッチ

1. **［縮］**方向へスイッチを押すと，作業機の右側が上がります。
2. **［伸］**方向へスイッチを押すと，作業機の右側が下がります。

重　要

＊ スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

補　足

＊ 傾斜自動を**［水平（前）］**又は**［水平（中・後）］**で運転中，いったん傾斜自動手動スイッチ及び傾斜外部操作スイッチを操作すると，自動水平制御が停止し手動制御となり，傾斜ランプが点滅します。

＊ 再度自動水平制御に戻すには，**［傾斜自動の安全ロック機能］**の項を参照してください。

■傾斜自動の安全ロック機能

◆ 傾斜自動安全ロック

傾斜自動切換スイッチが**［水平（前）］**又は**［水平（中・後）］**のとき，傾斜自動角度調節ダイヤル位置と傾斜リフトシリンダ位置が異なる状態で，以下の操作を行なったときには，傾斜自動安全ロックが働き，自動制御が停止し，傾斜ランプが点滅（１秒間に約２回点灯）します。

1. エンジン始動時
2. 傾斜外部操作スイッチ操作時
3. 傾斜自動手動スイッチ操作時

◆ 傾斜自動安全ロックの解除

このようなときには，以下のいずれかの操作で安全ロックを解除してください。
解除後傾斜ランプの点灯を確認してください。

1. 平行復帰スイッチを押す。
2. 傾斜自動切換スイッチをいったん**［位置］**にしたのち，再度**［水平（前）］**又は**［水平（中・後）］**に入れる。

補　足

＊ 1. 2. を操作したときは，傾斜自動角度調節ダイヤルで設定した位置までシリンダが動きます。

■平行復帰スイッチ

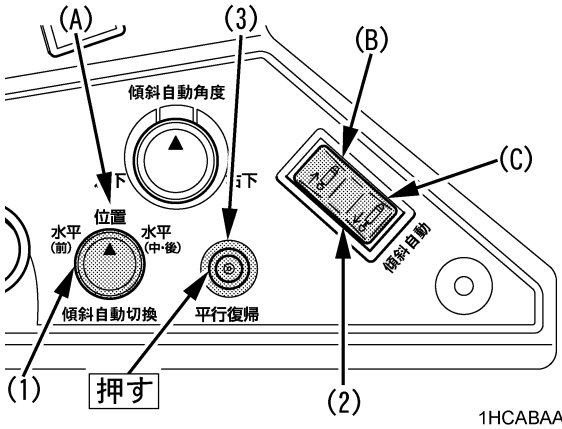
◆ 位置制御

プラウ作業などで常に傾斜リフトシリンダ長さを一定に保ちたい場合に**［位置制御］**を使用します。

1. 傾斜自動切換スイッチを**［位置］**にセットします。
2. 傾斜ランプの消灯を確認します。
3. 傾斜自動手動スイッチ又は傾斜外部操作スイッチを操作し，リフトシリンダ長さを調整します。

◆ 平行復帰制御

［位置制御］のとき，傾斜自動手動スイッチでリフトシリンダを適当な長さに合わせ，リバーシブルプラウなどでの口開け作業を行なった後通常に耕起する場合，**［平行復帰スイッチ］**を押すだけで常にプラウはトラクタと平行状態（微調整記憶値）に保たれます。



1HCABAAAP004J

(1) 傾斜自動切換スイッチ　(A) ［位置］
(2) 傾斜自動手動スイッチ　(B) リフトシリンダ［縮］
(3) 平行復帰スイッチ　(C) リフトシリンダ［伸］

補　足

＊ 微調整記憶値の調整方法は，**［ストロークセンサの単独微調整法］**の項を参照。

左リフトロッド長さを変更した場合

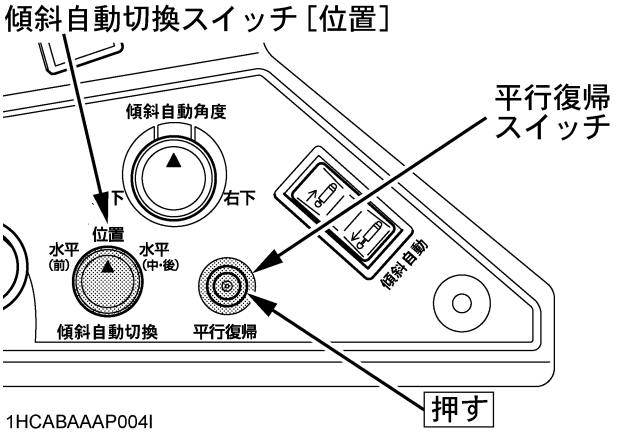
補　足

＊ 左リフトロッド長さを出荷状態から変更しない場合は必要ありません。

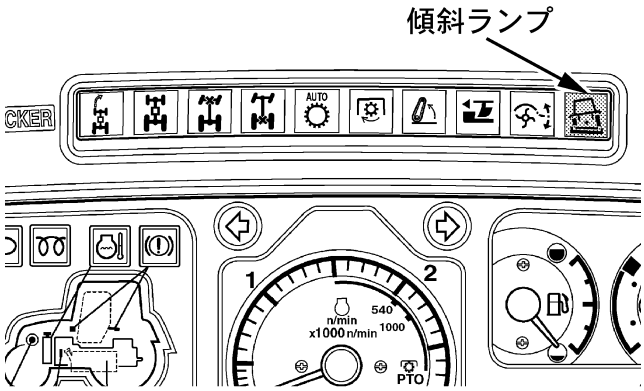
■ストロークセンサの単独

使用する作業機により左リフトロッドの長さを変更した場合，水平および平行復帰位置が狂います。そのため，下記手順で再調整を行なってください。

1. 傾斜自動切換スイッチを必ず**[位置]**にする。（傾斜自動切換スイッチ**[位置]**以外では正しく微調整できません。）
2. エンジン始動後，傾斜自動手動スイッチ又は傾斜外部操作スイッチにより，左右のロアーリンク高さを合わせる。
3. キースイッチをいったん**[切]**にする。
4. 平行復帰スイッチを押しながら，キースイッチを**[入]**にする。（エンジンは始動しない）このときクイックアップ，ドラフト，傾斜モニタランプ点灯後，**[傾斜ランプが１回点滅する。]**
5. 傾斜ランプの消灯を確認後，平行復帰スイッチから手を離す。
   もし，ランプが消灯しないときは，（手順 3.）よりやり直す。
6. 平行復帰スイッチを押し（３秒以上）傾斜ランプが点灯後，手をはなす。
   もし，ランプが点滅するときは，（手順 4.）よりやり直す。
7. 傾斜ランプの点灯を確認後，キースイッチを**[切]**にする。
8. 再度エンジンを始動し，平行復帰制御により左右のロアーリンク高さを確認してください。



1HCABAAAP004I



1AGADALAP042X

ランプ表示一覧

クイックアップ制御，ドラフトコントロール，傾斜コントロールの作動状態を，イージーチェッカの各モニタランプで表示します。
下表の各ランプ表示に基づき，適切な取扱いを行なってください。

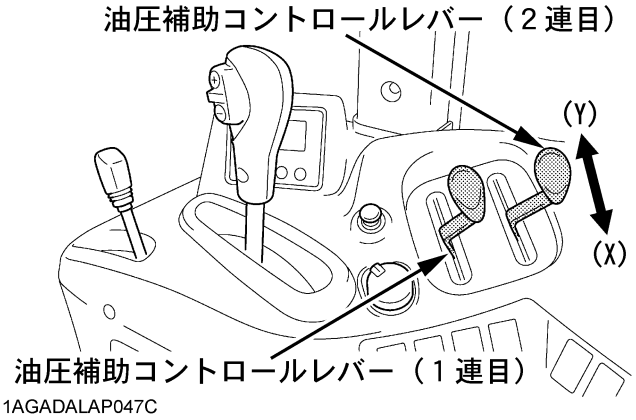
	ｸｲｯｸｱｯﾌﾟランプ	ドラフトランプ	傾斜ランプ	状態	備考
点灯	○	—	—	クイックアップアップ状態	**［クイックアップスイッチ］**の項を参照
点灯	—	○	—	ドラフトモード状態	**［モード切換スイッチ］**の項を参照
点灯	—	—	○	傾斜自動モード状態	**［傾斜自動切換スイッチ］**の項を参照
遅い点滅（一秒間に約二回点灯）	○	—	—	三点リンク安全ロック状態	**［三点リンク安全ロック機能］**の項を参照
遅い点滅（一秒間に約二回点灯）	—	—	○	傾斜自動安全ロック状態	**［傾斜自動安全ロック機能］**の項を参照
速い点滅（一秒間に約五回点灯）	○	—	—	異常検出時	● 緊急時の処置として，**［三点リンク外部操作スイッチ］**で作業機を昇降させてください。 ● 購入先に点検・整備を依頼してください。
速い点滅（一秒間に約五回点灯）	—	○	—		● 緊急時の処置として，**［ポジションモード］**あるいは**［三点リンク外部操作スイッチ］**で作業機を昇降させてください。 ● 購入先に点検・整備を依頼してください。
速い点滅（一秒間に約五回点灯）	—	—	○		● 三点リンクのみ作動できます。 ● 購入先に点検・整備を依頼してください。
速い点滅（一秒間に約五回点灯）	○	○	—		● 傾斜リフトシリンダのみ作動できます。 ● 購入先に点検・整備を依頼してください。

外部油圧取出し

外部油圧取出しは，標準で２連装着していますが，オプションで４連まで装着できます。(ただし，Ｊ 仕様は３連装着まで)
１連目……複動バルブ
２連目……単／複切換えバルブ

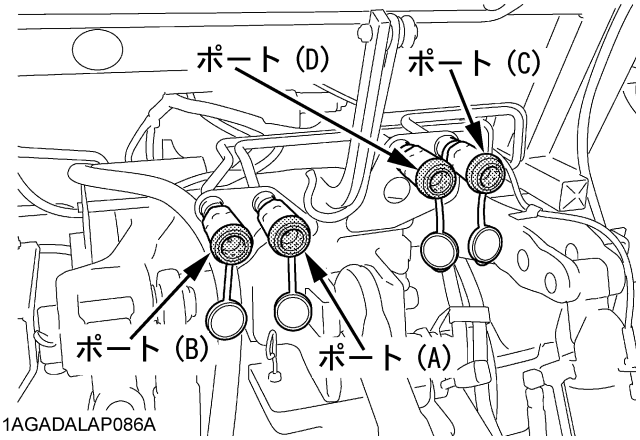
■油圧補助コントロールレバー

1. 各レバーの操作方向と油の流れは下記のようになっています。
   作業機側油圧ホース（吐出，戻り）の方向を確認し，接続してください。
2. ２連目レバーは，補助コントロールバルブ単複切換えつまみの切換えにより，**[単動][複動]** ２種類の操作ができます。



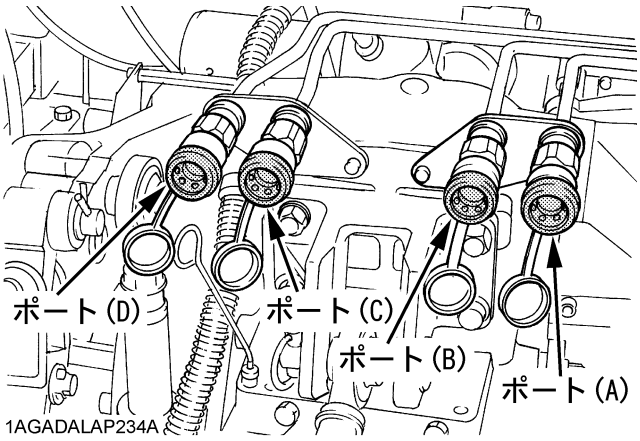
1AGADALAP047C

[J 仕様]



1AGADALAP086A

[J 仕様以外]



1AGADALAP234A

補　足

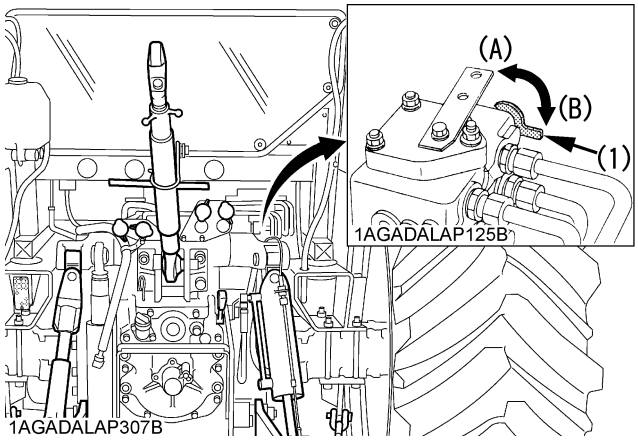
＊ 作業機の油圧シリンダが複動の場合，油圧シリンダの圧力側（負荷がかかったとき高圧となる側または，漏れを発生させたくない側）をポート (A)，(C) に接続してください。(ポート (A)，(C) のみにチェックバルブが入っています。)

油圧補助コントロールレバー		複　動	
		ポート (A)	ポート (B)
一連目	(X) 方向	➡ 吐出	⇦ 戻り
	(Y) 方向	⇦ 戻り	➡ 吐出

油圧補助コントロールレバー		複　動		単　動	
		ポート (C)	ポート (D)	ポート (C)	ポート (D)
二連目	(X) 方向	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	－
	(Y) 方向	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	－

	ネジサイズ
ポート (A) (B) (C) (D)	PF3/8

■補助コントロールバルブ単複切換えつまみ



(1) 単複切換えつまみ　(A) 単動　(B) 複動

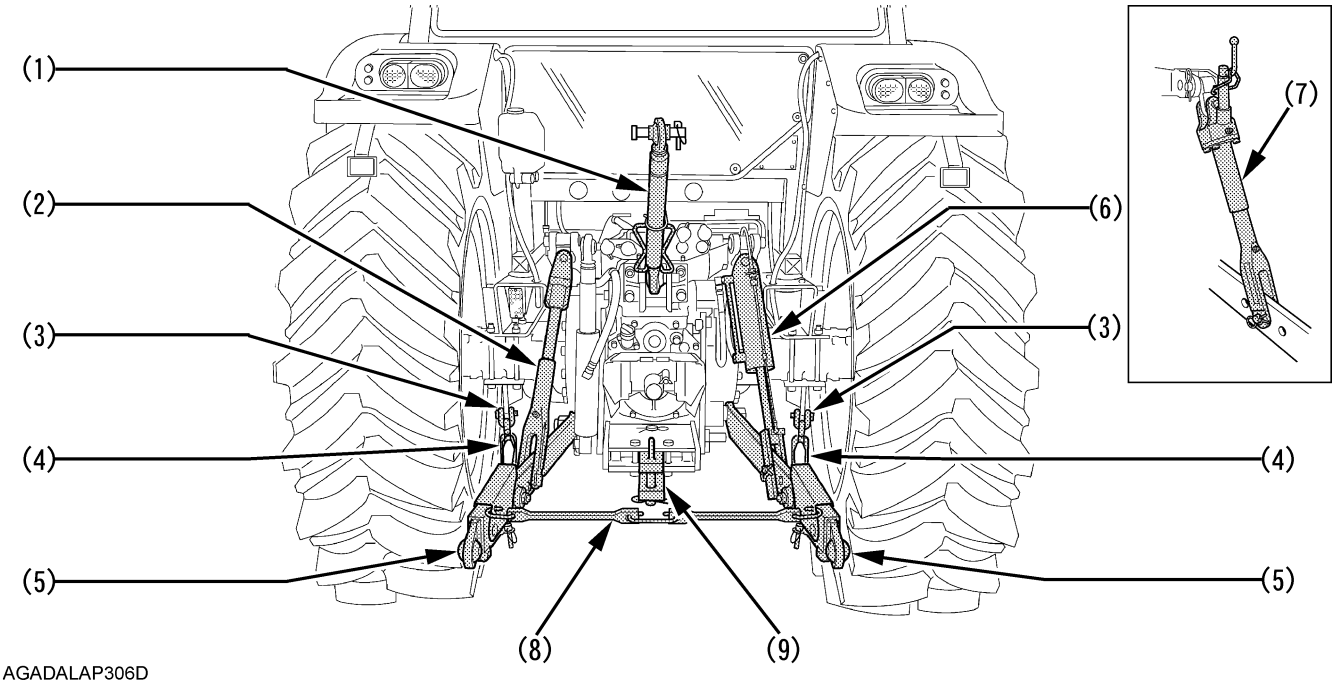
重　要

＊ **［単動］**の作業機を**［複動］**の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。
ご使用になる作業機に合わせて，切換えてください。

三点リンク

■各部の名称

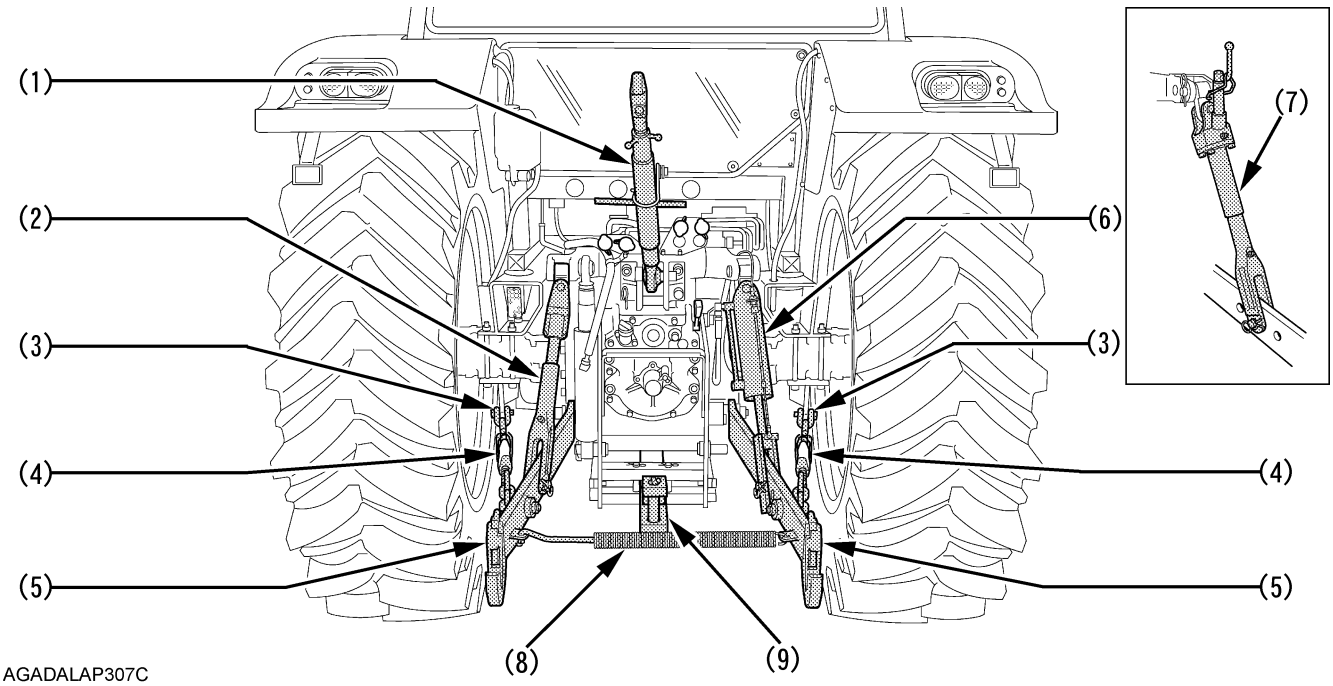
[GR850・950・1050]



1AGADALAP306D

(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) リフトシリンダ（J 仕様）
(7) リフトロッド右（J 仕様以外）
(8) 振止めゴム
(9) ドローバ

[GR1150・1250]



1AGADALAP307C

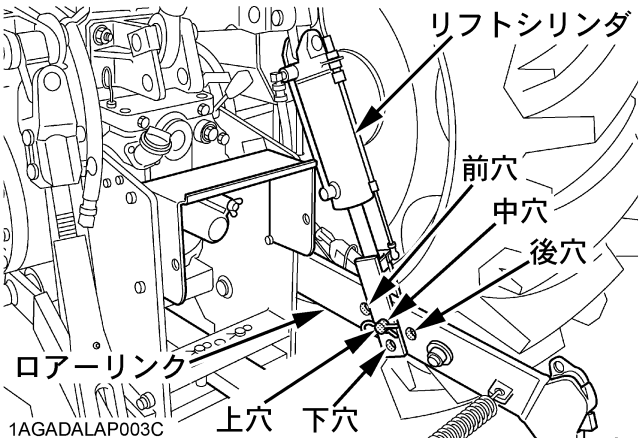
(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) リフトシリンダ（J 仕様）
(7) リフトロッド右（J 仕様以外）
(8) 振止めスプリング
(9) ドローバ

1. インプルメント取付け前の準備

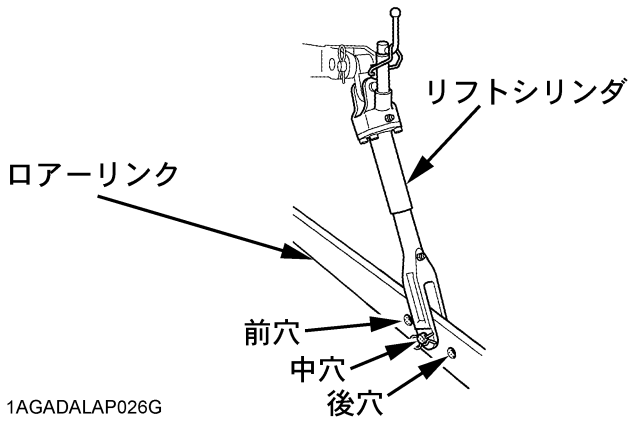
■ロアーリンク取付け穴の選択

使用する作業機によって取付穴を選択してください。
一般作業機を使うときは，ロアーリンクの**［中穴］**を使ってください。

［J 仕様］



［J 仕様以外］

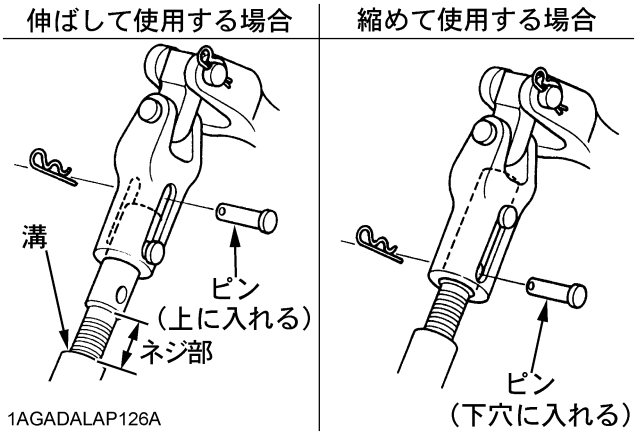


■リフトロッド（左）の長さ調整

ピンの着脱及びネジ部により長さを調整します。

補　足

＊ J 仕様では，リフトロッドの長さを変えたときは，水平および平行復帰位置が狂います。調整は，**［ストロークセンサの単独微調整法］**の項を参照。
＊ 傾斜シリンダの**［上穴］**，**［下穴］**を変えたときは，左リフトロッドピンの位置を変えて長さを合わせてください。



重　要

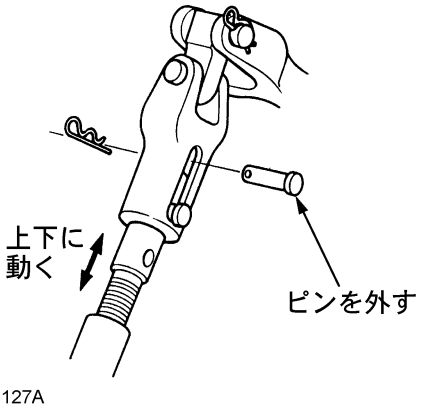
＊ 外れを防止するため，ロッドネジ部の溝位置以上には伸ばさないでください。

■フローティング機構

フローティング機構を働かすと，作業機が地面や耕地の状況に応じて自由に追随します。トラクタより幅の広い作業機での作業に便利です。

補　足

＊ フローティング機構は傾斜自動の水平制御と併用しないでください。併用すると作業機の水平を確保できません。



2. 作業機の着脱

警 告

- **作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。**
- **作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。**
- **ポジションモード，傾斜自動切換スイッチ［位置］で着脱を行なってください。**

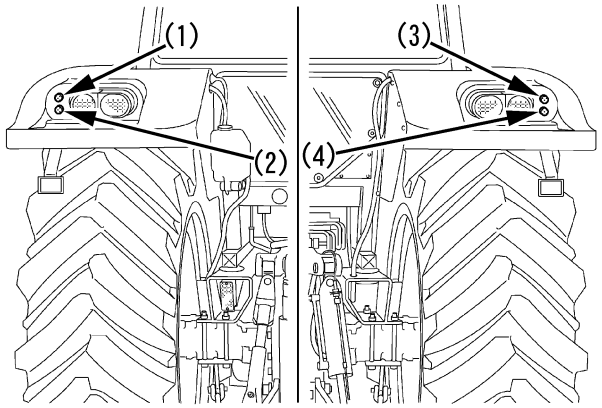
■三点リンク外部操作スイッチ

■傾斜外部操作スイッチ

注 意

- **作業機を装着しているときは，特に機械に巻き込まれるおそれがありますので，操作しないでください。**

作業機装着時，ロアーリンク高さを変えるときに使用します。



1AGADALAP315A

(1) 三点リンク外部操作スイッチ（上昇側）
(2) 三点リンク外部操作スイッチ（下降側）
(3) 傾斜外部操作スイッチ（上昇側）
(4) 傾斜外部操作スイッチ（下降側）

1. スイッチ (1) または (2) を押すと，三点リンクが昇降します。

このスイッチを操作すると，メータパネル内のクイックアップランプが**［点滅］**します。解除方法は**［三点リンクの安全ロック機能］**の項を参照。

2. スイッチ (3) または (4) を押すと，傾斜用リフトシリンダが伸縮します。

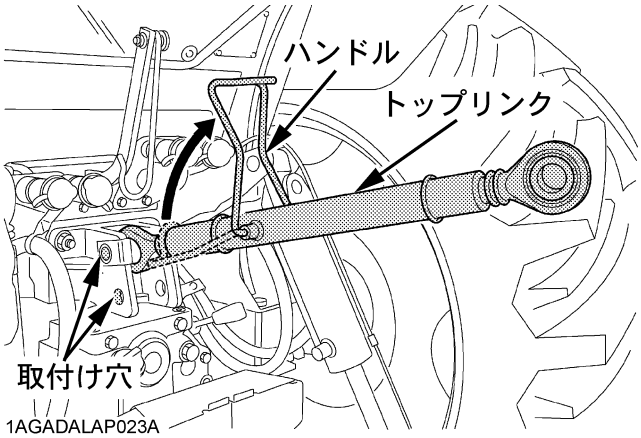
傾斜自動水平制御のときにこのスイッチを操作すると，メータパネル内の傾斜ランプが**［点滅］**します。解除方法は**［傾斜自動の安全ロック］**の項を参照。

■トップリンク

◆ 取付け穴の選択

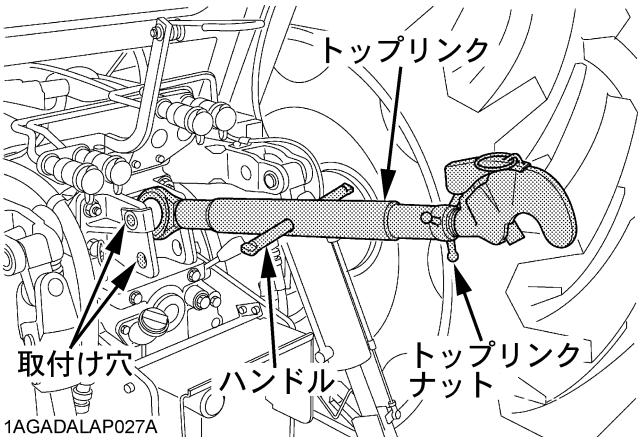
使用する作業機によって取付け穴を選択してください。

［GR850・950・1050］



1AGADALAP023A

［GR1150・1250］



1AGADALAP027A

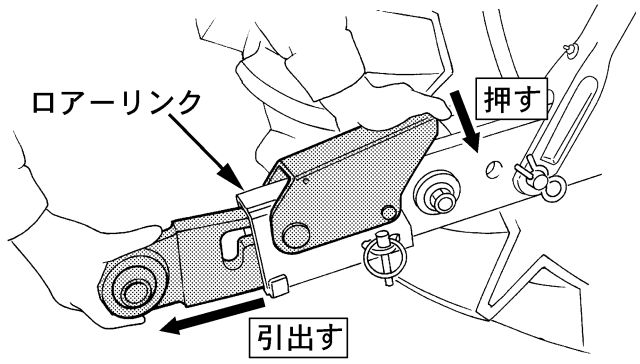
◆ トップリンク長さの調整

伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。調整後はハンドル又は，トップリンクナットでロックしてください。

■クイックジョイント（テレスコ式）［GR850・950・1050］

ロアーリンクの先端部が上下・左右に少し動くので，作業機の取付けが容易にできます。

1. レバーを押して先端部を引き出し，作業機を取付けます。
2. 作業機取付け後，トラクタを少しバックさせると，先端部が元に戻って固定されます。

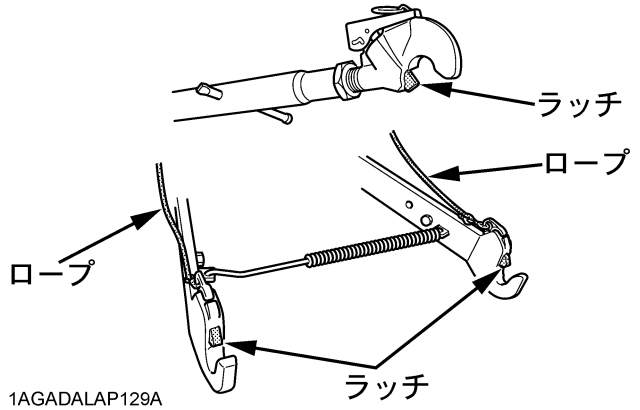


1AGADALAP108A

■クイックヒッチ（フック式）［GR1150・1250］

注　意

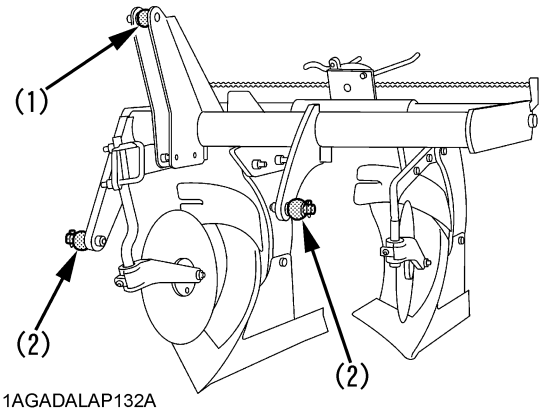
＊ 作業機の脱落防止のため，各クイックヒッチがラッチで確実にロックされているか確認してください。



1AGADALAP129A

◆ ボールジョイントの組み付け

装着する作業機に，ボールジョイントを組み付けます。この時，トップリンク用とロアーリンク用では形状が異なりますので注意してください。



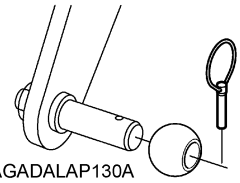
1AGADALAP132A

(1) トップリンク用ボールジョイント



1AGADALAP131A

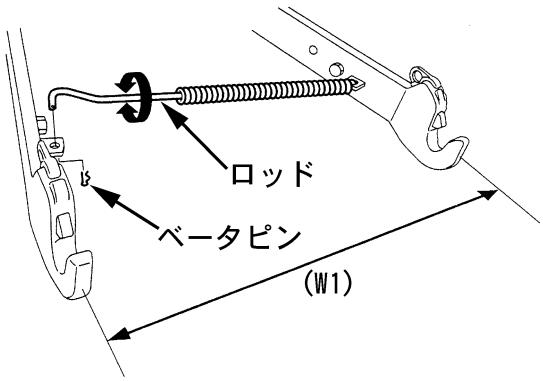
(2) ロアーリンク用ボールジョイント



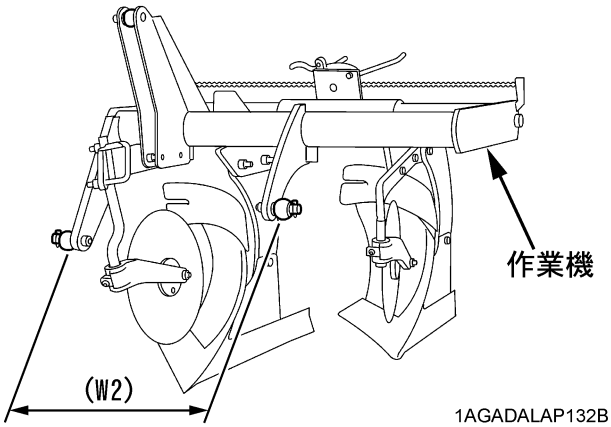
1AGADALAP130A

◆ ロアーリンク幅の調整

ロッドを回し，ロアーリンク幅（W1）を作業機取付け幅（W2）に調整します。



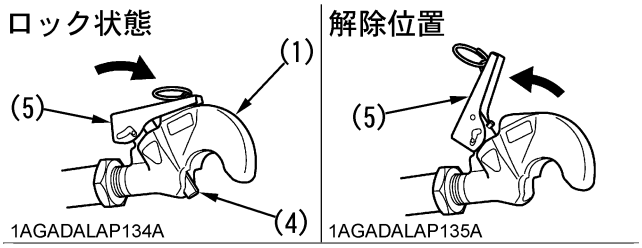
1AGADALAP133A

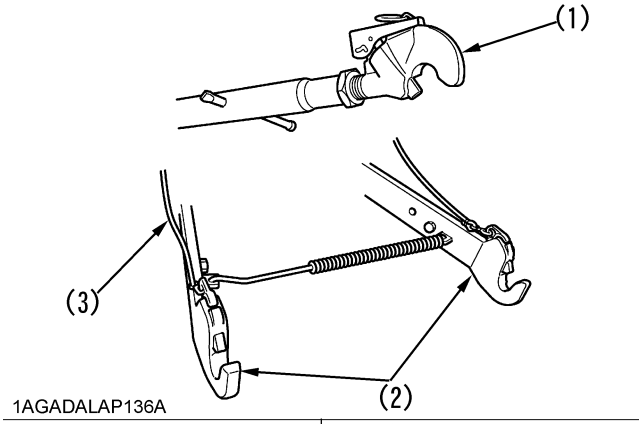


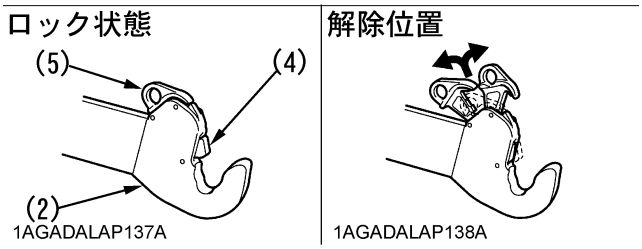
1AGADALAP132B

◆ 作業機の装着（例）

1. 各フックのレリーズレバーがロック状態か確認します。
2. ロアーリンクを下げトラクタを後退します。
3. ゆっくりロアーリンクを上げ，作業機側ボールジョイントとロアーリンクのクイックヒッチ部を接続します。
4. トップリンクのフック部を下向きにし，手で押し込み装着する。







(1) トップリンク
(2) ロアーリンク
(3) ロープ
(4) ラッチ
(5) レリーズレバー

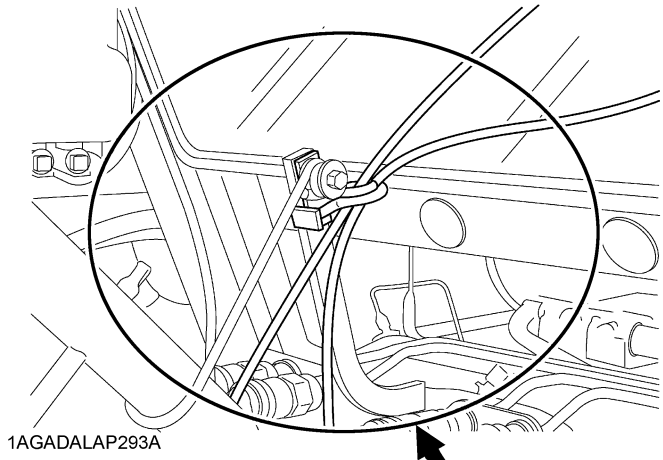
◆ 作業機の取外し（例）

1. 作業機を下げ，トップリンク及びリフトロッドを調整し，作業機を安定させます。
2. トップリンクのレリーズレバーを引きロックを解除し，トップリンクを外します。
3. ロアーリンクのレリーズを解除し，ロアーリンクを下げます。

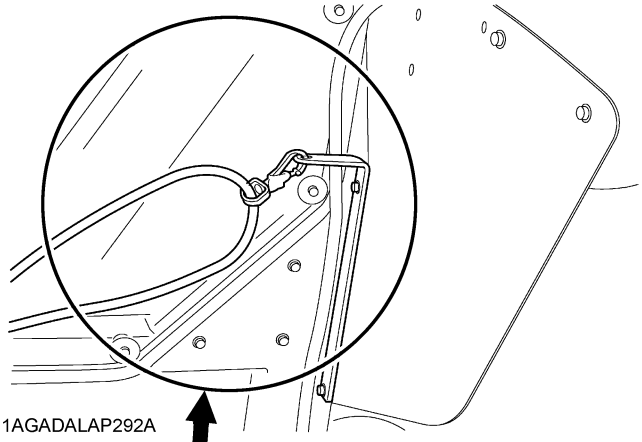
補　足

＊ トラクタから降りて作業機を外す場合，レリーズレバーを解除位置に保持してください。
＊ レリーズワイヤを使用する場合はタイヤやユニバーサルジョイントなどに巻き込まれないよう注意してください。

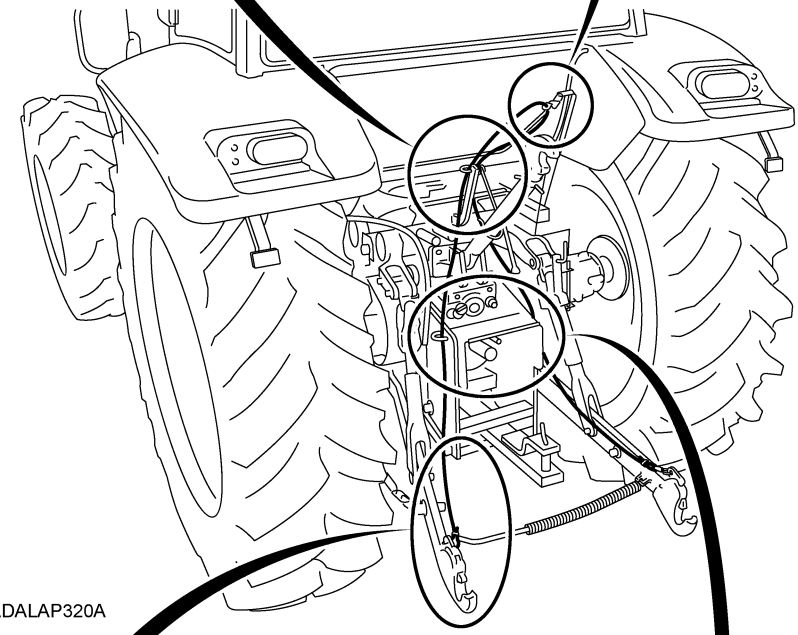
◆ レリーズワイヤの通し方



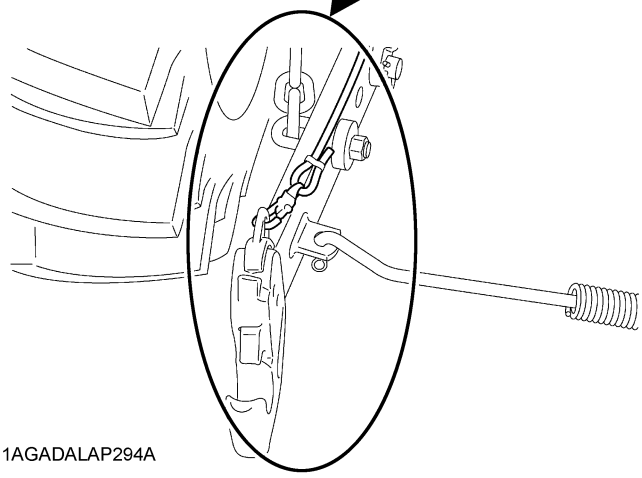
1AGADALAP293A



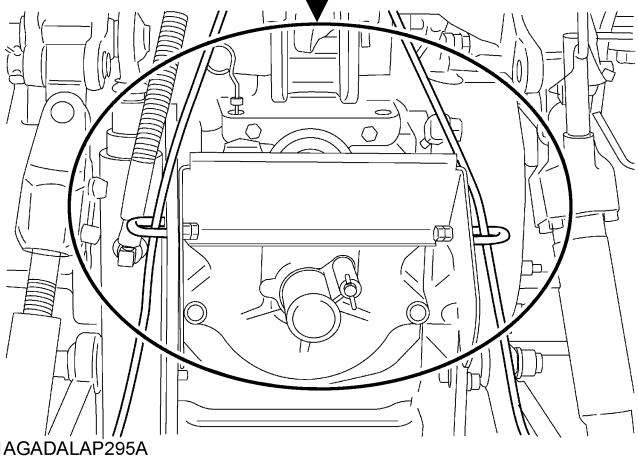
1AGADALAP292A



1AGADALAP320A



1AGADALAP294A



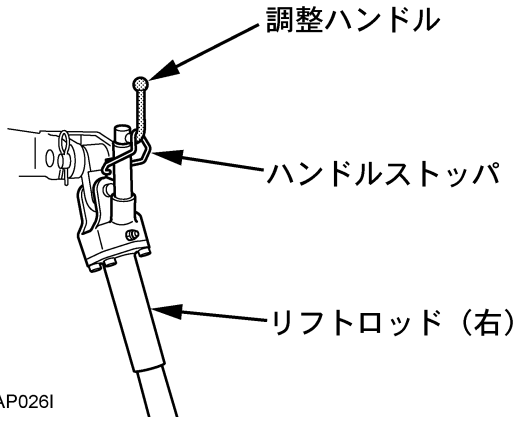
1AGADALAP295A

1AGADALAP298A

■リフトロッド（右）の調整

[J 仕様以外]

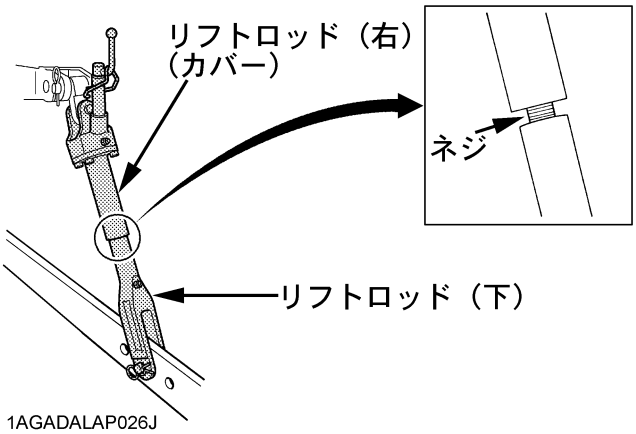
1. 調整ハンドルで，作業機の傾きを調整してください。
2. 調整後は，ハンドルをストッパで固定してください。



1AGADALAP026I

重　要

＊ リフトロッド（右）を伸ばしたときはリフトロッド（下）の上端のネジがカバーから出ないようにしてください。
伸ばしすぎるとネジが外れます。



1AGADALAP026J

[J 仕様]

調整方法は**［傾斜制御の取扱い］**の項を参照

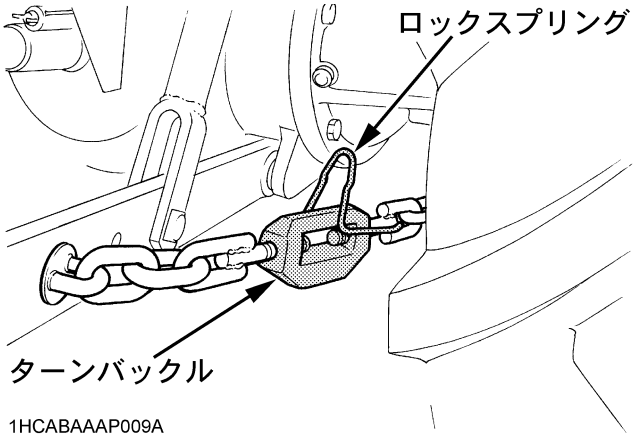
■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はロックスプリングでターンバックルを固定してください。

重　要

＊ ターンバックルを次の図のようにしてからロックスプリングで固定してください。逆向きにするとロックスプリングが変形してしまいます。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ，ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に ５～６ ㎝ 動く程度
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める

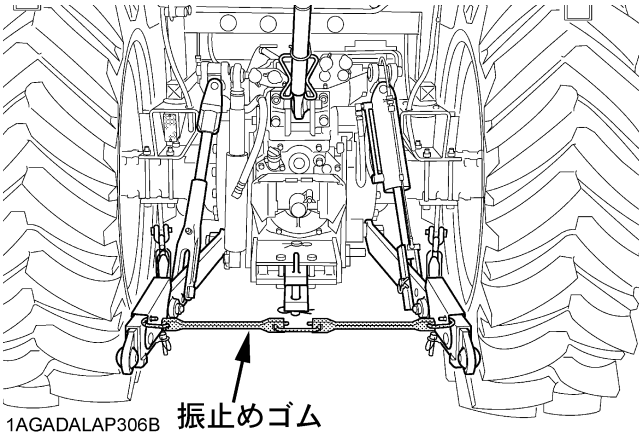


1HCABAAAP009A

■作業機を取付けないときの注意

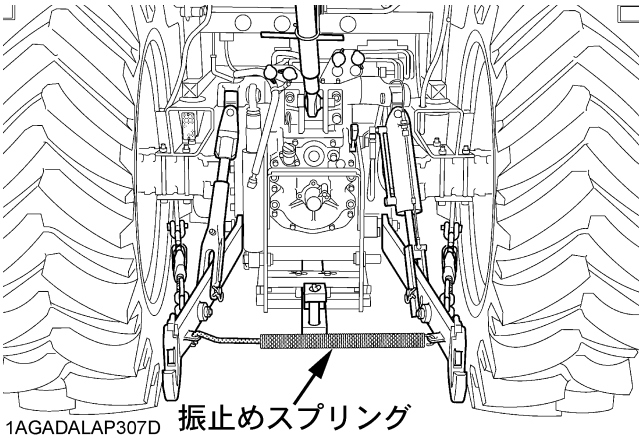
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。

[GR850・950・1050]



1AGADALAP306B

[GR1150・1250]



1AGADALAP307D

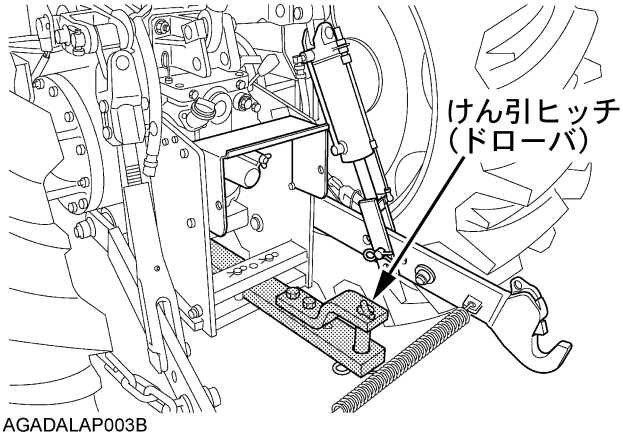
けん引ヒッチ（ドローバ）

警　告

＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当って破損し，事故を起こすおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。



1AGADALAP003B

PTO

■ PTO クラッチコントロールスイッチ

注　意

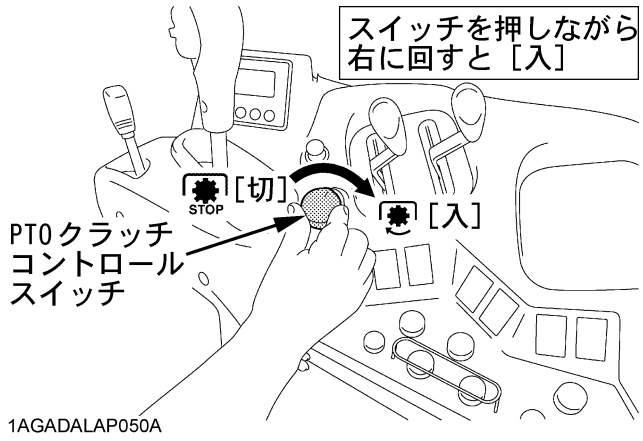
＊ 走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。
PTO を止めるには，PTO クラッチコントロールスイッチを［OFF］（切）にしてください。

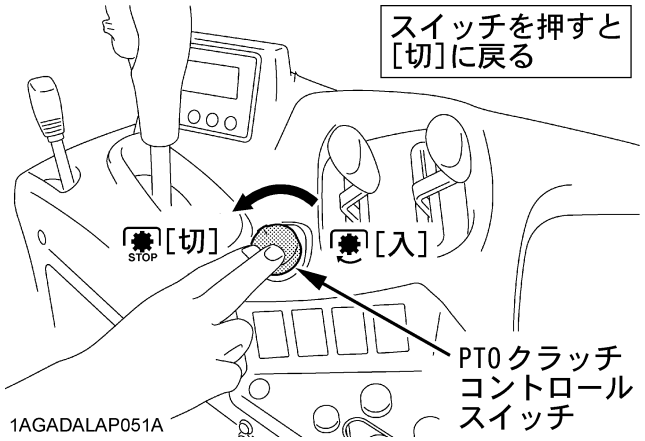
走行に関係なくPTOクラッチコントロールスイッチを**［入］**にすると，メーターパネル内の PTO ランプが点灯し，PTO クラッチが接続されます。

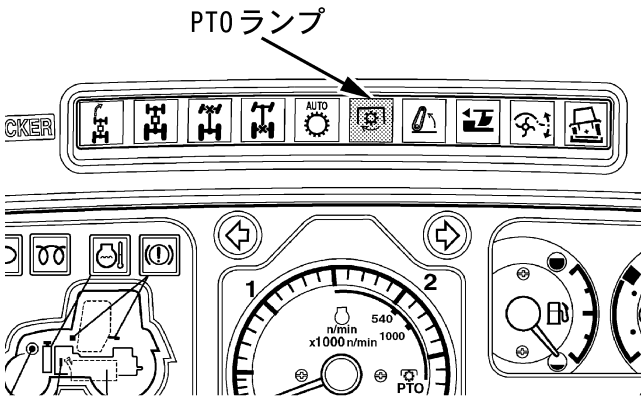
補　足

＊ PTO クラッチコントロールスイッチが**［切］**の位置でないとエンジンが始動できません。

◆ PTO クラッチコントロールスイッチの操作





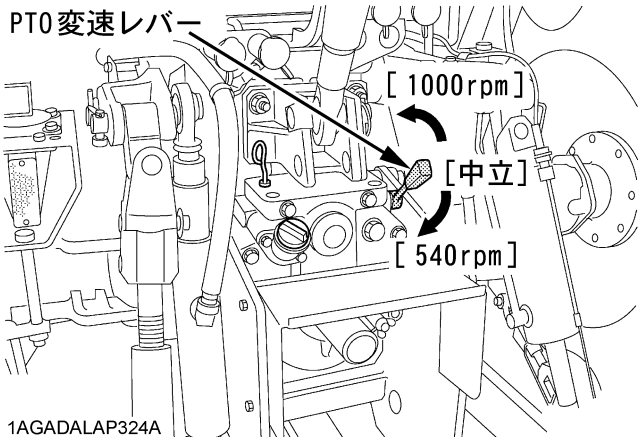


■ PTO 変速レバー

注　意

＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を，２段階に変速できます。
変速操作時は，必ず PTO クラッチコントロールスイッチを切ってから行なってください。



■グランド・ライブ PTO 切換レバー

◆ ライブ PTO

PTO クラッチコントロールスイッチを**[切]**にして，PTO が停止後，PTO 切換レバーを**［ライブ PTO］**の位置にし，PTO クラッチコントロールスイッチを**[入]**にすると，ライブ PTO が使えます。
ライブ PTO はトラクタ停車中でも PTO が使用できます。

重　要

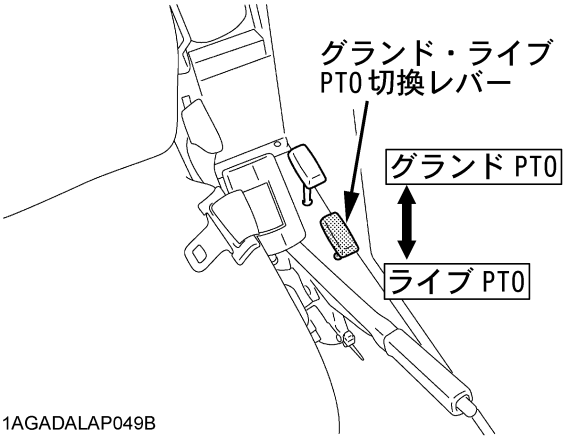
＊ 変速が入りにくいときは，PTO クラッチコントロールレバーを**[入]****[切]**し，スムーズに入る位置を探してください。
無理に変速を入れようとすると故障の原因になります。

◆ グランド PTO

クラッチペダルを踏込みトラクタを停止し，PTO クラッチコントロールスイッチを**[切]**にしてから，PTO 切換レバーを**［グランド PTO］**の位置にするとグランド PTO が使えます。

重　要

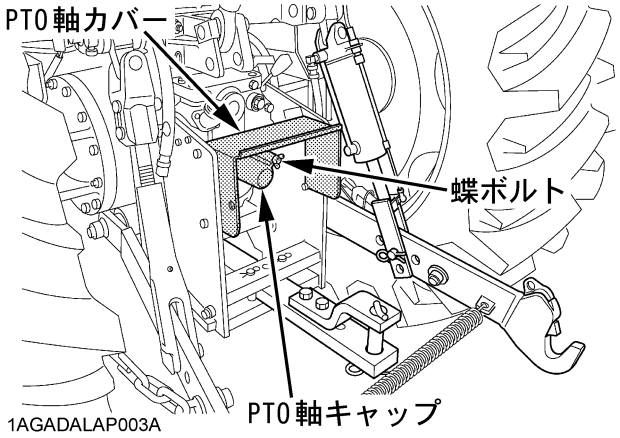
＊ グランド PTO は，ロータリ耕うん，フォーレージハーベスタなど負荷の大きい作業には使用しないでください。



■ PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ

注　意

＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊ PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



タイヤ・ウエイト

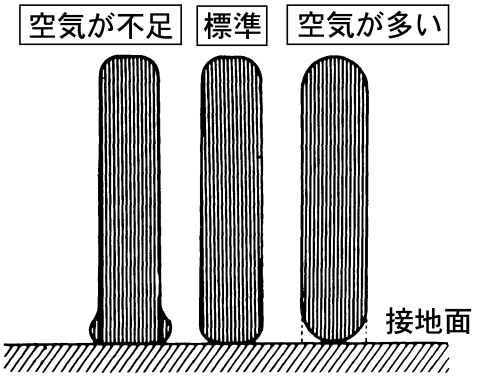
タイヤ

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



1AGAAAPAP007A

◆ 標準空気圧

● バイアス　　［　］内はローダ装着時

前輪 kPa（kgf/cm²）		後輪 kPa（kgf/cm²）	
9.5-24	220(2.2) [240(2.4)]	13.9-36 16.9-34 18.4-30 18.4-34	120(1.2)
11.2-24	180(1.8) [200(2.0)]		
12.4-24 13.6-24	160(1.6) [180(1.8)]	14.9-38 18.4-38	140(1.4)
14.9-24	140(1.4) [160(1.6)]	12.4-38 13.6-38 16.9-38	160(1.6)

● ラジアルタイヤ　　［　］内はローダ装着時

前輪 kPa（kgf/cm²）		後輪 kPa（kgf/cm²）	
9.5R24 11.2R24 12.4R24 13.6R24 14.9R24	140(1.4) [160(1.6)]	13.6R38 16.9R34 16.9R38 18.4R38	140(1.4)

輪距の調整

注　意

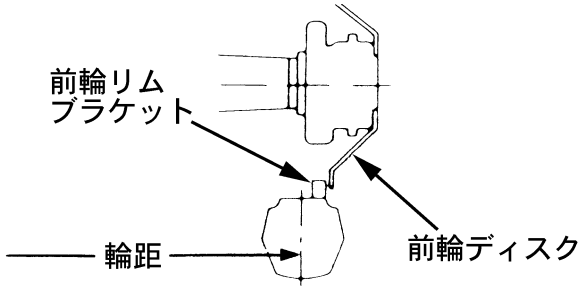
＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

リムとディスクの取付け位置変更により，２～４段階に変えられます。（タイヤの仕様により異なります。）

重　要

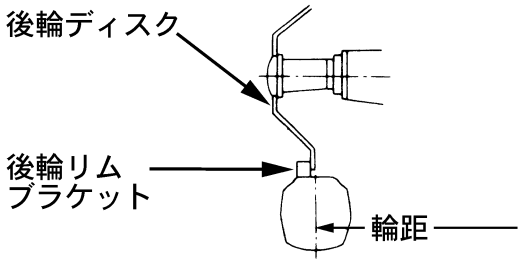
＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。



1AGADALAP139A

■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，５～７段階に変えられます。（タイヤの仕様により異なります。）



1AGADALAP140A

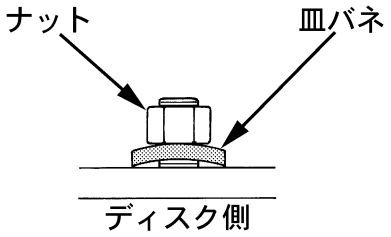
重　要

＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。

補　足

＊ タイヤは，両側の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

1. 皿バネの取付け方向には十分注意し，図のようにしてください。



1AGADALAP141A

2. フロントローダ作業など重作業時，タイヤのボルト，ナットは規定トルクで十分締めあげ，締め忘れのないよう注意してください。また，しばらく作業した後，再度トルクチェックを行ない，増し締めを行なってください。
3. ボルト，ナット，スタッド，皿バネやリム，ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると，規定トルクまで締まりあがりませんので，シンナなどで油分をふきとってください。

重　要

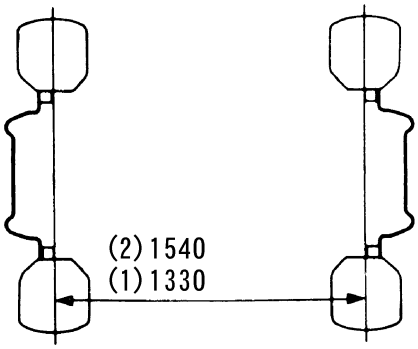
＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。

■前輪輪距

型式	バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
GR850 GR950	9.5-24		1520	輪距は（1）を参照
	11.2-24	11.2R24		
	12.4-24	12.4R24	1530	輪距は（4）を参照
GR1050	11.2-24	11.2R24	1520	輪距は（1）を参照
	12.4-24		1530	輪距は（4）を参照
	13.6-24	13.6R24		
GR1150 GR1250	11.2-24		1640	輪距は（2）を参照
	13.6-24	13.6R24		輪距は（3）を参照
	14.9-24	14.9R24		

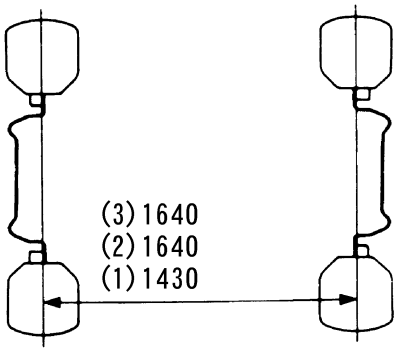
（単位 mm）

[1]



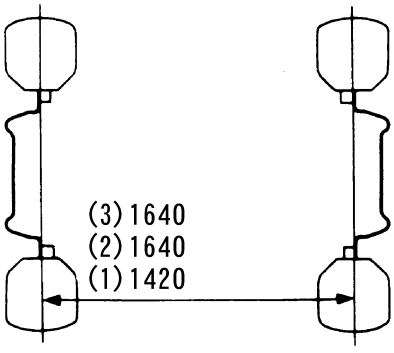
1AGADALAP188A

[2]



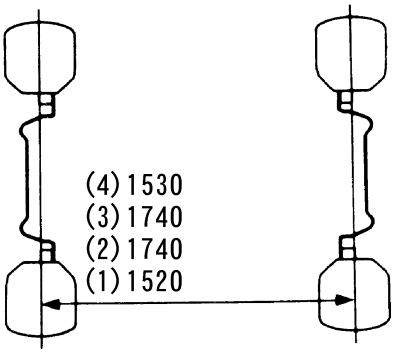
1AGADALAP189A

[3]



1AGADALAP190A

[4]

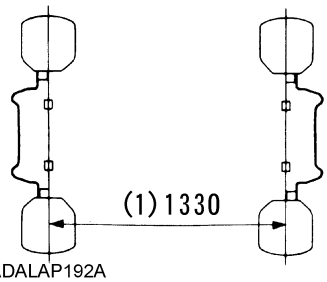


1AGADALAP191A

型式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
GR850 GR950	9.5-24RC 仕様	1520	輪距は（1）を参照
	11.2-24RC 仕様		
GR1050	11.2-24RC 仕様	1520	輪距は（1）を参照

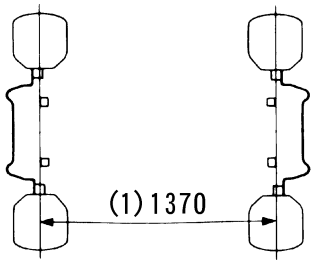
（単位 mm）

[1]



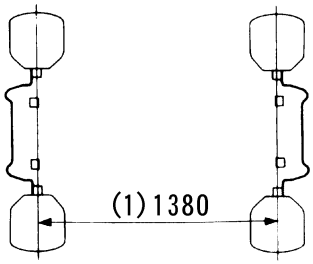
1AGADALAP192A

[2]



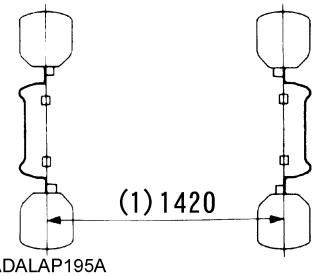
1AGADALAP193A

[3]



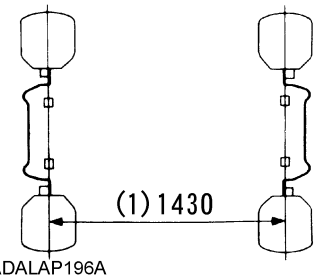
1AGADALAP194A

[4]



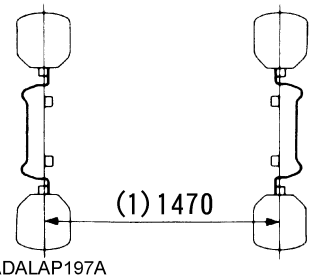
1AGADALAP195A

[5]



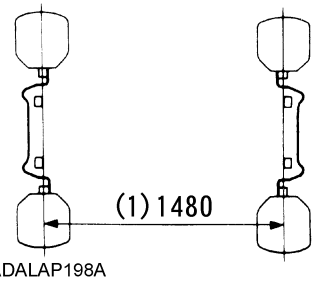
1AGADALAP196A

[6]



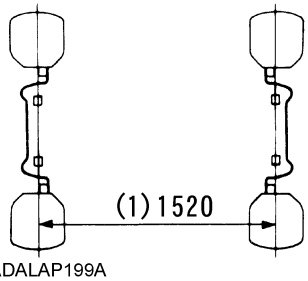
1AGADALAP197A

[7]



1AGADALAP198A

[8]



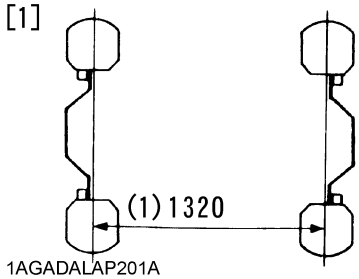
1AGADALAP199A

■後輪輪距

型式	バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
GR850,GR950 （板金ディスク）	13.6-38	13.6R38	1520	輪距は（1）を参照
	13.9-36			
GR1050 （板金ディスク）	13.6-38	13.6R38	1520	輪距は（1）を参照

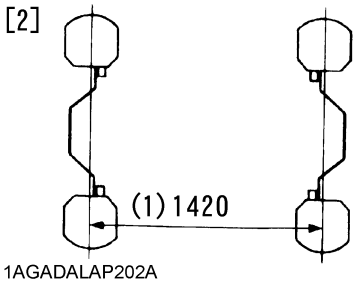
（単位 mm）

[1]



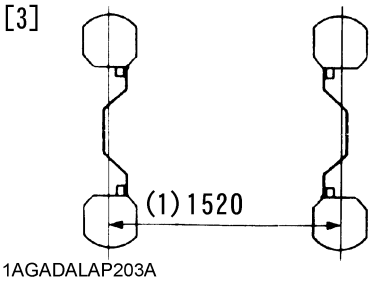
1AGADALAP201A

[2]



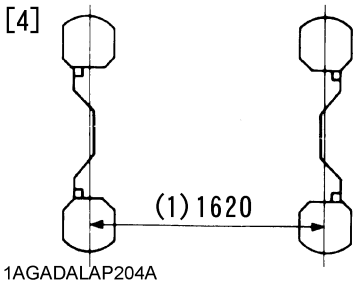
1AGADALAP202A

[3]



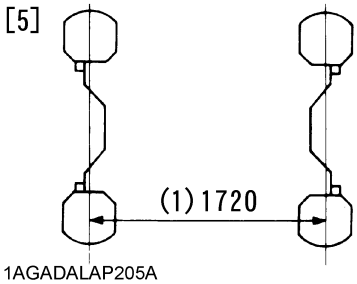
1AGADALAP203A

[4]



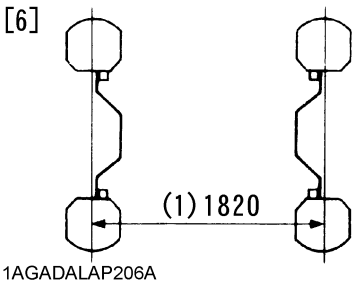
1AGADALAP204A

[5]



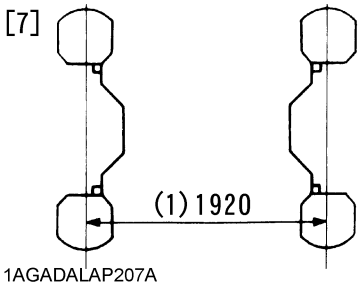
1AGADALAP205A

[6]



1AGADALAP206A

[7]

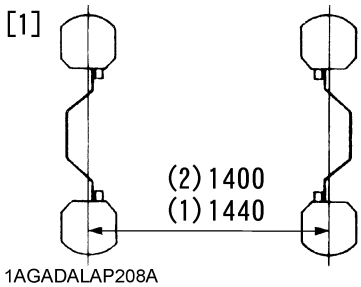


1AGADALAP207A

型式	バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
GR850,GR950 （鋳物ディスク）	16.9-34	16.9R34	1530	輪距は（2）を参照
	18.4-30		1570	輪距は（1）を参照
GR1050 （鋳物ディスク）	16.9-34		1530	輪距は（2）を参照
	18.4-34			輪距は（2）を参照 （1）の輪距に調節できません。
	16.9-38	16.9R38		
	14.9-38			
GR1150 GR1250 （鋳物ディスク）	16.9-34		1530	輪距は（2）を参照 （1）の輪距は除く。
	16.9-38	16.9R38		
	18.4-38	18.4R38		

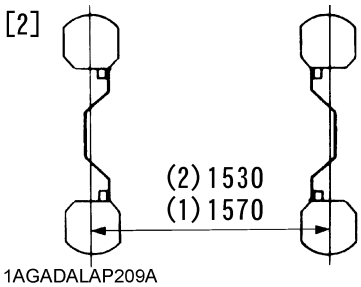
（単位 mm）

[1]



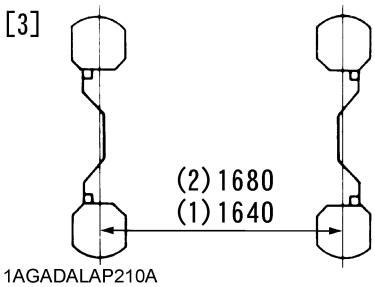
1AGADALAP208A

[2]



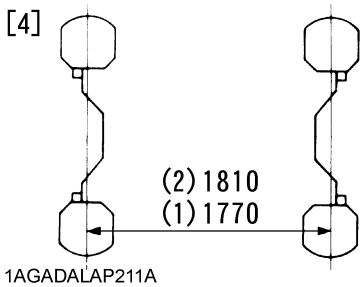
1AGADALAP209A

[3]



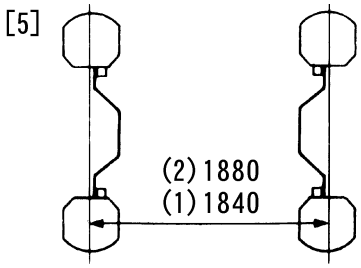
1AGADALAP210A

[4]



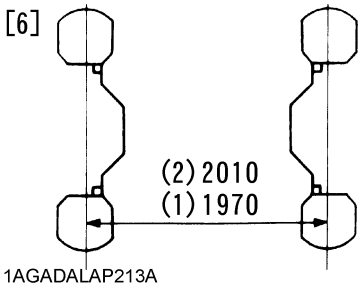
1AGADALAP211A

[5]



1AGADALAP212A

[6]



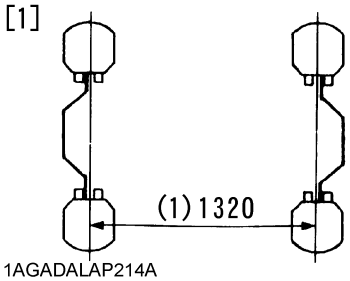
1AGADALAP213A

タイヤ・ウエイト

型式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
GR850 GR950	12.4-38RC 仕様	1520	輪距は（1）を参照
	13.6-38RC 仕様		
GR1050	13.6-38RC 仕様	1520	輪距は（1）を参照

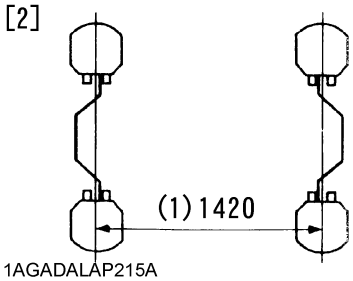
（単位 mm）

[1]



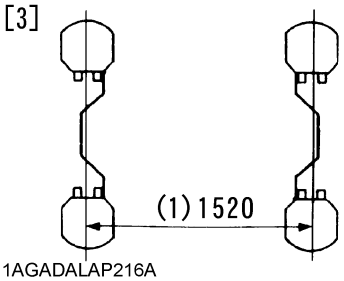
1AGADALAP214A

[2]



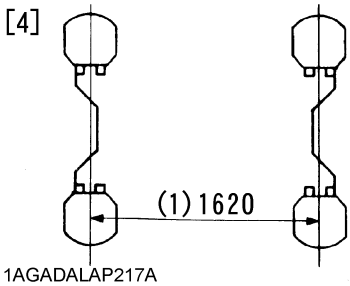
1AGADALAP215A

[3]



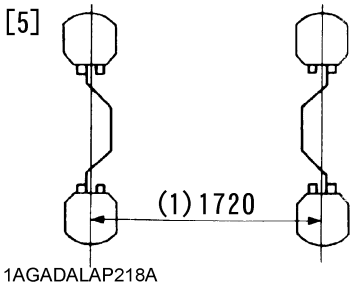
1AGADALAP216A

[4]



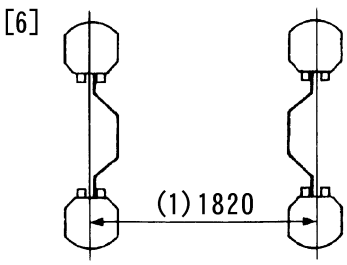
1AGADALAP217A

[5]



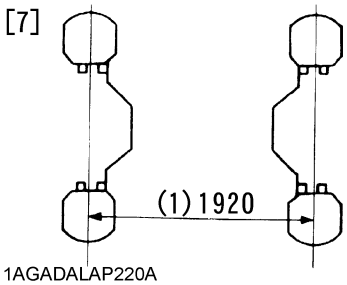
1AGADALAP218A

[6]



1AGADALAP219A

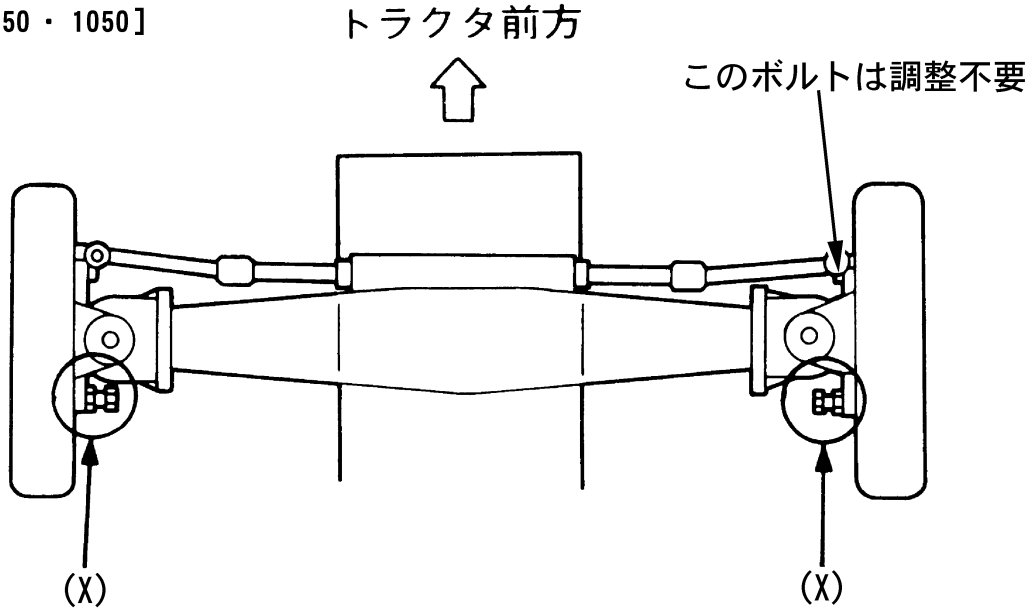
[7]



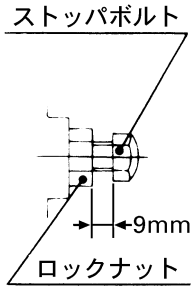
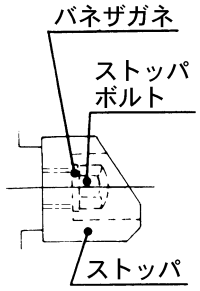
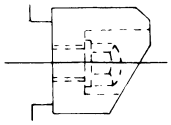
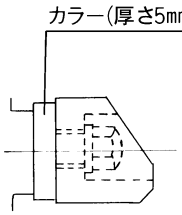
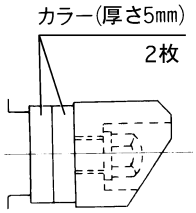
1AGADALAP220A

前輪切れ角の調整

［GR850・950・1050］



1HCABAAAP014B

(X) 部ボルトの調整要領				
(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
				
＊左側に取付けた状態	＊左側に取付けた状態	＊左側に取付けた状態	＊左側に取付けた状態	＊左側に取付けた状態

機種	タイヤサイズ	輪　距（mm）		
		1330 ～ 1420	1430 ～ 1520	
GR850 GR950 GR1050	9.5-24	(D)	(A)	—
		1330 ～ 1380	1420 ～ 1520	
	11.2-24	(E)	(C)	—
	12.4-24 13.6-24	—	—	出荷状態から調整しないでください。

■ストッパ交換要領

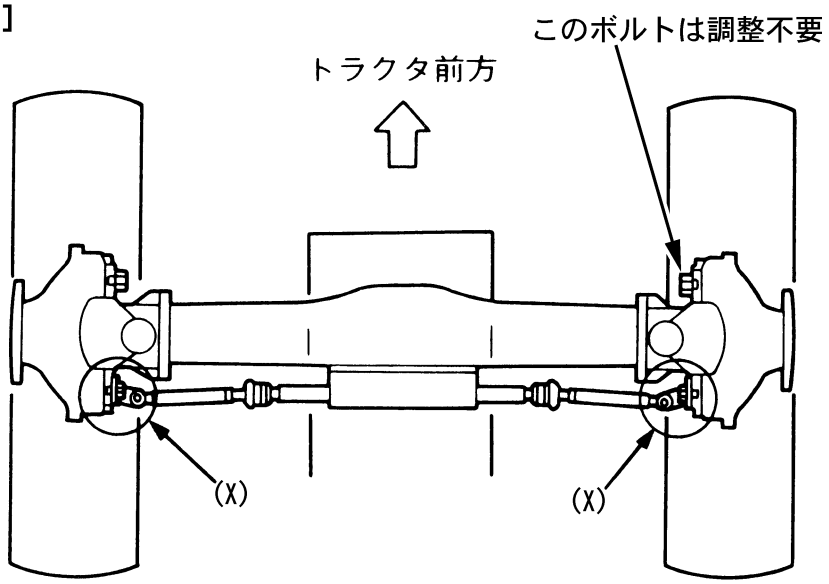
1. 従来のストッパボルトとロックナットを取外し，上図のようにストッパを取付け，ストッパボルトを軽く締めてください。
2. エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパを 2 ～ 3 回ベベルギヤケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)
3. その後，ストッパボルトを締込みますが，ストッパの位置がずれないようにするため，付属のモンキーレンチでストッパの回り止めをしてからストッパボルトを強く締込んでください。

重　要

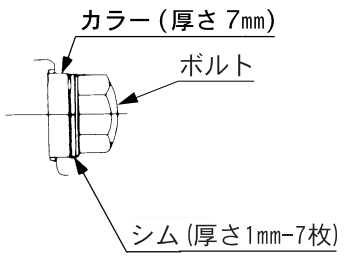
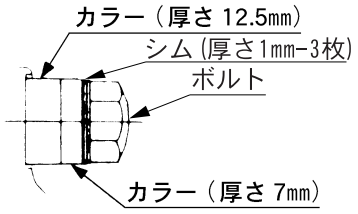
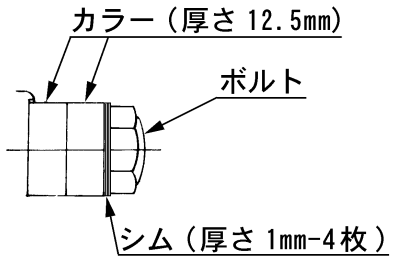
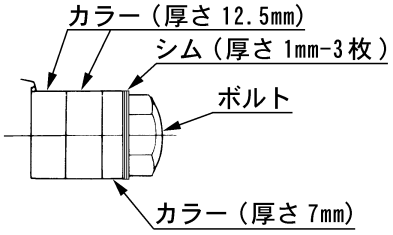
＊ 取外したロックナットは紛失しないでください。

＊ (B) 又は (C) で使用後，(A) に交換して使用する場合，ストッパボルトの調整は前側ボルト（上図の **[このボルトは調整不要]**）と同時当り又は前側が 1 ～ 2mm の隙間になるようにセットしてください。

［GR1150・1250］



1HCABAAAP015A

(X)部ボルトの調整要領	
(A)	(B)
	 厚さ12.5mmカラーを1枚追加し，シムを3枚にしてボルトを締付ける
(C)	
	厚さ12.5mmカラー2枚と厚さ1mmシムを4枚に組替えボルトを締付ける
(D)	
	厚さ12.5mmカラー2枚を追加し，1mmシムを3枚にしてボルトを締付ける

機種	タイヤサイズ	輪距（mm）	調整ボルト
GR1150 GR1250	11.2-24	1540～1740	(A)
	13.6-24 14.9-24	1640～1740	(A)
	14.9R24	1640～1740	(B)
	11.2-24 *1 13.6-24 *1	1640	(D)
	13.6R24 *1	1740	(C)
	14.9-24 *1 14.9R24 *1	1740	(C)
	11.2-24 *2 13.6-24 *2 13.6R24 *2 14.9-24 *2 14.9R24 *2	1740	(D)

*1可動式フロントフェンダ付きのとき
*2フロントローダ
　可動式フロントフェンダ
　両方付きのとき

ウエイト（別売）

注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

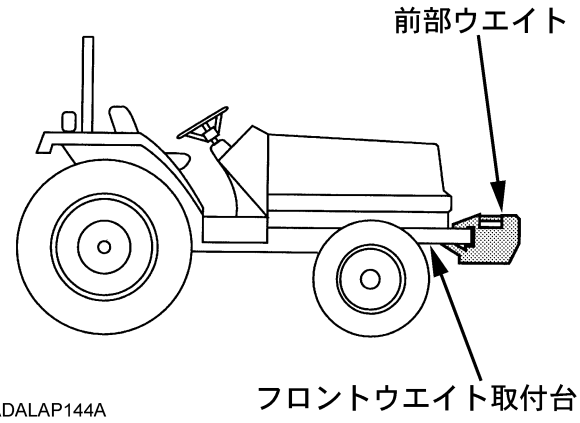
■前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
＊ 下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。

最大ウエイト	45kg × 12 枚



1AGADALAP144A

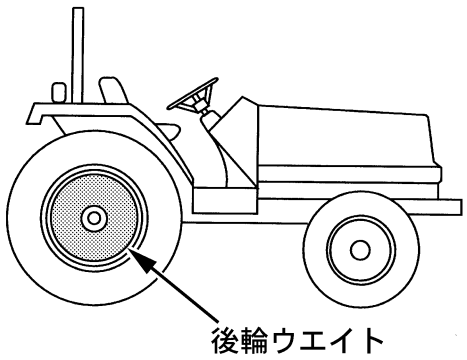
■後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
＊ 下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。

最大ウエイト	50kg × 3 枚 / 片側タイヤ



1AGADALAP145A

■タイヤ液体注入法（後輪のみ）

畑地や粘土質のプラウ作業など，けん引力を必要とする場合，ウエイトを用いけん引力を高める方法があります。ウエイトの代用としてタイヤに水又は，塩化カルシウム溶液等の液体を注入し，けん引力を高める方法もあります。水を使用すると，0℃で凍るため，冬期には適しません。塩化カルシウムは凝固を防ぐばかりでなく，約 20% 水溶液の密度が増すため，水より効果があります。
塩化カルシウム溶液の注入要領については購入先にご相談ください。

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

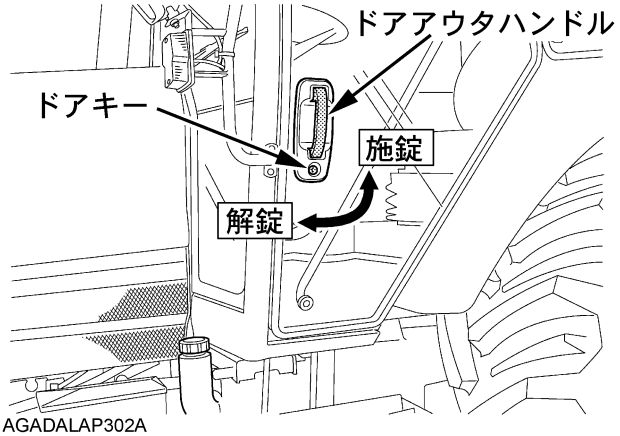
注　意

＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。
＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

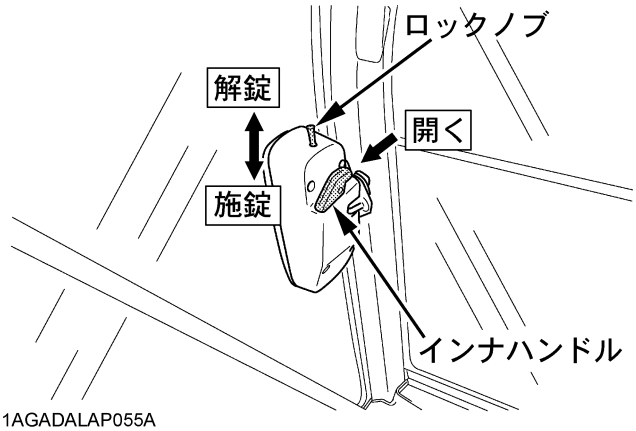
◆ ドアの開閉とロック

車外から……キーを回すと**[施錠] [解錠]**されます。ドアアウタハンドルを引き，開けます。



1AGADALAP302A

車内から……ロックノブを下げると**［旋錠］**，上げると**［解錠］**されます。インナハンドルを引き，開けます。



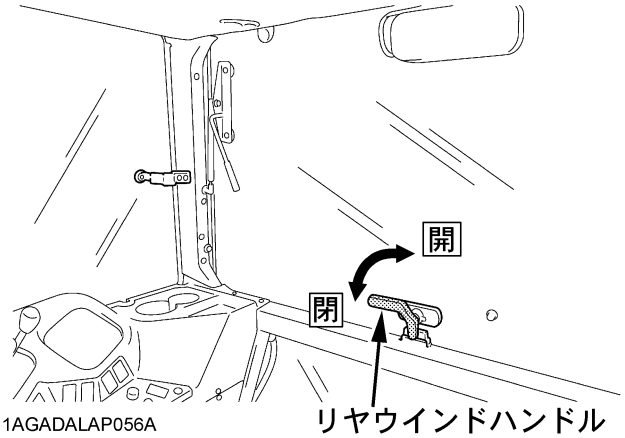
1AGADALAP055A

補　足

＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で容易に開くことができます。



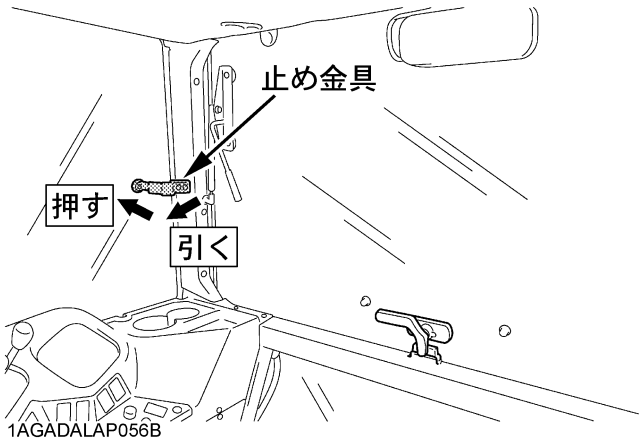
1AGADALAP056A

重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときには十分確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド

止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。



1AGADALAP056B

重　要

＊ クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

ルームランプ

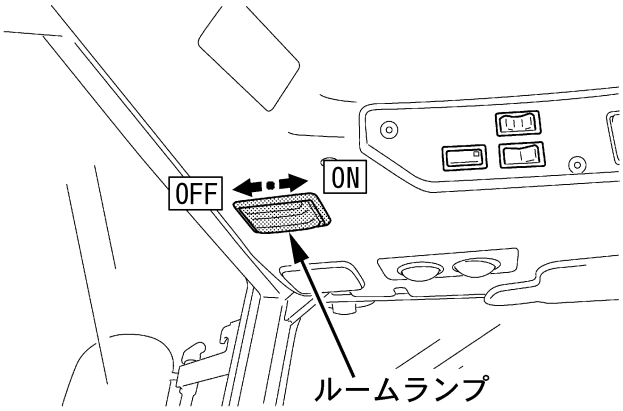
■ルームランプ

ルームランプカバーをスライドさせることにより，スイッチが作動します。

[OFF]. . . 常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

[●]. . . . ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。

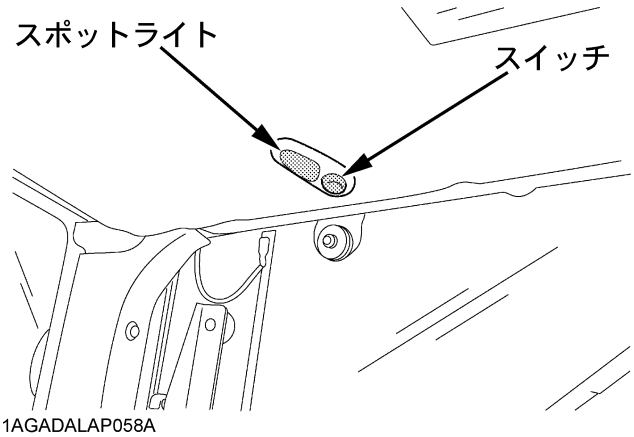
[ON]. . . . ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



1AGADALAP057A

■スポットライト

ヘッドライトスイッチがテールランプ（ヘッドランプ）点灯位置にある時にスポットライトが点灯できます。



1AGADALAP058A

ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

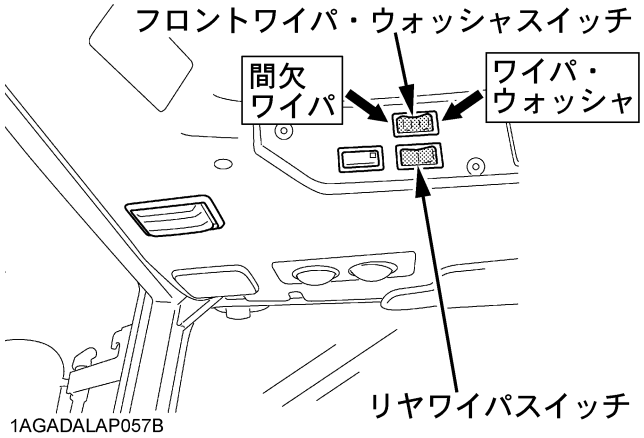
スイッチの右側（マーク）を１段押すとワイパが作動します。さらに２段目（マーク）を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
また，スイッチの左側（マーク）を１段押すと，間欠ワイパが作動します。(少雨時使用)
さらに２段目（マーク）を押すと，押している間のみワイパが作動したまま，ウォッシャ液が噴射します。

■リヤワイパ

スイッチの右側（ マーク）を１段押すとワイパが作動します。
さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウオッシャ液が噴射します。スイッチの左側（OFF マーク）を押込むと，ウオッシャ液が噴射します。

重　要

＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。
必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



■寒冷時のワイパの使用

1. 寒冷時には，ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
2. ガラスに雪が積もっているときには，雪を取除いてからワイパを使用してください。
3. ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは，必ずキースイッチを［切］にしてブレード部の氷を取除いてから再度起動させてください。
4. 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は，標準装着品と同サイズか，それ以下のサイズのものを使用してください。

重　要

＊ 寒冷時には，ワイパブレード及びワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため，ワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため，上記のことを必ず守ってください。

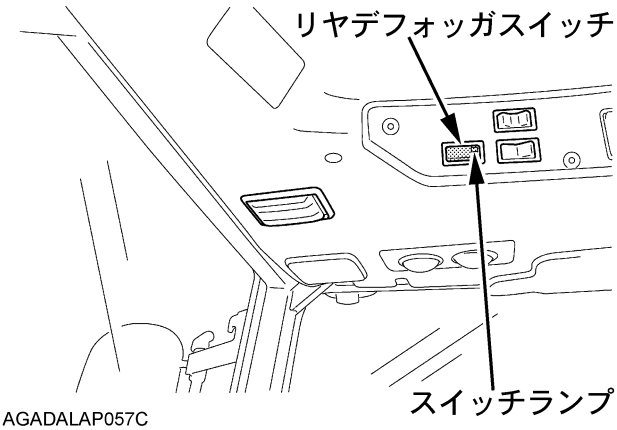
■リヤ・デフォッガスイッチ（熱線リヤスイッチ）

[GR1150・1250]

リヤウインドガラスにくもりが発生したとき，スイッチを押すとスイッチランプが点灯し，ガラスのくもりがとれます。
熱線は約 15 分間通電後，自動的に切れます。
手動で切りたいときは，再度スイッチを押してください。スイッチランプが消灯し，スイッチが切れます。

重　要

＊ 熱線に荷物などが当たらないようにしてください。

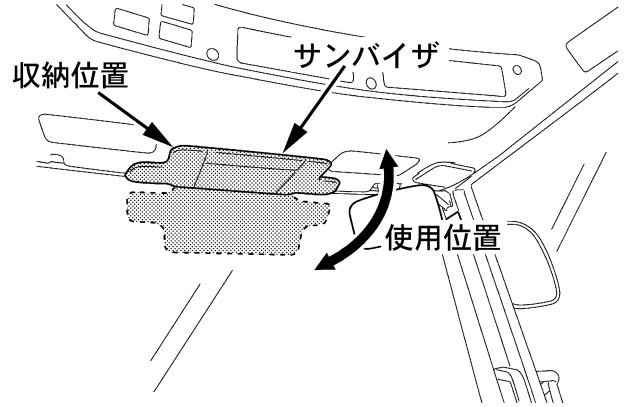


サンバイザ

注　意

- **サンバイザを適切な位置で使用しないと，前方視界がさえぎられたり，頭にあたったりするおそれがあります。**
- **サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進・停止時に物が落ちるおそれがあります。**

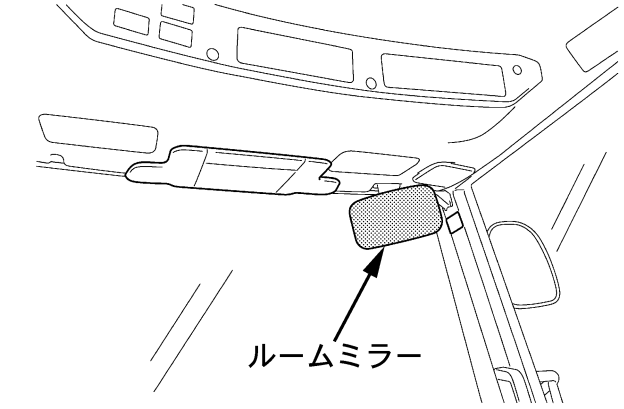
直射日光などでまぶしいときに使用します。
サンバイザは，収納位置より前へ押し下げて使用してください。



1AGADALAP045A

ルームミラー

ルームミラー全体を動かして，後方視界を確認しながら調節してください。
ルームミラーの調節は，必ずトラクタを運転する前に行ない，走行中には行なわないでください。



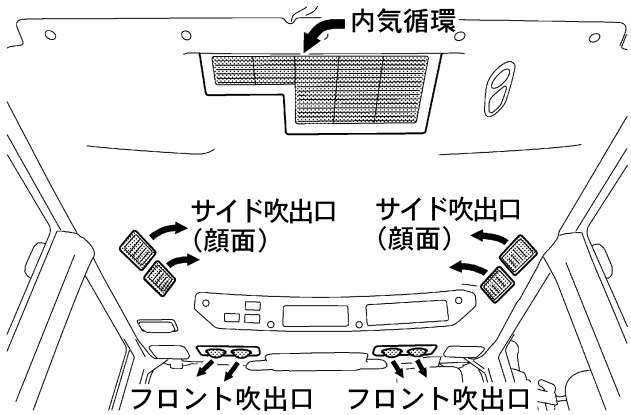
1AGADALAP045B

オートエアコン

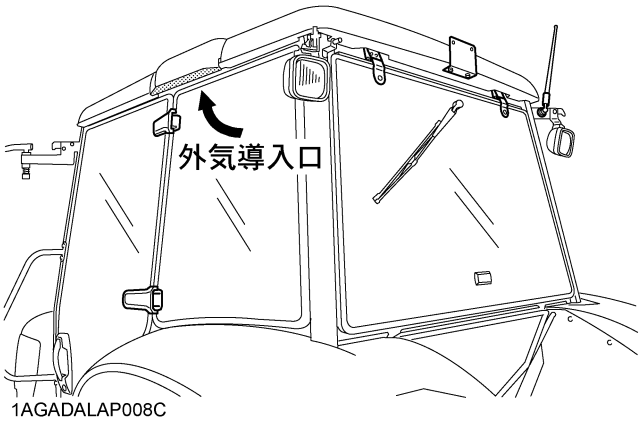
[GR1150・1250]

■空気の流れ

このエアコンは，マイコン制御により風量調整，吹出口温度調整，吹出口切替えを自動的に行ないます。コントロールパネルの **[AUTO]** スイッチを押すだけの操作でオールシーズン車内を快適に保ちます。



1AGADALAP060A

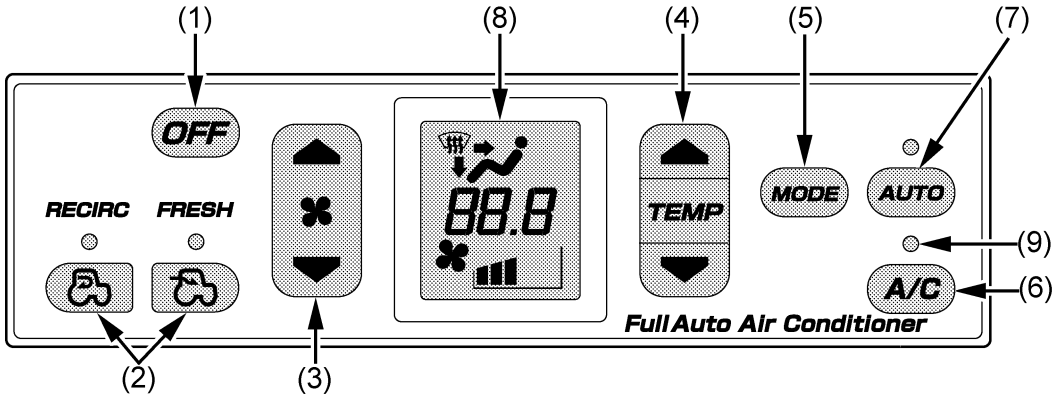


1AGADALAP008C

重　要

- 洗車時は外気導入口に，直接放水しないでください。

■コントロールパネルの名称と働き



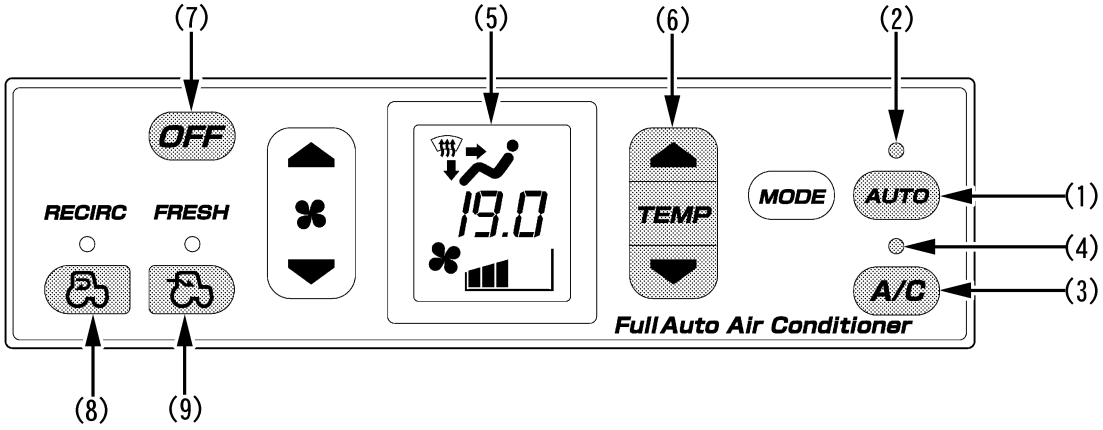
1AGADALAP098A

(8) 液晶モニタ
(9) 表示 LED（ランプ）

No.	スイッチ		働　き
(1)	エアコン停止スイッチ	OFF	エアコンの全作動を停止します。
(2)	内外気切換えスイッチ		内気循環に切換えます。（LED点灯）
			外気導入に切換えます。（LED点灯）（通常使用）
(3)	風量切換えスイッチ		▲側を押すと風量が増します。 ▼側を押すと風量が減少します。 風量は６段階に調節でき，液晶モニタに表示されます。 ①②③④⑤⑥
(4)	温度調節スイッチ	TEMP	▲側を押すと設定温度が上がります。 ▼側を押すと設定温度が下がります。 温度は18.0℃～32.0℃の範囲内で0.5℃刻みで調節でき，設定温度は液晶モニタに表示されます。
(5)	吹出口切換えスイッチ	MODE	スイッチを押すごとに下記のように切換わり，吹出し方向をモニタで表示します。 サイド吹出し口より吹き出します。 サイド吹出し口とフロント吹出し口より吹出します。 フロント吹出し口より吹出し増す。
(6)	エアコンスイッチ	A/C	エアコンコンプレッサが起動します。（LED点灯）
(7)	オートスイッチ	AUTO	オートエアコンが作動します。（LED点灯）

■操作方法

◆ 通常の使い方（オートモード運転）



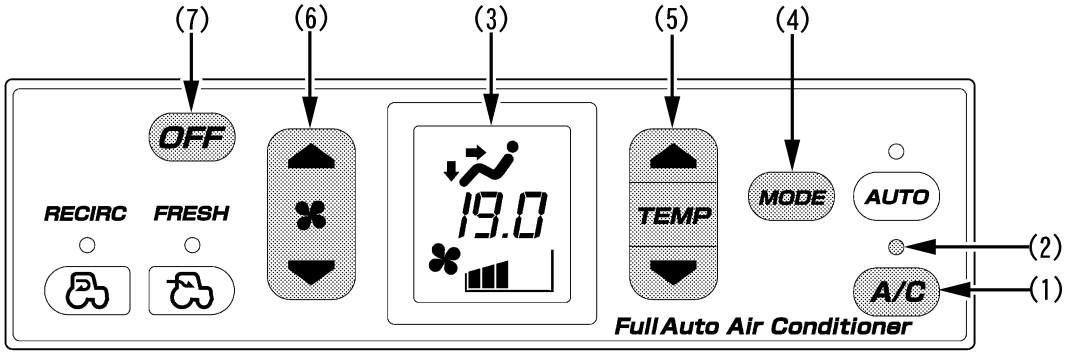
1AGADALAP098B

1. AUTO スイッチ (1) を押し LED(2) の点灯を確認します。
2. 冷房したいときは A/C スイッチ (3) を押し，LED(4) の点灯を確認します。
3. 液晶モニタ (5) に表示される温度を確認しながら，温度調節スイッチ (6) で希望温度に設定します。
4. 以上の操作で快適な運転が行なえます。作動を停めたいときは OFF スイッチ (7) を押します。

補　足

＊ 外気が汚れているときや，早く冷暖房したいときは内気循環スイッチ (8) を押してください。通常は外気導入 (9) で使用します。
＊ エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため，しばらくの間ファンが作動しないことがあります。
＊ 設定温度と外気温度の差が大きいとき，ファンは最高回転で回り，温度差が小さくなるにしたがってファンの回転は自動的に下がります。

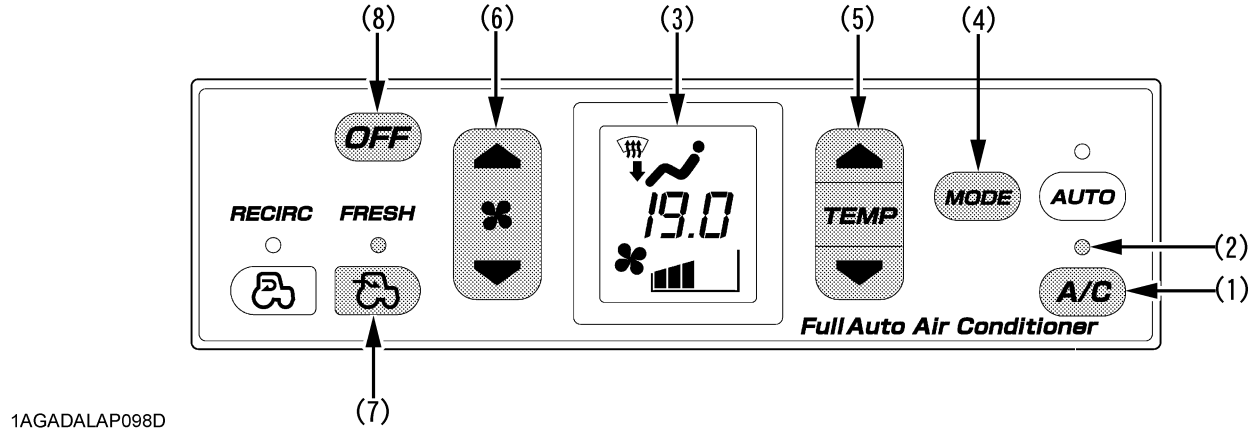
◆ 頭寒足熱型にしたいとき（手動モード運転）



1AGADALAP098C

1. エアコンスイッチ (1) を押し LED(2) の点灯を確認します。
2. 液晶モニタ (3) に が表示されるまで吹出し口切換えスイッチ (4) を押し選択します。
3. 液晶モニタ (3) に表示される温度を温度調節スイッチ (5) で，風量を風量切換えスイッチ (6) で設定します。
4. 作動を停めたいときは OFF スイッチ (7) を押します。

◆ ガラスの曇りを取るとき（手動モード運転）



1. エアコンスイッチ (1) を押し LED(2) の点灯を確認します。
2. 液晶モニタ (3) に が表示されるまで吹出し口切換えスイッチ (4) を押し選択します。
3. 液晶モニタ (3) に表示される温度を温度調節スイッチ (5) で，風量を風量切換えスイッチ (6) で設定します。
4. 内外気切換えスイッチ (7) を押し，外気導入に切換えます。
5. 作動を停めたいときは OFF スイッチ (8) を押します。

補　足

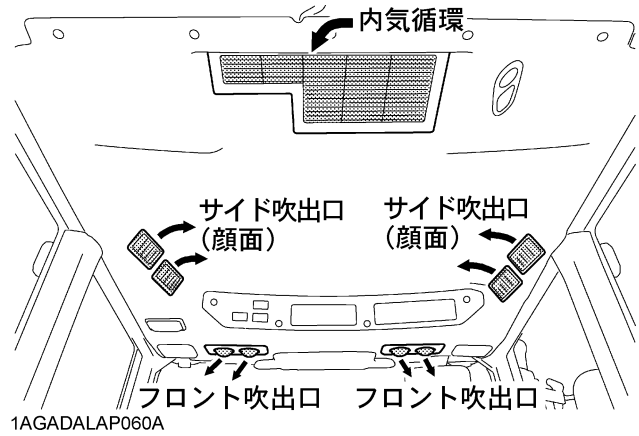
＊ 外気温度が 0 ℃近くまで下がると，エアコンスイッチを ON にしても除湿機能が作動しません。

エアコン

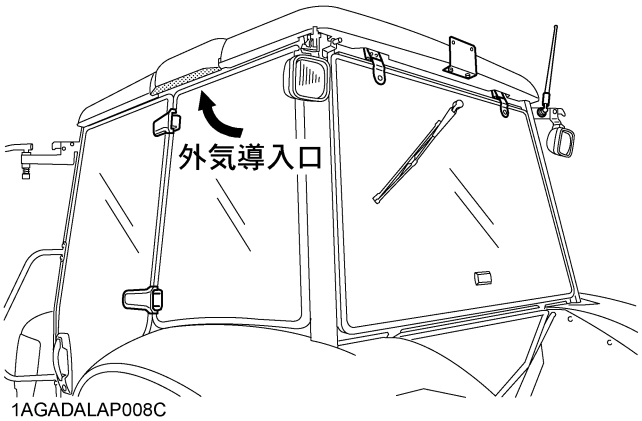
[GR850・950・1050]

■空気の流れ

キャブ内の空気の流れ及び外気導入は，図の通りです。８カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



1AGADALAP060A

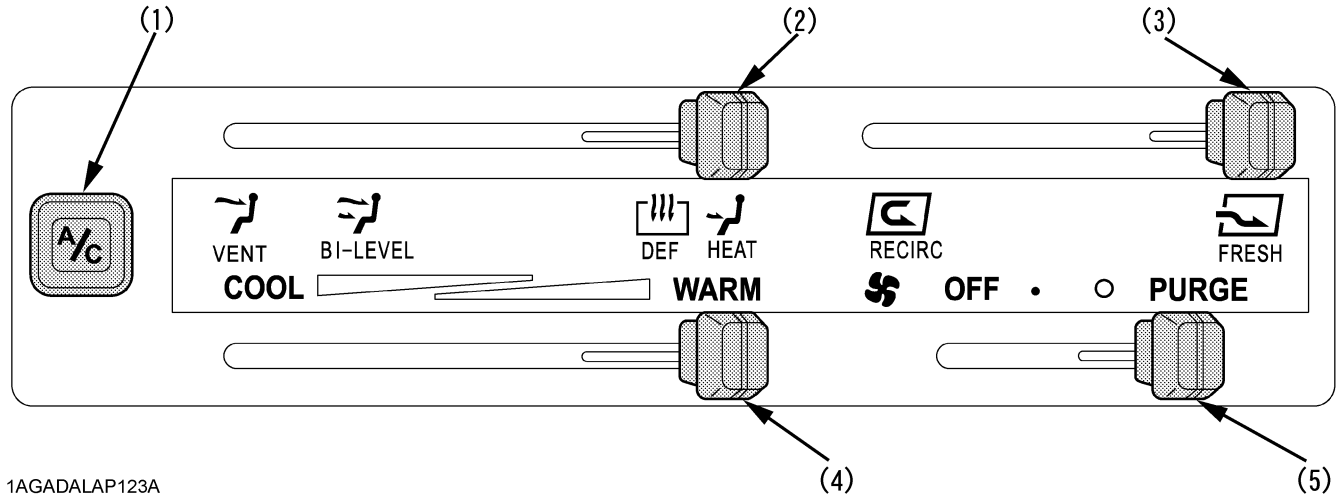


1AGADALAP008C

重　要

＊ 洗車時は外気導入口に，直接放水しないでください。

■コントロールパネルの名称と働き



1AGADALAP123A

No.	レバー／スイッチ		働き
(1)	エアコンスイッチ	A/C	エアコンコンプレッサが起動します。
(2)	吹出口切換えレバー	VENT	サイド吹出し口より吹き出ます。
		BI-LEVEL	サイド吹出し口とフロント吹出し口より吹き出ます。
		DEF / HEAT	フロント吹出し口より吹き出ます。
(3)	内外気切換えレバー	RECIRC	内気循環に切換えます。
		FRESH	外気導入に切換えます。
(4)	温度コントロールレバー	COOL WARM	レバーを**［右］**に寄せると温風，**［左］**に寄せると冷風が出ます。
(5)	ファンスイッチ	OFF	エアコンの全作動を停止します。
		●	ブロアファンが**［低］**で回転します。
		○	ブロアファンが**［中］**で回転します。
		PURGE	ブロアファンが**［高］**で回転します。

■操作方法

◆ 暖房

室内を暖房するとき DEF HEAT , FRESH , にセットします。暖かくなりすぎるときはのスピードを下げるか, 温度コントロールレバーを左に寄せてください。
外の空気が汚れているときは RECIRC に切換えますが, ガラスがくもりやすくなるので, 長時間の使用は避けてください。

◆ 除湿暖房

室内の除湿をするときは, 各レバーを DEF HEAT , FRESH , にセットし, エアコンスイッチ A/C を **[ON]** にしてください。
室温は温度コントロールレバーとファンで調整します。

◆ デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは DEF HEAT , FRESH , にセットし, 吹出口（前４カ所）をフロントガラスに向けてください。

◆ 換気，冷房

換気したいときは FRESH , にセットします。
冷房するときは VENT にしたのち，エアコンスイッチ A/C を **[ON]** にしてください。
室温は温度コントールレバーとファンで調整します。

◆ 頭寒足熱

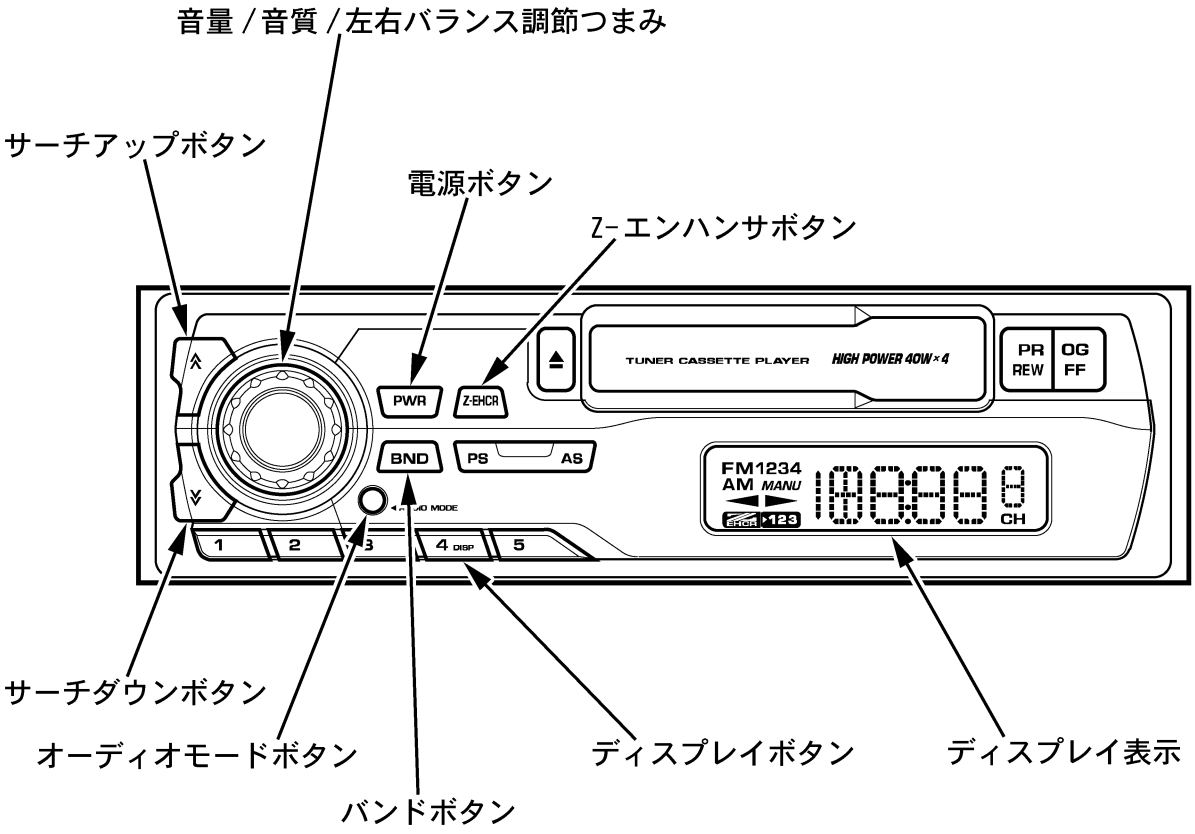
顔が涼しく，足元が暖かい快適な状態を得るには, BI-LEVEL , FRESH , にセットし，エアコンスイッチ A/C を **[ON]** にし, 温度コントロールレバーは中間位置を使用してください。

AM / FM ラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

注 意

＊ 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

共通部の操作のしかた



1AGADALAP155A

■電源の入／切

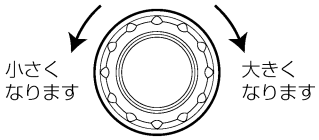
電源ボタン PWR を押すと電源が入り，再度押すと切れます。

補　足

＊電源が**【切】**状態でも，キースイッチが**【ON】**または**【ACC】**位置では，時計が表示されます。

■音量調節

調節つまみを左右に回し調節します。



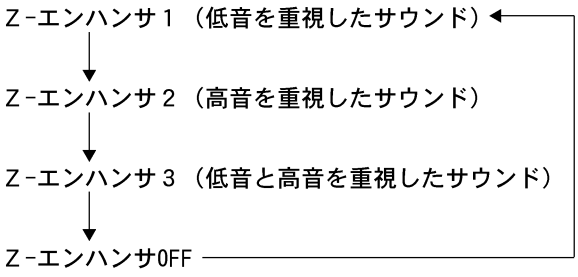
補　足

＊調節時はディスプレイに音量値が**Vo0～Vo33**の範囲内で表示されます。

■音質調整

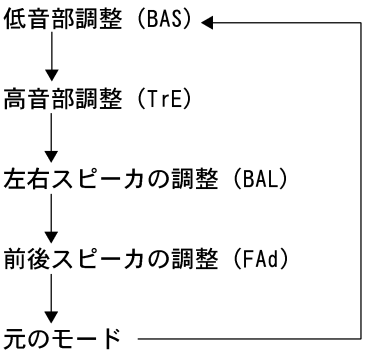
◆音質自動ワンタッチ設定

1. Z-エンハンサボタン Z-EHCR を押し，ディスプレイに Z-EHCR ×1 ランプが点灯したことを確認します。
2. Z-エンハンサボタン Z-EHCR を押し，下記よりお好みの音質を設定してください。

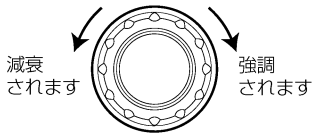


◆音質手動設定

1. オーディオモードボタンを押して，**【BAS】**または**【TrE】**を選択します。
   ボタンを押すごとにディスプレイに下記が表示されます。



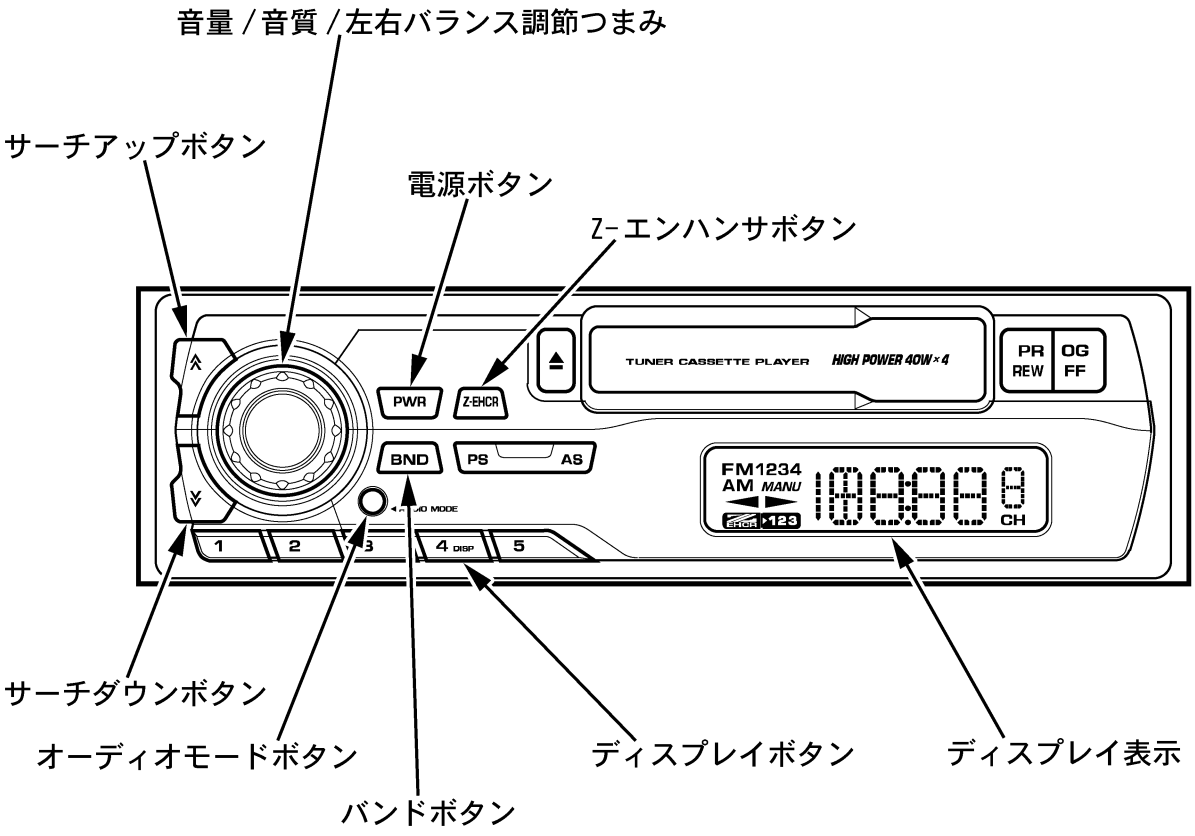
2. 調節つまみを左右に回し調節します。



補　足

＊音質はZ-エンハンサ機能が**【OFF】**のとき調整できます。

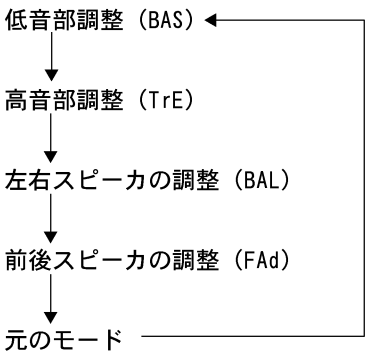
3. オーディオモードボタンを再度押すと設定が完了します。



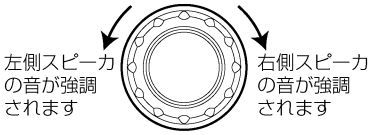
1AGADALAP155A

■左右スピーカの音量バランス調整

1. オーディオモードボタンを押して，【BAL】を選択します。
   ボタンを押すごとにディスプレイに下記が表示されます。



2. 調節つまみ左右に回し調節します。

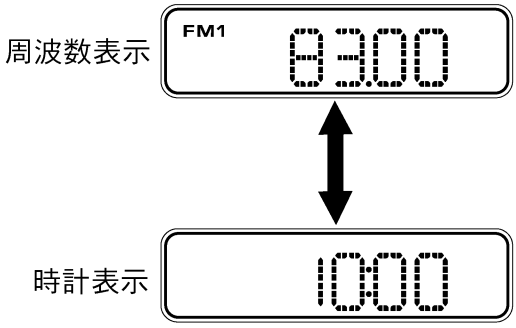


3. オーディオモードボタンを再度押すと設定が完了します。

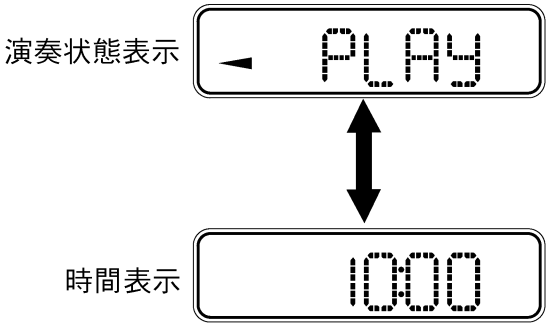
■時計表示への切換え

1. バンドボタン BND を押しながらディスプレイボタン 4 DISP を押すと表示が切換わります。

● ラジオモードの場合

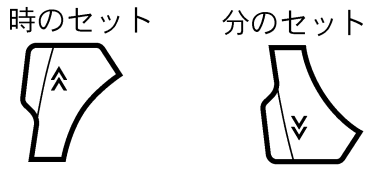


● テープモードの場合



■時刻合わせ

1. バンドボタン BND を押しながらディスプレイボタン 4 DISP を押し，時計表示に切換えます。
2. バンドボタン BND を押しながらディスプレイボタン 4 DISP を約１秒間押し続けます。
3. サーチアップボタンまたはサーチダウンボタンを押して，時刻を合わせます。

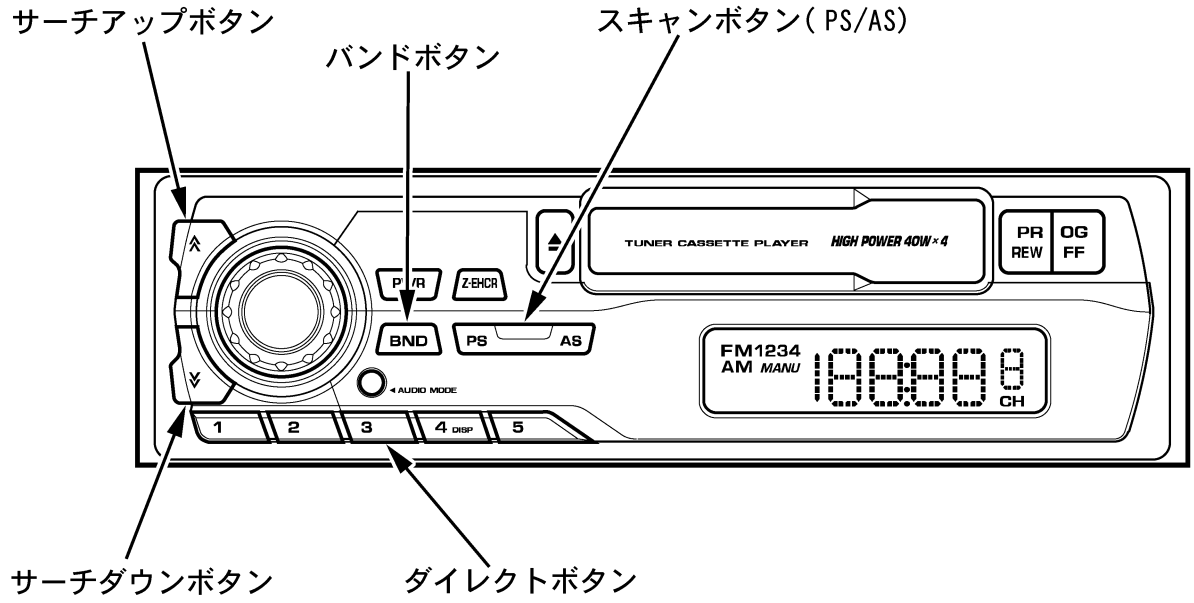


補　足

＊サーチアップボタンまたはサーチダウンボタンを押すたびに，時または分が進みます。
＊時計は12時間表示で，午前午後の表示はありません。

4. バンドボタン BND を押すと設定が完了します。

ラジオを聞くには



1AGADALAP155B

■受信バンドの選択

1. バンドボタン [BND] を押し，下記よりお好みのバンドを選択します。
   選択状態はディスプレイに表示されます。



補　足

＊カセットテープが挿入されている場合，イジェクトボタン [▲] を押してテープを取り出してください。

■プリセット選局のしかた

あらかじめ下記（自動又は手動）手順でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（1～5）を押すだけで選局できます。



■自動選局と登録のしかた

登録できる数はFM1，FM2，AM1，AM2の各バンドごとに５局ずつ，計20局です。

1. バンドボタン [BND] でメモリさせたいバンド（FM1，FM2またはAM1，AM2）を選択します。
2. スキャンボタンのAS側 [AS] ボタンを約２秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1～5）に登録されます。

補　足

＊電波の弱い場所では５局すべて登録されない場合もあります。

■手動選局と登録のしかた

登録できる数はFM1，FM2，AM1，AM2の各バンドごとに５局ずつ，計20局です。

1. バンドボタン [BND] でメモリさせたいバンド（FM1，FM2またはAM1，AM2）を選択します。
2. サーチアップボタンまたはサーチダウンボタンを押して登録したい放送局を選択します。



3. 登録させたいダイレクトボタン（1～5）を約２秒間押すと登録されます。

■登録の確認

1. スキャンボタンのPS側 [PS] ボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
2. スキャンボタン [PS AS] を再度押すと解除されます。

■自動選局のしかた

1. ディスプレイに【MANU】が点灯しているときは，バンドボタン [BND] を約２秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチアップボタンまたはサーチダウンボタンを押します。



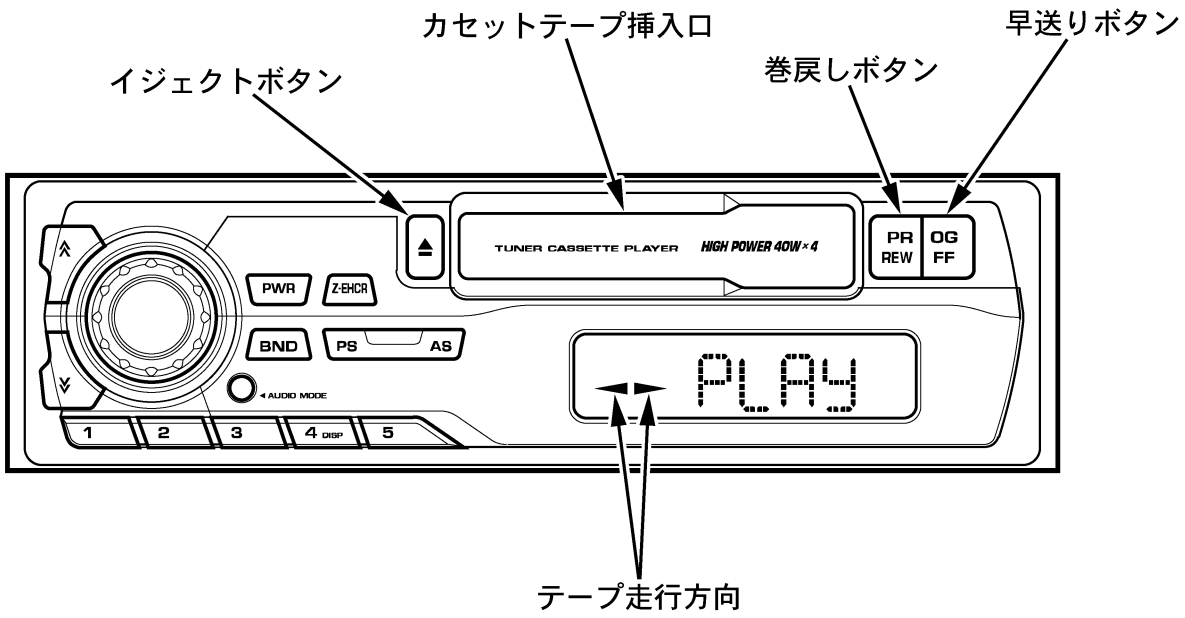
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

■手動選局のしかた

1. ディスプレイに【MANU】が消灯しているときは，バンドボタン [BND] を約２秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチアップボタンまたはサーチダウンボタンを押して，放送のあるところに合わせます。



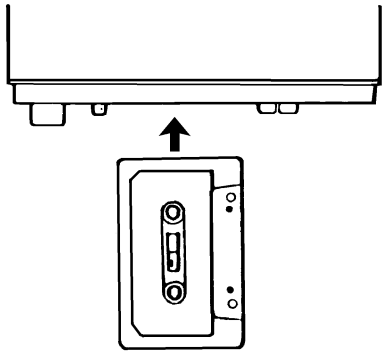
テープを聞くには



1AGADALAP155C

■カセットテープの挿入

カセットテープのテープ面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に演奏を開始します。
このとき，ディスプレイに走行方向（►または◄が）表示されます。



1AGALAFAP301A

■演奏面の切換え

巻戻しボタン [PR REW] と早送りボタン [OG FF] を同時に押してください。演奏面が変わると同時にテープ走行表示の点灯も変わります。本機はオートリバースメカを使用していますので，テープ再生あるいは早送りでテープが終端まで巻取られると，自動的にテープ走行が変わり，反対面が再生されます。
テープを入れたままにしておきますとＡ面Ｂ面を繰り返し演奏を続けます。

■早送り

早送りボタン [OG FF] をロックするまで押してください。テープの走行表示（►または◄）が点滅に変わります。
解除するときは，巻戻しボタン [PR REW] を軽く押してください。

■巻戻し

巻戻しボタン [PR REW] をロックするまで押してください。テープ走行表示（►または◄）が点滅に変わります。
解除するときは，早送りボタン [OG FF] を軽く押してください。

■カセットテープの再生停止と取出し

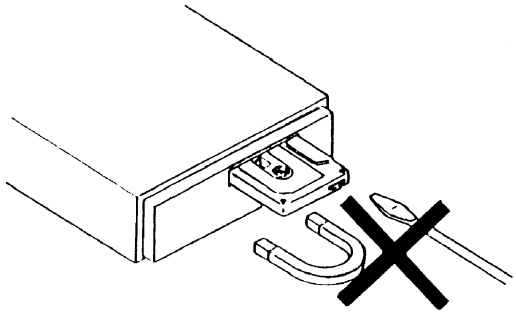
イジェクトボタン [▲] を押すとテープ再生停止後，カセットテープが取出され，ラジオモードに切換わります。

補　足

＊カセットテープを聞かないときは，必ずイジェクトボタン [▲] を押してテープを取出してください。カセットテープを挿入したまま長時間放置するとテープ変形等を起こします。

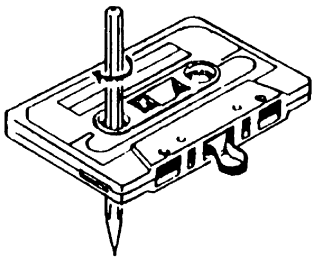
取扱い上の注意

1. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。



1AGALAFAP304A

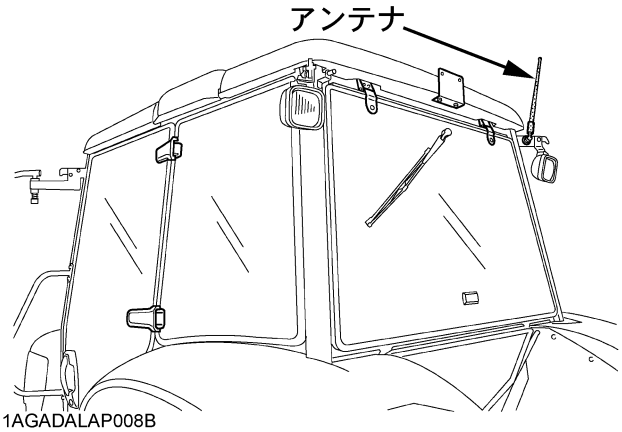
3. カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。



1AGALAFAP303A

4. カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押して挿入してください。
5. C-120 タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。
8. 車内の温度に気をつけてください。極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。
9. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
10. 本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは全体に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。
11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高温，多湿の場所（ダッシュボード上やシートの上）への長時間放置もさけてください。

■アンテナ



1AGADALAP008B

重 要

＊ アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

■お問合わせ

このAM/FMラジオ付カセットプレーヤのお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。

クラリオンサービス（株）
お客様相談室
TEL 0120-112-140
（土・日・祝除く / AM9:00 ～ 12：00
PM1:00 ～ 5：30）
048-541-2964
FAX 048-541-2069

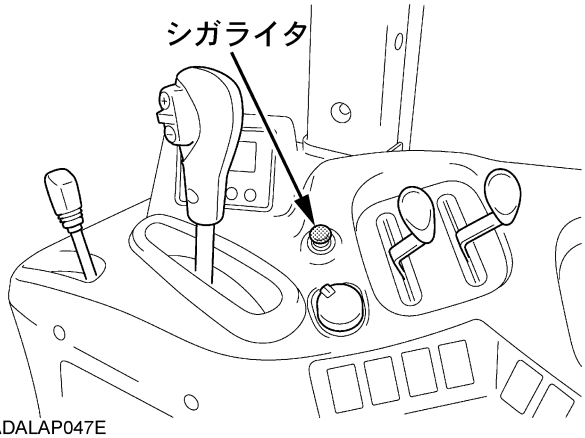
灰皿

■シガライタ

注　意

＊ シガライタの金属部には手を触れないでください。高温でヤケドをするおそれがあります。

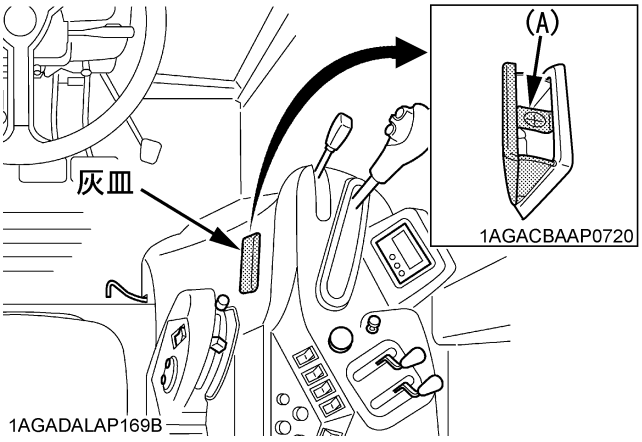
1. シガライタはキースイッチが **[ACC]** 又は **[入]** のときに，使用できます。
2. シガライタを押し込んで手を離し，元の位置に戻るまで待った後，使用します。



1AGADALAP047E

◆ アッシュトレイ（灰皿）

1. 上部を手前に引出して使用します。
2. 清掃するときは，(A) 部を押し下げて，手前に引出すと外れます。

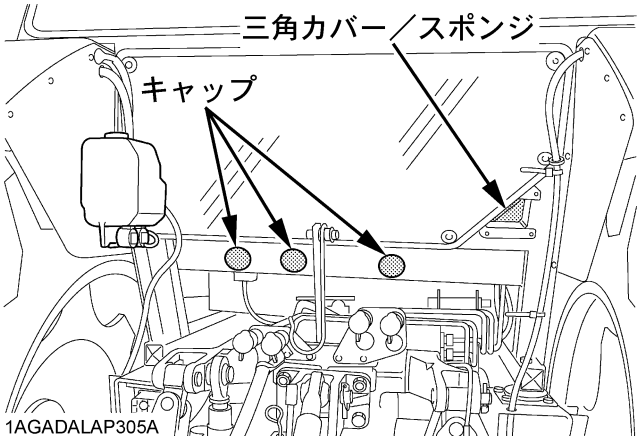


1AGADALAP169B　1AGACBAAP0720

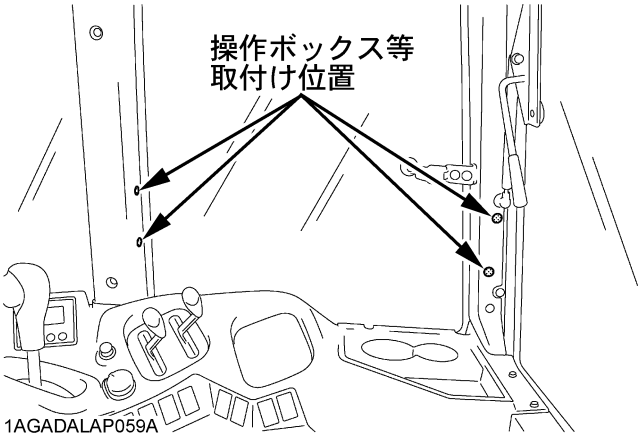
インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの取付

ゴムキャップに穴又は切り込みを開けます。又は三角カバーを外し，スポンジに穴又は切込みを開け，インプルメント用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



1AGADALAP305A



1AGADALAP059A

補　足

＊ 樹脂プラグを外すと奥に M6 ナットがあります。

＊ 操作ボックスが大きく三角コーナ部を通らないときは，リヤガラスを外し操作ボックス用コードをスポンジ部に収納してください。

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

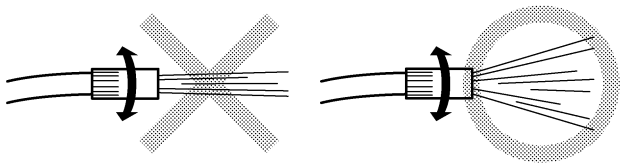
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

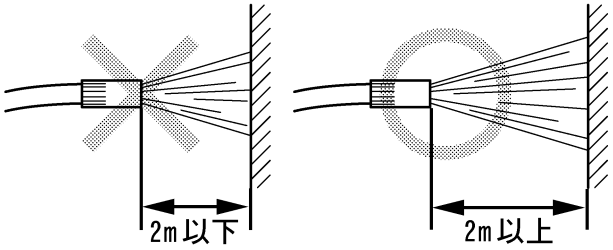
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕
次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	時期 / 項目			アワーメータ表示時間 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	それ以降	参照ページ
1	エンジンオイル		交換	◎					○						○			300 時間ごと	131
2	エンジンオイルフィルタ		交換	◎											○			600 時間ごと	133
3	ミッションオイル		交換	◎											○			600 時間ごと	134
4	油圧オイルフィルタ（吸入側）		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	127
5	油圧オイルフィルタ（戻り側）		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	128
6	前部デフケースオイル		交換	◎											○			600 時間ごと	134
7	前輪ケースオイル（左右）		交換	◎											○			600 時間ごと	135
8	エンジン始動システム		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	118
9	タイヤ取付けボルト		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	119
10	クラッチハウジング		水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	119
11	パワーステアリングホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	119
			交換															2 年ごと	138
12	燃料ホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	120
			交換															2 年ごと	138
13	バッテリ電解液		点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	121
14	エアクリーナエレメント【GR850・950・1050】		清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	123
			交換															1 年又は 6 回洗浄後	136
15	エアクリーナエレメント【GR1150・1250】	アウター	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	123
			交換															1 年又は 6 回洗浄後	136
		インナー	交換															1 年ごと	136
16	ファンベルト		調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	124
17	ブレーキペダル		点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	124
18	駐車ブレーキ		調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	125
19	グリースの注入		—		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	125
20	トーイン，タイロッド		点検				○				○				○			200 時間ごと	129
21	ラジエータホース		点検				○				○				○			200 時間ごと	127
			交換															2 年ごと	138
22	燃料タンク		水抜き				○				○				○			200 時間ごと	129
23	燃料フィルタ		交換								○							400 時間ごと	132
24	ブレーキオイル		交換												○			600 時間ごと	135
25	前部デフケース前後遊び		調整												○			600 時間ごと	135
26	前輪ケース回動トルク		調整												○			600 時間ごと	135
27	エンジンバルブクリアランス		点検															800 時間ごと	136
28	ラジエータ		洗浄															2 年ごと	138
29	冷却水		交換															2 年ごと	136
30	ブレーキホース／ブレーキタンクホース		交換															2 年ごと	138
31	クラッチホース		交換															2 年ごと	138

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
32	デフロックホース	交換															2年ごと	138
33	マスタシリンダ / イコライザキット	交換															2年ごと	138
34	ブレーキシール1，2	交換															2年ごと	138
35	アシストシリンダホース	交換															2年ごと	138
36	傾斜シリンダホース **[J仕様]**	交換															2年ごと	138
37	燃料系統の空気抜き	—															必要に応じて	139
38	ブレーキ系統の空気抜き	—															必要に応じて	140
39	ヒューズ類	交換															必要に応じて	140，141
40	ランプ類	交換															必要に応じて	142

[キャブ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	内気(室内エア)フィルタ	清掃				○				○				○			200時間ごと	129
2	外気フィルタ	清掃				○				○				○			200時間ごと	130
3	エアコンコンデンサ	清掃				○				○				○			200時間ごと	130
4	エアコンベルト	調整				○				○				○			200時間ごと	131
5	エアコン配管，ホース	点検															1年ごと	136
6	ウオッシャ液	補充															必要に応じて	142

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">給油（水）項目</th><th colspan="5">容　　量（L）</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr>
<tr><th>GR850</th><th>GR950</th><th>GR1050</th><th>GR1150</th><th>GR1250</th></tr>
<tr><td>1</td><td>燃　　料</td><td colspan="5">190</td><td>ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>2</td><td>冷　却　水
（リザーブタンク）</td><td colspan="3">9.0（1.1）</td><td colspan="2">14.5（2.3）</td><td>清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ウォッシャ液</td><td colspan="5">1.3</td><td>自動車用ウォッシャ液</td></tr>
<tr><td>4</td><td>エンジンオイル
（フィルタ含む）</td><td colspan="3">10.5</td><td colspan="2">20.8</td><td>純正オイル（ディーゼルエンジン用）D30 スーパー CD 又は D10W-30 スーパーCD CC 級使用不可，CD 級以上のみ使用</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ミッションオイル
（油圧オイル）</td><td colspan="5">60</td><td rowspan="5">純正オイル
スーパー UDT</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ブレーキオイル
（タンク・配管）</td><td colspan="5">0.3</td></tr>
<tr><td>7</td><td>前部デフケース</td><td colspan="3">6.0</td><td colspan="2">12.0</td></tr>
<tr><td>8</td><td>前輪（ベベルギヤ）
ケース左・右</td><td colspan="3">各 3.5</td><td colspan="2">各 4.5</td></tr>
<tr><td>9</td><td>各操作レバー
・ペダル支点</td><td colspan="5">注　　油</td></tr>
<tr><td>10</td><td>三点リンク</td><td colspan="5">注入・塗布</td><td rowspan="3">極圧（万能）グリース</td></tr>
<tr><td>11</td><td>バッテリターミナル</td><td colspan="5">塗　　布</td></tr>
<tr><td>12</td><td>アシストシリンダ
ステアリングジョイント軸
前輪ケースサポート
前車軸受</td><td colspan="5">注　　入</td></tr>
</table>

注）グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル・ブレーキオイル 前部デフケースオイル・前車軸ケースオイル
新日本石油	純正オイル （ディーゼルエンジン用） D30 スーパー又は D10W-30 スーパー CD	純正オイル スーパー UDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メーカ	商品名	用　途
新日本石油	エピノックグリース AP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックス EP2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックス EP2	
昭和シェル石油	アルバニヤ EP グリース 2	
富士興産	フッコール EP2	
出光興産	ダフニーエポネックス SR2	
モービル	モービラックス EP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコン EP2	
協同油脂	マルテンプ PS2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

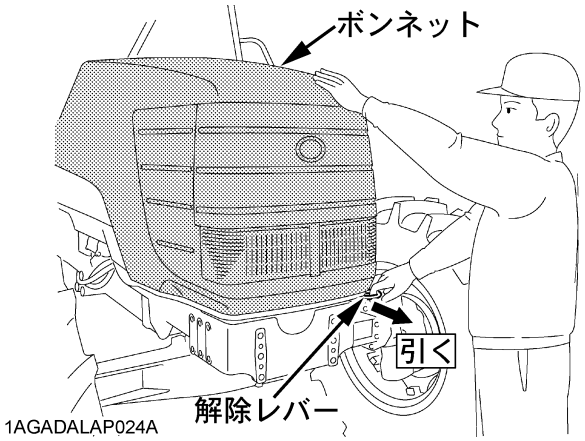
注　意

＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

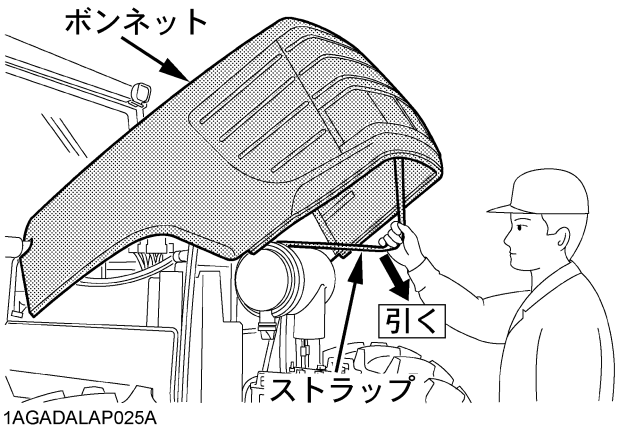
◆ ボンネットの開け方

1. 片手でボンネットを軽く押えながら，ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



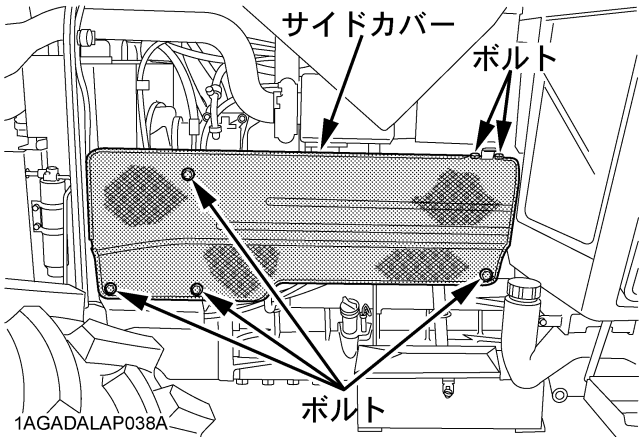
◆ ボンネットの閉め方

1. ストラップを引きボンネットを閉めます。
2. 両手でボンネットを上から押え，ロックします。
3. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。



■サイドカバーの取り外し

図で示すボルトを外してください。



日常点検

注　意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

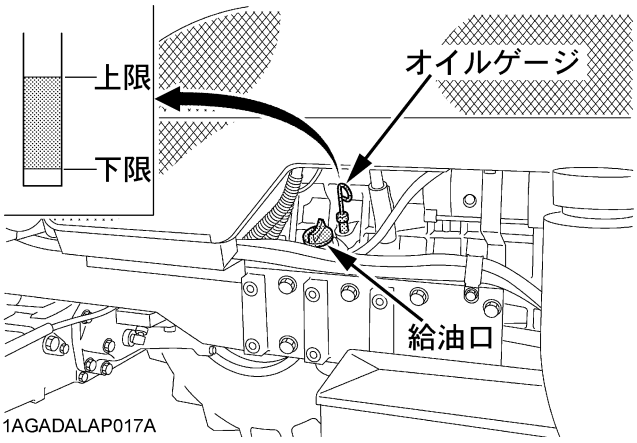
■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

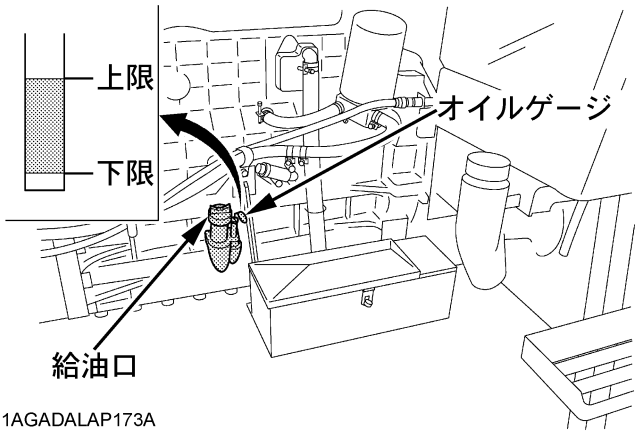
1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。

[GR850・950・1050]



1AGADALAP017A

[GR1150・1250]



1AGADALAP173A

重　要

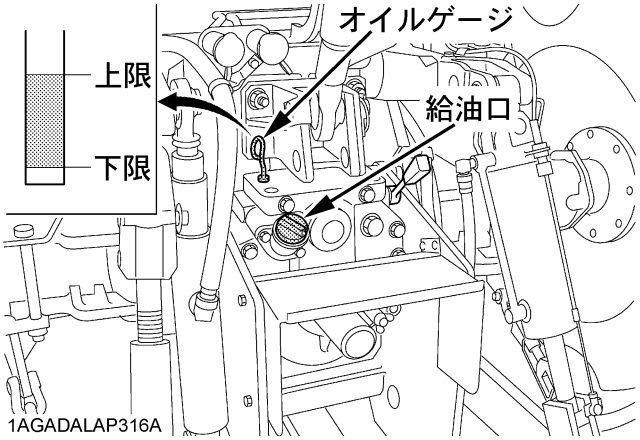
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



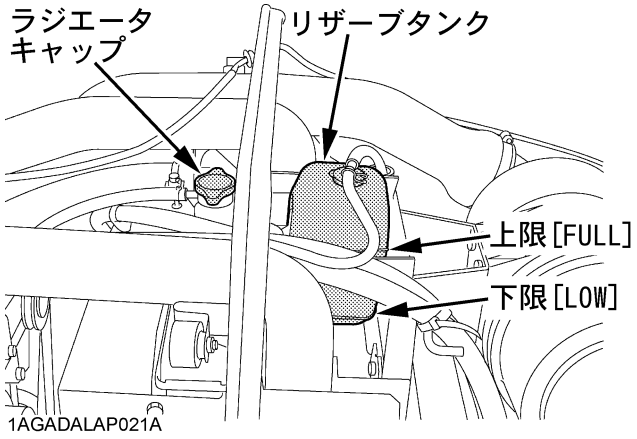
■冷却水の量

注　意

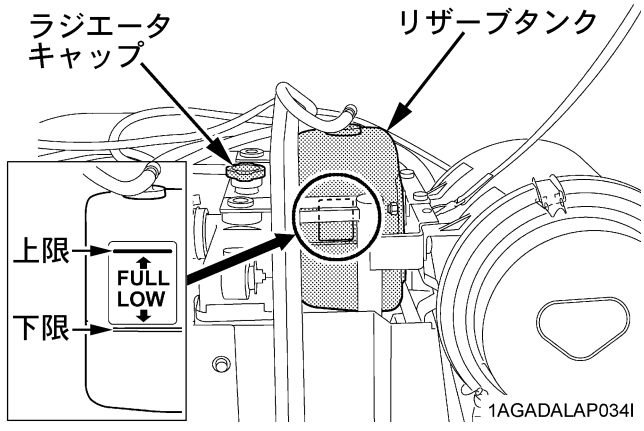
＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**[FULL から LOW の範囲]**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。
リザーブタンクの量が LOW 以下の場合は，ラジエータキャップを外してその口元までクーラントが入っているか確認してください。少ない場合は口元まで補給してください。

[GR850・950・1050]



[GR1150・1250]



補　足

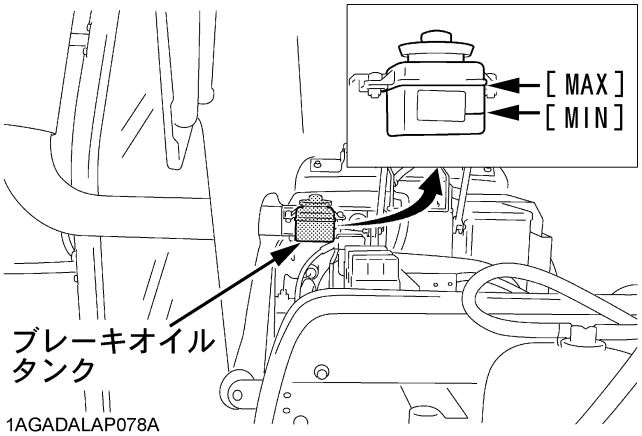
＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■ブレーキオイルの量

注　意

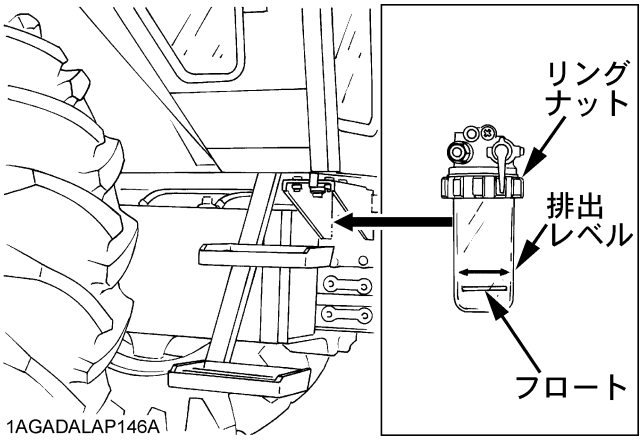
＊ 必ず指定のブレーキオイル（鉱物油系）を使用してください。
＊ ブレーキオイルは，必ず使用中のオイルと同じオイルを補給してください。異なるメーカや種類のオイルを補給して，混合使用は絶対にしないでください。特に市販の自動車用ブレーキオイルが混入すると，ブレーキが作動不能となるおそれがありますので十分注意してください。
誤って混入した場合ただちに指定のブレーキオイルで洗浄して，マスタシリンダからブレーキピストンまでのシール部品をすべて交換してください。

1. **[MAX]** と **[MIN]** の間に液面があるか調べます。
2. **[MIN]** 以下の場合はブレーキ系統のオイル洩れを点検し，補給してください。

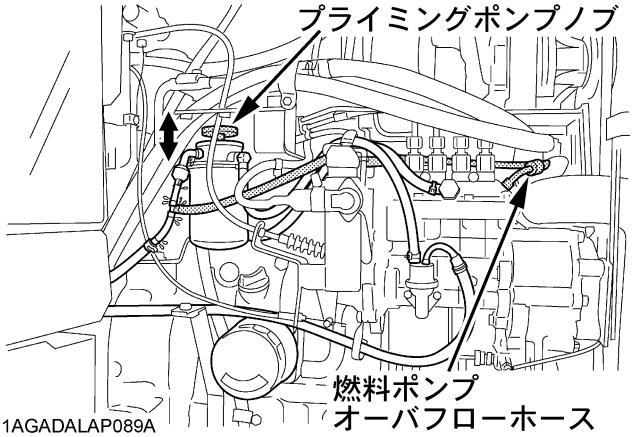


■セパレータの水の排出

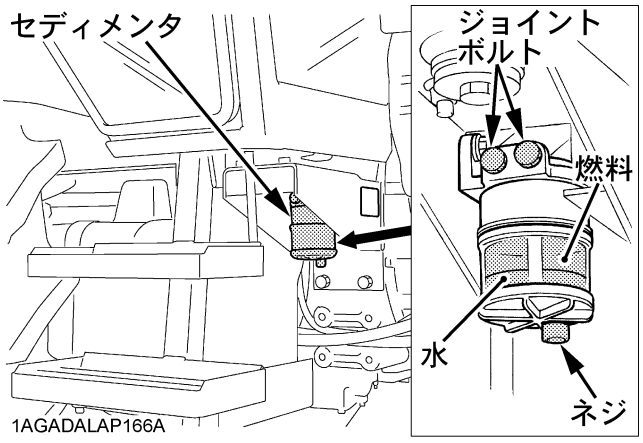
[GR850・950・1050]



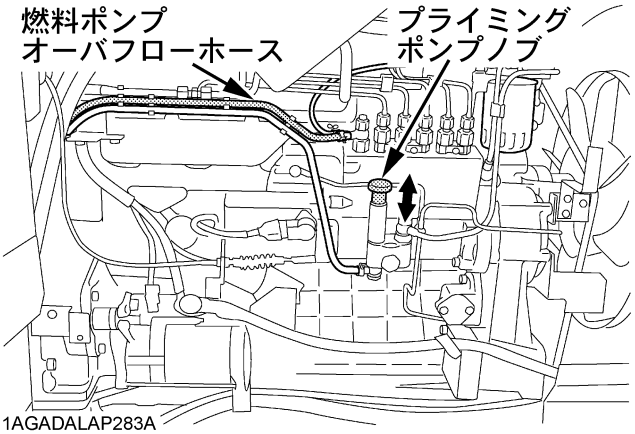
1. 分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上ります。フロートが排出レベル（←→印）に達したときは，燃料コックを閉めリングナットをゆるめてカップを取外し排出してください。
2. このときエレメントを破らないように注意して清掃してください。
3. カップ再セット後，燃料フィルタ上部のプライミングポンプを上下に動かし，カップの中に燃料を充満させてください。このとき充満した後も更にポンプを 10 ～ 15 回押してください。



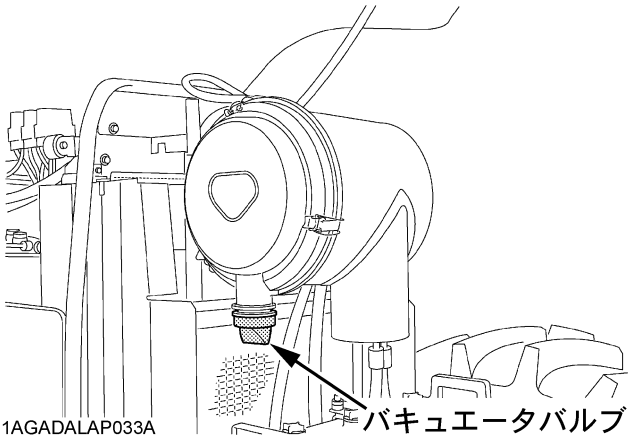
■セディメンタの水の排出
[GR1150・1250]



1. 水が分離されているか調べてください。
   (目視して燃料と水の層ができているか調べる。)
2. 水が分離されている時は下のネジをゆるめて排出し水が抜けて燃料が流れ出るようになったらネジを締めます。この時ジョイントボルトを少しゆるめると排出が早くできますが排出後は必ず締め付けてください。
3. たくさん排出した時（100cc 以上）はプライミングポンプを押してセディメンタ内に燃料を充満させてください。



■バキュエータバルブの清掃
バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



■ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換

注　意

＊ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性など充分考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリおよび電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ゴミ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

下記項目を点検してください。
1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

補　足

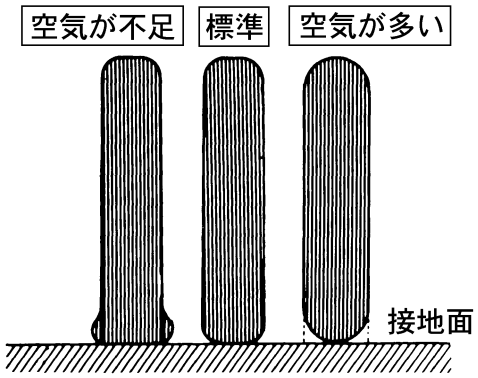
＊ 点検時，３点リンク装着作業機は取外してください。

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



1AGAAAPAP007A

◆ 標準空気圧

● バイアス　　[ ] 内はローダ装着時

前輪 kPa (kgf/cm²)		後輪 kPa (kgf/cm²)	
9.5-24	220(2.2) [240(2.4)]	13.9-36 16.9-34 18.4-30 18.4-34	120(1.2)
11.2-24	180(1.8) [200(2.0)]		
12.4-24 13.6-24	160(1.6) [180(1.8)]	14.9-38 18.4-38	140(1.4)
14.9-24	140(1.4) [160(1.6)]	12.4-38 13.6-38 16.9-38	160(1.6)

● ラジアルタイヤ　　[ ] 内はローダ装着時

前輪 kPa (kgf/cm²)		後輪 kPa (kgf/cm²)	
9.5R24 11.2R24 12.4R24 13.6R24 14.9R24	140(1.4) [160(1.6)]	13.6R38 16.9R34 16.9R38 18.4R38	140(1.4)

■防虫網の清掃

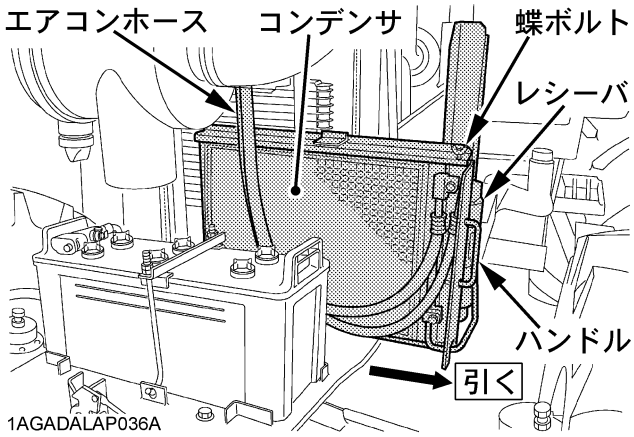
注　意

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。十分冷えてから点検・清掃を行なってください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。
目詰まりがないよう点検，清掃してください。

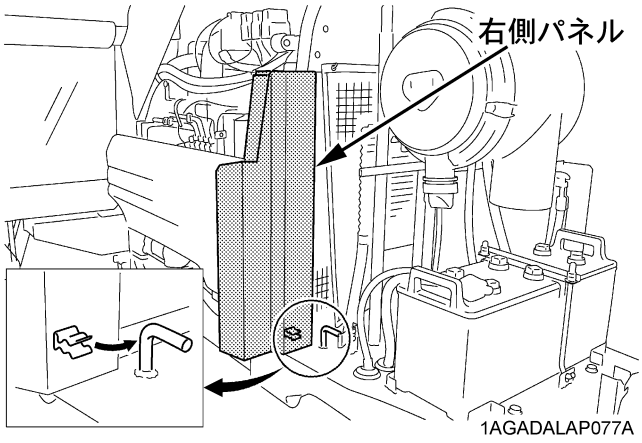
◆エアコンコンデンサの引出し

1. 蝶ボルトをゆるめます。
2. ハンドルを持ち手前に引きます。



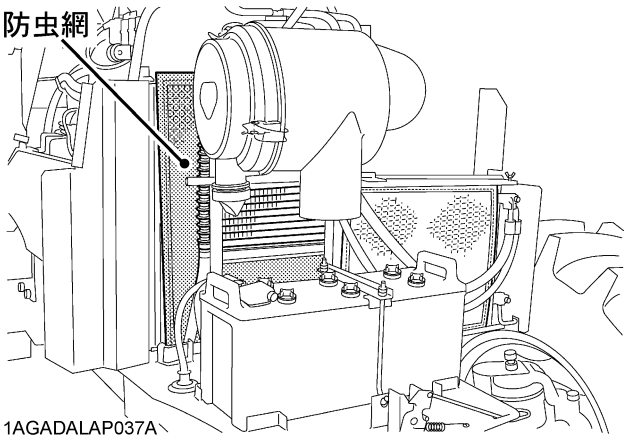
◆右側パネルの開閉

パネル前部を外方向へ引き開きます。閉める時は内側へロックされるまで押してください。

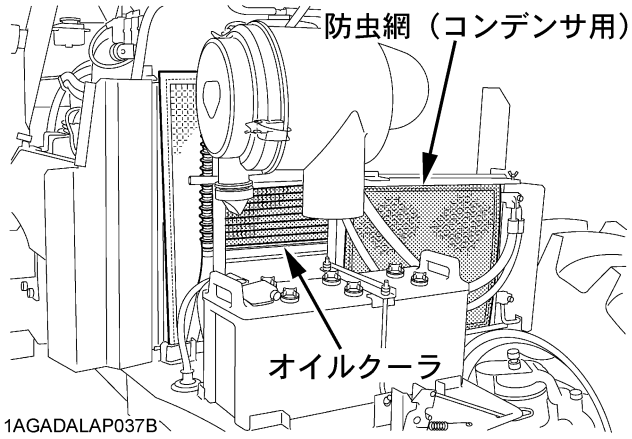


◆ラジエータ用防虫網

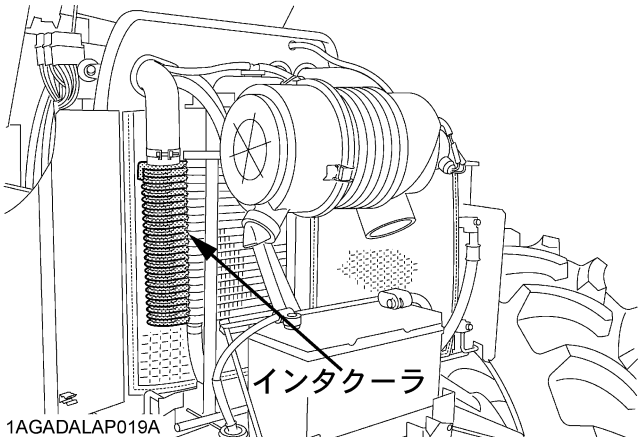
取外して清掃してください。
又，ゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



◆エアコンコンデンサ用防虫網
◆オイルクーラ
目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



◆インタクーラ
【GR1050】
目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。

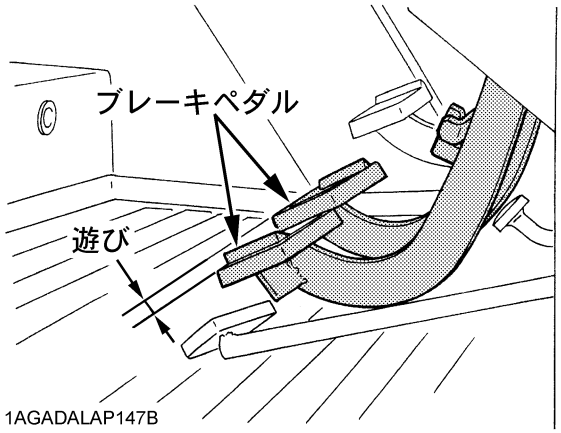


■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

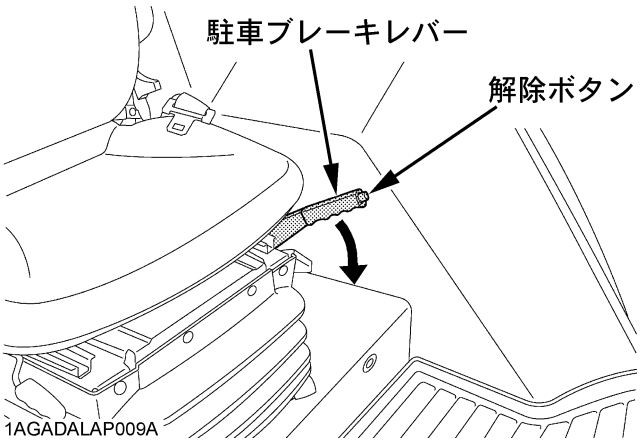
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し，遊びの量が**【7 ～ 14mm】**かどうか調べます。
ブレーキのきき，片ぎきを調べます。



■駐車ブレーキの作動点検
レバーを引くと駐車ブレーキがかかり，キースイッチ**【入】**の位置では，メーターパネルの駐車ブレーキ警告灯(Ⓟ)が点灯します。
駐車ブレーキレバー先端のボタンを押込みレバーを下げると，ブレーキが解除されます。

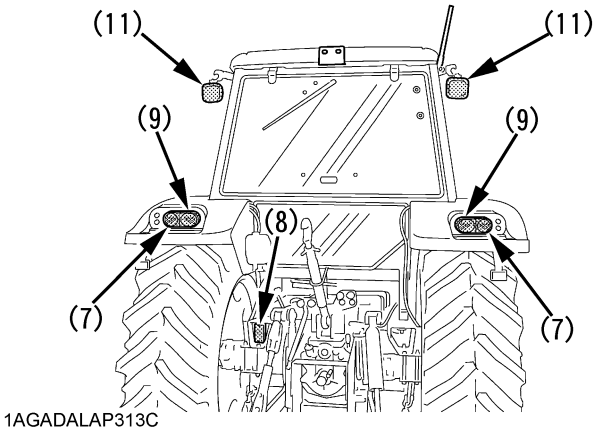
補　足
＊ メータパネルの駐車ブレーキ警告灯の消灯を確認のこと。



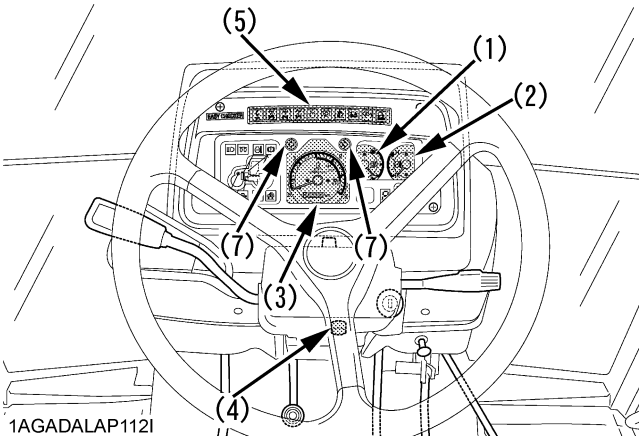
■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

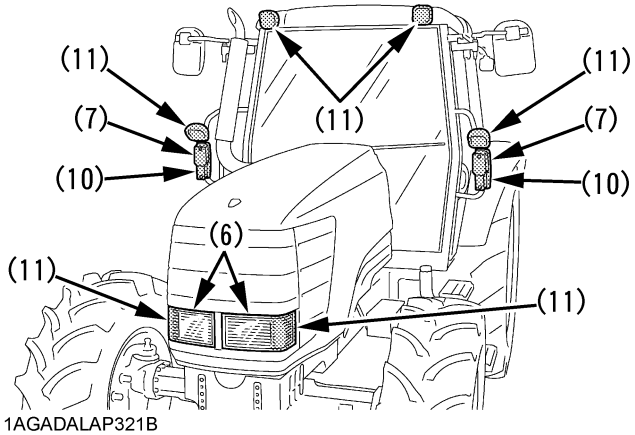
(1)　燃料計
(2)　水温計
(3)　エンジン回転計
(4)　ホーン
(5)　イージーチェッカ
(6)　ヘッドライト
(7)　ウインカ（前・後）
(8)　バックランプ
(9)　尾灯（駐車灯），ブレーキランプ
(10)　車幅灯（駐車灯前）
(11)　作業灯



1AGADALAP313C



1AGADALAP112I



1AGADALAP321B

■燃料の補給

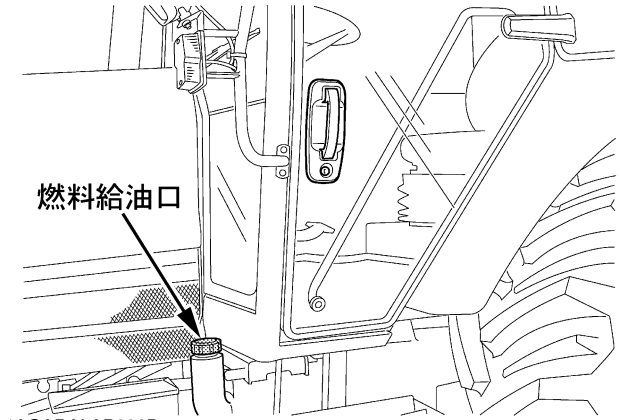
注　意

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特1号	＋5以上
1　号	0及び－5
2　号	-10
3　号	-15及び-20
特3号	-25及び-30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



重　要

＊ 燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

50時間ごとの点検・整備

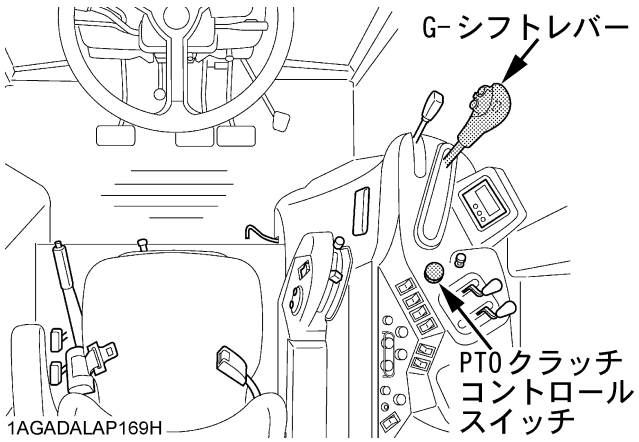
■エンジン始動システムの点検

注　意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

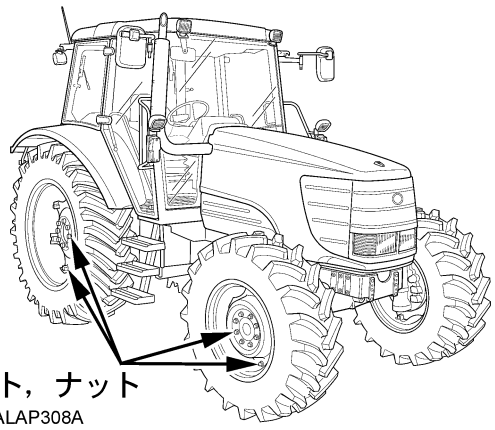
1. 運転席に座り，主変速（G-シフト）レバーを**［中立］**(N),PTOクラッチコントロールスイッチを**[OFF]**（切）にします。
2. 駐車ブレーキを掛け,エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   この時，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，主変速（G-シフト）レバーを**［入］**又はPTOクラッチコントロールスイッチを**[ON]**（入）にし，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき,エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。



■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

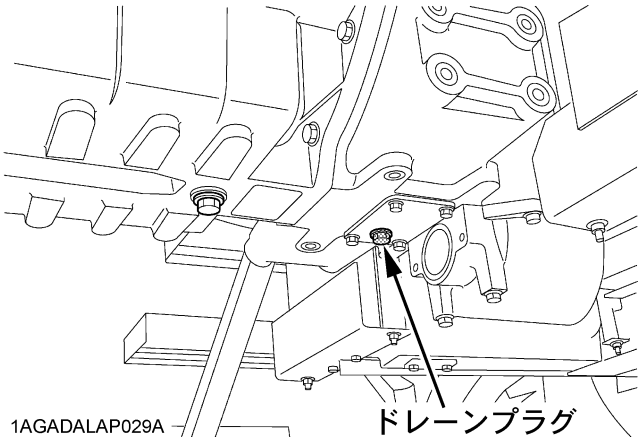
＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。



1AGADALAP308A

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



1AGADALAP029A

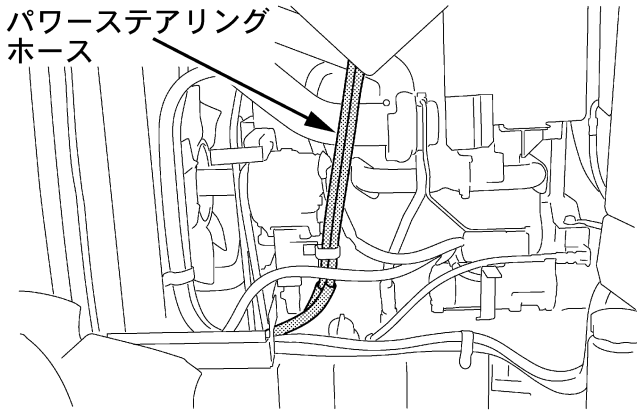
■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

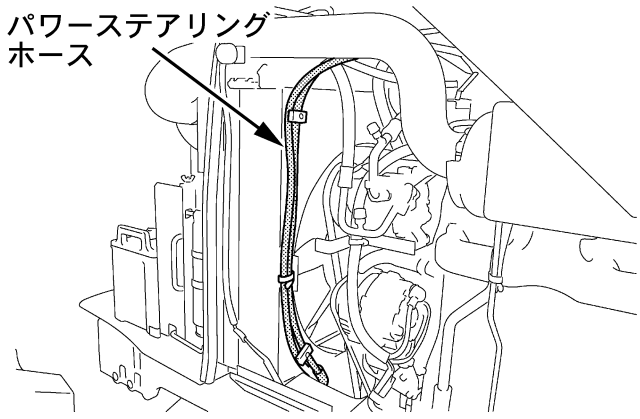
パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

[GR850・950・1050]



1AGADALAP090A

[GR1150・1250]



1AGADALAP072A

重　要

＊ 交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

■燃料ホースの点検

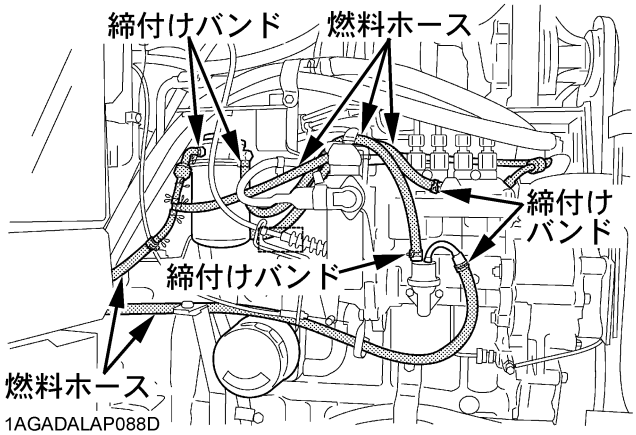
注　意

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

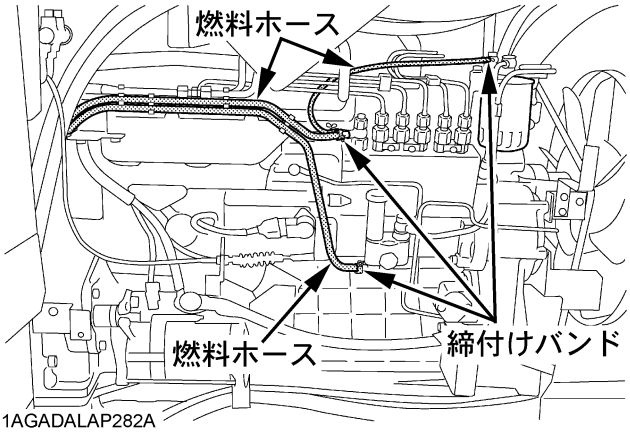
燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. ホース類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料ホースを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）

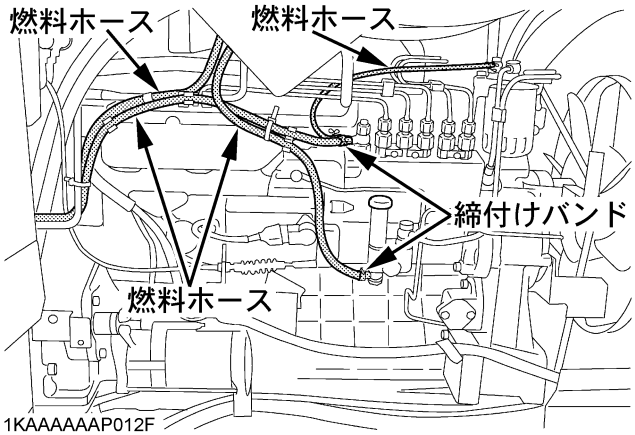
[GR850・950・1050]

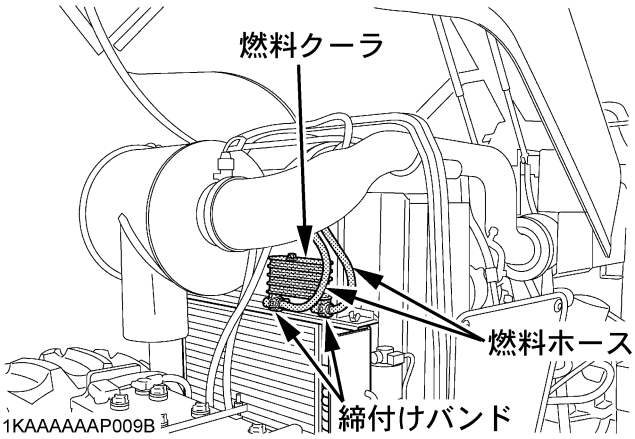


[GR1150]



[GR1250]





重　要

＊ 交換時にホースや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

100 時間ごとの点検・整備

■バッテリ電解液の点検

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。

＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。

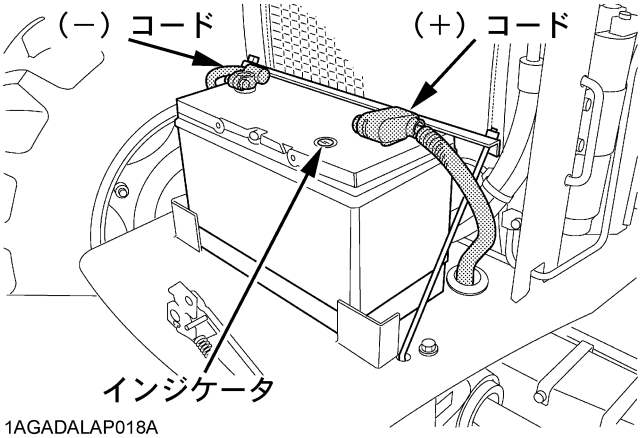
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

[GR850・950・1050]

◆ バッテリ液の点検

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。



1AGADALAP018A

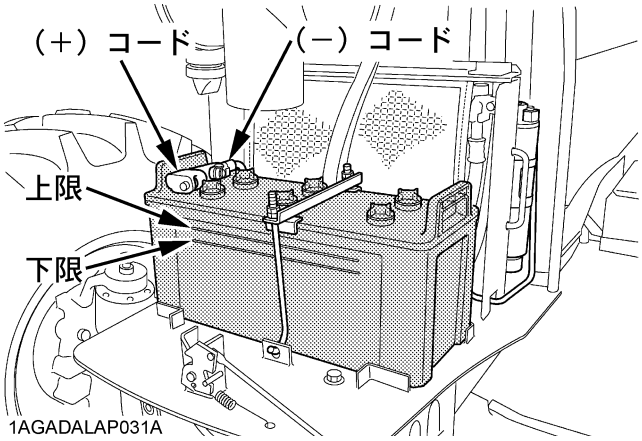
◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 11A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換時間です。

[GR1150・1250]

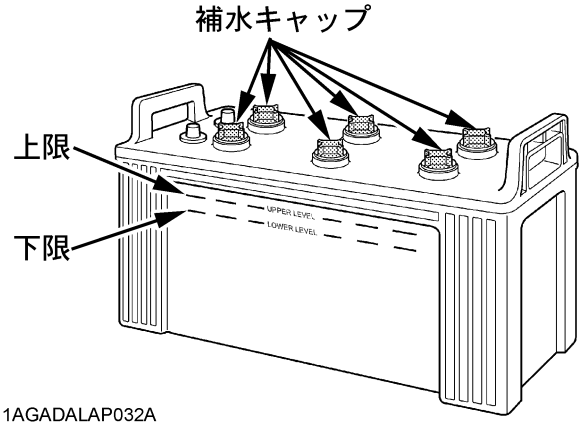
◆ バッテリ液の点検

バッテリ側面の 2 本線間（レベル）に液面があるか点検してください。少ないときは上限の線（レベル）まで蒸留水を補給してください。



◆ 補水のしかた

1. バッテリ上フタの補水キャップを外します。
2. 6 個の補水穴から蒸留水を均一に上限の線（レベル）まで補水します。
3. キャップを元の穴にねじ込みます。



◆ バッテリの取付け，取外し

注　意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

トラクタ	バッテリ型式
GR850，950，1050	105E41R
GR1150，1250	170F51-MF

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

警　告

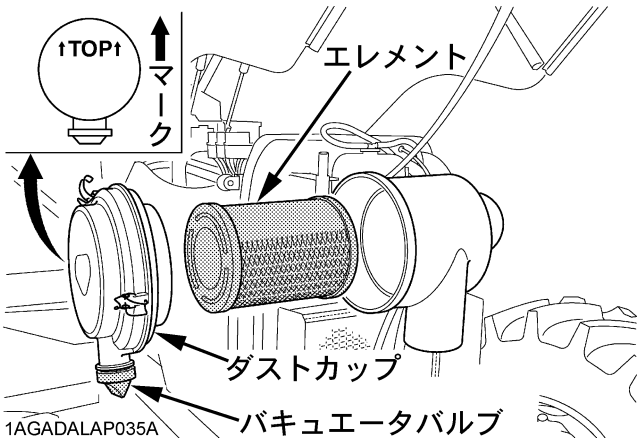
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

■エアクリーナエレメントの清掃
[GR850・950・1050]

◆ エレメントの清掃
乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205kPa（2.1kgf/㎠）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆ エレメントの交換
エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。



重　要
- ＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
- ＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
- ＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
- ＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

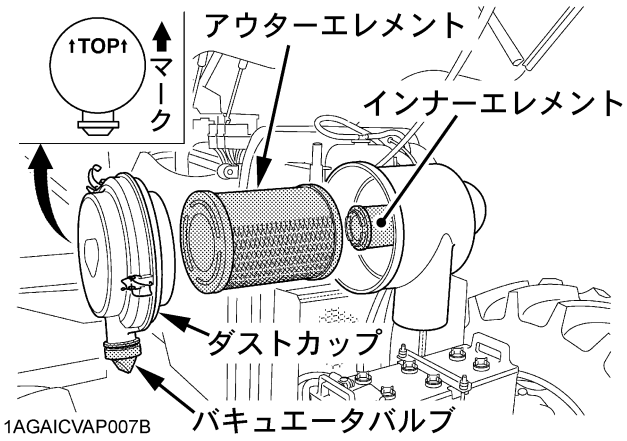
◆ バキュエータバルブの清掃
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ダブルエアクリーナエレメントの清掃
[GR1150・1250]

ダストカップを外し，アウターエレメントを外します。インナーエレメントは交換時以外は外さないでください。

◆ アウターエレメントの清掃
乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205kPa（2.1kgf/㎠）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆ アウターエレメントの交換
エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。



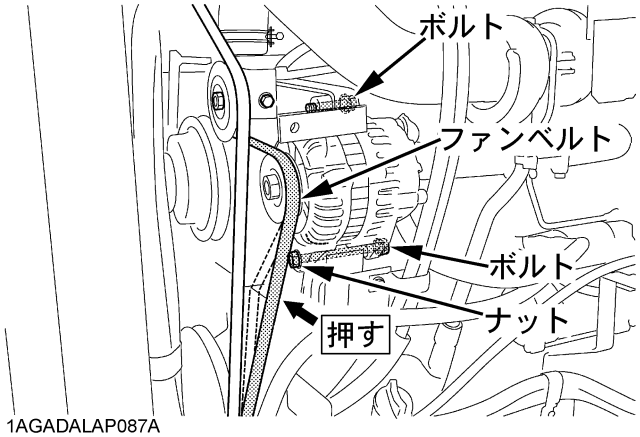
重　要
- ＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
- ＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
- ＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
- ＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ バキュエータバルブの清掃
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

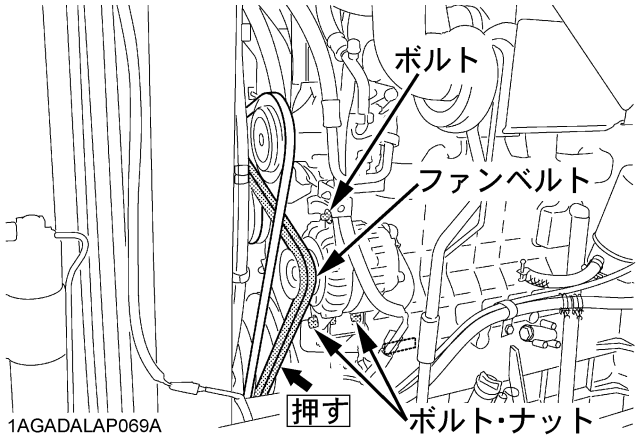
適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約98N(10kgf)の力で抑えて,約7㎜たわむ程度

[GR850・950・1050]



1AGADALAP087A

[GR1150・1250]



1AGADALAP069A

重　要

＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■油圧ブレーキの点検

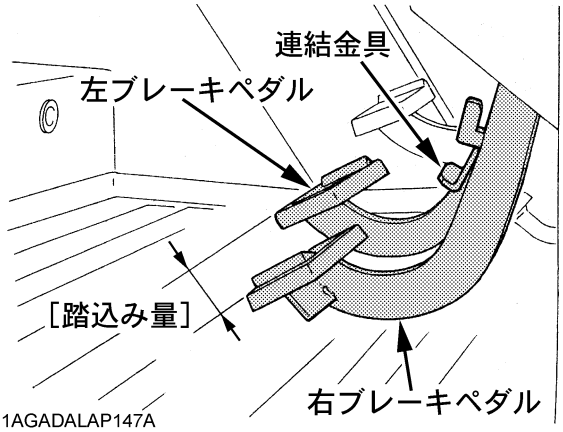
警　告

＊ 点検をするときは,必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと,人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

◆ 踏込み量の点検

踏込み量	左右ペダルで 100㎜ 以下

1. ペダル連結金具を外します。
2. 右ペダルのみを踏込み,左ペダルとの段差(踏込み量）を測定します。
3. 左ペダルも同様に測定します。



1AGADALAP147A

◆ イコライザの作動量の点検(片効き防止装置)

1. 左右のペダルを両足で同時に軽く踏込みます。
2. 上記状態から，右ペダルを強く踏込み（左ペダルは上昇する),両ペダルの段差を測定します。
3. 次に，左ペダルを強く踏込み測定します。

イコライザの作動量	左右ペダル上での段差 10㎜ 以上

補　足

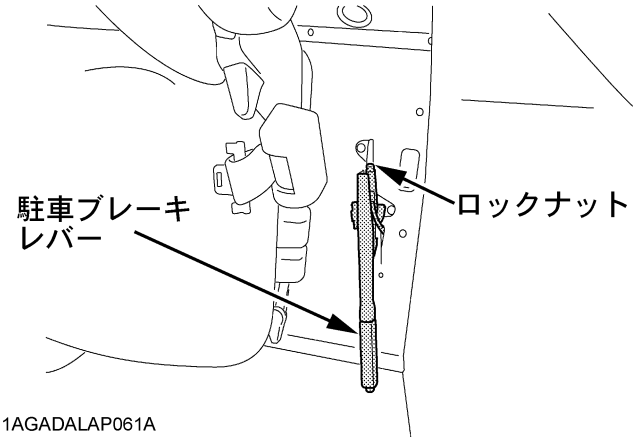
＊ もし，点検結果基準外であれば，購入先へブレーキの調整を依頼してください。

■駐車ブレーキの点検・調整

適正遊び量	2 ノッチ

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキレバーを解除します。
2. ロックナットをゆるめ，ワイヤを調節します。
3. 元どおりに組付け，遊び量を確認します。

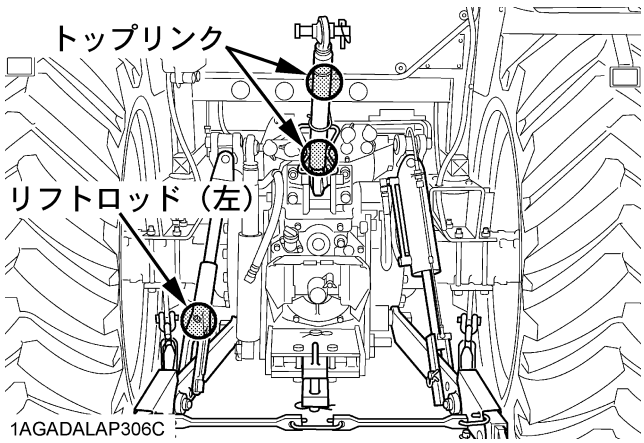


1AGADALAP061A

■グリースの注入

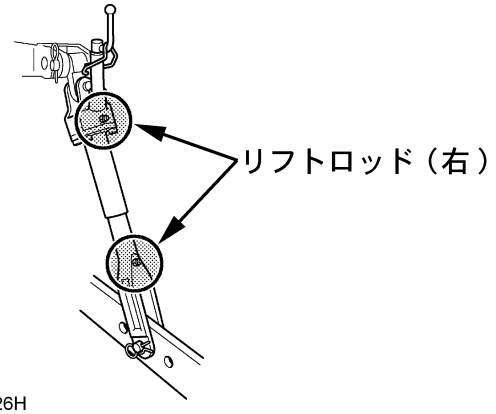
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**［推奨グリース］**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。

［J 仕様］



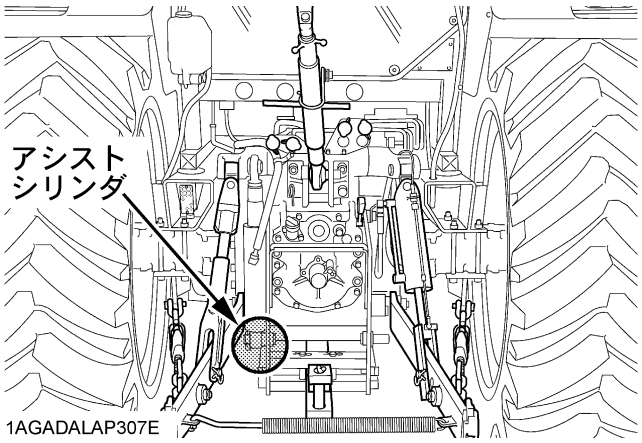
1AGADALAP306C

［J 仕様以外］

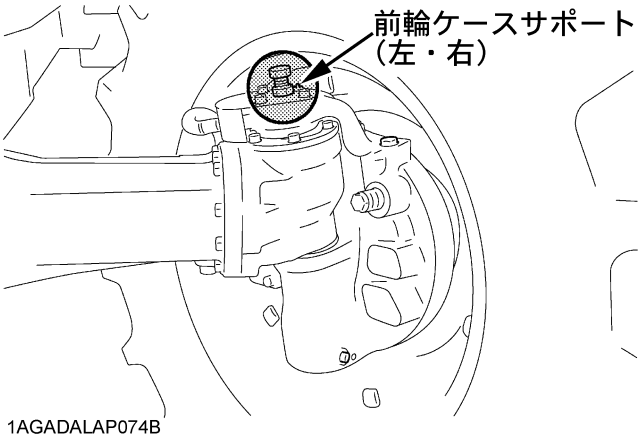


1AGADALAP026H

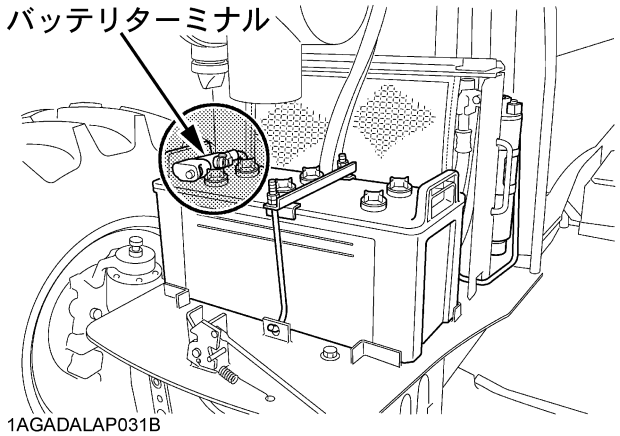
[GR1150・1250]



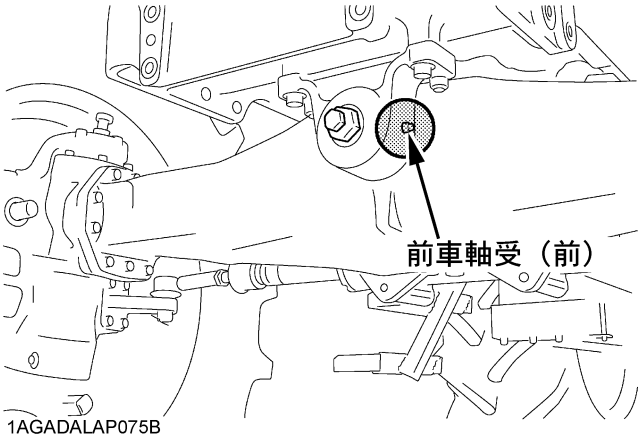
1AGADALAP307E



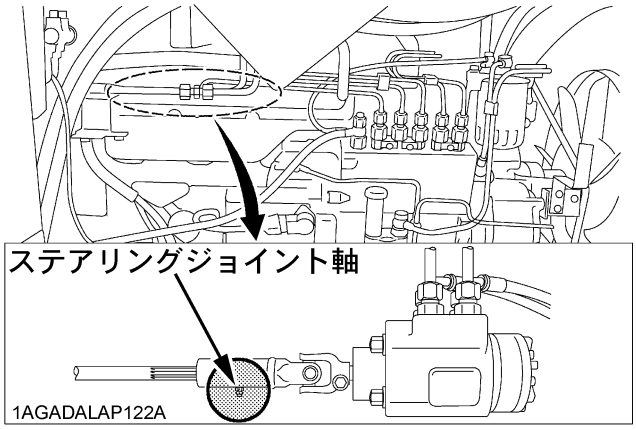
1AGADALAP074B



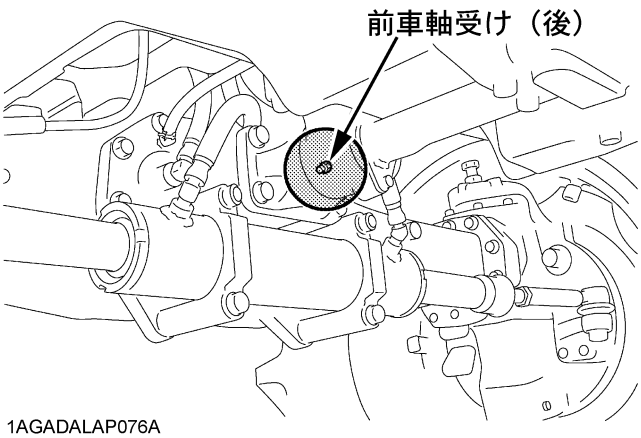
1AGADALAP031B



1AGADALAP075B



1AGADALAP122A



1AGADALAP076A

200 時間ごとの点検・整備

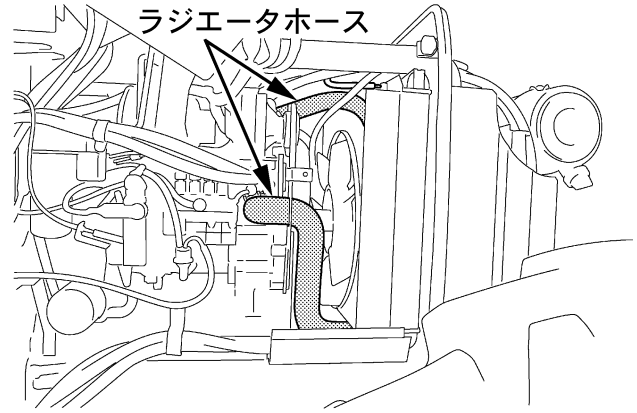
■ラジエータホースの点検

注 意

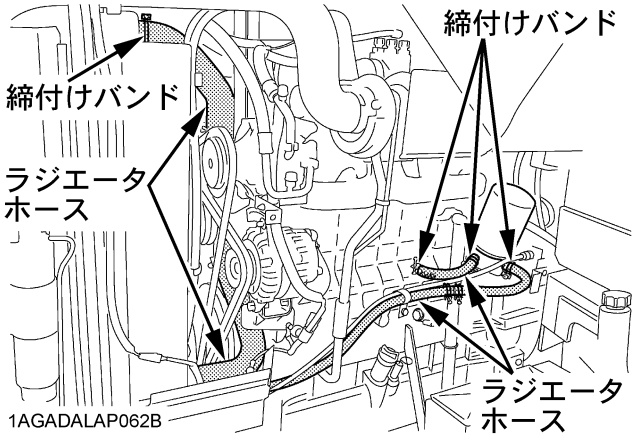
＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

[GR850・950・1050]



[GR1150・1250]

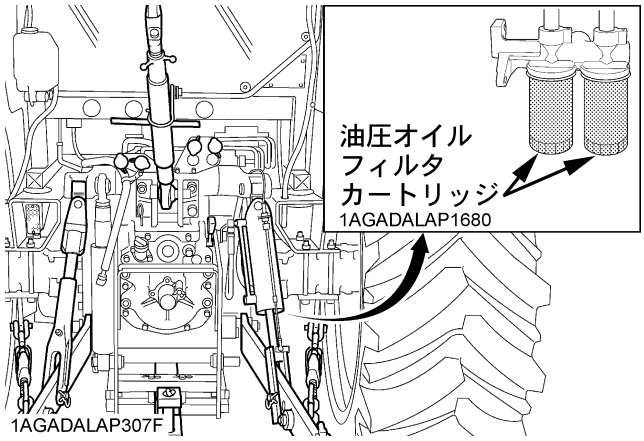


■油圧オイルフィルタカートリッジの交換［吸入側］

注 意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

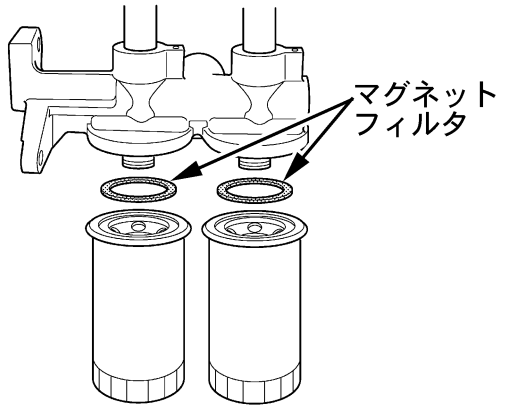
純正部品のカートリッジと交換してください。



1. ドレンプラグを外してオイルを排出します。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. マグネットフィルタを清掃します。
4. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
7. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは **[600 時間ごとの点検・整備]** の **[ミッションオイルの交換]** の項を参照）

◆ マグネットフィルタの掃除

カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したゴミをふき取ってください。



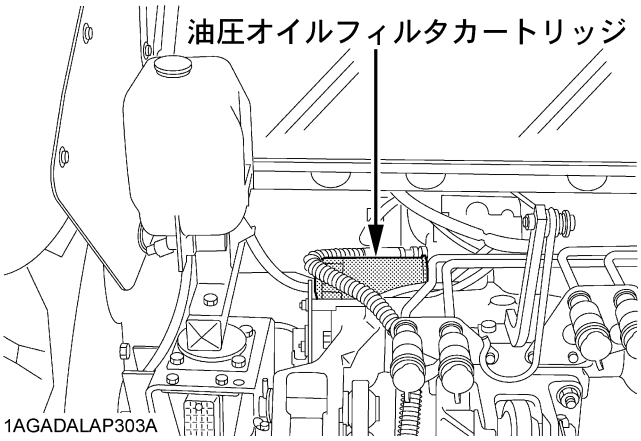
1AGAICHAP025B

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換 [戻り側]

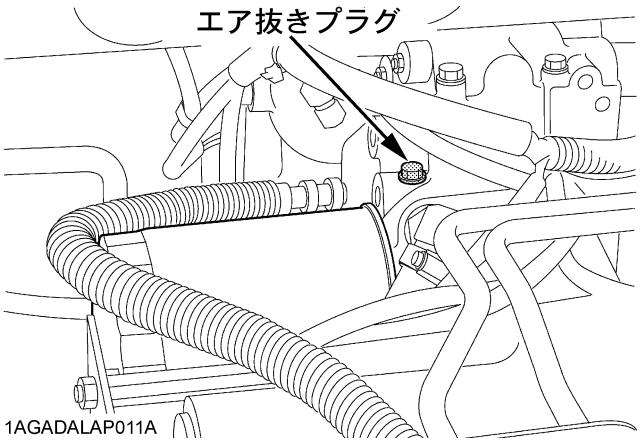
注 意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



1AGADALAP303A



1AGADALAP011A

1. エア抜きプラグを外し，２～３分後フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. 外したエア抜きプラグを取付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。

■トーイン調整・タイロッドの点検

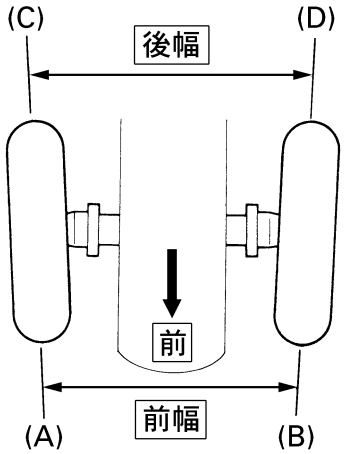
注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅 (A)(B) と後幅 (C)(D) を測り，(C)(D) － (A)(B) ＝下記基準値になっているかを調べます。

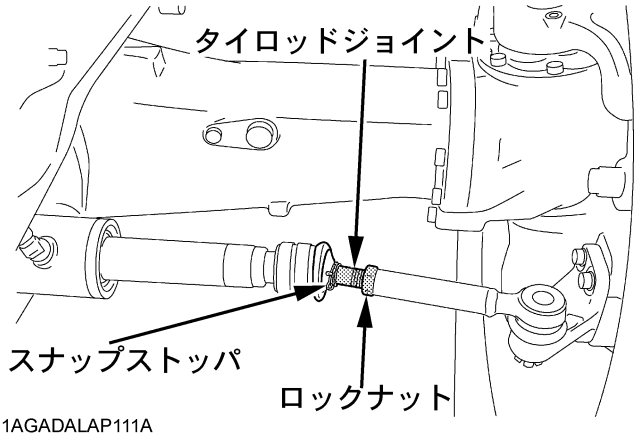
GR850・950・1050	2～8 mm
GR1150・1250	2～15mm



1AGALAFAP253A

◆ 調整

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回して調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



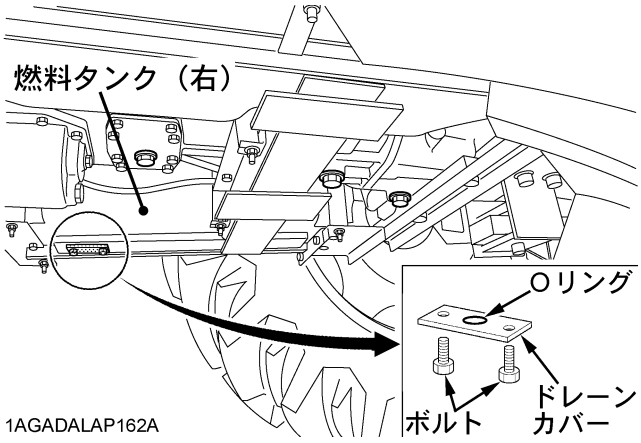
1AGADALAP111A

補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド (関接球) やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検・調整を行なってください。

■燃料タンクの水抜き

右燃料タンク下部のドレーンカバーを外し，沈澱している不純物や水分を排出し，元通りに締めます。



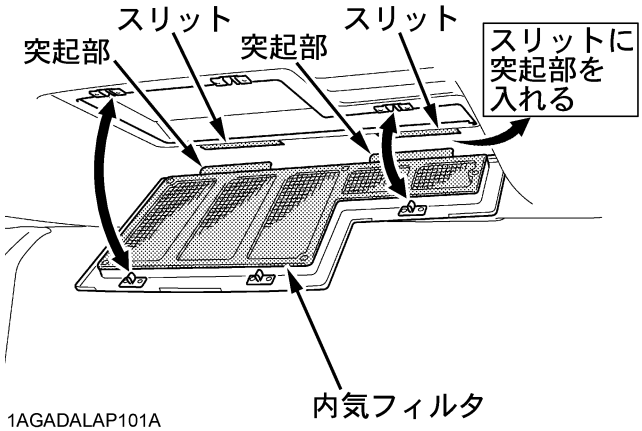
1AGADALAP162A

重　要

＊ 水分が多く含まれている悪い燃料を使用した場合は，水抜きの間隔は更に短くしてください。
＊ トラクタを長時間格納後使用する前に行なってください。
＊ ボルト締付けトルク：23.6～27.4 N-m
(2.4～2.8 kgf-m)

■室内エアフィルタの清掃

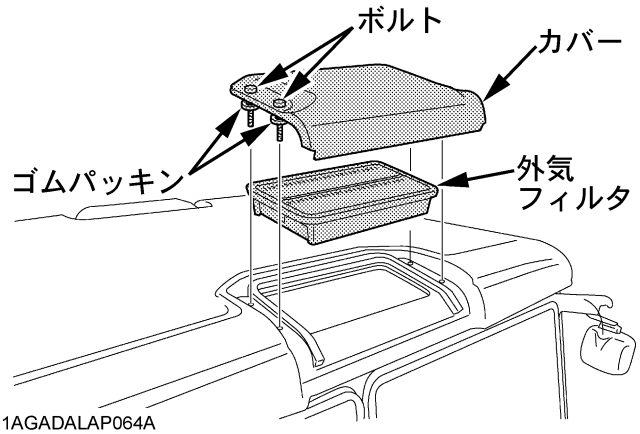
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。



1AGADALAP101A

■外気フィルタの清掃

ノブボルトをゆるめ，カバーとフィルタをいっしょに外します。



1AGADALAP064A

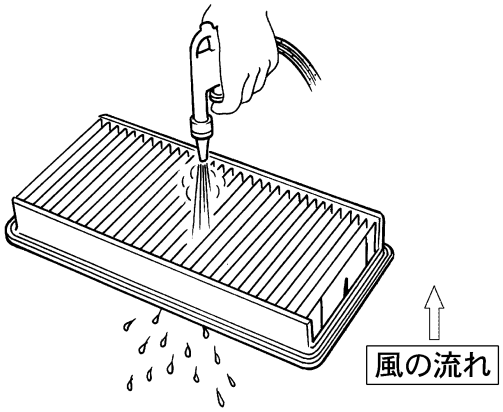
◆ 清掃法

●「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

重　要

＊ エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが浸入し，エアコンを損傷する場合があります。



1AGALAFAP314A

●「汚れが著しいとき」

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

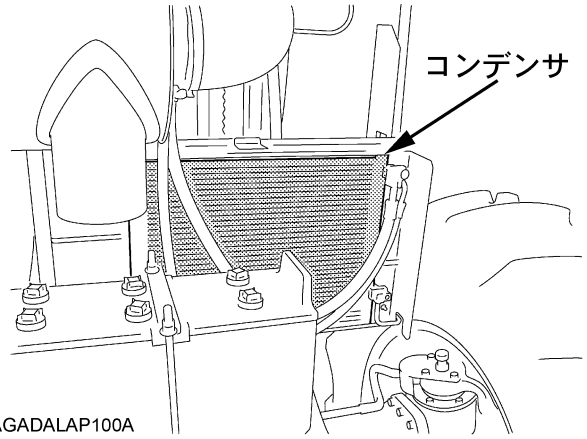
＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。十分冷えてから点検・清掃を行なってください。

1. 蝶ボルトをゆるめ，ハンドルを持ちコンデンサを手前に引出します。
2. 防虫網を外し，コンデンサフィンにゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



1AGADALAP100A

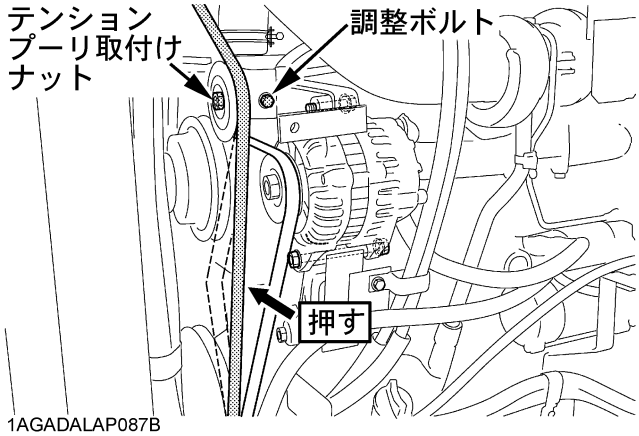
■エアコンベルトの張り

注　意

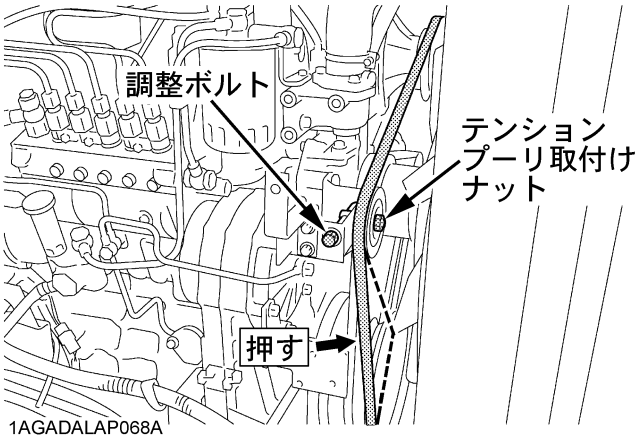
＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

プーリ間のベルトを指で押して点検します。98N(10kgf) で **[10 ～ 12mm]** が適正です。調整はナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。

[GR850・950・1050]



[GR1150・1250]



300 時間ごとの点検・整備

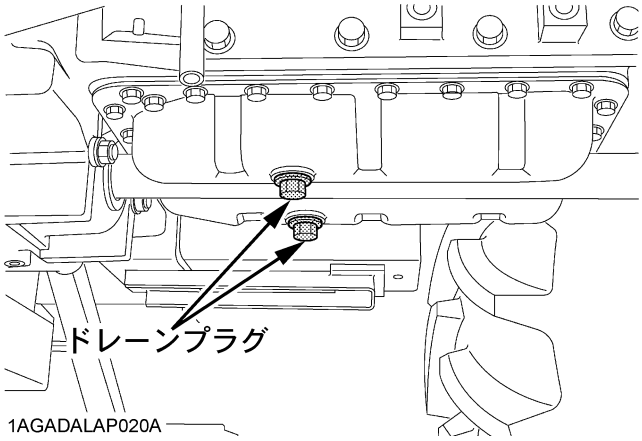
■エンジンオイルの交換

注　意

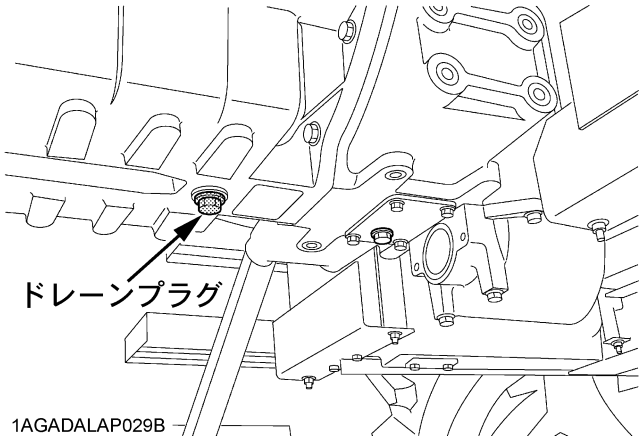
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
   このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。
   ただしヤケドに注意してください。

[GR850・950・1050]

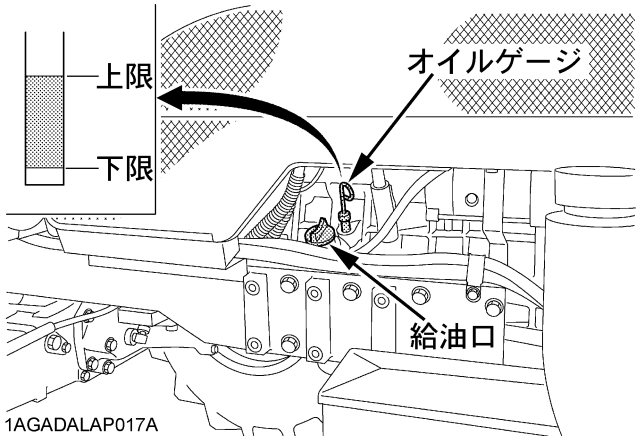


[GR1150・1250]

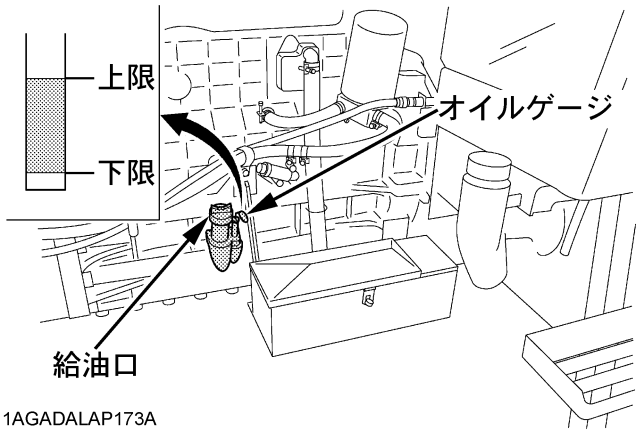


2. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。

[GR850・950・1050]



[GR1150・1250]



重　要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 NO. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 気温により次のように使いわけてください。

15 ℃以下	D10W-30 スーパー CD （オールシーズン用）
15 ℃以上	D30 スーパー CD

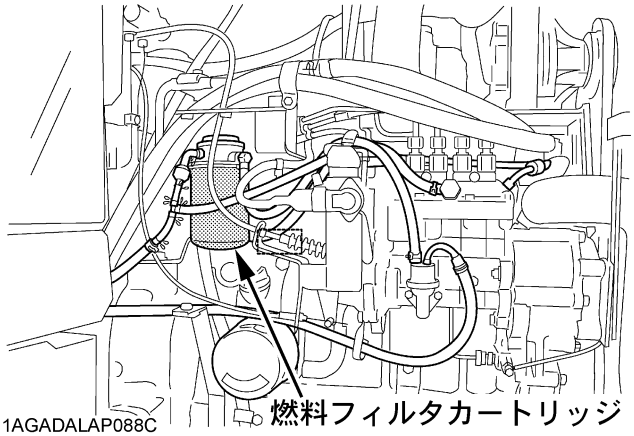
＊ 冬期は必ず D10W-30 スーパーCD を使用してください。

400 時間ごとの点検・整備

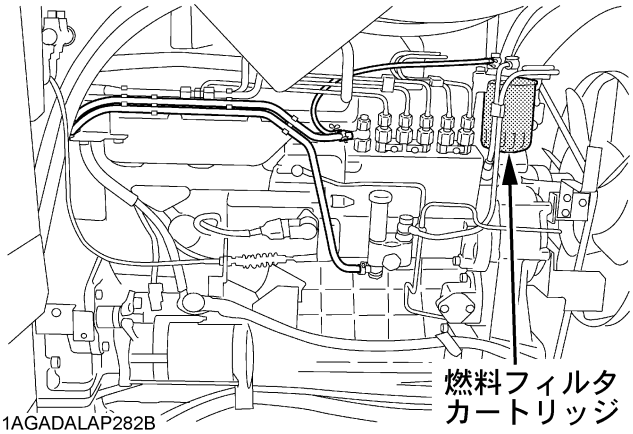
■燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタを外してください。
2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。
3. 空気抜きを行なってください。
（ 詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）

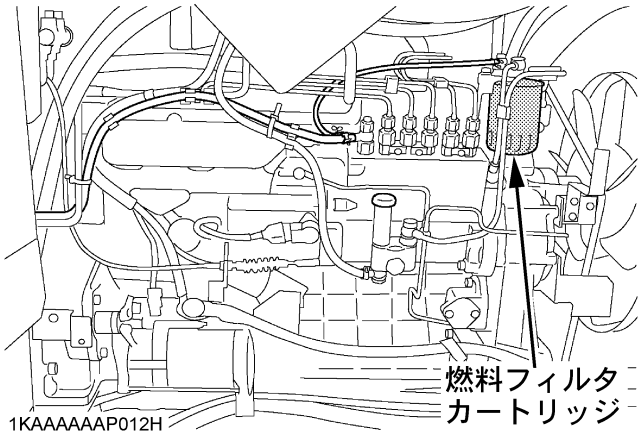
[GR850・950・1050]



[GR1150]



[GR1250]



重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ カートリッジ交換後は，必ず空気抜きをしてください。(詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください)

600 時間ごとの点検・整備

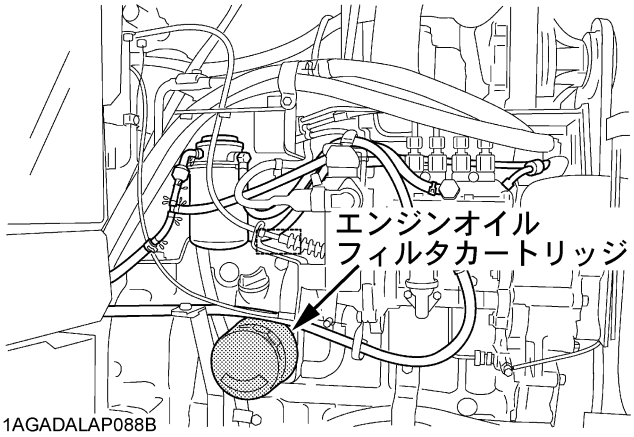
■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

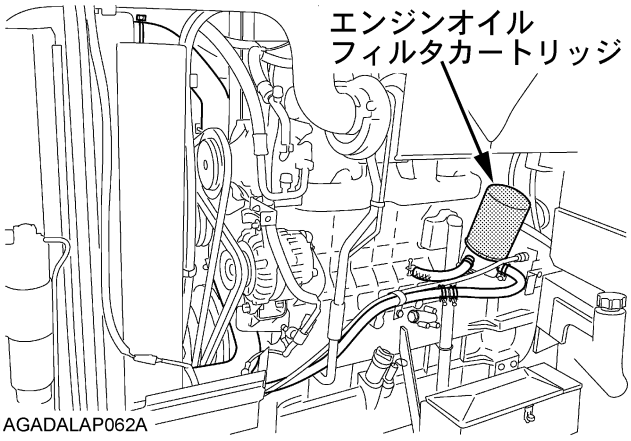
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

[GR850・950・1050]



[GR1150・1250]



補　足

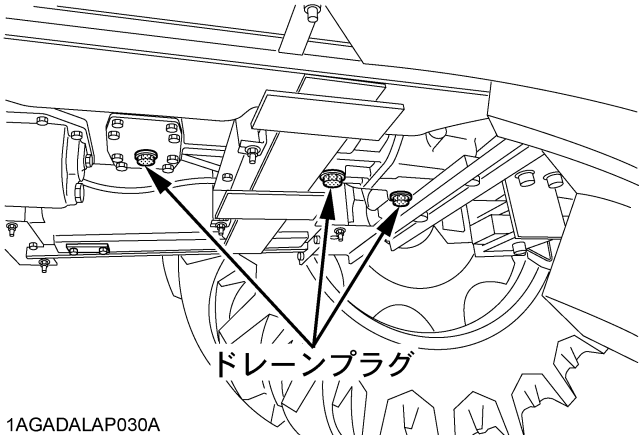
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■ミッションオイルの交換

注　意

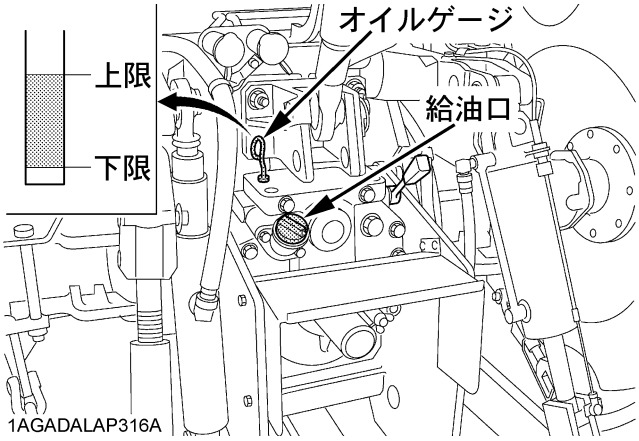
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを（3ヵ所）外してオイルを抜きます。



1AGADALAP030A

2. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。
3. エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。

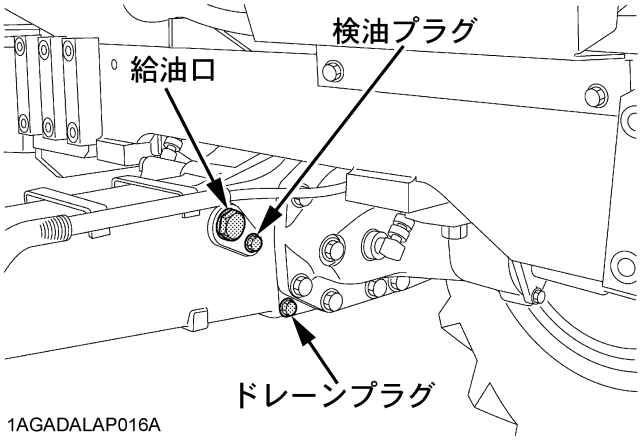


1AGADALAP316A

■前部デフケースのオイル交換

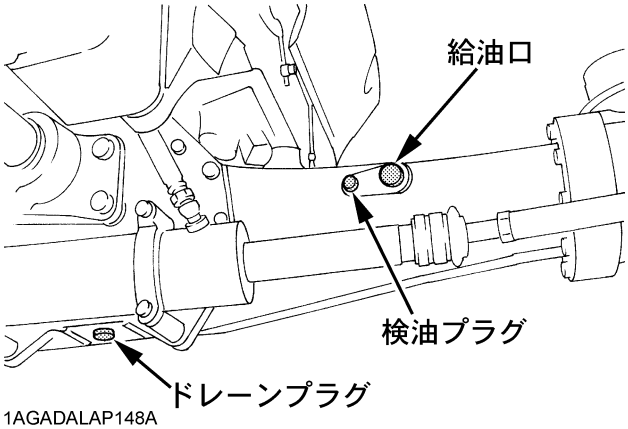
1. ドレーンプラグと給油プラグをはずしてオイルを抜きます。
2. 給油口から新しいオイルを規定量（検油プラグ位置まで）入れてください。

[GR850・950・1050]



1AGADALAP016A

[GR1150・1250]

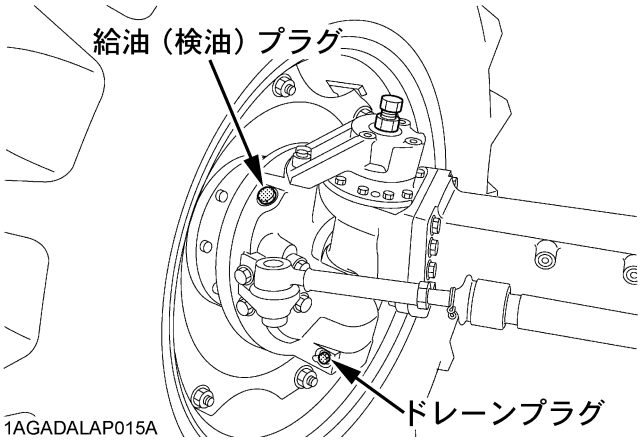


1AGADALAP148A

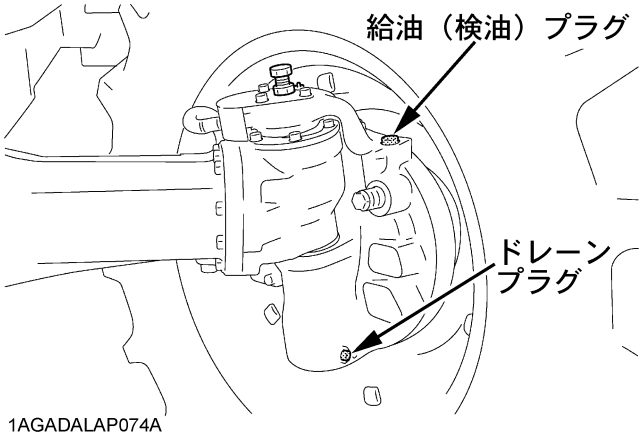
■前輪ケース左・右のオイル交換

1. 左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。
2. 給油口から新しいオイルを規定量入れてください。

[GR850・950・1050]



[GR1150・1250]



■前部デフケース前後遊びの調整

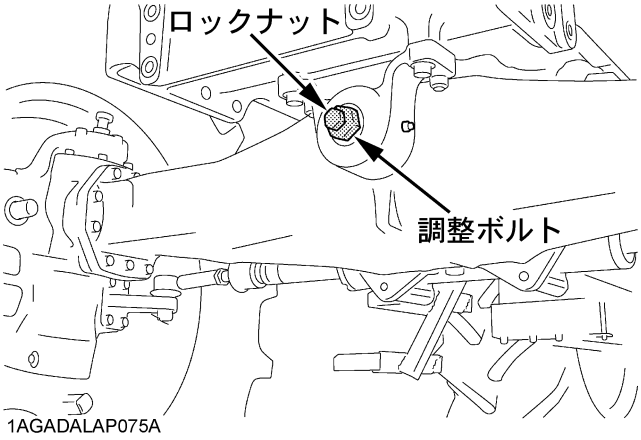
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆ 点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆ 調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。

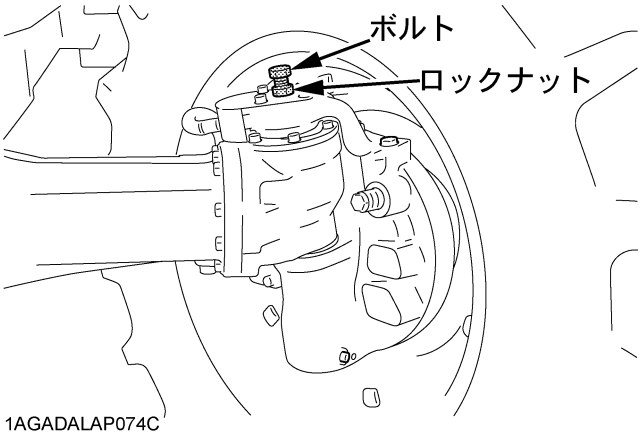


■ブレーキオイルの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■前輪ケース回動トルクの調整

調整が悪いと前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。
ロックナットをゆるめボルトを規定トルクで締め，調整後はロックナットを確実に締めてください。



締付けトルク：4.9 ～ 9.8 N-m
(0.5 ～ 1.0 kgf-m)

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換
◆シングルエレメント仕様
エレメントの交換は 1 年間使用後, 又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。
(**[100 時間ごとの点検・整備]** の **[エアクリーナエレメントの清掃]** の項を参照。)

◆ダブルエレメント仕様
アウターエレメントの交換は 1 年間使用後, 又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。
インナーエレメントは 1 年ごとに交換が必要です。
(**[100 時間ごとの点検・整備]** の **[ダブルエアクリーナエレメントの清掃]** の項を参照。)

■エアコン配管，ホースの点検
各配管及びホースの損傷を点検してください。

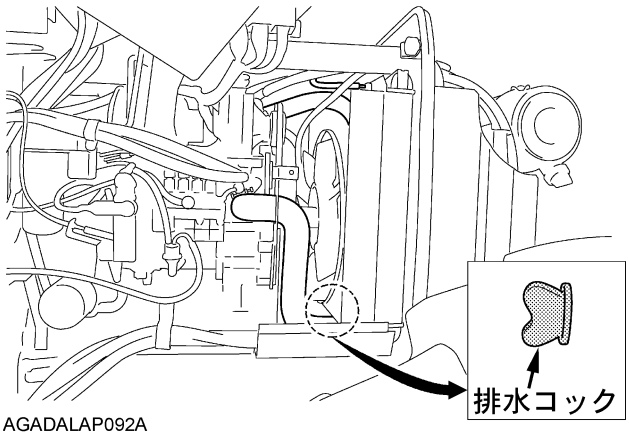
2 年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

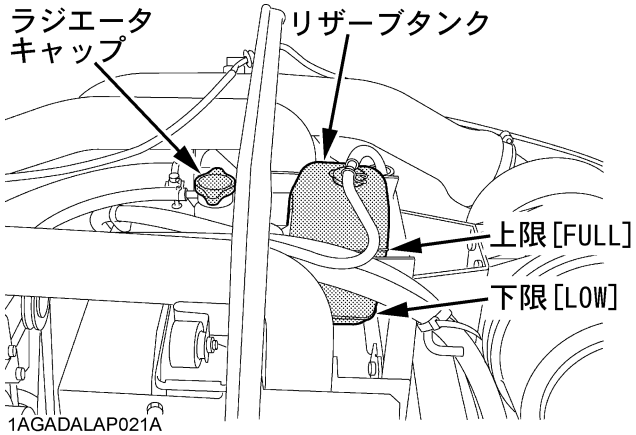
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. **[GR850・950・1050]**
ラジエータの排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。

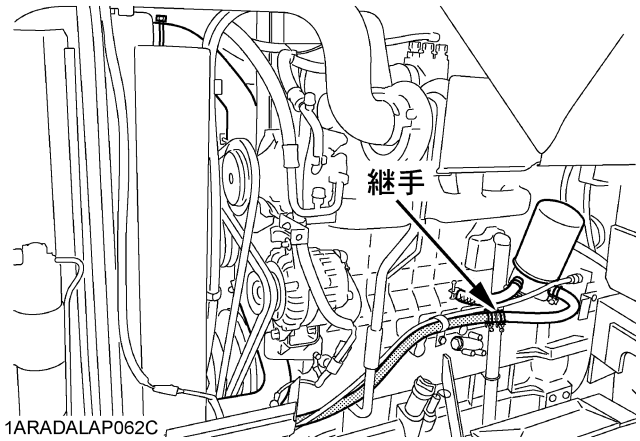


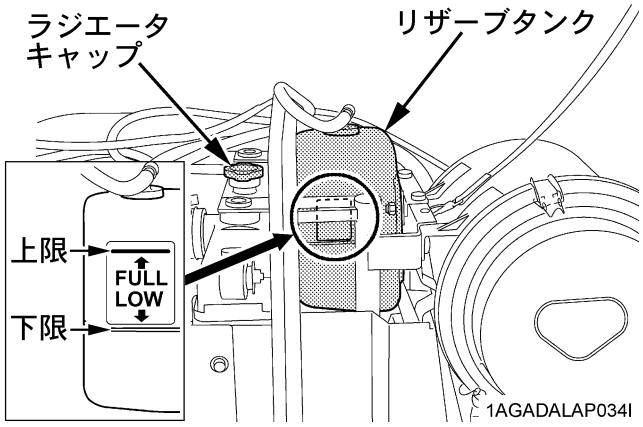
1AGADALAP092A



1AGADALAP021A

[GR1150・1250]
ラジエータホースの継手を外し，ラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。





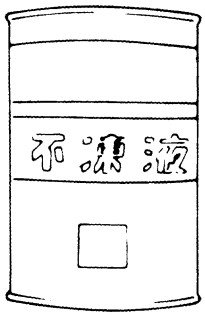
2. ポンプ等を用いリザーブタンクより排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コック又は継手を接続します。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に閉めてください。
5. キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約 1.5L ヒータ部に必要となります。
   冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ**[ON]**（温度コントロールレバーを**[WARM]**（右端）に寄せる）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸込まれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

重　要

＊ 冷却水補給後エンジンを運転し，リザーブタンク内の量及びラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。そうでないと，冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。
＊ 冷却水交換作業では，エアかみをおこす可能性があります。交換時は，購入先にご相談ください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕



1AGALAFAP2510

重　要

* 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50% 入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
* 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
* 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

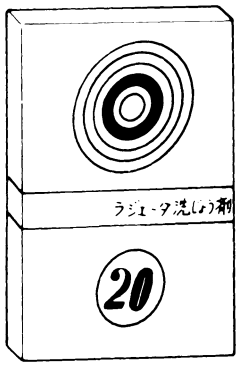
不凍液の保証不凍結温度

原液混合比%	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度℃	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

■ラジエータの洗浄

洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

* ２年使用ごと
* 不凍液を混入するとき
* 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。



1AGAAAPAP098A

■ラジエータホースの交換

■パワーステアリングホースの交換

■燃料ホースの交換

■傾斜シリンダホースの交換［J 仕様］

■アシストシリンダホースの交換

■ブレーキホース／ブレーキタンクホースの交換

■マスタシリンダ／イコライザキットの交換

■ブレーキシール 1、2 の交換

■クラッチホースの交換

■デフロックホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

必要に応じた点検・整備

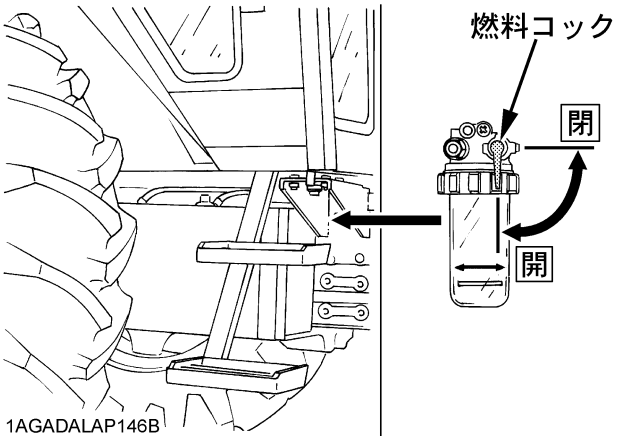
■燃料の空気抜きのしかた

[GR850・950・1050]

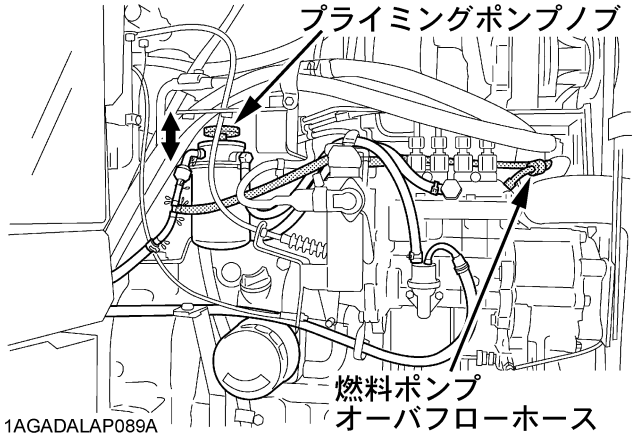
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- セパレータより排水したとき
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが［開］になっているか確認します。



3. 燃料フィルタ上部のプライミングポンプを上下に動かし，燃料タンクより燃料を吸い上げます。



4. 燃料回路内に空気が入っていると，プライミングポンプの操作が軽く，空気が抜けると重くなります。
   また，燃料ポンプオーバフローパイプを指でつまんでいると，燃料が流れ出すと指に脈動を感じます。
   この状態になれば，空気抜きは完了です。
5. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転（ 約1500rpm）位置に戻します。
   （スタータを連続10秒間回しても始動しない場合は，30秒間休み，この操作を再度１～２回くり返します）
6. エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアを追い出します。
7. 以上の操作後，まだエアが抜けずにエンストする場合は，上記の 1. ～ 6. の手順で再度エア抜きを行ないます。

[GR1150・1250]

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

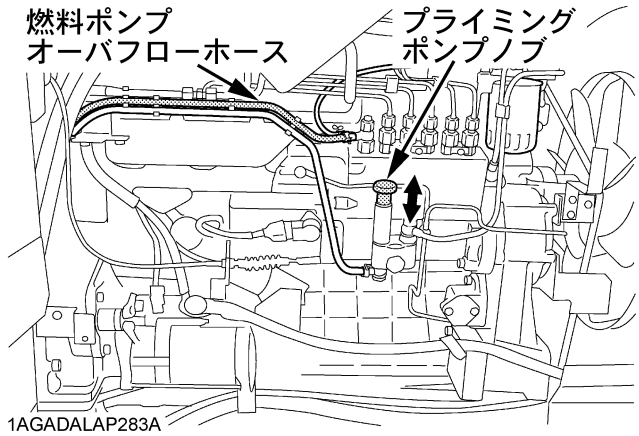
- セディメンタより排水したとき
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たします。
2. プライミングポンプノブをゆるめ，上下に動かします。手応えがあれば燃料が圧送されています。
3. いつまでも手応えがない場合は，エンジンストップノブを引いたままセルモータを瞬時回し，クランク軸を少し回転させて 2. の作業を行なってください。
4. 2. の作業を続けながら，燃料ポンプオーバーフローホースを指でつまみます。燃料が流れ出すと指に脈動を感じます。この状態になれば空気抜きは完了しています。
5. プライミングポンプノブを締付けます。

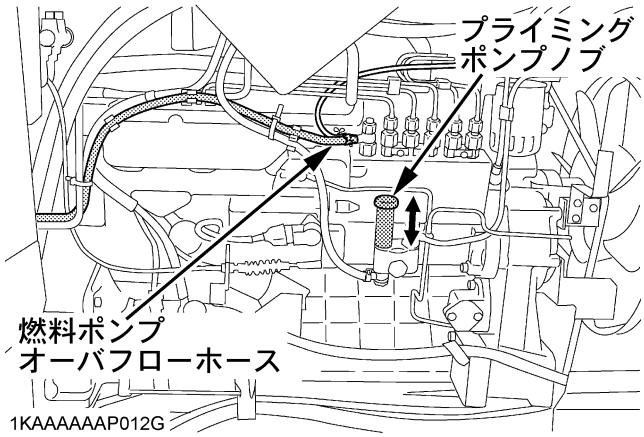
重　要

＊ 空気抜き完了後は，必ずプライミングポンプノブを締付けておいてください。燃料もれの原因となります。

[GR1150]



[GR1250]

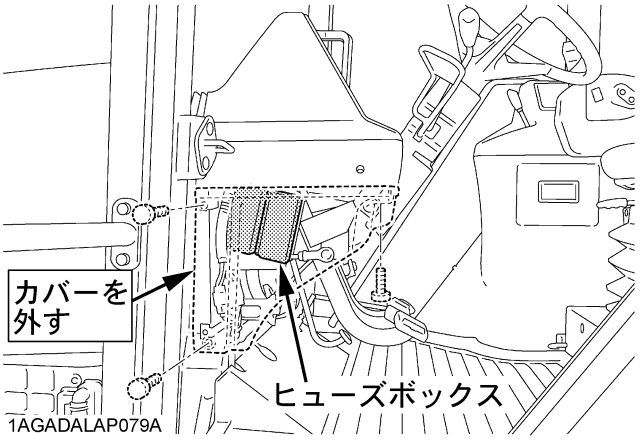


6. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転（ 約1500rpm) 位置に戻します。
（スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は，30 秒間休み，この操作を再度１～２回くり返します）
7. エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアを追い出します。
8. 以上の操作後，まだエアが抜けずにエンストする場合は，上記の 1. ～ 7. の手順で再度エア抜きを行ないます。

■ブレーキの空気抜き

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ヒューズの交換



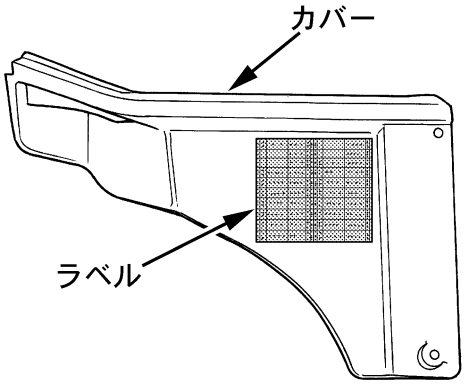
1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊ トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。
＊ 保護回路はカバーのラベルを参照してください。
（電源コンセントのヒューズは**[外部電源取出端子]**の項を参照。）

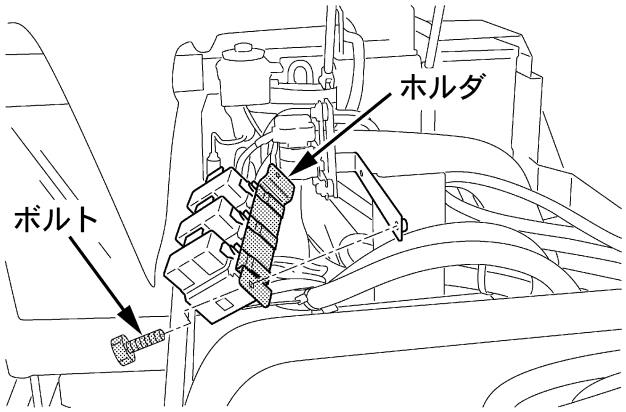


■スローブローヒューズの交換

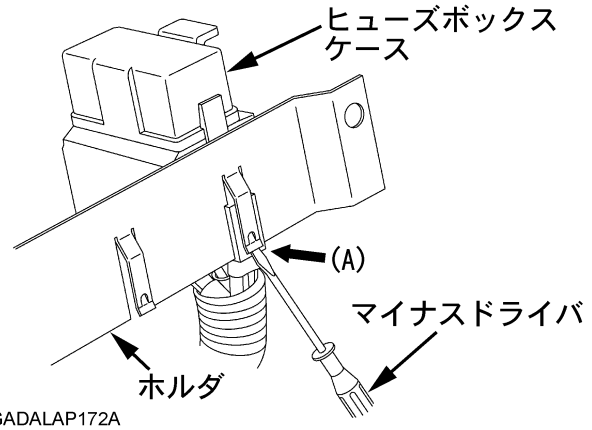
スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

◆ 交換手順

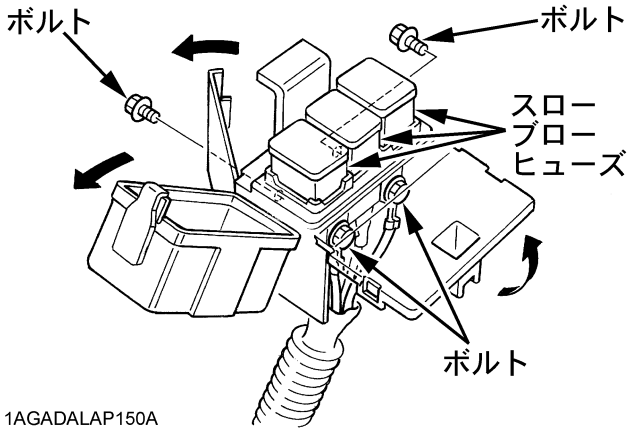
1. バッテリの (-) コードを外します。
2. ホルダ取付ボルト（2 本）を外します。
3. (A) 部にマイナスドライバ等を差し込み，ホルダよりヒューズボックスケースを下に引き抜きます。
4. 各ケースの中央部のスローブローヒューズは，フタを開き引き抜きます。両側のスローブローヒューズは，両側のカバーを開きボルトを外してから，引き抜きます。



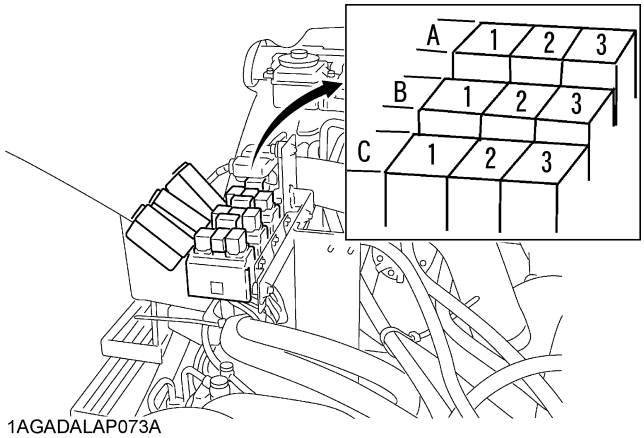
1AGADALAP063A



1AGADALAP172A



1AGADALAP150A



1AGADALAP073A

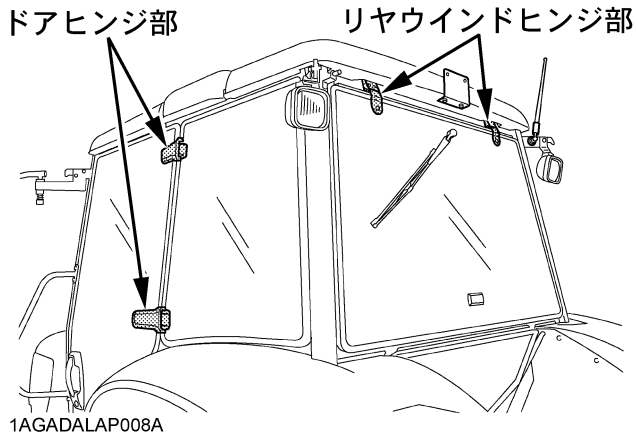
A	1	120A	インテークヒータ
	2	30A	ヘッドランプ
	3	100A	オルタネータ
B	1	40A	作業灯（後）
	2	30A	予備電源，コンセント
	3	40A	デフォッガ
C	1	60A	エアコン，ランプ類，ECV
	2	30A	メインキースイッチ，ECV
	3	40A	作業灯（前）

■ランプ類の交換

1. ヘッドライトは，ライトのボディ後部からバルブを取出して交換します。
   交換後はゴムカバーを確実に取付けしてください。
2. その他のランプはレンズを外し，バルブを交換します。

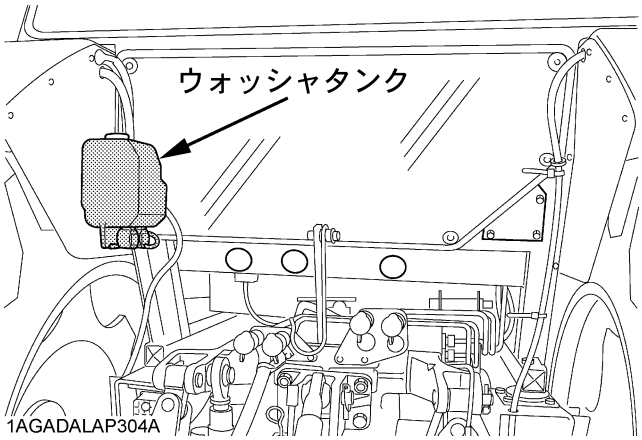
ヘッドランプ	60/55W	作業灯	55W
ウインカランプ(前)	21W	作業灯(ヘッドライト横)	21W
ウインカランプ(後)	21W	尾灯，駐車灯(後)/ブレーキランプ	5W/21W
車幅灯，駐車灯	5W	バックランプ	21W

■注油



■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



重　要

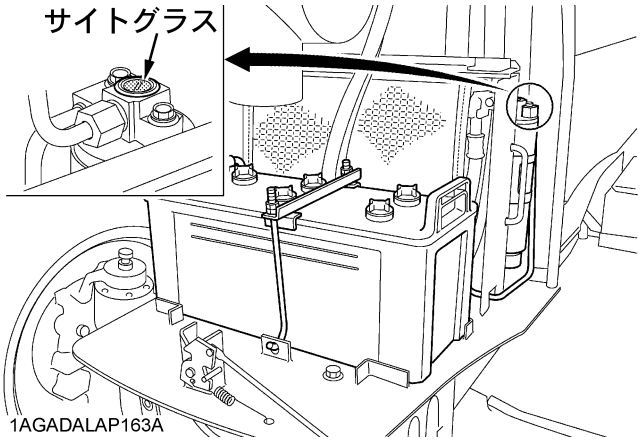
＊ 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊ 空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ ウオッシャノズルの詰まりを防ぐために，ゴミが入らないようにしてください。

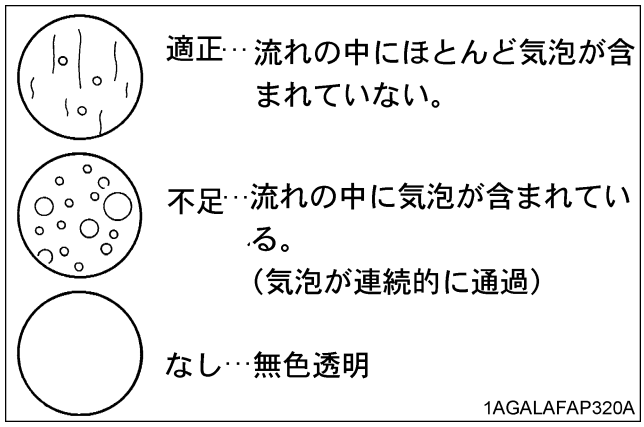
■冷媒（ガス）量の点検

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

◆ 点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   ＊ エンジン回転数　　：約 1500rpm
   ＊ 温度コントロール　　：最強冷位置
   ＊ ファンスイッチ　　：最強風
   ＊ エアコンスイッチ　　：ON
2. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。





格　　納

長期格納時の手入れ

注　意

＊ シートをかける場合，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。パワーステアリングシリンダのロッド部防錆のため，一ヵ月に一回フルストロークさせるか，防錆油を塗布してください。
5. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
7. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
8. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
9. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
10. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
11. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
12. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
13. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
14. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統故障の原因になります。

重　要

＊ 洗車するときは，以下の点に注意して行なってください。

- エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
- 灯火類は消灯した状態で行なってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
- ３点リンク外部操作スイッチ，傾斜外部操作スイッチには直接水がかからないようしてください。もし水が入ると故障の原因となります。
- 高圧洗車機を使用するときは，ノズルの先端をドア，リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため，室内に水が入るおそれがあります。

＊ 格納時は，必ず**【切】**の位置でキーを抜いておいてください。

長期格納後の運転

■エアコン

重　要

＊ オートエアコン付トラクタで長期放置（１ヶ月以上）後，オートエアコンを使用する場合は，コンプレッサ保護のため，必ず**エンジンアイドリング**にて風量切替スイッチ**【LO】**，A/C スイッチ**【ON】**にし，５分以上 A/C を作動させてください。
（AUTO スイッチでの起動ではコンプレッサが作動しない場合があります。）

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 〔**［必要に応じた点検･整備］**の項を参照してください。〕
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。 ● 気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期は 10W-30CD を使用）
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアークリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアークリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
水温計がH付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水漏れの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジェータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. ノズル不良	● ノズルを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

G- シフトの不調と処置

G- シフトが不調になった場合は直ちに購入先に連絡して処置を受けてください。
ただし，現象が現れなくても内部で不調になっている場合があります。従い，下表の表示になった場合も購入先に連絡して処置を受けてください。

表　示			G- シフトレバー位置又は各レバーの操作	オペレータの処置方法
変速ディスプレイ	ニュートラルランプ	警告ブザー		
L と変速段の交互の点滅		3 連続音	クラッチペダルを踏込んだとき クラッチボタンを押込んだとき	購入先に連絡 (緊急時の処置として，G- シフトレバーを L に入れると 1 速～4 速の範囲で走行はできる)
n と変速段の交互の点滅		3 連続音		購入先に連絡 (緊急時の処置として，G- シフトレバーを N に入れその後 L に入れると 1 速～4 速の範囲で走行はできる)
n の点滅				購入先に連絡 (走行できない)
		3 連続音	G- シフトレバーL 又は H 位置で走行中	
1～8 の点滅		3 連続音	G- シフトレバー N 位置又は G- シフト変速ボタンを切換えたとき	購入先に連絡 (緊急時の処置として，G- シフトレバーを N にし G- シフト変速ボタンを変え，再度 G- シフトレバーを入れると走行できる)
			G- シフトレバーを N → L，N → H，L → H，H → L に操作したとき	購入先に連絡 (緊急時の処置として，G- シフトレバーを N にし再度 G- シフトレバーをいれると走行できる)
E の点灯				購入先に連絡 (緊急時の処置として，エンジン始動後最初のレバー操作のみ走行できる。その後 G- シフトレバーを N 位置に戻すと次から走行できない)
	点滅			購入先に連絡
P の点滅		3 連続音	G- シフト変速ボタンを切換えたとき G- シフトレバーを操作したとき G- シフトレバーが L 位置(超低速含む)でシャトルレバーを操作したとき超低速変速においてクラッチペダルを踏込み再度接続したとき	購入先に連絡 (緊急時の処置として，G- シフトレバーを N にしブザーを解除し，G- シフト変速ボタンを変え，再度 G- シフトレバーを入れると走行できる。 但し，故障状態によっては走行できない変速段が複数ある場合がある。)
P の点滅			エンストしたとき 注）故障ではありません。	メインスイッチを一度オフにし，再度エンジンスタートする。
A の点滅		3 連続音	クラッチペダル又はシャトルレバー又はクラッチボタンのいずれかの操作で発進しようとしたとき	購入先に連絡 (走行できない)
A の点滅		—	エンストしたとき 注）故障ではありません	メインスイッチを一度オフにし，再度エンジンスタートする。

[注] 油圧クラッチの故障により，トラクタの空走を防止するために，自動で 1 速から 2 速又はシフトダウンする場合があります。この場合走行に十分注意して安全な所まで移動し，購入先に連絡して処置を受けてください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名				GR850	GR950	GR1050
駆動方式				4輪駆動		
機体寸法	全長		mm	4190		
	全幅		mm	1940		1985
	全高		mm	2605		2650
	軸距		mm	2435		
	輪距	前輪	mm	1330～1520（4段）		
		後輪	mm	1320～1920（7段）		1400～2010（6段）
	最低地上高		mm	440		455
質量（重量）			kg	3470		3770
エンジン	機関型式			V3800-T（ターボ）		V3800-TI（ターボインタクーラ）
	形式			水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル		
	総排気量		L	3.769		
	出力／回転速度		kW(PS)/rpm	62.5(85)/2600	69.9(95)/2600	77.2(105)/2600
	使用燃料			ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量		L	190		
	始動方式			セルモータ式		
	バッテリ			105E41R		
タイヤ	前輪			9.5-24-6PR		11.2-24-6PR
	後輪			13.9-36-6PR		16.9-34-6PR
車体	クラッチ方式			電子油圧式湿式多板		
	制動装置			一系統左右独立，湿式ディスク油圧式		
	かじ取り方式			全油圧形パワーステアリング		
	差動方式			かさ歯車式（デフロック付）		
	変速方式			G-シフト		
変速段数			（段）	前進16，後進16［超低速付：前進24，後進24］		
走行速度（前・後進）			(km/h)	0.23～30.9		0.24～33.2
最小旋回半径（ブレーキ使用時）			m	3.4		3.6
PTO	標準	PTO回転速度	1段	540（エンジン2205），637（エンジン2600）		
		rpm	2段	1000（エンジン2389），1088（エンジン2600）		
	選択	グランドPTO仕様（回転／トラクタ走行1mにつき）	1段	1.40（タイヤ13.9-36）		1.32（タイヤ16.9-34）
			2段	2.40（タイヤ13.9-36）		2.25（タイヤ16.9-34）
	軸寸法		mm	JIS 35		
作業機昇降装置	制御方式			電子ポジション，ドラフト，ニューミックスコントロール		
	装置方式			JIS II形		

型式名				GR1150	GR1250
駆動方式				4輪駆動	
機体寸法	全長 mm			4390	
	全幅 mm			2125	
	全高 mm			2730	
	軸距 mm			2690	
	輪距	前輪 mm		1640, 1740 (2段)	
		後輪 mm		1530 ～ 2010 (5段)	
	最低地上高 mm			450	
質量(重量) kg				4250	
エンジン	機関型式			F5802-T (ターボ)	
	形式			水冷4サイクル5気筒立形ディーゼル	
	総排気量 L			5.832	
	出力/回転速度 kW(PS)/rpm			84.5(115)/2400	91.9(125)/2400
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 L			190	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ			170F51-MF	
タイヤ	前輪			14.9-24-6PR	
	後輪			18.4-38-8PR ※1	
車体	クラッチ方式			電子油圧式湿式多板	
	制動装置			一系統左右独立, 湿式ディスク油圧式	
	かじ取り方式			全油圧形パワーステアリング	
	差動方式			かさ歯車式 (デフロック付)	
	変速方式			G-シフト	
変速段数 (段)				前進16, 後進16 [超低速付：前進24, 後進24 (GR1250除く)]	
走行速度 (km/h) (前・後進)				0.25 ～ 34.4	
最小旋回半径 (ブレーキ使用時) m				4.0	
PTO	標準	PTO回転速度 rpm	1段	540 (エンジン2035), 637 (エンジン2400)	
			2段	1000 (エンジン2211), 1085 (エンジン2400)	
	選択	グランドPTO仕様 (回転/トラクタ走行1mにつき)	1段	1.57 (タイヤ18.4-38)	
			2段	2.67 (タイヤ18.4-38)	
	軸寸法 mm			JIS 35	
作業機昇降装置	制御方式			電子ポジション, ドラフト, ニューミックスコントロール	
	装置方式			JIS II形	

【注】※1 GR1150・1250は最大タイヤサイズ

■走行速度表

(km/h)

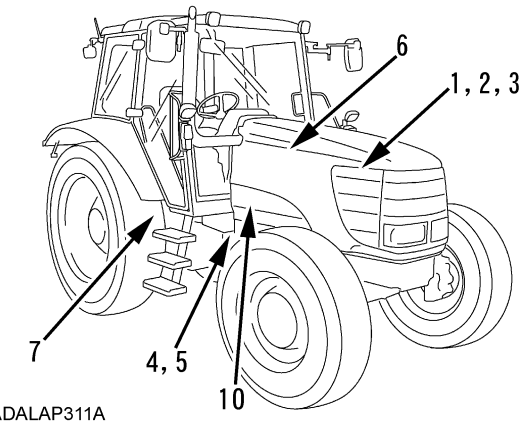
	副変速	主変速	GR850・950・1050	GR1150・1250
前・後進	超低速 (オプション) [GR1250 以外]	1	0.24	0.24
		2	0.30	0.30
		3	0.38	0.37
		4	0.45	0.44
		5	0.60	0.57
		6	0.74	0.72
		7	0.93	0.90
		8	1.09	1.08
	L	1	1.36	1.33
		2	1.70	1.67
		3	2.12	2.07
		4	2.49	2.48
		5	3.33	3.19
		6	4.15	4.02
		7	5.19	4.99
		8	6.10	5.98
	H	1	6.84	6.79
		2	8.53	8.55
		3	10.66	10.7
		4	12.54	12.7
		5	16.75	16.4
		6	20.86	20.6
		7	26.09	25.5
		8	※ 34.5	※ 34.4

※キングタイヤ装着，エンジン回転最高回転時

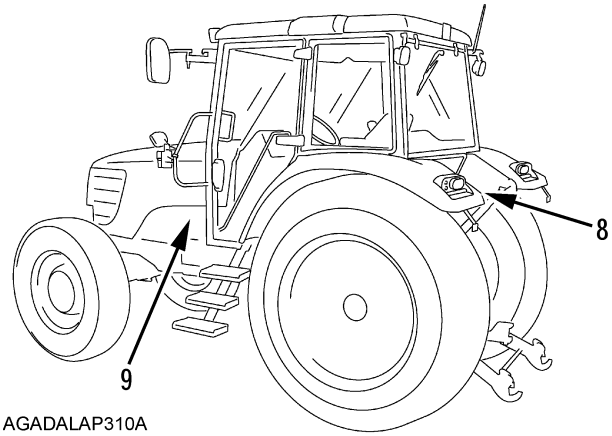
■標準付属品

品　　名	数　量　／　台					備　　考
	GR850	GR950	GR1050	GR1150	GR1250	
24-35　ボックス　スパナ	1	1	1	1	1	
スローブローヒューズ（30A）	1	1	1	1	1	
スローブローヒューズ（40A）	1	1	1	1	1	
スローブローヒューズ（60A）	1	1	1	1	1	
スローブローヒューズ（100A）	1	1	1	1	1	
ストッパ	2	2	2	—	—	前輪切れ角調整用
カラー	4	4	4	2	2	
ボルト（ストッパ）	2	2	2	—	—	
バネザガネ	2	2	2	—	—	
メインスイッチ　キー　アッシ	1	1	1	1	1	キー２コ
ジョイント（ロアリンク）	—	—	—	2	2	
セットピン　アッシ	—	—	—	2	2	
ジョイント(トップリンク,クイック)	—	—	—	1	1	
トップリンクウシロピン　アッシ	—	—	—	1	1	
クイックヒッチ用ワイヤアッシ	—	—	—	1	1	フック式クイックヒッチ仕様のみ
取扱説明書	1	1	1	1	1	
保証書	1	1	1	1	1	
取扱説明確認カード	1	1	1	1	1	

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

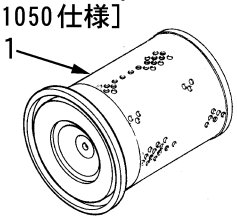


1AGADALAP311A



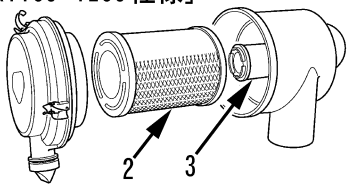
1AGADALAP310A

エアクリーナエレメント
[GR850・950・1050仕様]



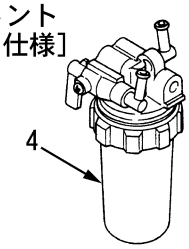
1HCABAAAP018A

エアクリーナエレメント
[GR1150・1250仕様]



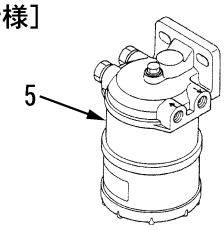
1HCABAAAP019A

セパレータエレメント
[GR850・950・1050仕様]



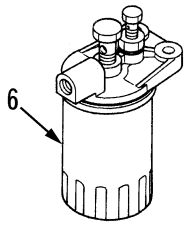
1HCABAAAP020A

セディメンタエレメント
[GR1150・1250仕様]



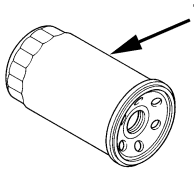
1HCABAAAP021A

フューエルフィルタ
カートリッジ



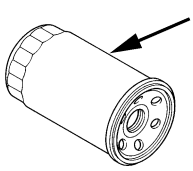
1AGADALAP153A

油圧オイルフィルタカートリッジ
(吸入側)



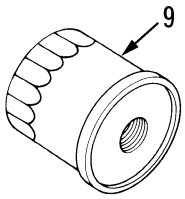
1AQAAAAAP032C

油圧オイルフィルタカートリッジ
(戻り側)



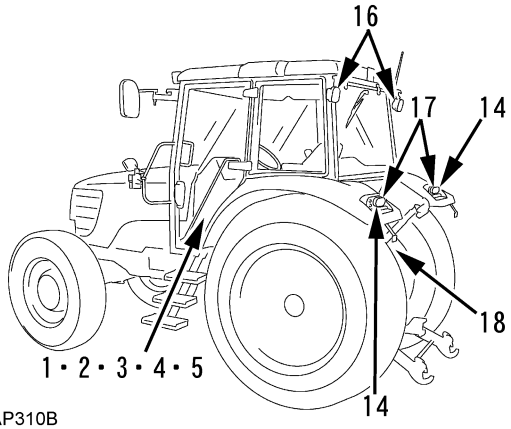
1AQAAAAAP032B

エンジンオイルフィルタ
カートリッジ

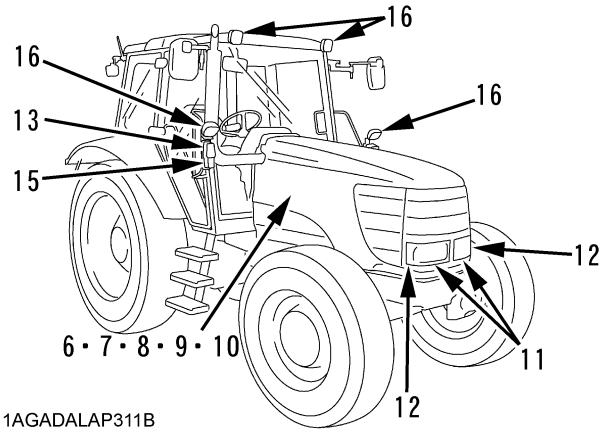


1AQAAAAAP035B

図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
1	エアクリーナエレメント **[GR850・950・1050]**	K5970026112	6	フューエルフィルタカートリッジ	K1654099540
2	エアクリーナエレメント(アウター) **[GR1150・1250]**	K3P30011220	7	油圧オイルフィルタカートリッジ (吸入側)	K3M74682630
3	エアクリーナエレメント(インナー) **[GR1150・1250]**	K3P30011230	8	油圧オイルフィルタカートリッジ (戻り側)	K5220015320
4	セパレータエレメント **[GR850・950・1050]**	K1583143380	9	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	K1C02032430 **[GR850・950・1050]**
5	セディメンタエレメント **[GR1150・1250]**	K1545143382	10	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	K1612199170 **[GR1150・1250]**

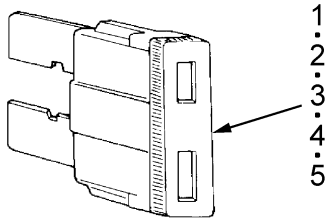


1AGADALAP310B



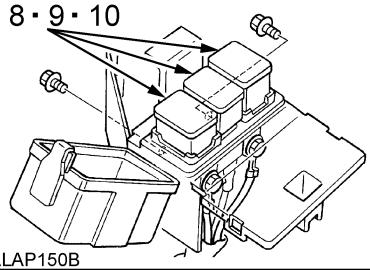
1AGADALAP311B

ヒューズ



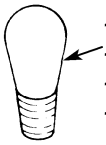
1AGADALAP154A

スローブローヒューズ
6・7・8・9・10



1AGADALAP150B

電球



11 （ヘッドライト）
12 （ヘッドライト補助）
13 （ウインカ前）
14 （ウインカ後）
15 （車幅灯，駐車灯前）
16 （作業灯）
17 （尾灯，駐車灯，
ブレーキランプ）
18 （バックランプ）

1AQAAAAAP030B

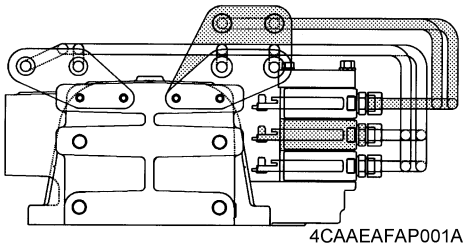
図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
1	ヒューズ 20A	K3691956650	10	スローブローヒューズ 30A	K5195029320
2	ヒューズ 15A	K3582075560	11	電球（ヘッドライト）	K3F74075930
3	ヒューズ 10A	K3673075550	12	電球（作業灯（ヘッドライト横））	K3F74075940
4	ヒューズ 7.5A	K3P30075560	13	電球（ウインカ前）	KT137099110
5	ヒューズ 5A	K3741055520	14	電球（ウインカ後）	K3P31075950
6	スローブローヒューズ 120A	K3F28075550	15	電球（車幅灯，駐車灯前）	KT137099140
7	スローブローヒューズ 100A	K3F24075550	16	電球（作業灯）	K3G71075900
8	スローブローヒューズ 60A	K3M77075550	17	電球（尾灯，駐車灯，ブレーキンプ）	K3P31075960
9	スローブローヒューズ 40A	K3M76075550	18	電球（バックランプ）	KT225599120

アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）

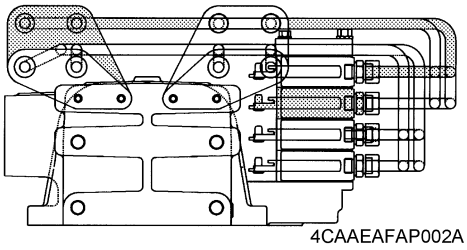
分類	品　番	品　　名		用途・仕様	適　応　型　式					備　考
					GR850	GR950	GR1050	GR1150	GR1250	
ウエイト	K9965112000	前部ウエイトアッシ（取付け台含まず）		ウエイト25kg×4枚 ボルト4枚用	○	○	○	○	○	
	K3F86012100	前部ウエイトアッシ（取付け台含まず）		ウエイト45kg×4枚 ボルト4枚用	○	○	○	○	○	
	K3F74017000	前部ウエイト取付け台アッシ		取付け台ボルト含む	—	—	—	○	○	ウエイトは含まず
	K9965112110	前部ウエイト単体		25kg	○	○	○	○	○	
	K3F86012080	前部ウエイト単体		45kg	○	○	○	○	○	
	K9965112130	ボルト(前部ウエイト)		(ウエイト4枚用)	○	○	○	○	○	
	K9965112120	ボルト(前部ウエイト)		(ウエイト6枚用)	○	○	○	○	○	
	K3545221810	ボルト(前部ウエイト)		(ウエイト8枚用)	○	○	○	○	○	
	K3671097180	ボルト(前部ウエイト)		(ウエイト12枚用)	○	○	○	○	○	
	K9988115000	後輪ウエイトアッシ	板金ディスク	ウエイト50kg×4枚 取付けボルト	○	○	○	—	—	
	K9987115000		鋳物ディスク		○	○	○	○	○	
	K9988115110	後輪ウエイト単体		50kg	○	○	○	○	○	
その他	K3P30097430	トレーラ用コネクタキット（メス用）		トレーラ側オスカプラ 33740-9751-0	○	○	○	○	○	
	K3P31097430				○	○	○	○	○	ヨーロッパタイプ
	K3P30097270	超低速キット			○	○	○	○	—	
	K3M78097910	アシストシリンダキット			○	○	○	—	—	
	K3M86097910				—	—	—	○	○	
	K3M74097712	フェンダキット（フロント）		固定式	○	○	○	—	—	
	K3M87097710			固定式	—	—	—	○	○	
	K3M86097713			可動式	—	—	—	○	○	
	K3586182190	カプラ，オスアッシ		メネジサイズNPTF1/2	○	○	○	○	○	
	K3A11182010	カプラ，メスアッシ		メネジサイズ7/8-14-UNF	○	○	○	○	○	
	K3P30097790	トレーラ用ブレーキキット			○	○	○	○	○	傾斜制御仕様除く
	K3P30097470	外部右3Pスイッチキット			○	○	○	○	○	傾斜制御仕様除く
	K3P30097710	作業灯（前）キット			○	○	○	○	○	
	K3P31054100	ラジオ，キット(CD)			○	○	○	○	○	

■補助コントロールバルブ

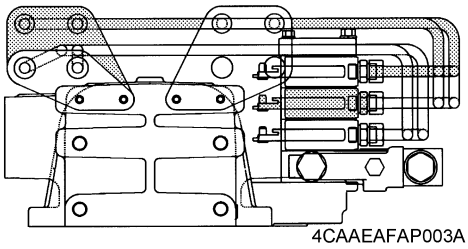
1．３連装備にする場合［傾斜制御なし仕様］



2．４連装備にする場合［傾斜制御なし仕様］



3．３連装備にする場合［傾斜制御付仕様］



	適　応　型　式
	GR850・950・1050・1150・1250
単複切換バルブ	K3F76082350
複動バルブ	K3F74082312
セルフキャンセル付デテントバルブ	K3F74082540
フローティングバルブ	K3F74082813
３連目レバーキット	K3P30097110
配管（３連目）	K3F86082073
ワイヤ	K3F86082410
単複切換バルブ	K3F76082350
複動バルブ	K3F74082312
セルフキャンセル付デテントバルブ	K3F74082540
フローティングバルブ	K3F74082813
４連目レバーキット	K3P30097120
配管（４連目）	K3F86082083
ワイヤ	K3F86082410
単複切換バルブ	K3F76082350
複動バルブ	K3F74082312
セルフキャンセル付デテントバルブ	K3F74082540
フローティングバルブ	K3F74082813
３連目レバーキット	K3P30097110
配管（４連目）	K3F86082083
ワイヤ	K3F86082410

補　足

＊ 傾斜制御付仕様には補助コントロールバルブの４連装備はできません。
＊ 上記組合せには油圧取出しカプラは含まれていません。
純正オスカプラ（K3586182190）とメスカプラ（K3A11182010）を合わせて使用してください。
（他メーカのカプラとの組合せによっては不具合を生じることがありますので注意してください）

■補助コントロール用流量調整バルブ

1．補助コントロールバルブ２連装備機に装備する場合

	適　応　型　式
	GR850・950・1050・1150・1250
フローコントロールバルブキット	K3M90090185
配管（３連目）	K3F86082073

2．補助コントロールバルブ３連装備機に装備する場合

	適　応　型　式
	GR850・950・1050・1150・1250
フローコントロールバルブキット	K3M90090185
配管（４連目）	K3F86082083

補　足

＊ 傾斜制御付仕様には補助コントロール用流量調整バルブは装備はできません。
＊ 流量調整バルブ付では，補助コントロールバルブの４連装備はできません。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成17年度
農業・生物系特定産業技術研究機構



型式名：クボタ　ＩＣ１２５

合格番号：２０５００３

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型式名

クボタ M125D　　クボタ M115D　　クボタ M105D　　クボタ M95D
クボタ M85D

２．主要諸元（最大トラクター）

■ 型式名		：	クボタ M125D
■ 種類		：	４輪駆動
■ 質量（キャブ付き）	kg	：	4230
■ 軸距	mm	：	2690
■ 機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	：	91.9{125}/2400

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	103.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	142.0 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	111.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	124.5 cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	67.5 cm
	（中部）	：	71.5 cm
	（下部）	：	27.0 cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	135.5 cm
■ 最低位ステップの高さ		：	51.0 cm
■ キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	271.5 cm
■ キャブの全幅		：	146.0 cm
■ 座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	27.5 cm

※１．クボタ M125D（タイヤサイズ ： 前輪 14.9R24 126A8　後輪 18.4R38 146A8）に装着時。
２．トラクターシートの銘柄型式 ： グラマー（株），MSG95A/721
３．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

４．主要材料

■ 主フレーム ： STKM 11 A, STKR 400, SPHC, SPCC, SS 400
■ 装着ブラケット ： SS 400
■ 組立・装着ボルト ： S 45 C, SCM 435

Ⅲ　検査成績

１．強度試験

１）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■ 基準質量	：	4250 kg			
■ 所要吸収エネルギー	：	後部負荷	5.95 kJ {607 kgf･m}		
	：	側部負荷	7.44 kJ {759 kgf･m}		
■ 圧壊力	：	85.00 kN {8668 kgf}			

２）試験後のキャブの永久変位

■ 後部（前方へ）	：	右側	1.5 cm	左側	8.0 cm
■ 前部（前方へ）	：	右側	1.5 cm	左側	8.0 cm
■ 側部（左側方へ）	：	前側	8.0 cm	後側	8.0 cm
■ 上部（下方へ）	：	前部 右側	1.0 cm	左側	1.0 cm
	：	後部 右側	-1.0 cm	左側	1.5 cm

３）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 11.5 cm

２．騒　　音 ※

■ 76 dB(A) ［クボタ M125D］

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

強度試験はコードⅠにより実施した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表



型式名：クボタ ＩＣＴ２５ＨＰＣ

合格番号：２０５００４

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目
２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型 式 名

クボタ M125D-HPC　　クボタ M105D-HPC

２．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ M125D-HPC
■種類		：	半装軌式
■質量（キャブ付き）	kg	：	5200
■軸距	mm	：	2690
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	：	91.9{125}/2400

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	104.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	142.5 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	112.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	124.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	67.5 cm
	（中部）	：	71.5 cm
	（下部）	：	27.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	135.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	54.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	270.0 cm
■キャブの全幅		：	146.0 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	27.0 cm

※１．クボタ M125D-HPC（タイヤ等サイズ ： 前輪 380/70R24　履帯 400W×40L×127P）に装着時。
２．トラクターシートの銘柄型式 ： グラマー（株），MSG95A/721
３．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

４．主要材料

■主フレーム ： STKM 11 A, STKR 400, SPHC, SPCC, SS 400
■装着ブラケット ： SS 400
■組立・装着ボルト ： S 45 C, SCM 435

Ⅲ　検査成績

１．強度試験

１）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量	：	5200 kg
■所要吸収エネルギー	：	後部負荷　7.28 kJ {742 kgf･m}
	：	側部負荷　9.10 kJ {928 kgf･m}
■圧壊力	：	104.00 kN {10605 kgf}

２）試験後のキャブの永久変位

■後　部（前方へ）	：	右側	1.5 cm	左側	8.5 cm
■前　部（前方へ）	：	右側	2.5 cm	左側	9.5 cm
■側　部（左側方へ）	：	前側	13.0 cm	後側	12.0 cm
■上　部（下方へ）	：	前部　右側	1.0 cm	左側	2.0 cm
	：	後部　右側	−2.0 cm	左側	3.5 cm

３）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 13.0 cm

２．騒　　音　※

■81.5 dB(A)　［クボタ M125D-HPC］

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本キャブは，任意鑑定受験機（平16任鑑31号，コードⅠ）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。